

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第58集

しま だ じん や
島 田 陣 屋 遺 跡

1 9 9 5

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

『島田陣屋遺跡』正誤表

頁	誤	正
P. 6 20行目	各曲輪は堀によって	各曲輪は堀によって
P. 20 第12図内	遺物番号 5	遺物番号 7
P. 22 20行目	(第37図-50)	(第37図-49)
P. 42 第30図 S X 04	レベル欠落	27.8m
P. 44 2行目	土坑等の遺跡が	土坑等の遺構が
P. 78 16行目	銅製の分銅（銅錘）で	銅製の分銅（銅錘） ⁽¹⁾ で
P. 78 18行目	ものである ⁽¹⁾	ものである ⁽²⁾
P. 100 5行目	(第66・67図)	(第68・69図)
P. 116 図中	Ⅱ I 19p	Ⅱ I 19q



島田陣屋遺跡全景（南から）



人面付土器



絵付け土師器皿



92年度調査区（北から）



93年度調査区（南から）



弥生土器



戦国・近世陶磁器

序

本報告書は、豊川を渡す野田城大橋の橋梁改築に伴って調査された島田陣屋遺跡の発掘調査報告書です。島田陣屋遺跡は、新城市野田字西郷に所在し豊川右岸に立地する遺跡で、調査当初は旗本島田氏が設置した江戸時代の陣屋に関わる遺跡と考えていましたが、調査が進むにつれてこれまで知られていなかった戦国時代の堀などの遺構が検出されただけでなく、弥生時代後期の竪穴住居や方形周溝墓などが発見され、この地が古代から近世にかけての人々の生活の場であることが明らかになりました。

戦国の動乱の後、この野田の地に2000石の知行を得た旗本島田氏は、伊達62万石の大殿との吉原名妓高尾太夫を取り合う恋の騒動の逸話を挟みつつ、明治初年まで250年の長きにわたって陣屋を置きました。調査では、この陣屋に関わる建物跡や石垣、堀などの遺構や陶磁器が出土し、陣屋の構造の一端を明らかにすることができました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、愛知県土木部道路建設課をはじめ新城土木事務所、愛知県教育委員会、新城市教育委員会、地元関係者には種々お世話になりました。本報告書を上梓するに際して、これら関係諸機関の皆様には感謝の意を表し、併せて本報告書が豊川流域の歴史を解明するための資料として十二分に活用されますことを願い、序と致します。

平成7年3月

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

理事長 安 部 功

例 言

- 1、本書は、愛知県新城市野田字西郷に所在する島田陣屋遺跡の発掘調査報告書である。
- 2、調査は、野田城大橋の橋梁改築に伴う事前調査として、愛知県土木部から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターが、平成4年9月から12月まで及び平成5年7月から12月まで行なった。
- 3、調査担当者は下記の通りである。(職名は調査当時)
平成4年度(1992年度) 都築暢也(主査)・小嶋廣也(調査研究員)
平成5年度(1993年度) 野本欣也(課長補佐兼主査)・神谷知幸(調査研究員)
水谷寛明(調査研究員)・原田幹(調査研究員)
- 4、調査に当たって、次の各機関・諸氏のご指導・ご協力を得た。(敬称略・順不同)
愛知県教育委員会文化財課・愛知県埋蔵文化財調査センター・愛知県土木部道路建設課
愛知県土木部新城土木事務所・新城市教育委員会・渡辺 靖・池田芳雄
- 5、整理期間及び担当者は下記の通りである。(職名は調査当時)
平成5年度(1993年度) 都築暢也(課長補佐兼主査)
平成6年度(1994年度) 都築暢也(課長補佐兼主査)・原田幹(調査研究員)
- 6、本書の執筆は、都築暢也(課長補佐兼主査)・原田幹(調査研究員)・服部俊之(同)・神谷知幸(同)・高田恵理子(調査研究補助員)が担当し、分担箇所は文末に記載した。
胎土分析はバリノ・サーヴェイ株式会社に依頼し、分析結果を掲載した。
編集は、都築暢也が原田幹と協議の上行なった。
- 7、遺物の整理・製図等に当たって、岡田智子(調査研究補助員)・高田恵理子(同)・加藤明美(整理補助員)・玉作美智子(同)・中村たかみ(同)・本多恵子(同)、の各氏の手を煩わせた。また、写真撮影には深川進氏の協力を得た。
- 8、報告書の作成に当たって、次の各機関・諸氏のご教示・ご協力を得た。(敬称略・順不同)
渡辺敬一(新城市教育委員会)・鈴木隆司(同)・城ヶ谷和広(愛知県総務部文書課県史編さん室)
中野晴久(常滑市民俗資料館)・林弘之(豊川市教育委員会)・鈴木敏則(浜松市博物館)
上嶋善治(岐阜県文化財保護センター)・石川日出志(明治大学文学部)・大橋康二(九州陶磁文化館)・加藤安信(愛知県立豊田南高等学校)・大橋正明(幡豆町立東幡豆小学校)
川井啓介(愛知県立岡崎北高等学校)
- 9、調査区の座標は建設省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠した。
- 10、出土遺物及び調査記録は愛知県埋蔵文化財調査センターにて保管している。

凡例

- 1、遺構番号は、すべて報告書作成時に付け直した。調査時に付けた遺構番号は一覧表に示した。遺構の略記号は以下の通りである。
NR：自然流路 SA：柵列 SB：建物
SD：溝 SE：井戸 SK：土坑(柱穴含む)
SU：土器集積 SW：石垣 SZ：墓
SX：その他
- 2、遺構の規模は、特に断らない限り検出面での計測値を記した。
したがって、本来の遺構の規模を表していない。()は推定値を示す。
方形周溝墓の規模は、溝底の心々間を測定した。
- 3、遺物番号は、本文記載の実測図の番号である。なお、遺物一覧表の登録番号は、遺物収納に際して付与したものである。略記号は以下の通りである。
E：土器・陶磁器・土製品 S：石製品 M：金属製品
- 4、遺物の実測図について
土器・陶磁器の口径の不明なものは、中心線の左右を空白にして表現した。
- 5、遺物等の注記には、島田陣屋遺跡を「ⅢSJ」の略記号を用いて表記した。

目 次

第Ⅰ章 調査の概要

第1節 調査の経緯	(都築)	2
第2節 地理的・歴史的環境	(神谷)	4
第3節 地形・地質と遺跡の立地		
(1) 遺跡を取り巻く地形・地質	(服部)	9
(2) 地震の痕跡	(服部)	12

第Ⅱ章 調査の成果－遺構－

第1節 基本層序	(都築)	14
第2節 弥生時代・古代		
(1) 竪穴住居	(都築)	16
(2) 方形周溝墓	(都築・原田)	19
(3) 土坑	(都築)	22
第3節 戦国時代・近世		
(1) 溝	(都築・原田)	26
(2) 土塁	(都築)	28
(3) 石垣	(原田)	30
(4) 柵列	(都築)	33
(5) 建物	(都築・原田)	34
(6) 土坑	(原田)	38
(7) 井戸	(都築・原田)	39
(8) 集石遺構	(都築・原田)	42
(9) 長方形土坑	(原田)	43
(10) 埋設甕	(原田)	43
(11) 土器集積	(原田)	44

第Ⅲ章 調査の成果－遺物－

第1節 土器・陶磁器		
(1) 縄文時代	(都築)	46
(2) 弥生時代	(原田)	46
(3) 古墳時代～古代	(都築)	48
(4) 戦国・近世	(原田)	53
(5) 瓦	(原田)	67
第2節 石製品	(高田)	75
第3節 金属製品	(都築)	78
第4節 土師器・陶磁器の出土量計測	(原田)	83

第Ⅳ章 自然科学分析

第1節 土師器皿・鍋の胎土重鉍物分析	(バリノ・サーヴェイ)	90
--------------------	-------------	----

第Ⅴ章 まとめ・考察

第1節 遺構の変遷	(都築)	100
第2節 土師器の胎土重鉍物分析について	(原田)	109

附表

遺構一覧表	117
遺物一覧表	129

図版

抄録

図版目次

巻頭カラー 1	島田陣屋遺跡全景
巻頭カラー 2	人面付土器
巻頭カラー 3	絵付け土師器皿
巻頭カラー 4	92年度調査区
巻頭カラー 5	93年度調査区
巻頭カラー 6	弥生土器
巻頭カラー 7	戦国・近世陶磁器

遺構図版配置図

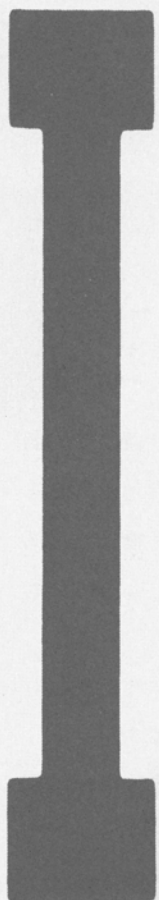
図版 1	遺構図(1)
図版 2	遺構図(2)
図版 3	遺構図(4)
図版 4	遺構図(4)
図版 5	遺構図(5)
図版 6	遺構図(6)
図版 7	92年度調査区
図版 8	93年度調査区
図版 9	竪穴住居(1)
図版10	竪穴住居(2)
図版11	方形周溝墓(1)
図版12	方形周溝墓(2)

図版13	方形周溝墓(3)
図版14	方形周溝墓(4)
図版15	溝(1)
図版16	溝(2)
図版17	石垣(1)
図版18	石垣(2)
図版19	石垣(3)
図版20	戦国・近世建物(1)
図版21	戦国・近世建物(2)
図版22	井戸(1)
図版23	井戸(2)
図版24	集石
図版25	埋設甕
図版26	弥生土器(1)
図版27	弥生土器(2)・須恵器
図版28	戦国・近世陶磁器(1)
図版29	戦国・近世陶磁器(2)
図版30	戦国・近世陶磁器(3)
図版31	戦国・近世陶磁器(4)
図版32	石器・石製品
図版33	金属製品

挿図・表目次

第1図	現地説明会	2
第2図	調査区位置図	3
第3図	周辺遺跡分布図	5
第4図	島田陣屋遺跡周辺の地質図	11
第5図	地震痕(1)	12
第6図	地震痕(2)	12
第7図	基本層序模式図	14・15
第8図	S B 0 1 実測図	16
第9図	S B 0 2 ~ 0 6 実測図	17
第10図	S B 0 7 実測図	18
第11図	S Z 0 1 実測図	19
第12図	S Z 0 2 ・ 0 3 実測図	20
第13図	S Z 0 2 北溝土器出土状態図	21
第14図	S Z 0 2 東溝土器出土状態図	21
第15図	S Z 0 4 実測図・土器出土状態図	23
第16図	S Z 0 5 実測図・土器出土状態図	24
第17図	S Z 0 6 実測図・土器出土状態図	25
第18図	戦国・近世主要遺構配置図	27
第19図	土塁断ち割り	28
第20図	S D 2 9 実測図	29
第21図	S W 0 2 ・ 0 3 実測図	30
第22図	S W 0 5 実測図	31・32
第23図	S B 0 9 実測図	34
第24図	S B 1 5 平面図	36
第25図	S B 1 5 断面図	37
第26図	S K 1 1 1 3 ~ 1 2 0 7 実測図	38
第27図	S E 0 1 実測図	39
第28図	S E 0 2 実測図	40
第29図	S E 0 3 実測図	41
第30図	集石遺構実測図	42
第31図	長方形土坑実測図	43
第32図	埋設甕実測図	44
第33図	縄文土器および弥生中期土器	46
第34図	弥生土器(1)	49
第35図	弥生土器(2)	50
第36図	弥生土器(3)	51
第37図	弥生土器(4)・古代の土器	52
第38図	戦国・近世の陶磁器(1)	55
第39図	戦国・近世の陶磁器(2)	56

第40図	戦国・近世の陶磁器(3)	57
第41図	戦国・近世の陶磁器(4)	58
第42図	戦国・近世の陶磁器(5)	59
第43図	戦国・近世の陶磁器(6)	60
第44図	戦国・近世の陶磁器(7)	61
第45図	戦国・近世の陶磁器(8)	62
第46図	戦国・近世の陶磁器(9)	63
第47図	戦国・近世の陶磁器(10)	64
第48図	戦国・近世の陶磁器(11)	65
第49図	戦国・近世の陶磁器(12)	68
第50図	戦国・近世の陶磁器(13)	69
第51図	戦国・近世の陶磁器(14)	70
第52図	戦国・近世の陶磁器(15)	71
第53図	戦国・近世の陶磁器(16)	72
第54図	瓦(1)	73
第55図	瓦(2)	74
第56図	石器(1)	75
第57図	石器(2)	76
第58図	石器(3)	77
第59図	金属製品(1)	79
第60図	金属製品(2)	80
第61図	金属製品(3)	81
第62図	金属製品(4)	82
第63図	土師器分類図	85
第64図	戦国期煮沸具組成図	88
第65図	試料の胎土重鉍物組成	96
第66図	土師器皿胎土中の重鉍物	97
第67図	鍋胎土中の重鉍物	98
第68図	遺構変遷図(1)	102
第69図	遺構変遷図(2)	103
第70図	「代官屋敷ノ図」	107
第71図	内耳鍋分析資料実測図	110
第72図	土師器皿分析資料実測図	111
第73図	内耳鍋重鉍物組成	112
第74図	土師器皿重鉍物組成	113
第1表	土師器・陶磁器集計表(1)	87
第2表	土師器・陶磁器集計表(2)	88
第3表	試料の胎土重鉍物組成	95



第I章 調査の概要



第Ⅰ章 調査の概要

第1節 調査の経緯

愛知県土木部道路建設課によって、新城市野田字西郷地内に、野田城大橋建設に伴う橋梁改築が計画された。この地に、旗本島田氏の陣屋跡が所在し、新城市の市指定史跡であったために平成4年9月に新城市教育委員会は現状変更を行なった。そして、橋梁改築部2,682㎡の事前調査が必要になった。なお、1990年に愛知県教育委員会によって発行された『愛知県遺跡分布地図（Ⅲ）東三河地区』には、遺跡番号76158として登録されている。

発掘調査 愛知県教育委員会を通じて愛知県土木部からの委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターは、平成4年9月から12月にかけて橋梁改築部の北半の1,000㎡を、また、平成5年7月から12月にかけて南半の1,682㎡を発掘調査した。調査区は、新城市指定史跡の西部を幅20m、長さ130mの規模でほぼ南北を縦断する形で設定した。（第2図）。

調査は、茶の木や笹を伐採して耕作土をバックホウで除去した後、弥生時代から近世にかけての包含層を掘削し、近世の整地層と思われる褐色土や黒ボク土・黄褐色土のブロック層上部あるいは黒ボク土層上面および基盤層である黄褐色土層の上面で遺構の検出を行なった。遺構掘削後の測量は、ヘリコプターによる航空測量を実施し、必要に応じて手測りによる作図や写真撮影を行ない、記録保存を図った。当初、本遺跡を近世の陣屋に関わる遺跡を考えていたが、発掘調査の結果、弥生時代・古墳時代・戦国時代をも含む複合遺跡である事が明らかになった。このような調査結果をふまえて、平成4年12月22日と平成

現地説明会 5年11月20日の2回、現地説明会を実施し地元の方々をはじめとして多数の参加者を得た。

整理・報告書作成 出土した遺物はコンテナ150箱を数えた。発掘調査に併行して洗浄・注記などの一次整理を実施した後、平成5・6年度で、遺物実測や写真撮影などの二次整理を行ない、報告書を作成した。（都築暢也）



第1図 現地説明会



第2図 調査区位置図〈1:3000〉

第2節 地理的・歴史的環境

(1) 地理的環境

島田陣屋遺跡は、豊川の右岸に形成された低位段丘の末端に位置し、現在の豊川までは約150m離れている。遺跡の標高は約27mから32mで、遺跡南東に広がる沖積地との比高差は約4mを測る。沖積地には現在の豊川に沿って自然堤防が存在している。自然堤防の背後には後背湿地が形成され、弥生時代以降の生産域となっていたと推測される。

遺跡直下の段丘崖に沿って「信州（伊那）街道」と呼ばれる古い街道が走っており、遺跡の東端に隣接してこの街道沿いに清水の湧くところがあり、馬の水飲み場であった。また、近年の河川改修で当時の面影はまったく失せてしまったが、遺跡の南には昭和33年まで、「源造河岸^{げんぞうがし}」と呼ばれた中市場の渡しがあり、豊川の水運の拠点でもあった。

(2) 歴史的環境

新城市には、豊川中流に広がる河岸段丘やその周辺部に多くの遺跡が残されている。本項ではこうした島田陣屋遺跡周辺の主な遺跡を年代順に概観する。（第3図）

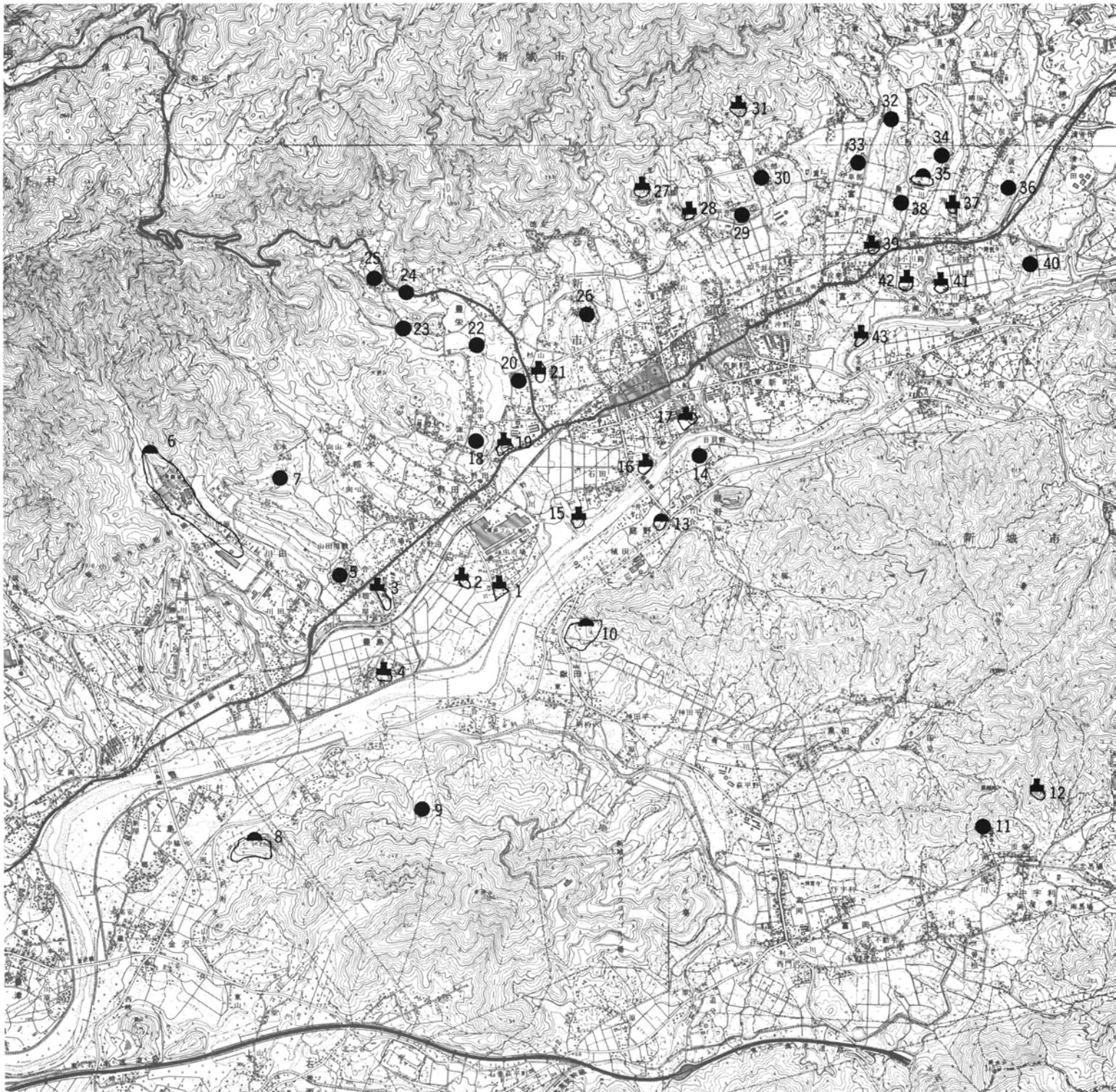
旧石器時代 新城市の周辺では静岡県の三ヶ日町で約15万年前の洪積世中期の、豊橋市の牛川でも洪積世の人骨が発見されており、旧石器時代の人類が認められている。

新城市の旧石器時代の遺物として、杉山地内で石槍が3点、萩平遺跡^{はぎひら}と夜燈遺跡^{やとう}では木葉形尖頭器^{けんちようじ}などが、建長寺遺跡では頁岩製の剥片が出土している。

縄文時代 旧石器時代の遺跡で著名な萩平遺跡は、縄文時代早期の遺跡でもある。押型文土器に伴って打製石斧や黒曜石製の石鎌が出土している。三河東郷駅の北の信玄原の台地にある夜燈遺跡からは縄文時代早期末の土器や黒曜石製の石鎌、石斧が出土している。後・晩期の遺跡では、大の木遺跡^{だい き}があり、土器とともに打製・磨製石斧や石棒、石冠などの石器が出土している。また、真向遺跡^{まっこう}では晩期の甕棺が検出されている。

弥生時代 弥生時代になると、南貝津遺跡^{みなみかいづ}をはじめとして遺跡が急増する。主な遺跡として大の木遺跡・八剣遺跡^{やつるぎ}・神荒居遺跡^{かみあら い}・神田遺跡^{しんでん}・上ノ川遺跡^{かみのかわ}・タイカ遺跡などがある。特に、大の木遺跡では、弥生中期土器が出土している。諏訪遺跡では、後期の環濠に囲郭された居住域と方形周溝墓を中心とする墓域が確認されている。また、南貝津遺跡では後期の竪穴住居20棟と後期末から古墳時代初頭の時期の方形周溝墓3基、タイカ遺跡では中・後期の竪穴住居と後期末の方形周溝墓1基が検出されている。

古墳時代 新城市内で約200基余りの古墳が発見されているが、前期古墳に属するものは未だ認められていない。断上山古墳群^{だんじょうやま}の10号墳（全長50mの前方後円墳、ただし前方後方墳という考えもある）と摩訶戸古墳群^{まかご}の10号墳（前方後円墳全長16m）・13号墳（同じく全長28m）の



- | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1 島田陣屋遺跡(弥生～江戸) | 2 大野田城跡(室町) | 3 野田城跡(室町) | 4 野田館(平安) |
| 5 山田屋敷遺跡(弥生) | 6 川田原古墳群(古墳) | 7 吉水寺中世墓地(室町) | 8 旗頭山古墳群(古墳) |
| 9 今水寺跡(平安～鎌倉) | 10 摩訶戸古墳(古墳) | 11 富賀寺中世墓地(鎌倉) | 12 宇利城跡(室町) |
| 13 庭野古墳(古墳) | 14 神荒居遺跡(縄文～弥生) | 15 石田城(室町) | 16 新城古城跡(室町) |
| 17 新城城跡(江戸) | 18 諏訪遺跡(弥生) | 19 道目記城跡(室町) | 20 杉山遺跡(鎌倉～室町) |
| 21 端城(室町) | 22 神田遺跡(縄文～弥生) | 23 計賀池遺跡(縄文～弥生) | 24 真向遺跡(縄文) |
| 25 東平遺跡(縄文) | 26 建長寺遺跡(弥生) | 27 大谷城跡(室町) | 28 夷城跡(室町) |
| 29 タイカ遺跡(弥生) | 30 上ノ川遺跡(弥生) | 31 欠下城跡(室町) | 32 大の木遺跡(縄文) |
| 33 松尾遺跡(弥生) | 34 南貝津遺跡(弥生) | 35 断上山古墳(古墳) | 36 夜燈遺跡(縄文) |
| 37 設楽氏陣屋跡(江戸) | 38 八剣遺跡(弥生) | 39 来迎松城跡(室町) | 40 萩平遺跡(旧石器～縄文) |
| 41 端城跡(室町) | 42 小川路城跡(室町) | 43 岩広城跡(室町) | |

第3図 周辺遺跡分布図 (1 : 50000)

古墳時代中期と考えられるものを除けば、その大部分は後期の群集墳である。また、旗頭山古墳群は、渡来人一族の群集墳ではないかと考えられる積石塚古墳群である。ただし、島田陣屋遺跡の近隣には古墳は見いだされず、西北面に位置する川田原古墳群や豊川を挟んだ対岸の一畝田に所在する上述の摩訶戸古墳群や後期古墳の庭野古墳群が最も近い。

奈良・平安時代 律令制のもとでは、この地は「設楽郡」（和名抄）に含まれたと考えられている。富永の神田遺跡には条里制遺構が保存されている。

公地公民制を原則とした律令制が崩れ、荘園が形成され、この地域には、松尾神社を中心に設楽荘、豊川右岸全域にわたる富永荘、宇利荘などの荘園ができる。島田陣屋遺跡の地は、富永荘に属したと考えられる。上述の諏訪遺跡では、奈良時代後期から平安時代初頭の集落が認められている。

鎌倉・室町時代 応仁の乱以前、新城地方に勢力をもっていた豪族は、千秋・設楽・富永・熊谷の4氏である。千秋氏は熱田神宮の大宮司の一族で、1093（寛治7）年ごろ、稲木に來たといわれている。1175（安元元）年に千秋清季が豊島の千歳野に野田館を造って移り、野田郷を熱田の神宮領としたという。現在、野田館は豊川沿いにあるが、記念碑が建っているのみで痕跡はほとんど認められない。千秋氏は建武の新政（1334年）の時に退けられ、その後、野田館に入ったのが富永直郷である。富永氏は1506（永正3）年まで8代にわたり設楽郡と八名郡の大部分を治めた。富永氏の後を継いだのが田峰の菅沼家から來た新八郎定則である。その新八郎は、野田の館が毎年水害を受けたため、1516（永正13）年に豊島の上の山に城を造って移った。これが野田城（根古屋古城）である。現状を見ると、三の丸・二の丸・本丸の連郭式の曲輪配置を有し、各曲輪は堀によって仕切られ、周囲は土塁をめぐらしている。

戦国時代 戦国時代には、野田・長篠・田峰の菅沼氏、作手の奥平氏、岩瀬郷の設楽氏などの豪族があった。

1510年ごろ駿河の守護、今川氏親が進攻してきてその勢力下となったが、氏親没後、岡崎の松平清康の勢力がしだいに伸び、野田城・作手城・岩広城などが従った。1529（享禄2）年、宇利城も松平氏のものとなった（宇利の戦い）が、清康・広忠の死後、再び今川氏の勢力下に入った。菅沼定継は、1532（天文元）年、石田地内に新城（石田城）を築いた。また、『新城市誌』によると、同じ天文年中に、定継は大野田城（新城今城）を築いたとされる。大野田城は島田陣屋遺跡の北西3kmにある単一曲輪の居館城である。ただし、大野田城を『三河国二葉松』に記された中市場村古城に比定する考えもあり、この説をとれば、応永年間（1394～1438）に築城されたことになる。いずれにせよ大野田城は富永（菅沼）氏が今川氏に対抗して築城されたものである。

1560（永禄3）年、桶狭間で今川義元が敗れたため、家康とともに野田の菅沼定盈も今川氏から離反した。怒った今川氏真は、1561～62（永禄4～5）年、吉田城にあった小原鎮成を大将として、牛久保の牧野氏、二連木の戸田氏を従わせ、野田城の菅沼定盈を攻めた。野田城と石田城を舞台とする戦いを「石田合戦」と呼ぶが、石田城攻めに失敗した今

川氏の勢力は、急速に衰えた。

その後、この地は徳川家康と武田信玄の対立抗争の場となる。1571（元亀2）年、武田信玄は野田城（城主は菅沼定盈）を攻めた。いったん城を放棄した後、定盈は再び城を奪還した。信玄は、宇利峠を越えて野田城を再び攻め落としにかかった（天正元年の戦い）が、信玄の没後はすべて家康の勢力下となり、1574（天正2）年、定盈は野田城に帰った。しかし、この天正元年の戦いで、武田方によって兵火にかかった社寺は16社あったといわれる。

1575（天正3）年、武田勝頼が三河攻略を計ろうとして、奥平信昌が籠城する長篠城を包囲した。織田・徳川連合軍3万は連吾川に布陣して、武田軍と戦い、これを打破った。長篠の戦い後の1575（天正3）年、奥平信昌は功によって郷が原に築城して城主となり、この城を新城城と呼んだ。

1590年、徳川家康が関東領をうけるに及んで信昌は上野宮崎（千葉）に、定盈は上野阿保に移封され、その後、吉田（豊橋）から池田輝政の家臣である片桐半右衛門がきて、石田城を築いて支配した。

江戸時代 1600（慶長5）年、関ヶ原の合戦の後、池田輝政が姫路に移った際に片桐半右衛門も同行したので、石田城は取り壊された。片桐氏の後、新城地方は大名・旗本領や寺社の領地、天領の入り混じった状態になった。

1606（慶長11）年に、水野分長が知多郡緒川からはいり、子の元綱までの39年間新城城主をつとめ、1648（慶安元）年には、菅沼定実（菅沼定盈の子孫）が7千石の交代寄合となって、版籍奉還まで菅沼11代がこの地を治めた。

入り混じった旗本の領地を設楽氏、島田氏、松平氏などが治めた。野田の地は1625（寛永2）年に島田成重が2千石の領地をもつことになった。旗本の島田氏は地元の住民の中から地頭代官を任命し知行地を管理した。島田氏の屋敷を島田陣屋といい、1868（明治元）年、政府の命令で取り壊されるまで存続した。

（3）野田代官屋敷と島田陣屋

a) 野田代官屋敷

この地方の徳川为天領を治めるために、代官が置かれた。『千郷村史』によると、1600（慶長5）年、幕府代官曾根源蔵が幕府の命を受けて、野田の西郷83番地（当時の地名は「天王ぶろ」）の北半（敷地3反9畝28歩）に代官屋敷を、南半（敷地6反歩）に領内の年貢米を収納した土蔵数棟と番所を有する御蔵屋敷を築造した。北部は傾斜した林、他の三面には土手（土塁）を築き、内には代官所をはじめとした数棟の建物と稲荷祠・門があった。1601（慶長6）年には幕府代官安藤弥兵衛が、1602（慶長7）年には幕府代官彦坂九兵衛が、1621（元和7）年には幕府代官中川勘介が在住したという。なお、1604（慶長9）年、彦坂九兵衛によって、この地方で検地が行なわれている。

b) 島田陣屋

1625（寛永2）年、島田右京亮成重が野田郷を領するようになったので、代官所は島田氏の陣屋となった。島田氏は江戸に居住することが多く、陣屋には地頭代官を住ませ、または、番人を置いた。江戸から入部した時、大野田の小野田伊左衛門宅や法性寺（島田氏の菩提寺）を宿所とした。

島田氏の略系と陣屋に関わる事項を以下に記す。二代は五良兵衛直次が1627（寛永4）年から、三代は新三郎直正が1672（寛文12）年から、四代は数馬直好が1675（延宝3）年から、五代は団之丞直時が1682（天和2）年から、六代は重兵衛直方が1731（享保16）年、七代は九十郎直規（矩）が1757（宝暦7）年から後を継いだ。直規（矩）の代の1774（安永3）年にこれまでの建物は腐朽したので、在来の規模を縮めて改築した。この用材は公儀林から採出したが、大桧数本は泉龍院から出した。八代は十兵衛直義が1775（安永4）年から、九代は新三郎直逸が1831（天保2）年から、十代は結之助数馬直明が1834（天保5）年から後を継いだ。直明の代の1850（嘉永3）年、1600（慶長5）年に幕府代官曾根源蔵が築造した土蔵数棟と番所を取り壊した。また、1853（嘉永5）年に門を春大洞の夷則軒に寄付して移築した。1867（慶応3）年からは十一代鑛之助直行が後を継いだ。島田直行は、1868（明治元）年、版籍奉還により、政府の命令で陣屋の建物をすべて取り壊した。その後は荒れ果てて笹生地となった。1873（明治6）年に御蔵屋敷とともに一筆にまとめ、野田組の所有として竹林とした。御蔵屋敷は四面に土手を築き、前面を石垣としている。正門を斜めに登った敷石（川原石）はとくに見事であったという。しかし、1912（明治45）年に、畑を作るために土手は崩されて堀に埋められ、稲荷祠は半壊の雨さらしとなった。同時に、門の入口の敷石も掘り出された。1912（大正元）年、公有地整理統一の際に千郷村有に移して、野田組に使用権を付与した。（神谷知幸）

本項を著すため、以下の文献を参考にした。

- ・今泉忠左衛門編 1928 『千郷村史』
- ・新城市誌編集委員会編 1963 『新城市誌』 新城市
- ・天野暢保他 1979 『新城市上平井タイカ・豊栄真向遺跡』 新城市教育委員会
- ・北村和宏編 1988 『杉山遺跡』 （財）愛知県埋蔵文化財センター
- ・酒井俊彦編 1989 『諏訪遺跡・杉山端城跡』 （財）愛知県埋蔵文化財センター
- ・渡辺敬一他 1989 『南貝津遺跡』 新城市教育委員会
- ・愛知県教育委員会 1990 『愛知県遺跡分布図（Ⅲ） 東三河地区』
- ・渡辺靖 1992 『三河（野田）の代官所と彦坂九兵衛』
- ・鈴木隆司編 1994 『諏訪遺跡発掘調査報告書』 新城市教育委員会

第3節 地形・地質と遺跡の立地

(1) 遺跡を取り巻く地形・地質

地質の概略 島田陣屋遺跡の所在する新城市は、豊川中流域右岸に発達する段丘を舞台にして栄えた町である。地質学的にも非常に重要な地で、西南日本を二分する「中央構造線」が、およそ豊川に沿う北東—南西方向に延び市街を二分している。

地質区分 中央構造線（ここではおおむね豊川）よりも北西部は地質区分として西南日本内帯、南東部は西南日本外帯とされ、主に山地を構成する岩石の違いとして表される。北西の山地部は、領家帯を構成する花崗岩や片麻岩で成り立っている。これに対し、南東の山地部は三波川帯の緑色片岩や黒色片岩などの変成岩で構成される。さらに豊川上流域には主に流紋岩類よりなる設楽火山岩類が分布している。このような異なる岩体の配置は、遺跡立地の基盤となる段丘や扇状地の形成、特にこれらを形成する礫の供給経路、つまり河川流路の変遷を考えるには大変都合がよい。

段丘・扇状地群 基盤山地を開析する豊川の段丘は高位・中位・低位の3面に区分され、さらに山麓では各段丘面を覆い、新旧の扇状地群が発達している。

地形配置 新城市稲木—野田地区の地形断面図を第4図に示した。この図からは、豊川流域の典型的な地形配置断面、すなわち北西山側から旧期扇状地面・新期扇状地面・高位段丘面・中位段丘面・低位段丘面・沖積面（氾濫原）へと変化する様子が窺われる。島田陣屋遺跡はこの地形区分のうち低位段丘面上に立地する。低位段丘面は調査区内ではさらに上位面と下位面に細分される。上位面と下位面の境界となる段丘崖は比高差2 m内外の規模で、その連続は遺跡外の地域でも確認できる。遺跡南端は低位段丘の段丘崖によって沖積面と接する。

段丘の形成年代 このような段丘地形の生成時期は遺跡の年代（弥生時代後期～近世）をはるかにさかのぼる。豊川流域の段丘構成層の年代測定は、豊川市代田町地内で得られた中位段丘構成層の小坂井泥層中のウラカガミ（貝殻）を用いた¹⁴C年代が唯一で、26,430±1,010y.B.P.（池田、1974）とされる。遺跡の立地する低位段丘構成層についての年代値は求められていないが、伊勢湾を挟んだ三重県桑名郡多度町の低位段丘構成層中の木片を用いた¹⁴C年代として、18,340±430y.B.P.（木村ほか、1984）が求められている。この年代値は、おそらく豊川流域の低位段丘構成層の年代とあまり差のないものと考えられる。

適従川 調査区内の段丘面上では、上位面と下位面の段丘崖に沿って、傾斜方向に直交してほぼ東西方向に走る2条の「落ち込み」が確認された。これは人為的に掘り込まれた遺構ではなく「適従川」と呼ばれる自然地形であると考えられる。適従川（subsequent stream）とは、「地質構造の弱線に沿って選択的に侵食が進行して形成された谷を流れる川」（地学団

体研究会地学事典編集委員会、1970) のことで、島田陣屋遺跡の場合は、地形の変換点に沿って形成されている。同様な地形は、愛知県春日井市の松河戸遺跡(森、1994)でも知られている。

本遺跡での適従川は、調査の課程でNR01およびNR02として表した。

NR01 NR01は、調査区の最北の上位面と下位面の境の段丘崖直下に沿って東西に走る適従川で、幅約12m、深さ1.5mの規模を測る。底には上位面からの転石が多数認められ、基底部は小礫混じりの灰白色砂層で、流水を示す堆積構造が認められる。埋土はほとんどが黒ボク土で、下部は漆黒で締まりのない「パサパサ」した無遺物層で、上部からは多くの弥生土器片が出土している。この黒ボク土には流水を示す堆積構造は認められないが、戦国期まで継続して窪地状になっていたことが明らかになっている。

NR02 NR02は、調査区の中央部で検出された東西に走る河川で、幅約18m、深さ1.2mの規模。埋土はNR01と同じく黒ボク土である。基底部にはやはり同様に流水を示す堆積構造が認められる。

これら2条の適従川の形成年代は不明であるが、下位段丘が形成された後、それほど時間をおかずに流路となったと推測される。

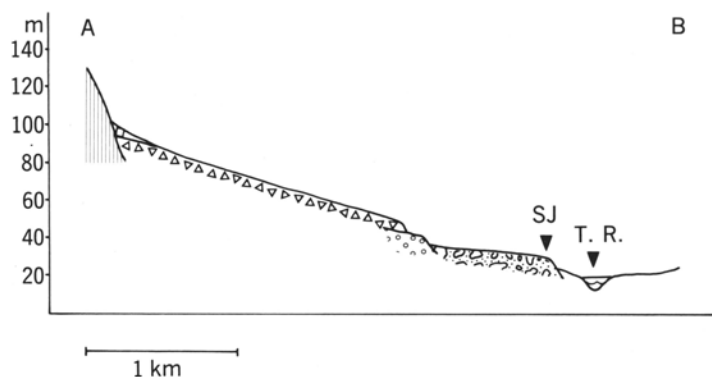
氾濫原の形成 では、段丘崖の下方に広がる氾濫原は、いつごろ形成されたものであろうか。現時点までに得られた遺跡周辺の沖積層の年代値はないが、おそらく各地の沖積平野と同様に縄文海進高頂期(約6,000~5,000年前)以降急速に形成されたものと考えてよいであろう。本地域の豊川流路は、兩岸に迫る山地に挟まれ、段丘の分布も現河川の両側にしか見られないことから、段丘形成期にはすでに固定されていたものと推定される。したがって豊川市内におけるような豊川の氾濫による地形の改変を受けにくく、第4図の地質図で見られる遺跡南方および西方に広がる自然堤防と後背湿地の位置関係も遺跡形成時にはすでに成立していたものと考えられよう。このことから弥生時代においては、低位段丘面上に生活域、沖積面の後背湿地での稲作という風景も容易に想像が付き、人々の生活の場として申し分のない土地柄であったと推定できる。

引用および参考文献

- 池田芳雄(1963) 新城市の地質構造、新城市史、15-35、新城市
池田芳雄(1974) 豊川流域の第四系と¹⁴C年代、地球科学、28、47-48
木村一郎・三澤寿美・竹内安江(1984) 三重県多度町の段丘堆積層と腐食土の¹⁴C年代、地球科学、38、67-69
森 勇一(1994) 愛知県松河戸遺跡における自然科学的検討、『松河戸遺跡』、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第48集、37-59、(財)愛知県埋蔵文化財センター
地学団体研究会地学事典編集委員会(1970) 適従川。地学事典 増補改訂版、736、平凡社



第4図 島田陣屋遺跡周辺の地質図



- | | |
|-------------|------------------|
| 1. 沖積層 | 2. 自然堤防堆積物 |
| 3. 谷底平野堆積物 | 4. 崖錐堆積物 |
| 5. 低位段丘堆積物 | 6. 新期扇状地堆積物 |
| 7. 中位段丘堆積物 | 8. 旧期扇状地堆積物 |
| 9. 高位段丘堆積物 | 10. 領家帯の岩石 |
| 11. 三波川帯の岩石 | SJ 島田陣屋遺跡 |
| T.R. 豊川 | (池田, 1963 を加筆修正) |

(2) 地震の痕跡

地震の痕跡 92年度調査区の南部、近世の削平を受けた遺跡基盤層である低位段丘堆積層（洪積層）中に地震の痕跡（以下、地震痕）が認められた。

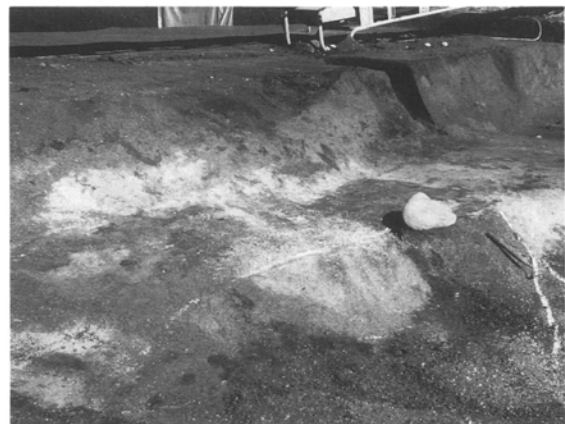
噴砂 地震痕が認められた地点の地層は、下位から黄灰色細礫ないしは粗粒砂層（層厚 2 m 以上）、暗褐色砂層（層厚 1 m 程度）の順に堆積しており最上部は黒ボク土に覆われていた。地震痕は、暗褐色砂層中に下位の細礫層を供給源とする噴砂（噴礫）の広がりとして認められ、その形態と規模は第 5・6 図に示したように不規則である。

噴砂は、一般的には沖積層のように水分を多量に含んだ不淘汰な砂層が液状化することにより発生するため、沖積層に比べ含水量の少ない低位段丘堆積層内で確認されることはまれであるが、調査区内で検出された井戸（S E01）では検出面から 2～3 m の深さで湧水が認められることから、沖積層と同程度の含水量であったと推定される。

噴砂をもたらした地震の発生時期を現時点で確定することは難しいが、将来周辺地域での発掘調査により東三河地方の地震災害史が明らかにされるものと考ええる。（服部俊之）

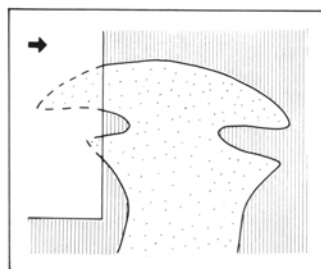
第 5 図 地震痕(1)

暗褐色砂層内に広がる噴砂。噴砂は周縁部が粗粒～中粒砂、内部が粒径 4～8 mm 程度の細礫で構成されている。



第 6 図 地震痕(2)

見かけ上 2 つの噴砂が「鏡餅」状に重なっているが、これは不規則な噴出口の断面を矢印の方向から観察しているためである。



I

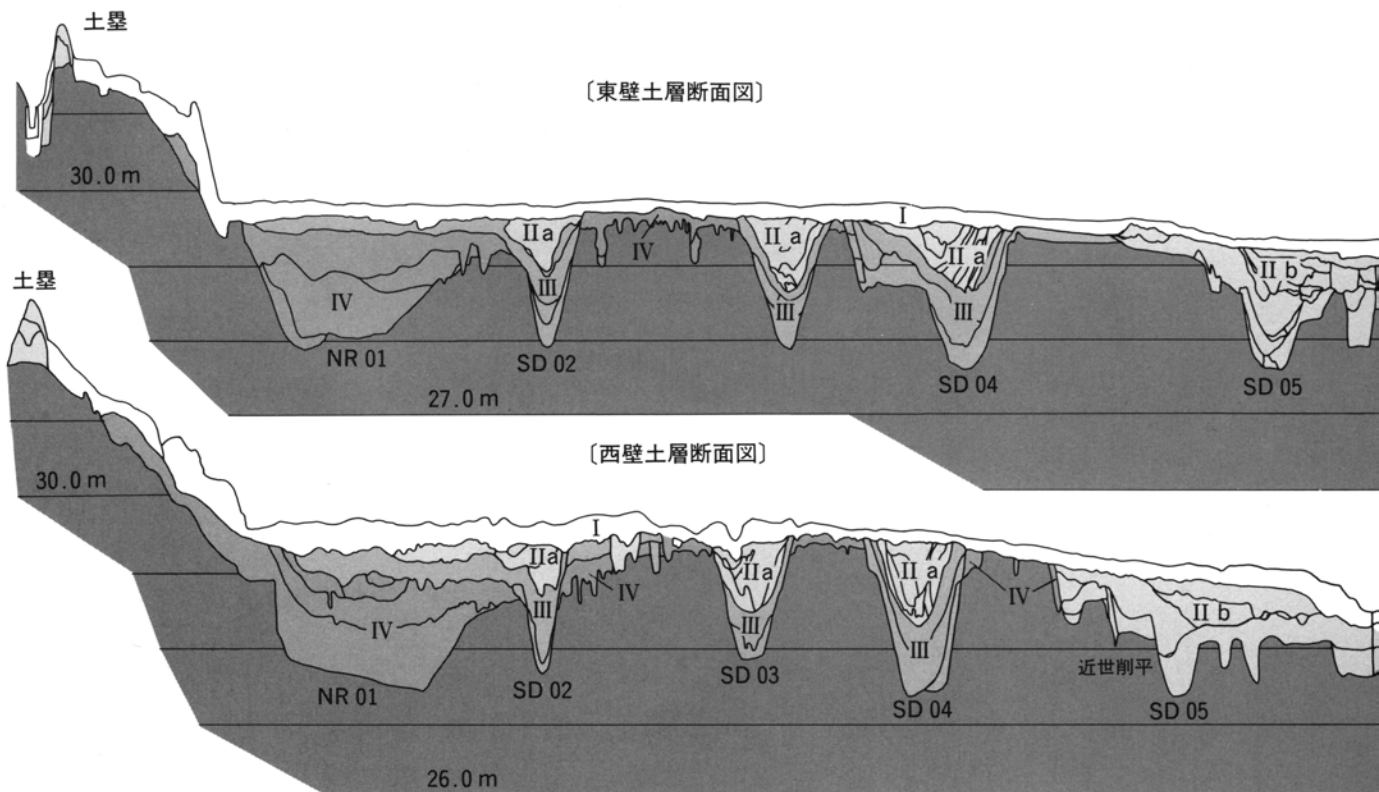
第Ⅱ章 調査の成果—遺構—



第II章 調査の成果—遺構—

第1節 基本層序

現地形 島田陣屋遺跡は、豊川の右岸に形成された低位段丘の末端に位置している。遺跡の北端には最も残りのよい箇所では高さ約1.4m、幅約6mの規模をもつ土塁が、東西約100mにわたって残存し、北東部で南に屈曲している。土塁は北から続く高位面の南端に位置しており、土塁のすぐ南は高低差2.5mほどの崖状を呈して急激に落ち込み、中央部までのほぼフラットな平坦面に続いている。中央部から南へは緩やかな傾斜面になる。これら高位面から緩傾斜面にかけては、発掘調査時までは茶畑や畑地として活用されていた。遺跡の南端は低位段丘から沖積面に至る段丘崖で、高さ約2.5mの石垣が東西50mにわたって積まれている。標高は、遺跡の北端では約32m、南端では約27mを測る。南端と水田となっている沖積面との比高差は約4mである。



第7図 基本層序模式図<水平方向1:400, 垂直方向1:100>

基本層序 基本層序として認識できる土層は、上から（Ⅰ）耕作土層 （Ⅱ）黒褐色土層

（Ⅲ）暗褐色土層 （Ⅳ）黒色土層 （Ⅴ）黄色土層である。

（Ⅰ）耕作土層……灰色がかった黒色を呈し、遺跡全域に厚さ約30cmで分布している。

（Ⅱ）黒褐色土層……近世の遺物を包含する土層である。次のように分けられる。

Ⅱ a：整地層……褐色土や黒ボク土、黄褐色シルトがブロックになった土層で、人為的に埋められた層と考えられる。92年度調査区北部とS D 01・02・03・04の埋土上部に認められる。

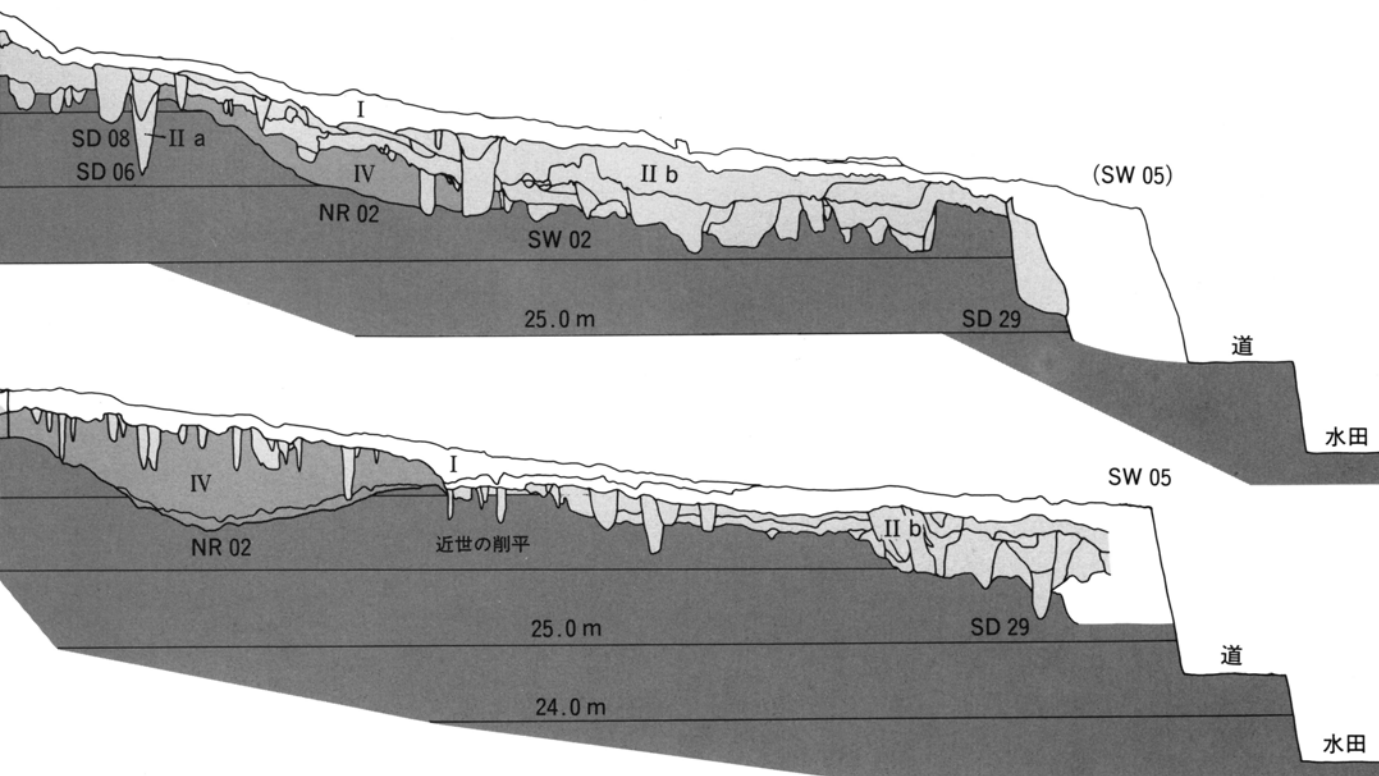
Ⅱ b：黒褐色土層……主にS D 05以南に見られるが、複雑な堆積状況から近世以降の活発な建て替えや整地活動があった事が窺われる。

（Ⅲ）暗褐色土層……戦国期の遺物を包含する土層で、北部の「適従川」NR 01の上部に残存する以外は戦国期の溝内の埋土となっている。

（Ⅳ）黒色土層……いわゆる「黒ボク」と呼ばれる土層である。弥生時代から古墳時代の遺物を包含する。近世以降の削平や耕作によって、調査区北部と竪穴住居や方形周溝墓などの当該期の遺構内、2か所の「適従川」に分布が限定される。この適従川の埋土は、明瞭な区分は不可能であるが、上層に比べ下層は漆黒で締まりがなくパサパサで、遺物を包含しない。

（Ⅴ）黄褐色土層……遺跡の基盤を形成する層で、上部は上層の黒色土層の浸透を受けた褐色を呈するよく締まった土層であるが、本来は黄褐色土層である。しだいにシルト質になり下部は凝灰岩の大小の礫を多量に含む灰白色の砂層になる。

（都築暢也）

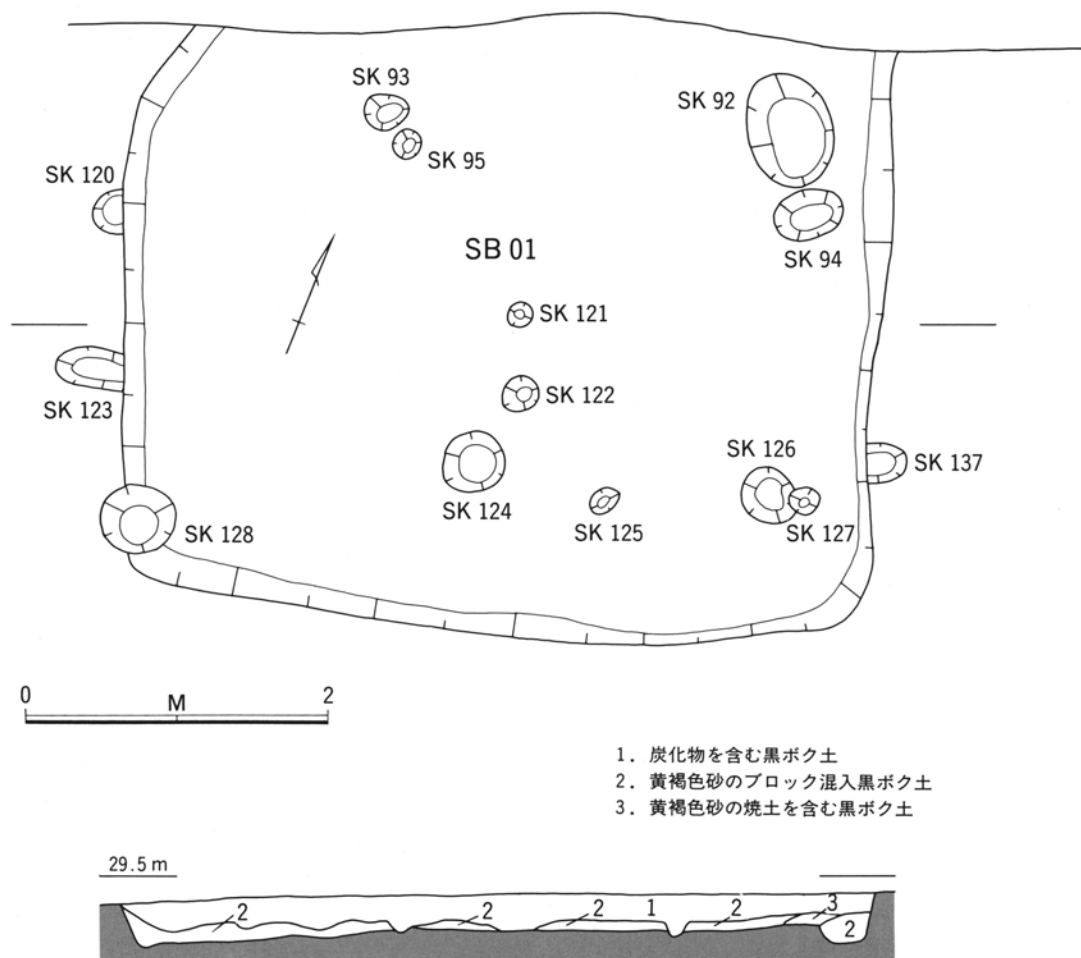


第2節 弥生時代・古代

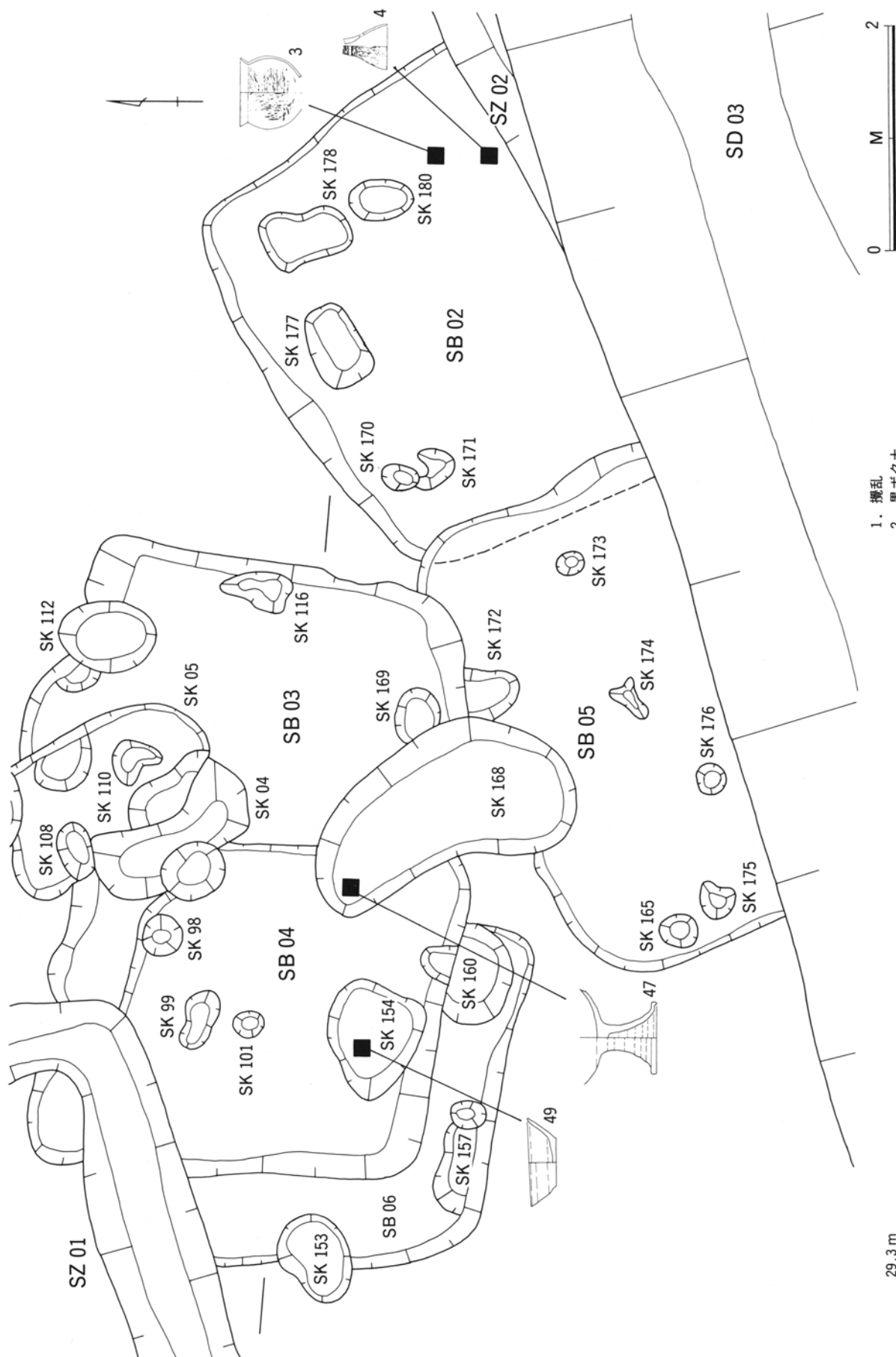
(1) 竪穴住居

概要 本遺跡では、いずれも弥生時代後期末の欠山式期に属すると思われる合計7棟の竪穴住居が検出された。平面形は隅円（長）方形を呈し、一辺5 m前後と3 m程度のものとの2種に分類される。位置的には、92年度調査区に分布しており、SB01～SB06の一群とSB07の2群に大別される。同じ欠山式期の方形周溝墓群と重なるが、切り合い関係から時期的には竪穴住居群が先行すると考えられる。

SB01 SB01は、II I 18mグリッドで検出。北辺を戦国期の溝SD02で切られているため全形は明らかでないが、平面形は隅円方形を呈し、規模は東西5.1m、確認面から床面までの深さ0.3mを測る。床にはごく部分的に焼土が検出された。浅くはっきりしない周溝がほぼ全周している。柱穴が10基検出されているが、いずれも主柱穴とは認定しがたいものである。床面からは土器などの遺物は出土していない。埋土中から弥生土器片が出土。また南東隅の埋土上部から完形の土師器皿が2点出土しているが、混入品かあるいは検出できなかった遺構に伴うものであろう。



第8図 SB01実測図〈1:50〉



0 M 2

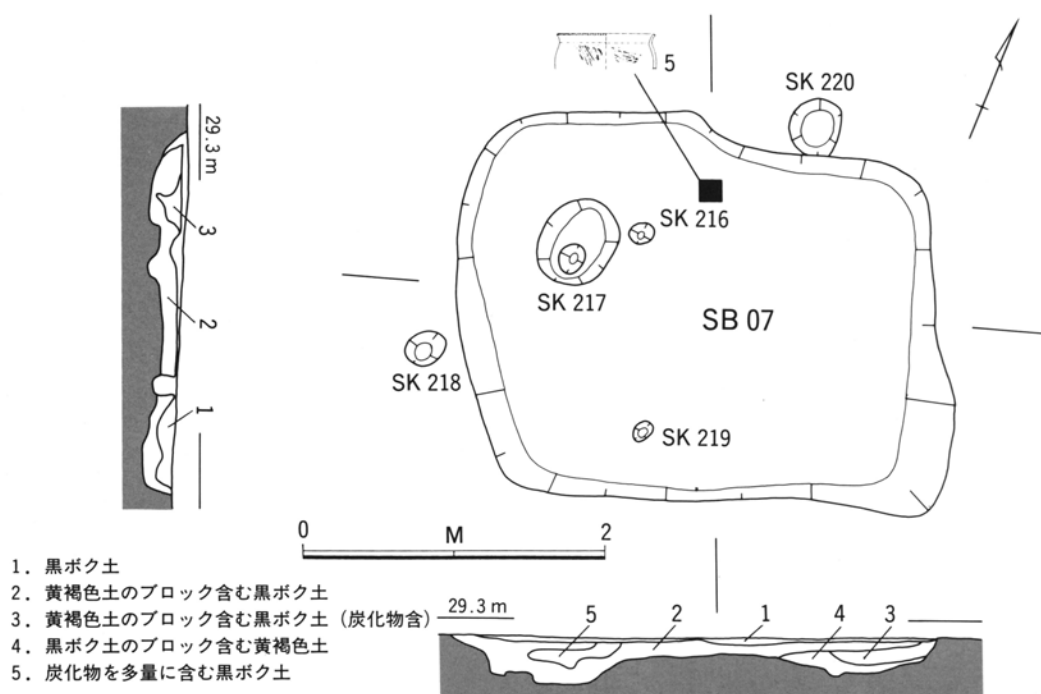
1. 攪乱
2. 黒ボク土
3. 黒ボク土(炭化物を含む)
4. 白色粗砂を含む黒ボク土
5. 黄褐色シルトのブロック含む黒ボク土

29.3 m



第9図 SB02～SB06実測図<1:50>

- SB02** SB02は、II I 191・mで検出。西辺はSB05を切って構築され、南部は方形周溝墓SZ02と戦国期の溝SD03に切られている。平面形は隅円方形を呈し、規模は東西4.1m、検出面からの深さは0.1mと浅い。周溝はない。柱穴は5基検出された。SK177は礫が詰められており、他のものとは若干様相が異なる。床面から土器が（第34図－3・4）出土している。
- SB03** SB03は、II I 181・191で検出。東南隅はSB05を切っており、西部をSB04に切られている。SB01・02・05の中軸線方位がN-53.0°~68.0°-Eであるのに対し、SB03・04・06はほぼ東西方向に掘られている。平面形は隅円方形で、規模は東西5.4m、南北3.4m、深さ0.3mである。該当する柱穴は明らかでない。
- SB04** SB04は、II I 18k・19kで検出された極めて小規模の竪穴住居で、住居として捉えてよいかわきが残る。SB03・06を切って構築されている。北西部を方形周溝墓SZ01に、また南東部を古墳時代の土坑SK168に切られている。平面形は隅円方形で、規模は東西2.9m、南北2.8m、深さは0.5mと深い。
- SB05** SB05は、II I 191で検出。東辺はSB02に、北部はSB03とSK168に、南部はSD03に切られている。平面形は隅円方形を呈す。東西4.4m、深さ0.1mの規模を有す。床面からは若干の炭化材が検出されたが、焼けた面は認められず焼失家屋であるかは不明である。
- SB06** SB06は、II I 19kで検出された小規模な竪穴住居である。前述したSB04に切られており、SB04はこのSB06の建て直しである可能性が高い。東西3.1m、深さ0.4mの規模を有する。
- SB07** SB07は、III I 2m・2nで検出。規模は東西3.1m、南北2.4m、深さ0.3mを測る。柱穴や焼土もなく、方形周溝墓と軸線がほぼ一致していたため調査当初は周溝墓の主体部と考えたが、SB04・06と同じく小規模な竪穴住居とした。埋土上部から甕の小片（5）が出土している。（都築暢也）



第10図 SB07実測図<1:50>

(2) 方形周溝墓

概要

6基検出された方形周溝墓は、供献された土器からいずれも弥生時代後期末の欠山式期に属すと考えられる。削平されたために盛り土や主体部など埋葬施設は検出されなかった。北部の5基は、前述した弥生時代後期末の竪穴住居群と重複して分布するが、93年度調査区のSZ061基のみ離れて構築されている。SZ05とSZ06との間は方形周溝墓の空白部ではあるが、黒ボク土が厚く堆積していて遺構の検出が困難であったことを考慮すると、墓域であった可能性を完全には否定できない。同期の完器に近い土器が単独に出土していることも墓域であった可能性を示唆している。

戦国期以降の溝などで破壊を受けているために全容が明らかでないものが多いが、この地域の同期の方形周溝墓の形態から類推すると、1か所に陸橋部を有する形式とみられる。ただし、コーナー部で溝底が高くなっている例が多く、SZ06のように上部をかなり削平された場合には、4か所に陸橋部をもつ形式に含まれてしまう。また、各方形周溝墓の周溝が垂直に深く掘り込まれている点は、本遺跡の周溝墓の特徴でもある。

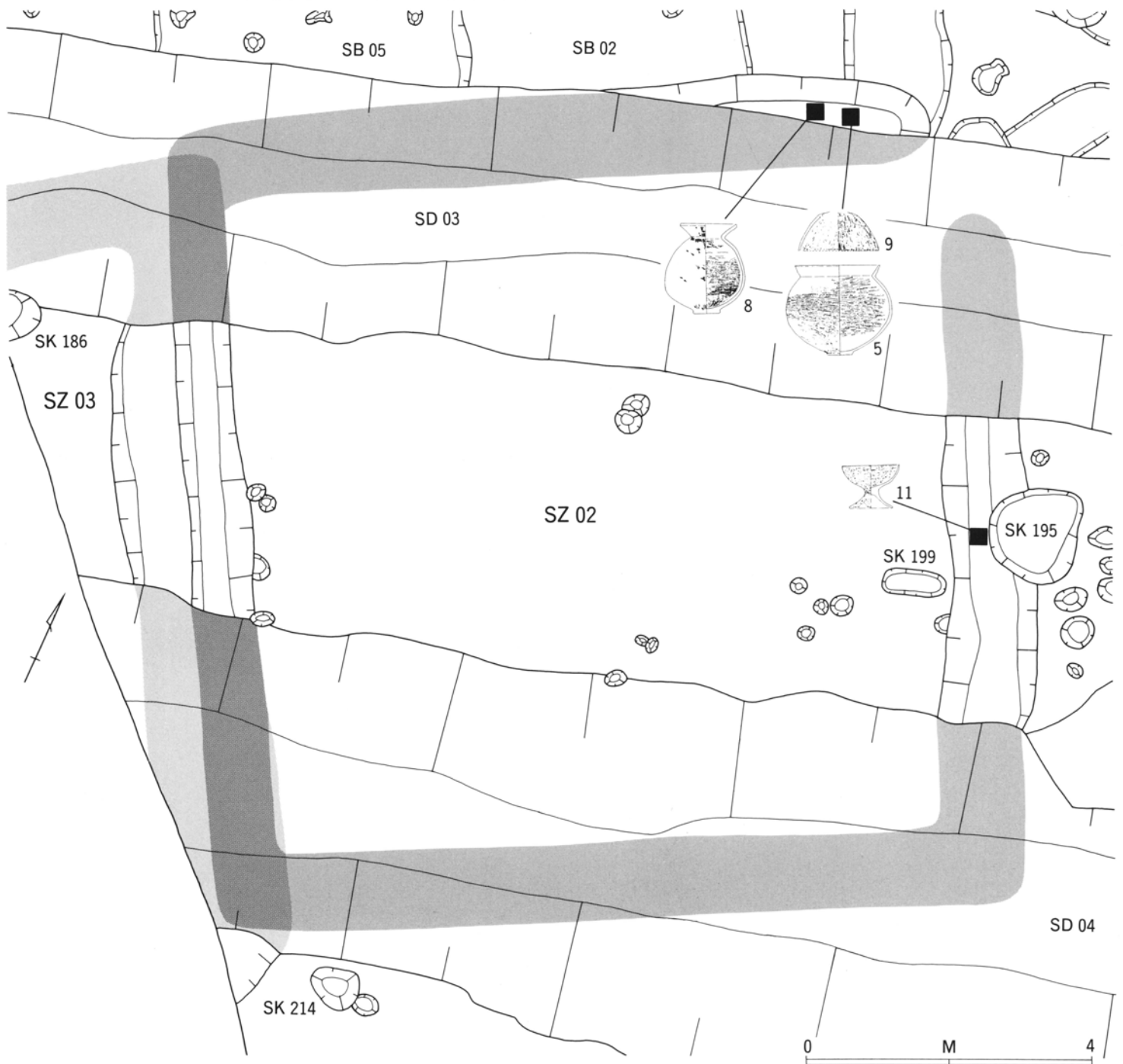
SZ01 調査区内の最北端に位置する方形周溝墓で、中央部を戦国期の溝SD02で破壊されている。北部の周溝は、黒ボクに掘り込まれているために検出が極めて困難で、明らかにできなかった。また、西部は調査区外であるため規模は不明である。南溝の埋土上部から供献された可能性の高い壺（第34図-6）の胴部だけが出土している。



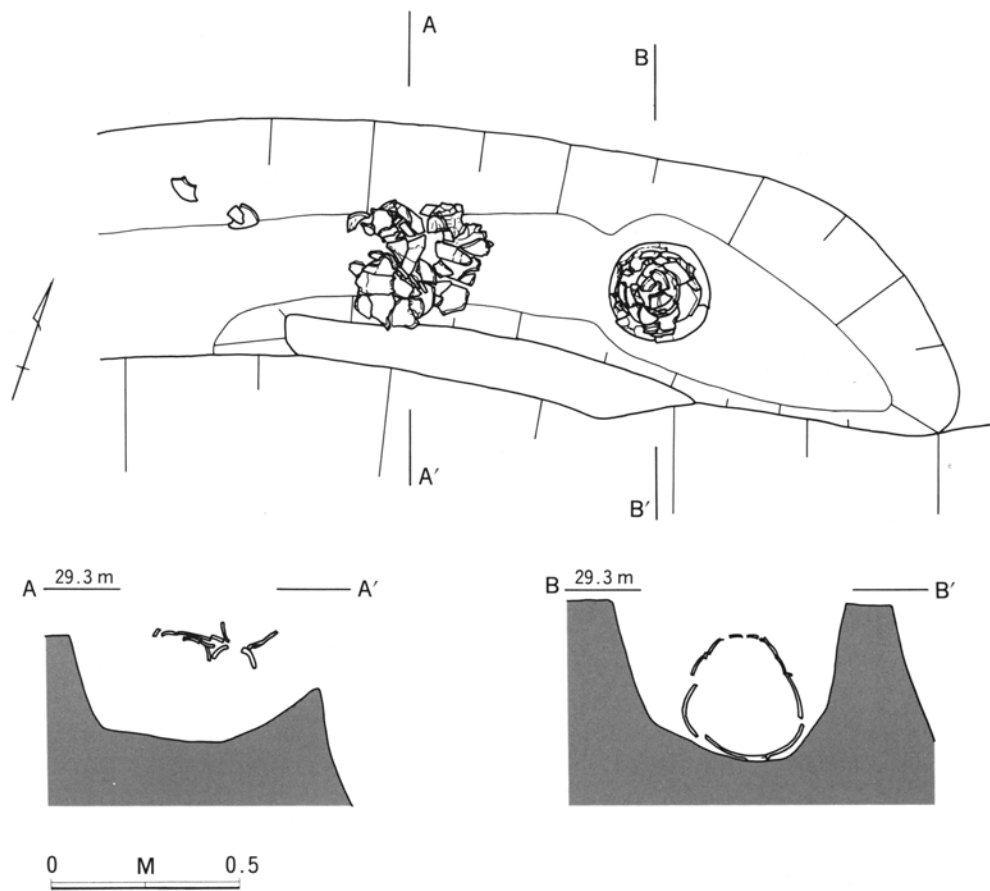
第11図 SZ01実測図〈1:80〉

S Z 0 2 北部と南部を2条の戦国期の溝(S D 03・04)によって破壊されている。東西10.6mの規模を有する。北東部に陸橋部が見られる。ごく一部残存した北溝の東端には、短頸壺(第34図-7)を本体にして高杯(9)の杯部を伏せて蓋としたものと、破碎された広口壺(8)が供献されている。前者は、小児棺または再葬墓とも考えられるが、壺内からは打製石斧(第57図-5)が1点出土しただけで骨片は検出されなかった。また、東溝の最下部からは、高杯(11)が1点横位で出土した。

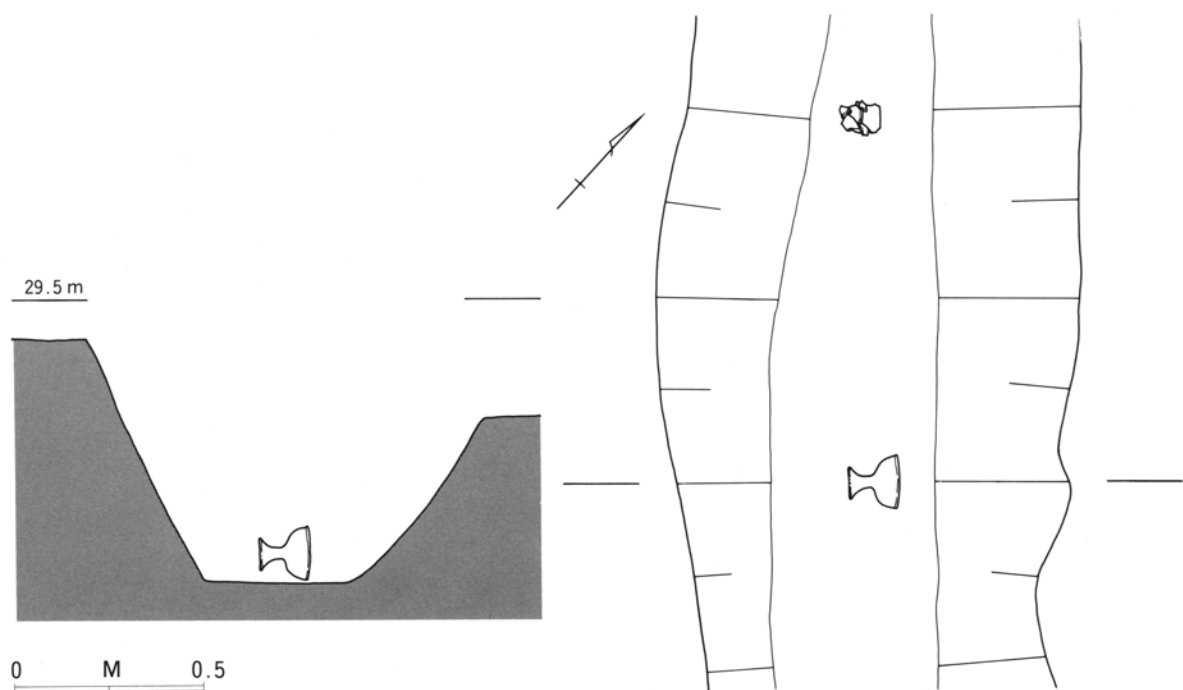
S Z 0 3 S Z 02の西に隣接して構築された方形周溝墓で、東溝のみ検出。S Z 02の西溝を切って東溝が掘られている。S Z 02の溝が深くて狭いのに対し、S Z 03のそれは幅広で浅い。大半が調査区外であるため規模は不詳。



第12図 S Z 0 2・S Z 0 3実測図 <1 : 80>



第13図 SZ02北溝土器出土状態図 <1:20>

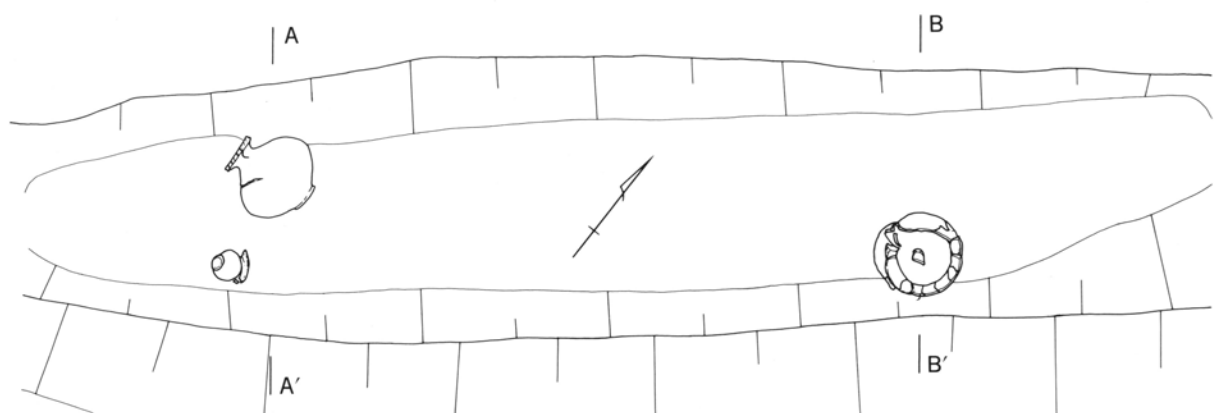
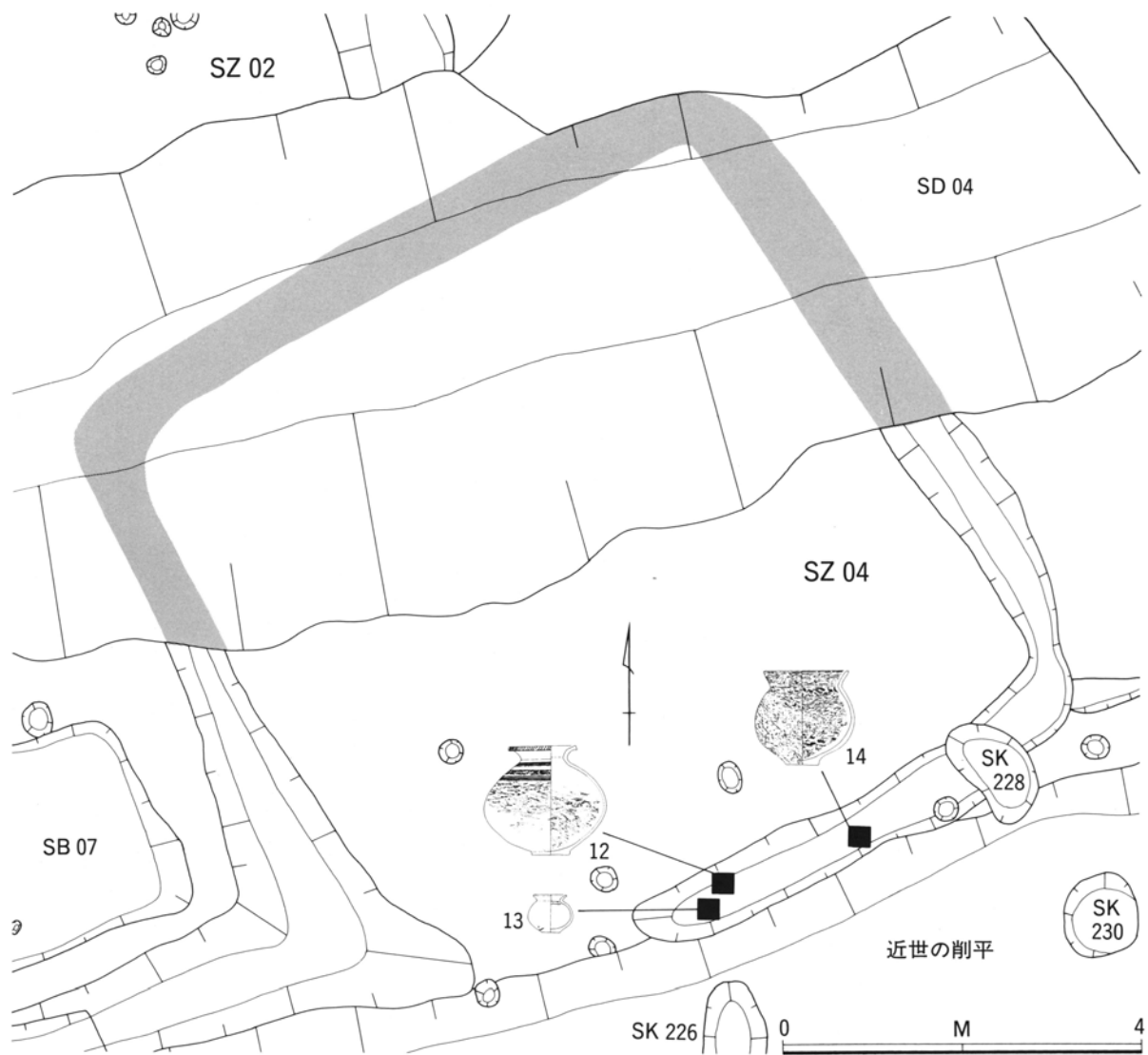


第14図 SZ02東溝土器出土状態図 <1:20>

- S Z 0 4 北半部が戦国期の溝 S D 04によって破壊されている。東溝と南溝はめぐっているが、南西にはやや広い陸橋部がある。東西約8.6mの規模である。南溝には大小の壺 2 点(第35図-12・13)と短頸壺 (14) が供献されていた。
- S Z 0 5 近世に造成のための大規模な削平を受け、東溝と南溝は溝底をわずかに残しているだけである。ただし、北溝と東溝の埋土は他の方形周溝墓と同じく黒ボク土であるが、南溝は埋土がやや砂質の黒褐色土であり、溝底の深さも北溝よりかなり深いことからこの方形周溝墓の溝ではない可能性もある。また、西部は調査区外であるため全容は明らかでないが、規模は南北約8.3mを測る。北溝は、S Z 04の西溝と切り合っており、先後関係はS Z 04(古)→S Z 05 (新) である。北溝からは供献土器と考えられる大小の壺が 2 点 (15・16) 検出された。15は溝の最下部から、16は埋土上部から出土。 (都築暢也)
- S Z 0 6 調査区の南端で検出された方形周溝墓で、他の 5 基とはやや距離をおいている。規模は東西8.6m、南北8.4mを測り、周溝の深さは約30cmと浅い。平面形は周溝の四隅が切れるタイプであるが、近世の整地層による削平を受けて周溝のコーナーの浅い部分が失われた可能性が高い。遺物は、東溝と南溝からはそれぞれ内湾長頸壺 (18・19) が埋土中位より、西溝底から小型壺(17)が出土している。また、北溝から人面付土器の顔面部分(第33図-1)が出土している。この人面付土器の時期は中期以前と考えられ、他の供献された土器とは、明らかな時期差がある。混入品であろうか。 (原田 幹)

(3) 土坑

- S K 0154 92年度調査区の竪穴住居 S B 04を切って掘り込まれている。内面にヘラ記号をもつ須恵器杯 (第37図-50) が出土。
- S K 0168 竪穴住居 S B 03・04・05を切って掘り込まれている不定形な土坑である。埋土上部から高杯 (47) が出土した。
- S K 0560 93年度調査区の N R 02の北肩部で検出された楕円形を呈する土坑。黒ボク土層中から掘り込まれていたと思われるが掘形は検出できなかった。基盤面での規模は、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ 6 cmを測る。弥生後期の長頸壺 (第36図-23) が倒立した状況で出土した。 (都築暢也)

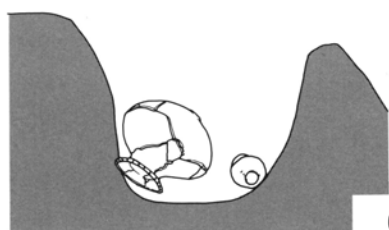


A 29.3 m

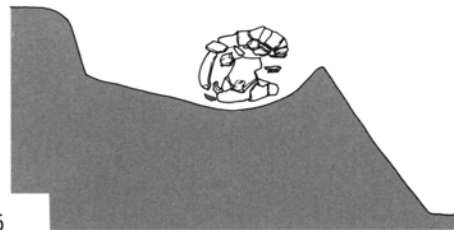
A'

B 29.3 m

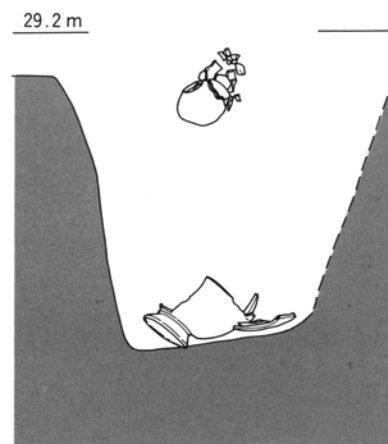
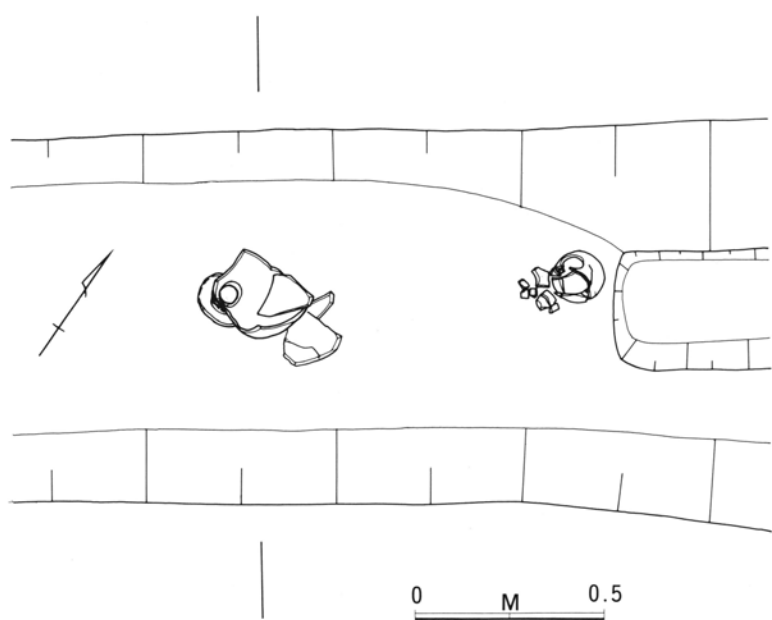
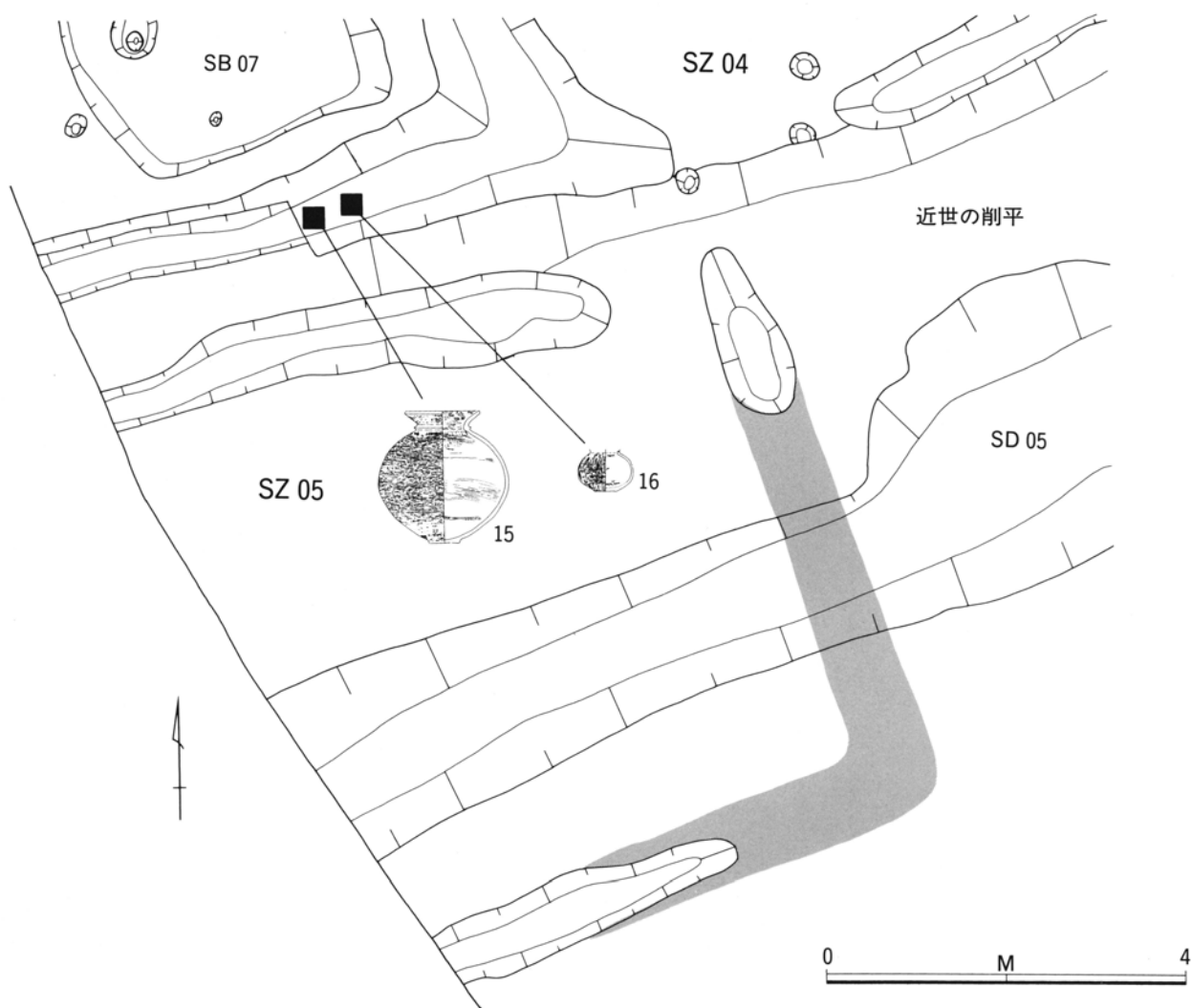
B'



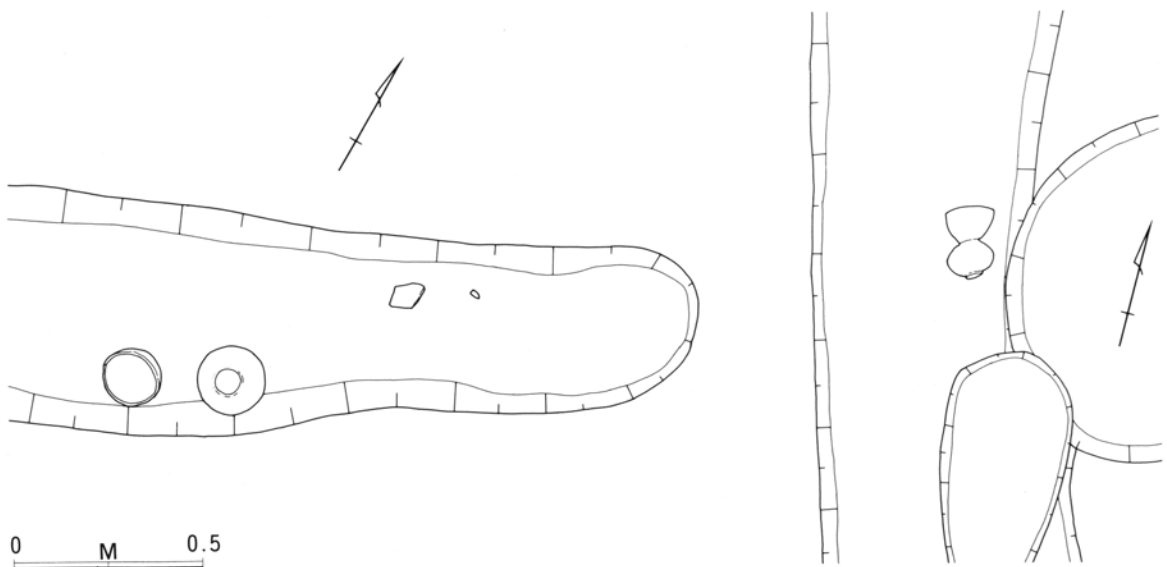
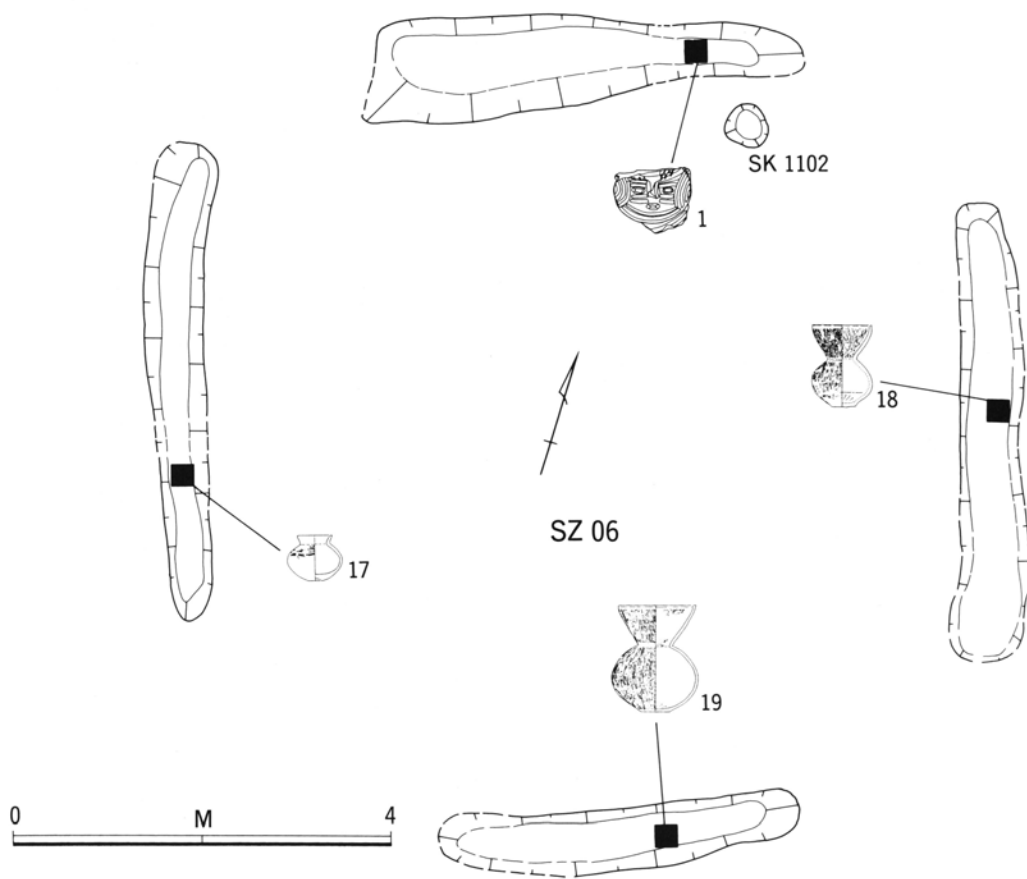
0 M 0.5



第15図 SZ 04 実測図<1 : 80>・南溝土器出土状態図<1 : 20>



第16図 SZ 05 実測図 <1 : 80>・北薄土器出土状態図 <1 : 20>



第17図 SZ 06 実測図 <1 : 80>・南溝土器および東溝土器出土状態図 <1 : 20>

第3節 戦国期・近世

(1) 溝

概要 戦国期に掘削された東西に走る大型の溝が調査区北部で4条検出された。居館域を取り巻く溝と考えられ、T字やL字状を呈し防御機能を強く意識していることが看取される。

近世に掘削された溝は、中央部で東西に走る溝が3条、南部で7条検出された。中央部の溝と南端の溝は、屋敷地を区画する溝と考えられ、特に南端の溝は石垣を溝内に積んで入口部を拡張しており、陣屋の構造を考える上で注目される。

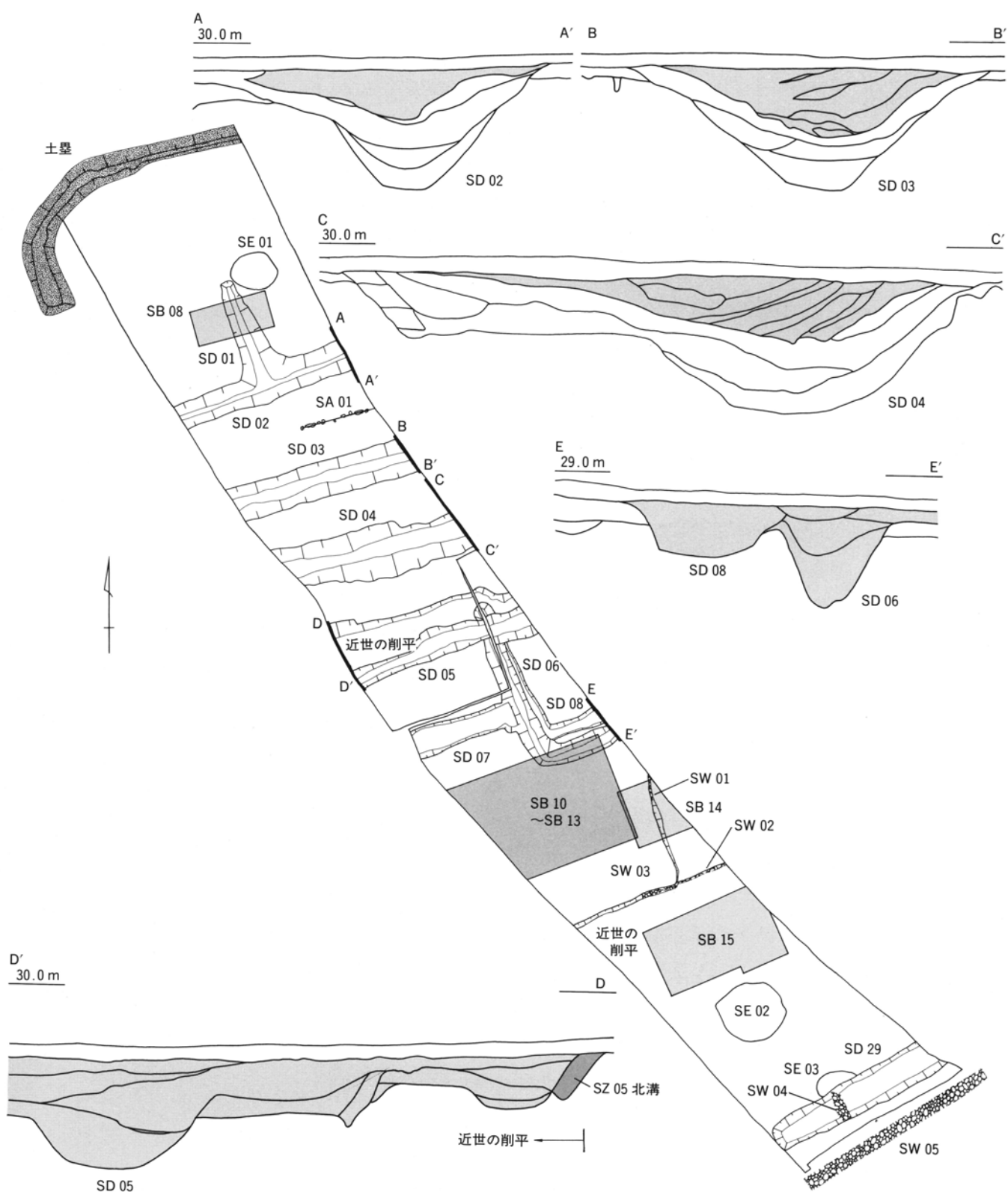
SD01 92年度調査区の北部で検出された、SD02から北に突出している幅約3.5m、検出面からの深さ約1mの溝である。断面は箱形に近い。方位はN-21.5°-Wである。埋土は、下部に暗褐色・黒褐色土が0.7mほど堆積し、戦国期の土器や陶器が出土。溝が完全に埋まり切らないうちに、褐色土や黒ボク土、基盤の黄褐色シルトがブロック状の層（人為的な整地層と考えられる）をなして埋められた状況が見られる。

SD02 SD01と結合している東西に走る溝である。幅約3m、深さ約1.7mで、断面は箱形。方位はN-67.0°-Eで、底部レベルはわずかに東が高く、西が低い。埋土の状況は、SD01とまったく同じで、下部に暗褐色・黒褐色土が1mほど堆積し、溝が完全に埋まり切らないうちに上記のSD01と同じ整地層で埋められている。溝下部より戦国期の陶磁器類が出土している。

SD03 SD02とは若干方位をずらす溝である。幅約4m、深さ約1.7mで、断面は箱形。方位はN-73.5°-Eで、底部レベルはほぼフラット。埋土は、最下層に黄褐色土、下部に暗褐色土が堆積。上部には黄褐色土層と暗褐色土層、褐色土や黒ボク土、基盤の黄褐色シルトがブロックになった層が互層になった状態で見られ、その傾きにより南から人為的に埋められた状況が窺われる。埋土下部から戦国期を主体とする遺物が出土。

SD04 SD03とほぼ平行して走る溝である。幅約5m、深さ約2.0mで、断面は箱形に近い。方位はN-75.0°-Eで、底部レベルはわずかに東高西低。埋土の状態はSD03と類似しており、下部に暗褐色・黒褐色土が堆積し、その上は黄褐色土層と暗褐色土層、褐色土や黒ボク土、基盤の黄褐色シルトのブロック層が互層になった状態を示しており、人為的に南から埋められたことが見てとれる。下部から戦国期の陶器類が出土するとともに、人為的な埋め土層（埋土上部）から土師器皿が多量に出土している。

SD05 近世に削平されたと考えられる段差に隣接して検出された溝。戦国期のSD03・04とは若干方位を異にし、埋土などの様相も大いに異なる。幅約1.5～3.3m、深さ約1mで、断面は箱形を呈す。方位はN-67.5°-Eで、底部レベルはわずかに東高西低。埋土は黒褐色土で、大量の礫や瓦が混在する。また、それらは北から投棄されたことが認められるため、隣接して石垣か石垣をもつ土塀などの存在が想定される。（都築暢也）



第18図 戦国・近世主要遺構配置図 <1 : 600>・土層断面図 <1 : 80>

- SD06** 92年度調査区南部から93年度調査区北部にかけて検出された溝で、南北に走りL字状に屈曲し東へ延びる。溝北部は近世の溝SD05に切られている。幅約3.3m、深さ約1.7mで、断面形は箱形。方位は南北方向でN-24.5°-W、東西方向でN-66.5°-E。溝底のレベルは南北溝から東西溝に傾斜している。埋土は下層が黒色土と褐色土のブロック層、上層は灰褐色砂層である。下層は人為的な埋め戻し、上層は掘り直しの可能性が高い。屈曲部から大量の遺物が出土しており、時期は戦国期と考えられる。
- SD07** 東西に走る浅い溝で、SD05にほぼ平行する。方位はN-69.0°-E。東部でSD06と切り合っているが、SD06上層の埋土との区別はつかず前後関係は明らかにできなかった。あるいは再掘削されたSD06と連続する可能性も考えられる。幅約2.5m、深さ0.5mを測り、溝底は平坦。埋土は灰褐色品層を基調とする。遺物はほとんど出土していない。
- SD29** 93年度調査区の南端で検出された東西に走る溝。方位はN-60.0°-Eで、段丘崖に築造された石垣SW05に沿って走る。調査区西で切れて完結しており、西に屋敷地への入口部分が存在すると考えられる。また、溝西部が約7.5mにわたり人為的に埋められ石垣SW04が築かれており、入口部分を東に拡張する工事が行われた事を窺わせている。溝の規模は、SW04以西では幅約3.4m、深さ1.4m、SW04以东では幅約4.0m、深さ1m前後を測り、底部レベルは東から西に低くなっている。埋土の状況は、SW04の西側では最下層に自然堆積と見られるシルト層が堆積するが、大半は大小の礫を含むシルト層によって埋められている。SW04の東側は下層に黄色ブロックを含むシルト層、上層は暗褐色シルト層で、南側から堆積した状況が窺え、溝とSW05の間に土塁などの構造物が存在した可能性が高い。溝内から出土した遺物の大半が戦国期のものであるが、西部の人為的な埋め戻しと考えられる層から瓦片や近世陶器が出土しており、近世に掘削されたものと考えたい。

(原田 幹)

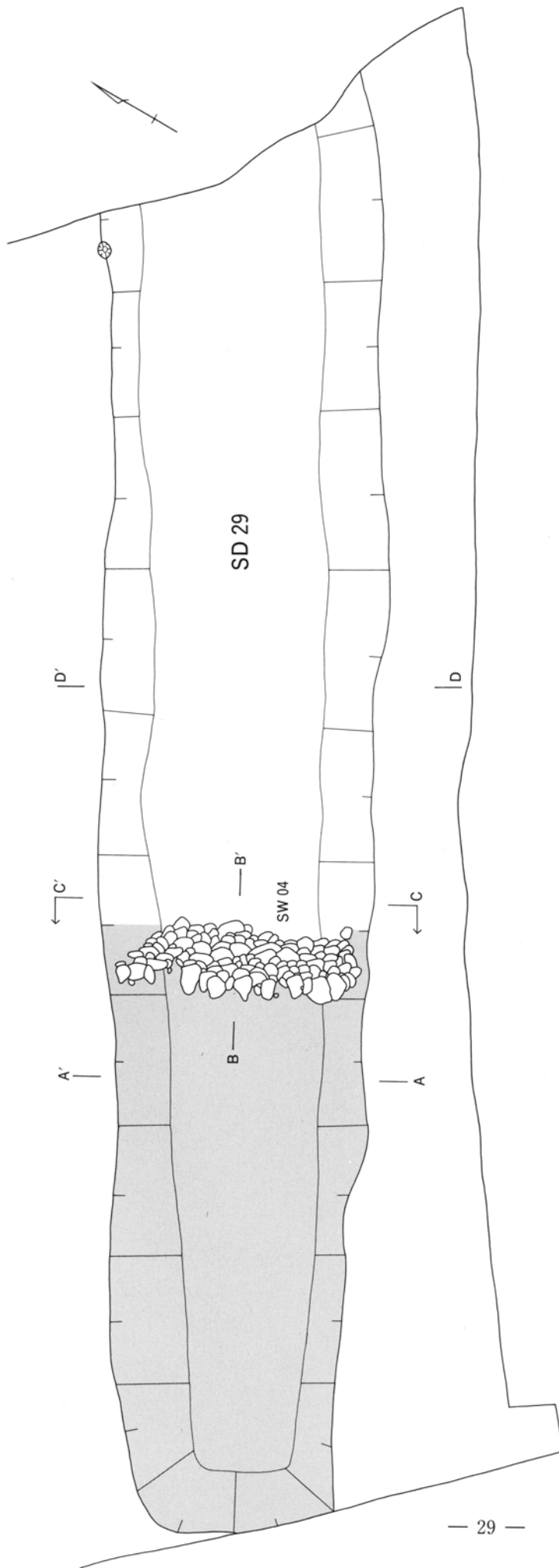
(2) 土塁

土塁 遺跡の北辺、すなわち上位面の末端部に土塁が、後世の道路建設や茶畑で大きく改変を受けてはいるが、長さ約100mにわたって残存する。幅は最大で約6.0m、高さは1.4mを測る。断ち割った部所での観察によると、整地した後、礫をほとんど含まない黒褐色土を積みその上に小礫を多量に含む黒褐色土をのせている。ただし版築状に踏み固めた様子は認められない。また、道路敷きのために全貌は明らかにできなかったが、土塁の外側(北側)には、深さ1mほどの溝が検出されている。方位はN-77.0°-E。

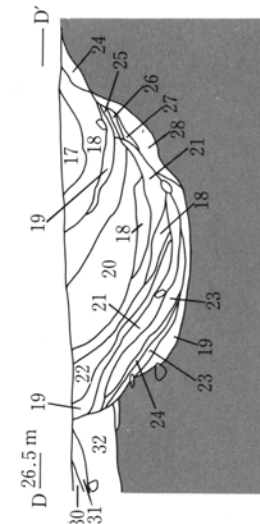
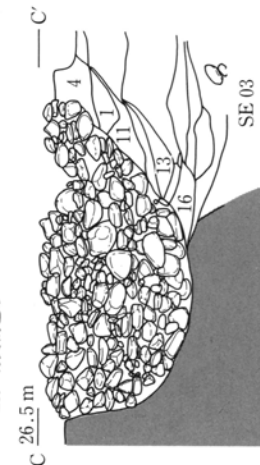
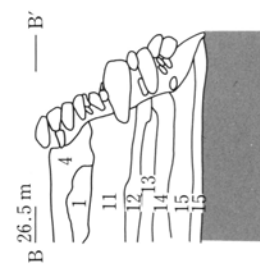
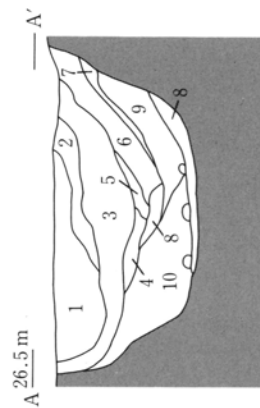
(都築暢也)



第19図 土塁断ち割り(東から)



- | | | | |
|------------------------|-----------------------------|--------------------------|--------------|
| 1. 黒褐色シルト(黒色土のブロック礫含む) | 9. 暗褐色シルト(小礫多く含む) | 17. 黒褐色シルト(黄褐色ブロック巨礫含む) | 25. 灰黄色砂 |
| 2. 黒褐色シルト(礫含む) | 10. 暗褐色シルト(巨礫含む) | 18. 褐灰色シルト | 26. 灰黄色砂 |
| 3. 黄褐色シルト | 11. 褐色シルト | 19. 黒褐色シルト | 27. 黄褐色・灰黄色砂 |
| 4. 暗褐色シルト | 12. 黒色シルト(褐色土のブロック含む) | 20. 黒褐色シルト(黄褐色ブロック含む) | 28. 暗灰色・灰黄色砂 |
| 5. 暗黄褐色シルト | 13. 褐色砂 | 21. 濃褐色シルト(黄褐色ブロック、礫含む) | 28. 暗黄褐色砂 |
| 6. 暗褐色シルト | 14. 暗褐色シルト(黒色土・黄褐色土のブロック含む) | 22. 灰褐色シルト(黄褐色ブロック多量に含む) | 29. 灰黄色シルト |
| 7. 暗褐色シルト(巨礫含む) | 15. 褐色砂 | 23. 黄褐色ブロック | 30. 灰色シルト |
| 8. 暗褐色シルト | 16. 淡黒褐色砂 | 24. 黒褐色シルト(黄褐色ブロック多量に含む) | 31. 暗灰色シルト |
| | | 25. 明黄褐色砂 | 32. 黄灰色シルト |



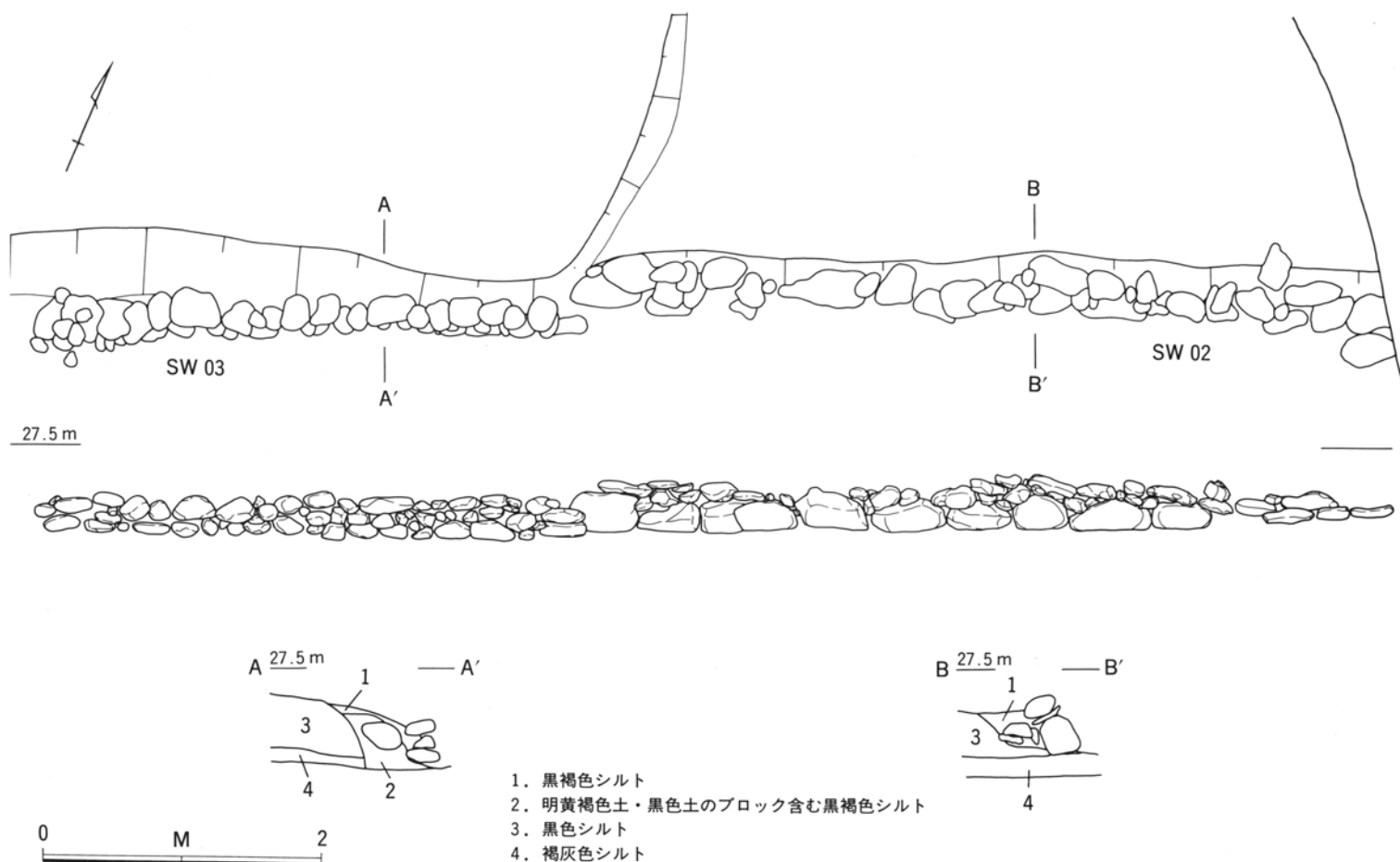
第20図 SD 29 実測図 <1:80>

(3) 石垣

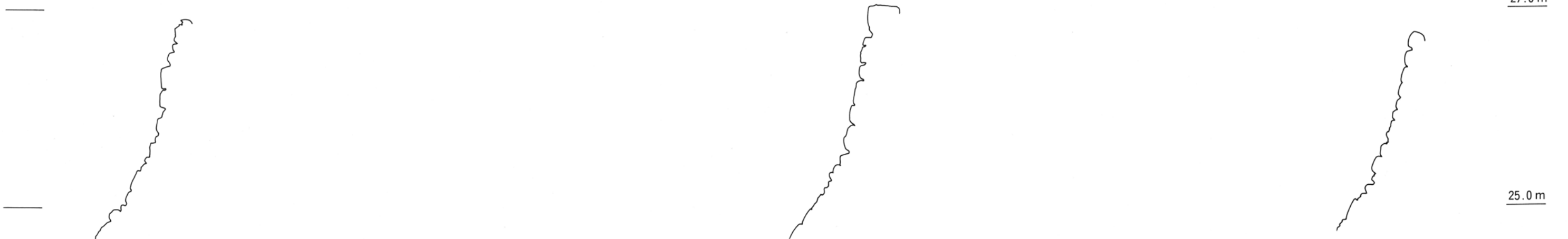
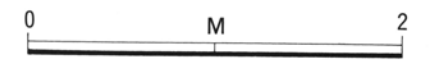
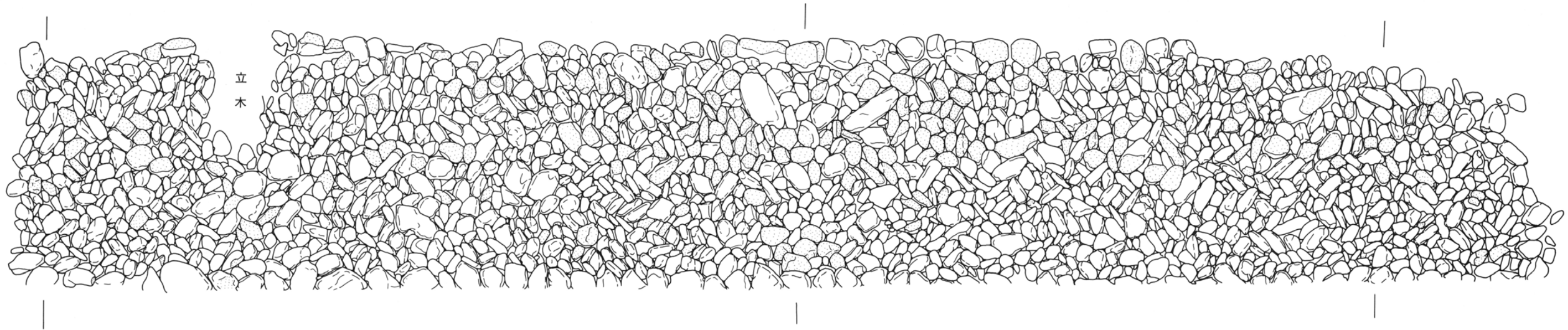
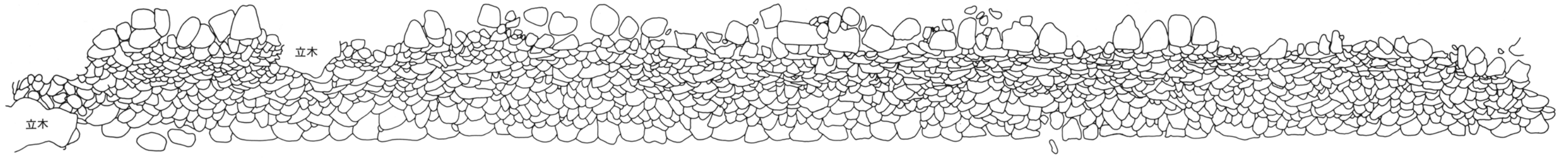
SW01 93年度調査区中央部において検出された比高差約25cmを測る落ち込みの肩に、列状に配された石列が部分的に残存していた。大半が抜き取られた石垣の基底部である可能性が高い。方位はN-16.5°-Eで、SW02・03とほぼ直交する。落ち込みはS B14の柱穴を切っていることから、S B14より後の近世に築造されたと考えられる。

SW02 93年度調査区中央部で検出された東西にのびる石垣の東側部分で、長さ約8.5m以上、高さ35cmを測る。方位はN-68.5°-Eで、近世の溝S D05とほぼ平行する。基底部に比較的大型の礫を配し、その上に小型の礫を積み上げている。裏込から近世と思われる土師器皿(第44図-180)と鉄製の鉞(第59図-13)が出土している。

SW03 SW02の西側で検出された。東端の一部がSW02の前面(南側)に重なって築かれていることから、SW02より後世に築造されたものである。東側は石列が遺存しておらず、長さ約3.9m、高さ30cmを測る。方位はN-67.0°-Eで、SW02と同じ方位をもつが、基底部から上部まで小型の礫を積み上げており、SW02とは建築方法での違いが見られる。裏込から近世の染付椀(第44図-181)と灰釉の壺(182)が出土している。



第21図 SW02・03実測図〈1:50〉



第22図 SW 05 実測図 <1 : 40>

SW04 調査区南端で検出された東西に走るSD29内に築かれた石垣である。屋敷地南側の入口部の拡張によりSD29を埋め戻した際に土留めのために築かれたものであろう。人頭大の礫を積み上げ、長さ約3.4m、高さ1.6mを測る。方位はN-25.0°-Wで、溝の方位と直交する。立面形は溝の断面形に合わせて箱形に作られているが、礫の配し方に一定の規則性は見いだせない。

SW05 93年度調査区南端の段丘崖に築かれた石垣で、現存する部分で東西約50m、高さ2.5mの規模を有する。調査区の東は崩落していたため確認できないが、裏込石と思われる多量の礫が検出されており、現存部より東側にも延びていたと考えられる。調査区内を対象に図化したが、人頭大の円礫をハの字状に組み合わせて積み上げており、面を合わせるために破碎している礫も見られる。礫間には所々に漆喰が遺存している。石垣最上部には比較的大型の礫が配されるが、残存していない部分が多い。舗装した生活道路のために基底部の構造を確認することはできなかったが、下部には大型の礫が配されている。石垣の倒壊を避けるため関係者との協議により断ち割りを行わなかったことから、SW05の時期比定に問題を残しているが、築造技術から見て近世末以降の築造と考えられる。調査区外の西約3mには、島田陣屋の正門につながると考えられるスロープが作られ、さらに、同じ場所から西側は2段に築成され、幅0.5mほどの犬走り状のテラスが認められる（図版18B）。

（原田 幹）

（4）柵列

SA01 92年度調査区の弥生時代の竪穴住居SB01の南で、N-74.0°-Eの方位を有する柵列が検出された。東側は調査区外に延びているため、全長は明らかでないが、現存長8.0mを測る。柱穴の間隔はほぼ1.1m前後。埋土（暗褐色土）とSD03やSD04と同じ方位をもつことを根拠として、構築された時期は戦国期と考えられる。

（都築暢也）

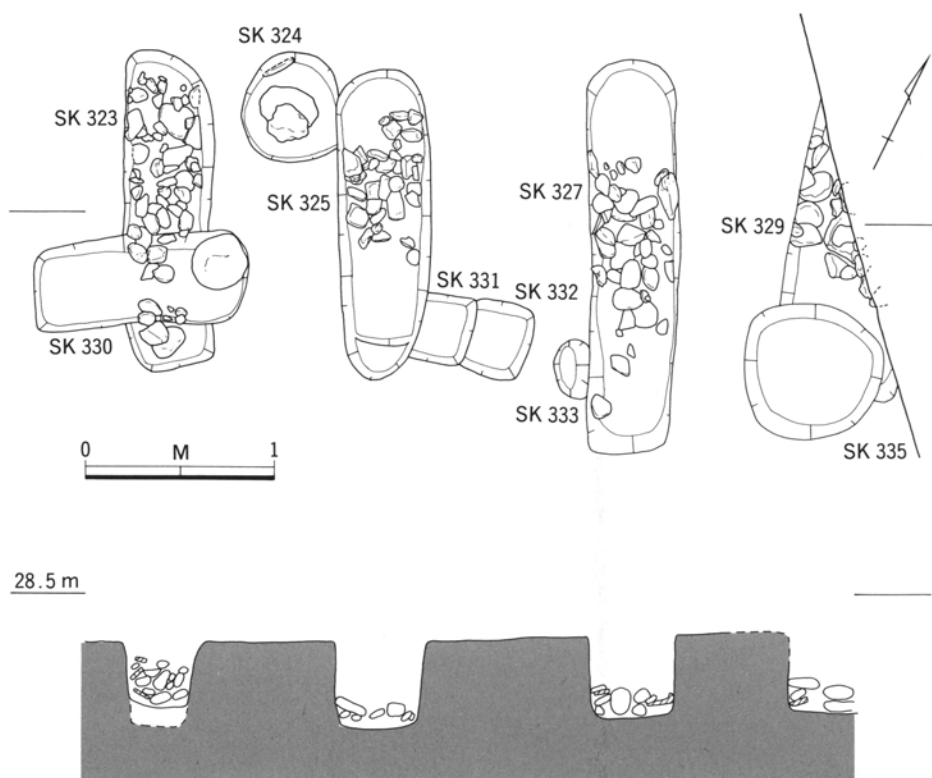
(5) 建物

概要

戦国時代から近世の建物として認識できたものはわずかに8棟のみであった。それ以外に、明らかに柱穴と思われる土坑が数多く存在するが、建物として認定できなかった。幾度かの建て替えが認定を困難にさせているのである。ここでは明らかに建物として認識できたものについてのみ記述する。

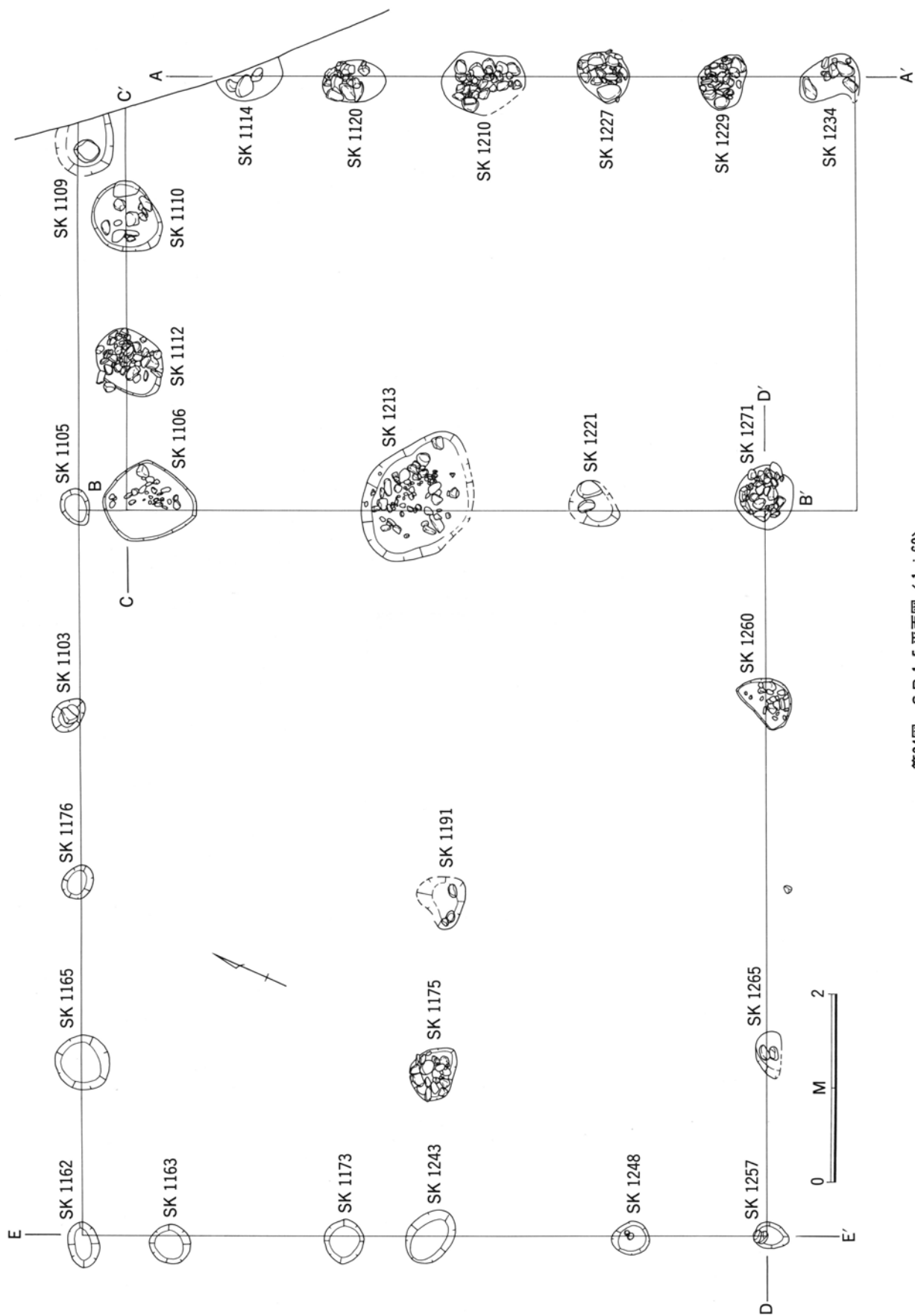
SB08 92年度調査区の北部で検出された建物である。褐色土や黒ボク土、黄褐色シルトがブロックになっている近世のものと考えられる整地層の上に構築されている。礎石建物であったと考えるが、上部は耕作で削平され残っていない。周囲とは埋土が若干異なる土坑列が多数認められ、礎石を据えた位置を示すと思われるが、根石もなく明確に柱間が対応できない。故に建物跡と考えることは躊躇されるが、ここでは柱穴が列をなすことを積極的に考慮して建物跡と認定しておく。規模はおおよそ東西7m、南北10m。(都築暢也)

SB09 93年度調査区北部で検出された。柱穴と考えられる4基の土坑が約1.2mの間隔で東西に並ぶが、南北方向に展開する柱穴は検出されておらず、SD07の延長線上に位置していることを考慮すると、あるいは、板塀や門のような施設の可能性も考えられる。柱穴は長軸約1.6~2.1m、短軸0.5m、深さ0.5mを測る長方形で、底部には拳大の礫が敷き詰められ、固く突き固められている。近世の陶磁器、瓦片が出土しており、19世紀の遺構と考えられる。

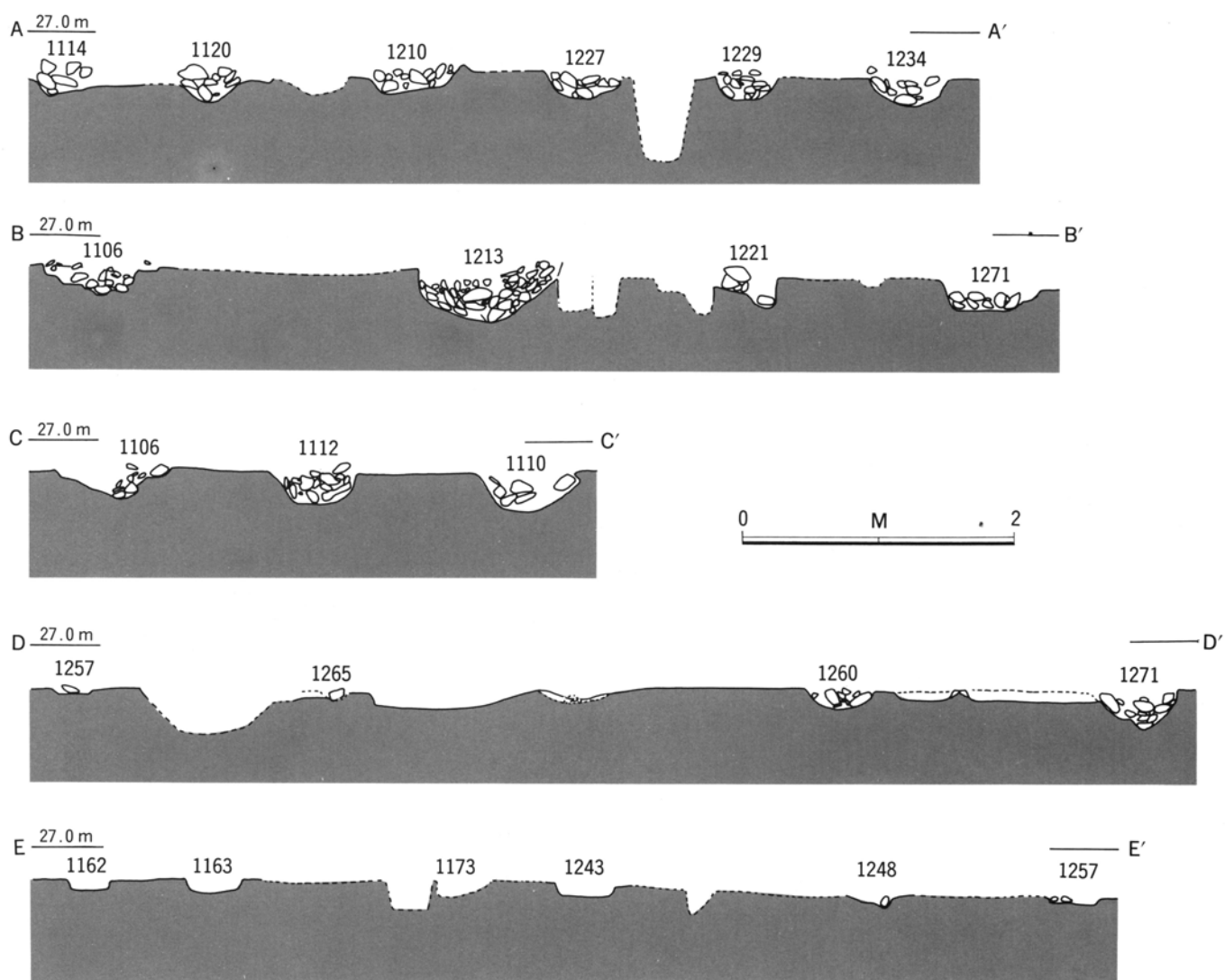


第23図 SB09実測図<1:40>

- SB10
~13** 93年度調査区中央寄りで検出された土坑群から、約1.8mの間隔を基本にして同一方向に並ぶ土坑を建物として抽出した。方位はSB10・11・13がN-75.0°-E、SB12がN-70.0°-Eで、いずれも東西に主軸をもつ細長い建物と推定される。柱穴は直径0.2~1.3mと規模、形態共にばらつきが見られる。深さも一定ではないが、黒ボク土層を切って基盤層まで達するものが多く、黒ボク土層の薄い北部では浅く、厚い南部では深く掘り込む傾向が認められる。底部に礎石と見られる礫を残すものもある。柱穴から出土する遺物が戦国期に限られることからこの時期の建物と考えられる。柱穴の切り合いから、先後関係はSB13・11→SB10→SB12と思われる。SB13はSD06に切られており、SB12はそのSD06と軸線が一致している事を見れば、SD06の掘削に伴って建物が南に建て直された状況を想定できる。
- SB14** 93年度調査区の石垣SW02・03の北側で検出された。調査区東端にかかるため全形は不明だが、東西2間以上、南北3間以上の建物。柱穴は長軸約0.7~1.0m、短軸0.3~0.6m、深さ0.5~0.8mと比較的規模が大きく、黒ボク土層を切って基盤層にまで掘り込まれている。東西軸の方位はN-69.5°-Eで、SW02・03、SD05とほぼ一致する。遺物は出土していないが、軸線の方位から判断して近世の建物と考えられる。
- SB15** 93年度調査区のSW02・03の南側で検出された建物跡。柱間は一定しないが、南北約7.5m、東西12.5m以上の規模を有する。このうち東部と西部の柱穴の並びにズレがあり、別個の建物跡が重複している可能性もあるが、ここでは一棟の建物とした。柱穴は底部に拳大の礫を敷き詰め固く突き固められており、かなりの重量の上部構造をもつ建物を想定できる。また、建物西側では小型の土坑群が建物と平行して並ぶ傾向が見られ、この建物と関連した施設があった可能性もある。柱穴から遺物は出土していないが、東西の方位(N-65.0°-E)がSW02・03と平行しており、近世の建物と考えられる。(原田 幹)



第24图 SB 15 平面图 < 1 : 60 >



第25図 SB15断面図〈1:50〉

(6) 土坑

概要 ここで土坑としたものは、明確な区別が困難であるという理由で、便宜上明らかに柱穴と考えられるものも含めた。92年度及び93年度の調査で総計約1300基もの土坑が検出された。巻末の一覧表にまとめてあるが、ここでは主だったものについて記述する。

**SK1113
～1207** 93年度調査区のSB15内で検出した土坑で、埋土に赤化した焼土ブロックを含む。SK1207→SK1119→SK1118→SK1117→SK1113の順に掘り込まれている。SK1117底部より瓦片が出土している。

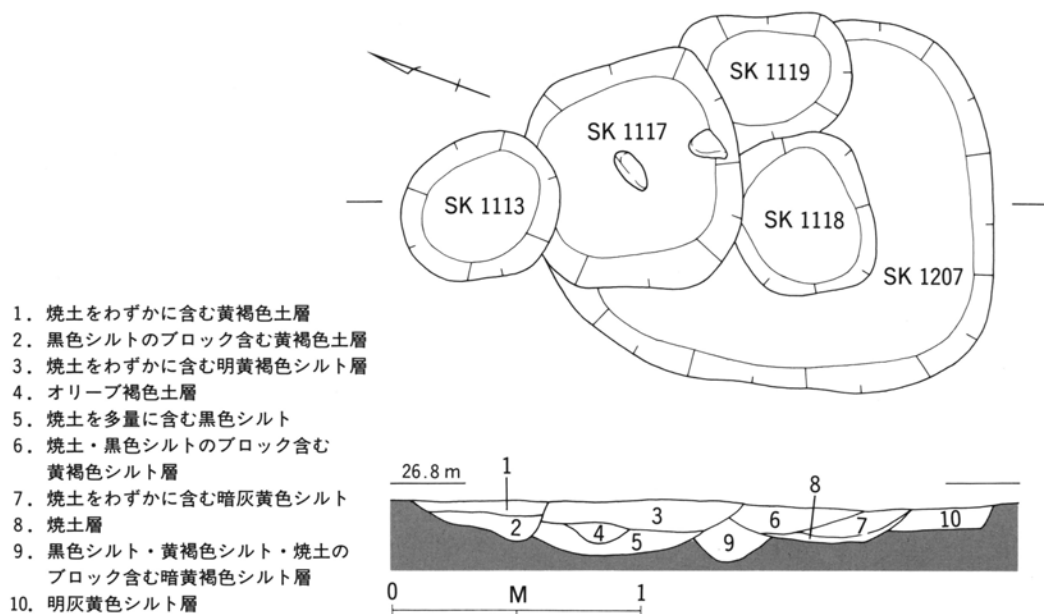
SK1308 93年度調査区南部、SK1310の北側に接して検出された土坑で、長軸0.9m、短軸0.4m、深さ4cmを測る。完形の土師器皿3点がまとまって出土している。時期は戦国期。

SK1313 93年度調査区南部で検出された瓦を廃棄した土坑で、長軸3.3m、短軸2.3mを測り、SK1310とSK1339、SD28を切って掘り込まれている。他の遺構との切り合い関係が判別できずに掘り下げた結果、深さの確認ができなかったが、本来0.4m以上あったと考えられる。大量の瓦片の他近世陶磁器が出土しており、19世紀前葉以降の年代が考えられる。

SK1321 93年度調査区南部で検出された長方形の土坑で、SK1339とSE03を切って掘り込まれ、SD23に切られている。長軸1.5m、短軸1.8m、深さ0.2mを測る。この土坑からは大量の鉄釘（第62図）が出土しており、共伴した陶磁器から19世紀前葉の年代が与えられる。

SK1338 93年度調査区南部の西端で検出された、大量の瓦片が出土した廃棄土坑である。一部が調査区外のため全形は不明だが、長軸1.9m以上、短軸1.8m、深さ0.4mを測り、楕円形のプランをもつと推定される。

(原田 幹)



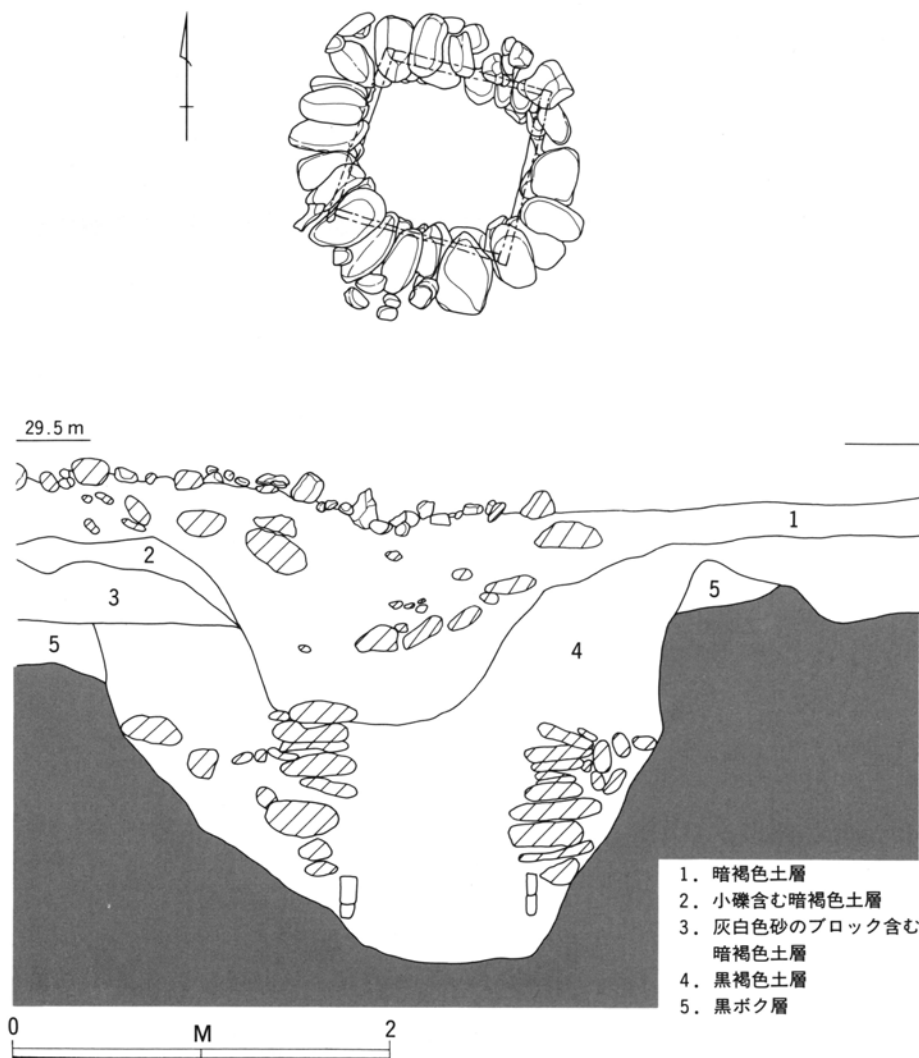
第26図 SK1113～1207実測図 <1:30>

(7) 井戸

SE01 92年度調査区の北部で検出された井戸である。掘形は、長径4.8m、短径3.6mの楕円形に近い平面形を呈し、井戸枠は上部に石組み、下部は板材の組み合わせという構造を有していた。上部の石組みは、長円形の自然礫の長軸を放射状にむけて組み上げており、内径(法)は長径0.8m、短径0.7mのほぼ正円形に近い形状で、現存で8段(高さ1.0m)積み上げられている。下部の木組みの構造は、幅15cm、長さ100cm、厚さ10cmの板材を2段重ねて正方形に組まれている。

掘形や井戸内部からの遺物がなく時期決定の資料を欠くが、戦国期のSD01を切って掘削されていること、整地層によって埋められてはいないことを考えると、近世には存在していたと思われる。また、廃絶後に石組み上部は壊され、多量に礫が投げ込まれていた。

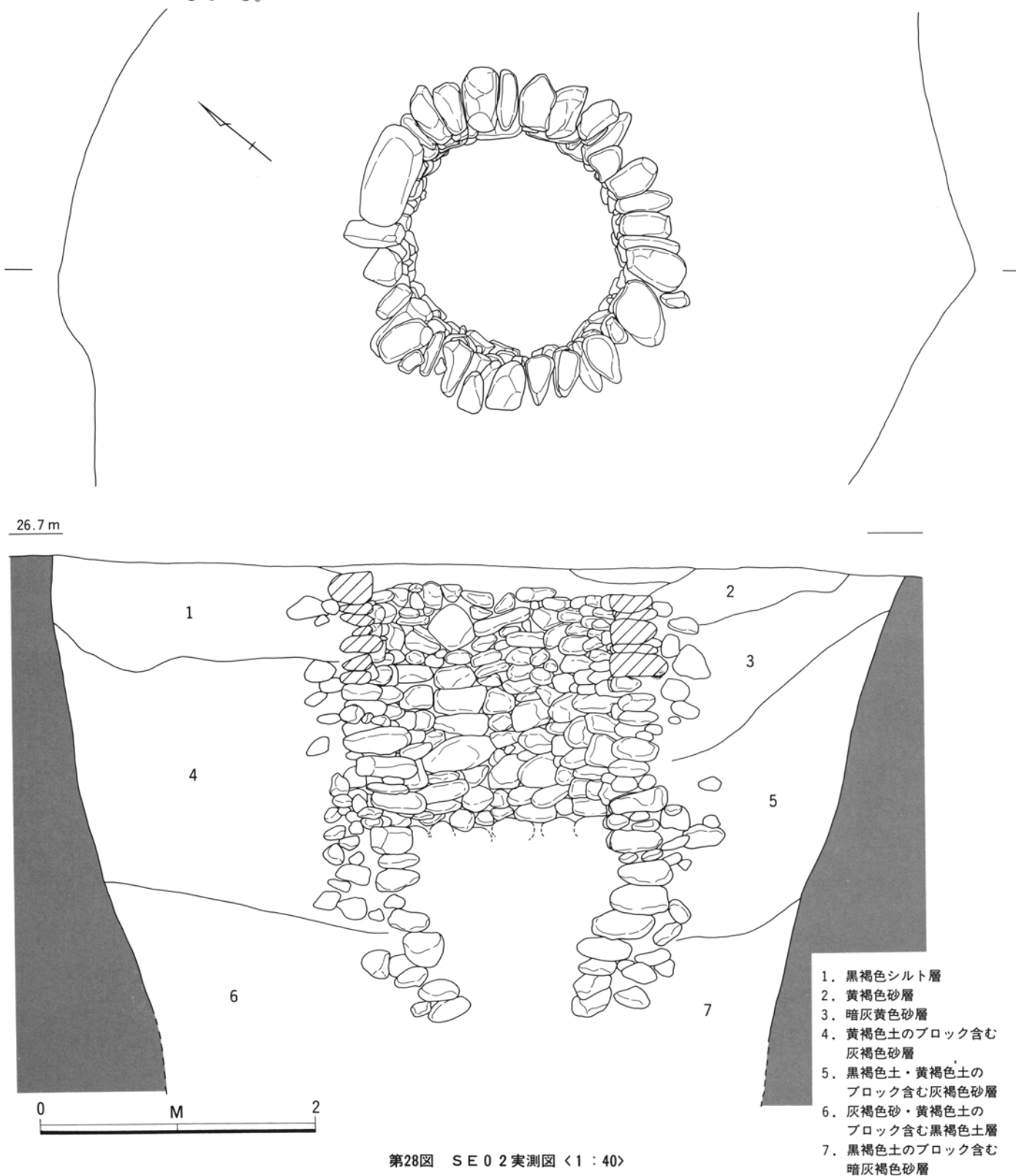
(都築暢也)



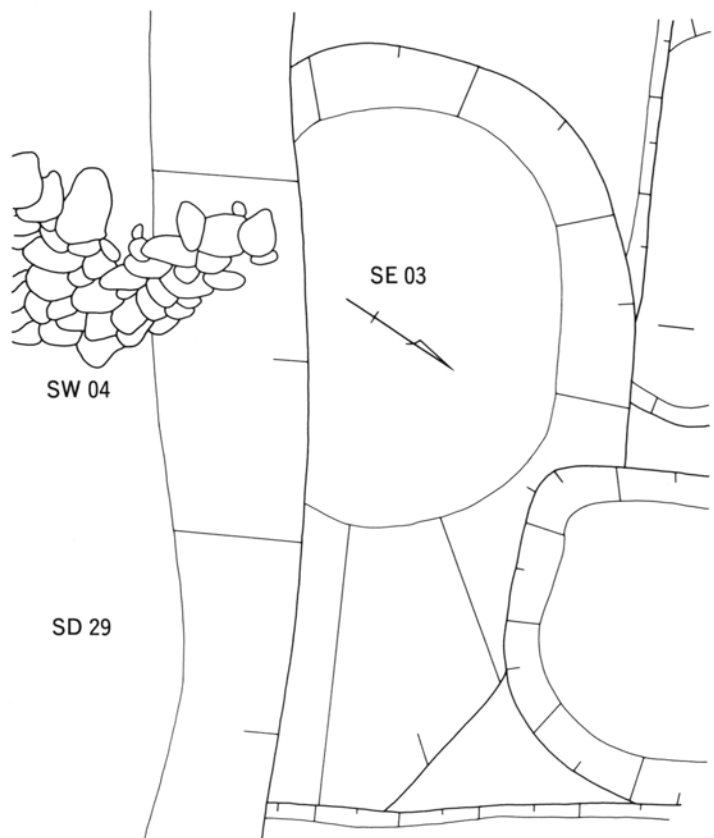
第27図 SE01実測図 <1:40>

SE02 93年度調査区で検出された井戸。掘形は、長径7.4m、短径6.2mの不整形な円形に近いプランを呈する。井戸枠は石組みで、検出面より深さ3.4mまで掘り下げたが、激しい湧水のため最下部の構造は確認できなかった。

石組みは下部が方形に近いプラン、上部が円形を呈し、内径(法)で約1.6mを測る。遺物はあまり出土していないが、掘形及び石組みの裏込から、戦国期の土師器皿が出土している。井戸廃絶後には大量の礫により埋められて、埋土上位から戦国期の遺物が少量出土している。

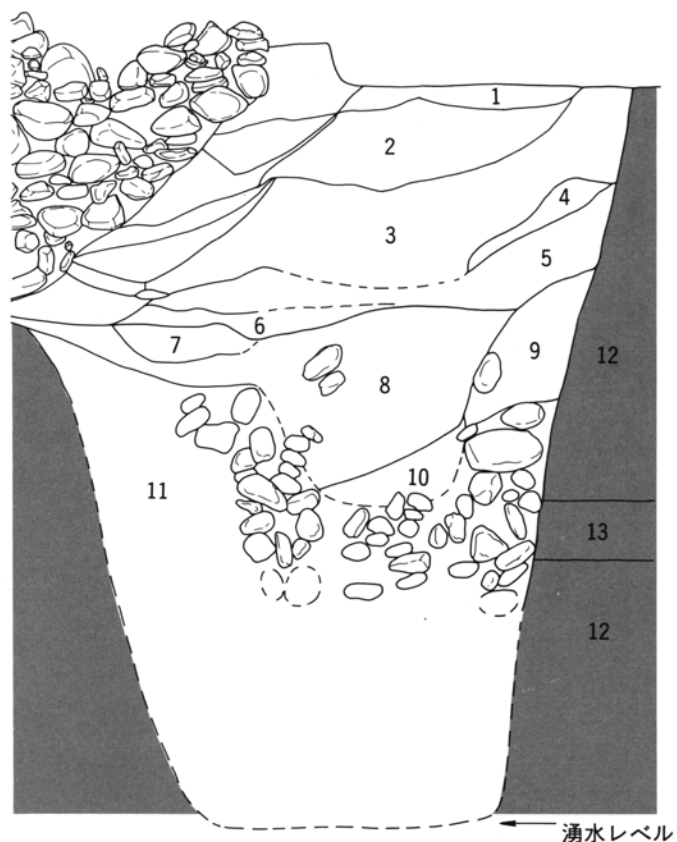


SE 03 93年度調査区南部、SE 02の南側で検出された土坑で、南部をSD 29に切られている。井戸枠等の施設は確認できなかったが、深さ4.3m（標高22.2m）の湧水層まで掘り込まれていることから井戸と判断した。埋土には大量の礫を含む。戦国期の鍋（第45図-240）と土師器皿の小片（241・242）、石鉢（第58図-15）が出土しており、戦国期の遺構と考えた（原田 幹）

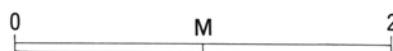


26.6 m

1. 黄褐色のブロック含む暗褐色土層
2. 褐色土のブロック含む黒色シルト層
3. 黒褐色シルト層
4. 黄褐色土のブロック含む黒褐色シルト層
5. 黒色土・黄褐色土のブロック層
6. 淡黒色シルト層
7. 黒褐色シルト層
8. 黒褐色シルト層（7より暗い）
9. 黒色シルトのブロック含む・黄褐色シルト層
10. 黄褐色シルトのブロック含む・黒褐色シルト層
11. 黒褐色シルト層
12. 黄褐色砂礫層
13. 橙色砂礫層



第29図 SE 03 実測図 <1:40>



(8) 集石遺構

SX01 92年度調査区北部で検出された、長径1.7m以上、短径0.6m、深さ27cmの規模をもつ長円形の集石で、拳大の礫が集中しているが、掘形は確認できなかった。

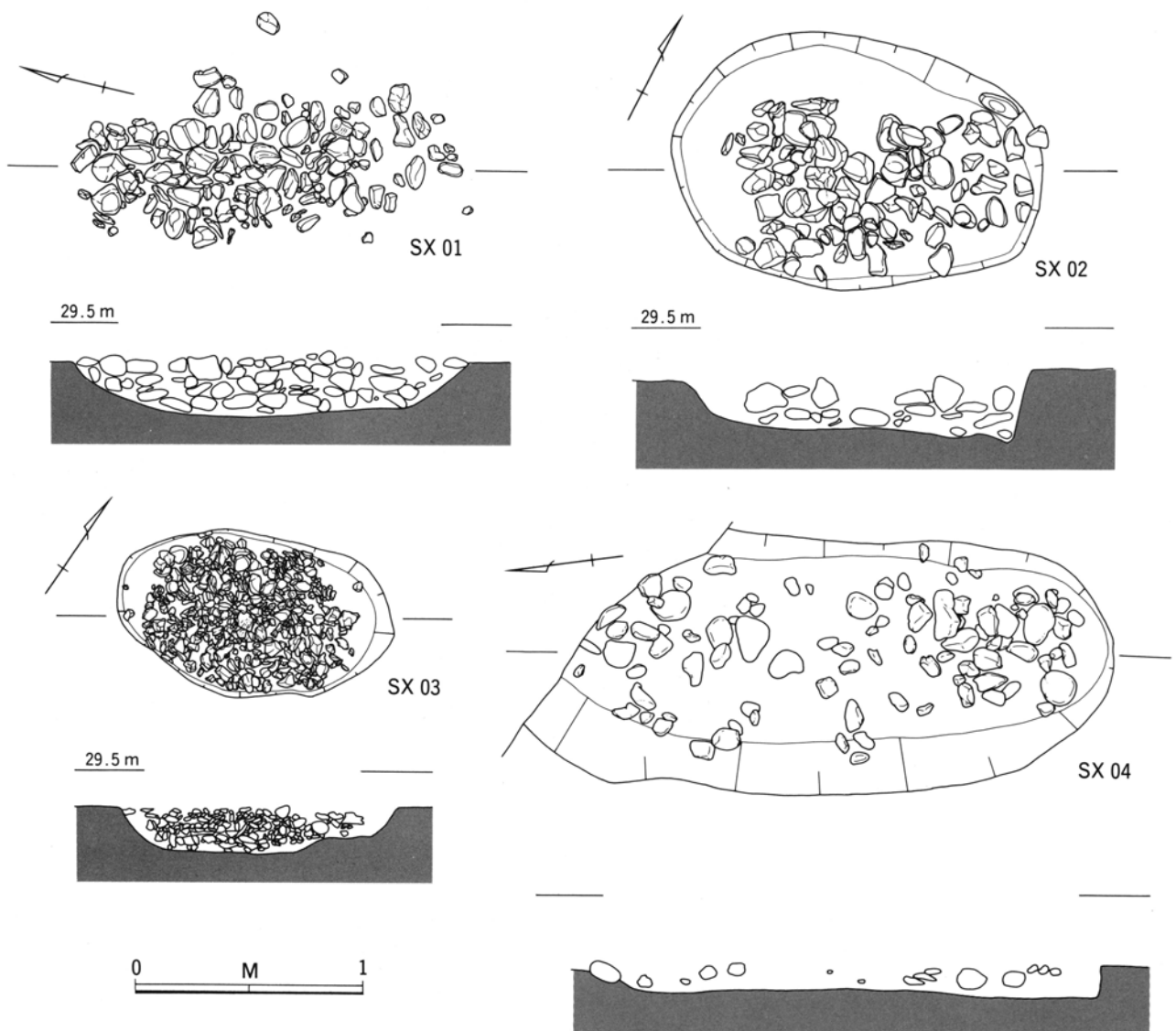
SX02 92年度調査区北部で検出された、長径1.6m以上、短径1.1m、深さ24cmの規模をもつ長円形の土坑で、拳大の礫が東寄りに偏在する。内部から土師器皿片が出土。

SX03 92年度調査区北部で検出された、長径1.2m以上、短径1.0m、深さ18cmの規模をもつ長円形の土坑で、3～4cm大の細かな礫が選別されたように密に敷き詰められている。

(都築暢也)

SX04 93年度調査区中央部で検出された土坑で、一部が調査区東壁にかかるため全形は不明。土坑底部には黄色シルト層が堆積し、拳大の礫が敷き詰められている。土坑の規模は長径2.3m以上、短径1.1m、深さ15cmを測り、溝状の長円形を呈する。時期は近世に属する。

(原田 幹)

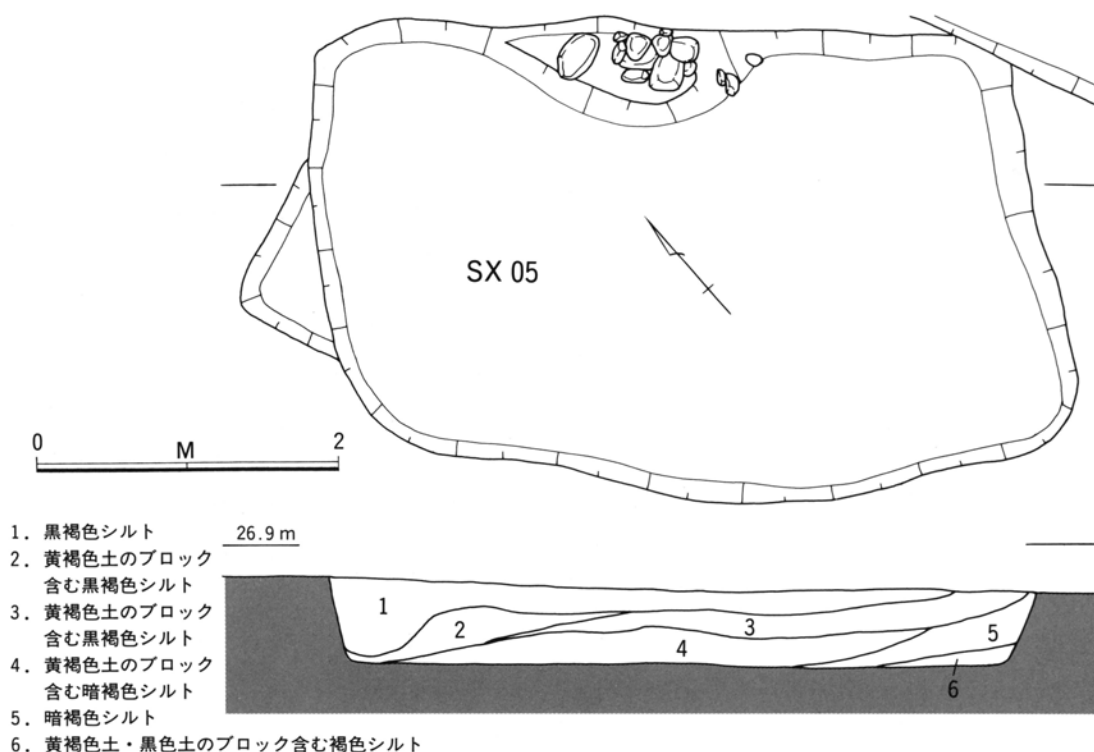


第30図 集石遺構実測図 <1:30>

(9) 長方形土坑

S X 0 5 93年度調査区南部で検出された長方形の大型土坑で、S E 02の掘形を切って掘り込まれている。長軸4.8m、短軸3.2m、深さ0.6mを測る。戦国期を中心とする遺物が出土している。

S X 0 6 S X 05と近世の溝S D 20・21・23に切られており、全形は不明だが、S X 05と同様な長方形の大型土坑と考えられる。戦国期を中心とする遺物が出土している。（原田 幹）



第31図 長方形土坑実測図 <1 : 50>

(10) 埋設甕

S X 0 7 93年度調査区南部のS B 15の内側で検出された常滑産の大甕を土中に埋設したもので、甕上半部は破碎して内側に、一部口縁部が中に落ち込んでいる。検出された掘形は長径1.4m、短径1.3m、深さ0.4mを測り、平面形は不整楕円形である。

S X 0 8 同じくS B 15の南西で隣接して検出された。常滑産の大甕を埋設しており、上半部は破碎されて内側に落ち込んでいる。掘形は長軸1.2m、短軸0.8m、深さ0.5mを測り、長方形に近い平面形を呈する。

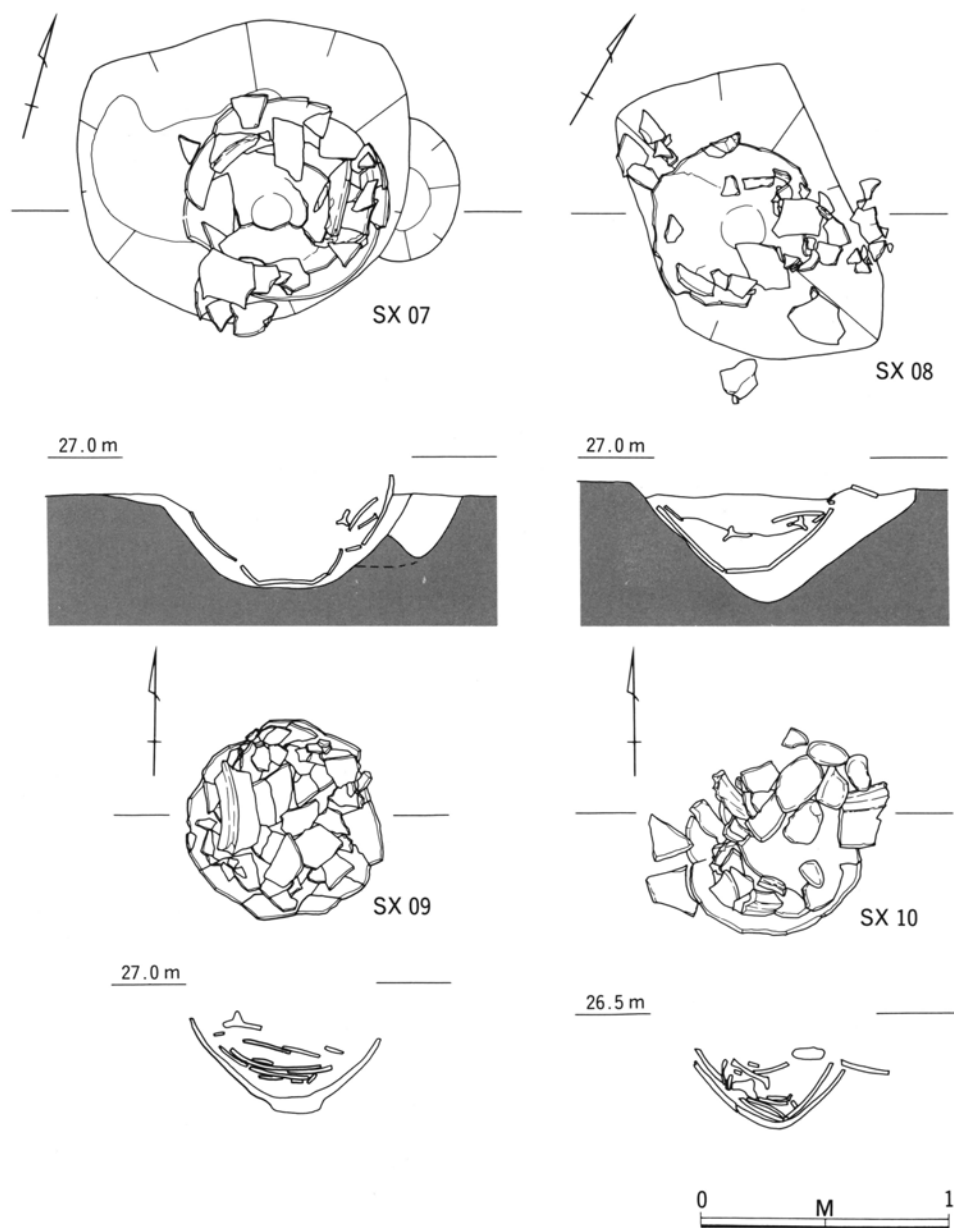
S X 0 9 93年度調査区南部で検出された常滑産の大甕を埋設した遺構である。掘形は検出できなかった。

S X 1 0 S K 1310に隣接して検出された。常滑産の大甕を土中に埋設しており、上半部は内側に落ち込んでいる。上部から瓦片と礫が出土している。遺構の掘形は検出されなかった。

（原田 幹）

(11) 土器集積

S U 0 1 93年度調査区中央部の落ち込みで、瓦と近世陶器の集積が検出された。土坑等の遺跡が存在した可能性もあるが、掘形は検出できなかった。(原田 幹)



第32図 埋設物実測図 <1 : 30>

III

第Ⅲ章

調査の成果—遺物—

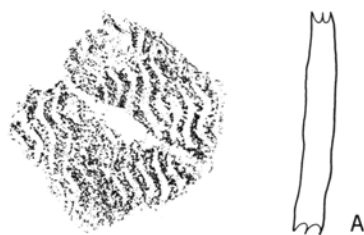


第III章 調査の成果－遺物－

第1節 土器・陶磁器

(1) 縄文時代

押型文土器 Aは胴部、Bは底部付近の破片で、同一個体と思われる。いずれも縦方向の山形の押型文が施されている。 (都築暢也)

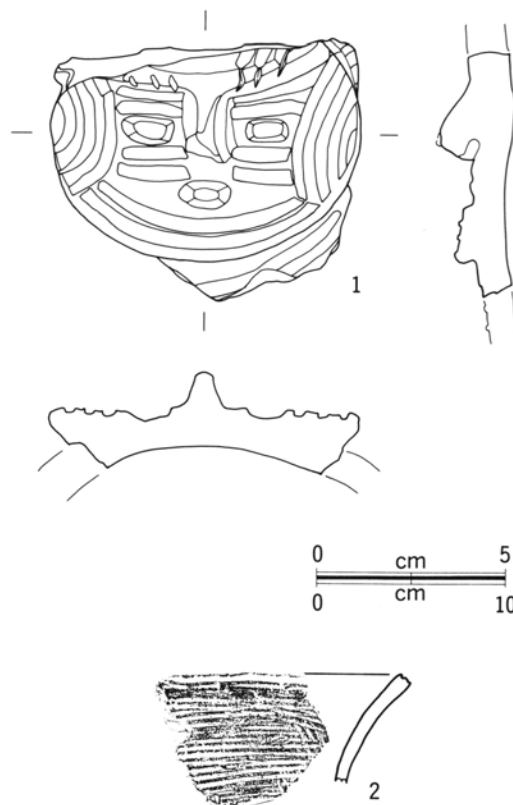


(2) 弥生時代

弥生中期 (第33図)

この時期に比定される遺構は検出されていないが、遺物は少量出土している。

人面付土器 1は方形周溝墓S Z 06北溝から出土した人面付土器である。土器口縁部に板状の粘土を付加し顔を表現したもので、顔面部分のみ遺存している。鼻と眉はT字状の粘土紐を貼り付け、眉には縦位のキザミがみられる。目と口は太く浅い沈線で描かれ、顎と頬には弧状の沈線が巡らされている。所々に赤色塗料が残っており、本来全面に赤彩が施されていたと推定される。S Z 06は他の供献土器から欠山式期に属すと考えられるが、人面付土器の年代観はこれと一致しない。他の遺跡の出土例からみて、弥生中期前葉以前に属するものと考えたい。



2は甕の口縁部。外面は横位の

第33図 縄文土器および弥生中期の土器 (S = 1/2・1/4)

粗い条痕文で、口縁端部には沈線状に条痕が施されている。

弥生後期（第34～37図）

- S B 0 2 3はくの子状口縁甕。体部は球形に近く、内外面ともハケ調整である。口縁部は直線的に開き、口縁端部は面をもつ。4は高脚の高杯で、脚上位に6条1組の平行線文が2単位巡る。透孔は脚中位よりやや上に3つ配されている。
- S B 0 7 5はくの子状口縁甕で、面取りされた口縁端部にヘラ状具によるキザミが施されている。頸部の屈曲はあまり強くなく、頸部以下は内外面ともハケ調整。寄道式に比定されるものであろうか。
- S Z 0 1 6は壺の体部片で、口縁及び底部は不明。最大径を体部下位にもつ。
- S Z 0 2 7は短頸壺の完形品で、大形の鉢として分類されることもある。頸部は広く、短く内湾気味に開く口縁の端部は内傾する面をもつ。体部は最大径をほぼ中位にもち、外面だけでなく内面にも横位のヘラミガキが施されている。8は広口壺の完形品で、やや長めの体部下位に最大径をもつ。調整は内外面ともハケ調整、口縁部内面に著しい剥落痕が認められる。9～11は高杯。11は完形品で、杯部は半球状を呈し、口縁部外面には1条のヨコナデが施されている。脚部と杯部の接合は中実で、短い脚部が外反して開く。9は欠山式特有の高杯。杯部は深く、口縁端部には内傾する面をもつ。10は高杯の脚部片。
- S Z 0 4 12は広口壺の完形品。拡張した口縁帯外面には櫛状具による刺突が、体部上半には櫛状具による平行線文と波状文の文様が施されている。14はやや長めの体部を有する短頸壺。7と同様に体部内面にも横位のヘラミガキが施されている。13は小型壺、著しく磨滅しており、調整は不明。
- S Z 0 5 15は広口壺の完形品。体部最大径をほぼ中位にもち、外面は横位のヘラミガキが施されている。頸部には断面三角形の突帯がめぐる。底部付近には、使用の痕跡と思われるアバタ状の剥落痕が認められる。16は小型壺で、口縁部が欠損している。
- S Z 0 6 17は小型壺で、短く外反する口縁部が付く。不鮮明だが、体部上半に櫛状具による波状文が認められる。18・19は内湾長頸壺の完形品。いずれも口縁部の開きが大きく、口縁端部付近で内湾し端部に内傾する面をもつ。体部最大径はほぼ中位にあり、18は底部付近に使用の痕跡と思われるアバタ状の剥落痕が認められる。
- その他及び
包含層 弥生土器包含層である黒色土（黒ボク土）層及び戦国、近世の遺構に混入していた土器をとりあげる。

20は内湾口縁の短頸壺。口縁部は短く屈曲し、端部は内傾する面をもつ。球胴の体部内面には、ハケの後にヘラミガキが施されている。21・22は内湾口縁壺。21は口縁端部にキザミを施し、頸部突帯の下に平行線文を描く。23はS K 0560より出土した。口縁は直線的に開き、体部はほぼ中位に最大径をもつ。24は小型の内湾口縁壺。26は広口壺の口縁部、内面に縄文が施されており東海東部系と考えられる。27～29は口縁端部を拡張する広口壺。27は内外面に羽状刺突文が、29は波状文が施されている。30も東海東部系と考えられ、口

縁部外面に棒状浮文が付されている。31は壺の体部で、肩部に平行線文、櫛描の波状文、簾状文的な櫛描文で構成される文様帯がみられる。

32・33はく字甕の口縁部。34・35は台付甕の脚台部で、34は脚と体部の接合部外面に粘土帯が付加されている。

36～41はいずれも高杯である。36・37は杯部口縁が外反するもので、後期前半の寄道式の高杯である。38は内湾高杯の古い形態を示し、杯部の口径と稜径の差が小さく、円柱状から内湾して開く脚部がつく。脚上位には平行線文と透孔が施され、透孔は上段は1孔、下段には3孔穿たれている。39・40も内湾高杯の脚部で、39は脚上位に3単位の平行線文、2段の透孔が認められる。41は杯部が半球状を呈し、脚部は外反して開く。

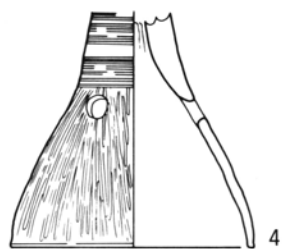
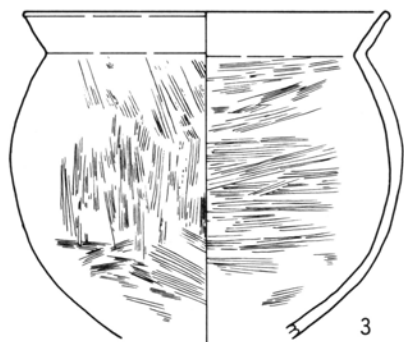
まとめ 本遺跡出土の弥生後期土器は、後期後半の欠山式、特にその前半期に主体をおき、一部寄道式に遡るものがみられる。遺構が居住域から墓域へと変遷をたどれるわりには、時期幅が限定される。器種は壺、高杯の出土が目立つのに対し、甕は少ないという印象を受ける。出土した遺物の多くが方形周溝墓に伴うことから、墓という遺構の性格を強く反映したものと考えられよう。なお、24・26・30など、東海東部系の影響を受けたものが出土しているが、尾張地域との関係を示す土器は出土していない。 (原田 幹)

(3) 古墳時代～古代 (第37図)

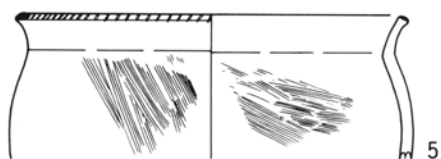
須恵器 42・43は須恵器の蓋と思われる。どちらも93年調査区の黒ボク土層から出土している。42の頂部は、回転ナデによる調整をほとんど施さず、口縁部に浅い1条の沈線を巡らしている。内面には指によるおさえがみられる。時期は7世紀前葉か。43の外表面頂部には、ヘラケズリが施されている。口縁部欠損。東山44号窯式か。44～46は須恵器杯である。46の底部には沈線が3本（ヘラ記号）施されている。44・45は東山44号窯式、46は東山50号窯式に比定できる。47は須恵器高杯。杯部と脚部の一部が欠損している。S K 0168から出土している。東山50号窯式。48は須恵器甕。口縁端部にクシによる刻み、頸部には沈線の上にクシによる波文が施される。時期は7世紀代か。49は須恵器杯。内面に×状のヘラ記号が認められる。S K 0154から出土。折戸10号窯式に比定される。

土師器 50は製塩土器の脚台部である。先端部は欠損しているが、型式から8世紀初頭前後に位置づけられよう。51は内外面をナデ調整した口縁がL字状に屈曲する甕で、S D 29から出土しているが混入であろう。時期は8世紀後半。52は土師器甕で、口縁端部にナデによる面を形成している。53はいわゆる清郷甕。 (都築暢也)

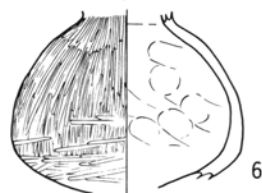
SB 02



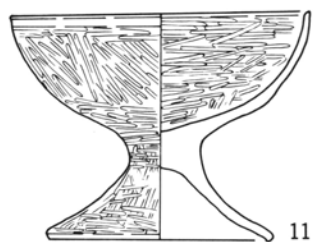
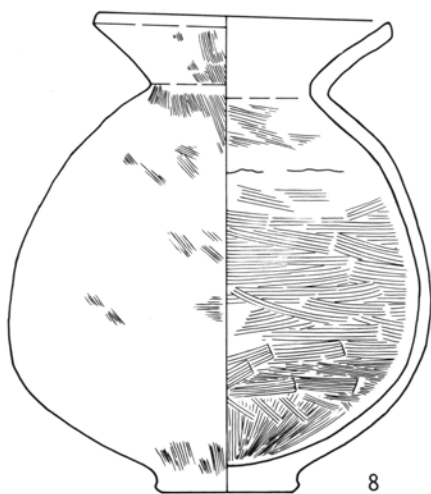
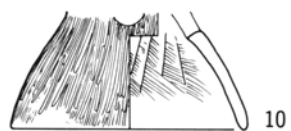
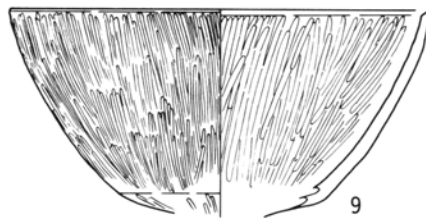
SB 07



SZ 01



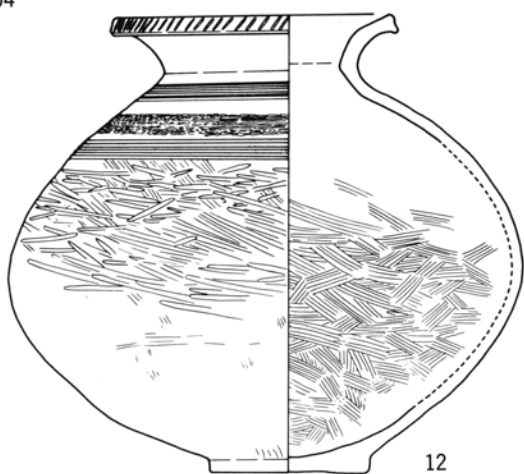
SZ 02



0 cm 10

第34図 弥生土器(1) <1 : 4>

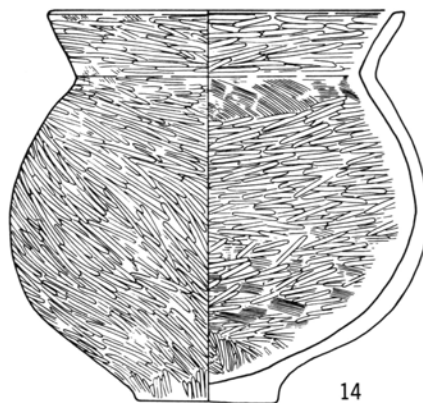
SZ 04



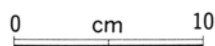
12



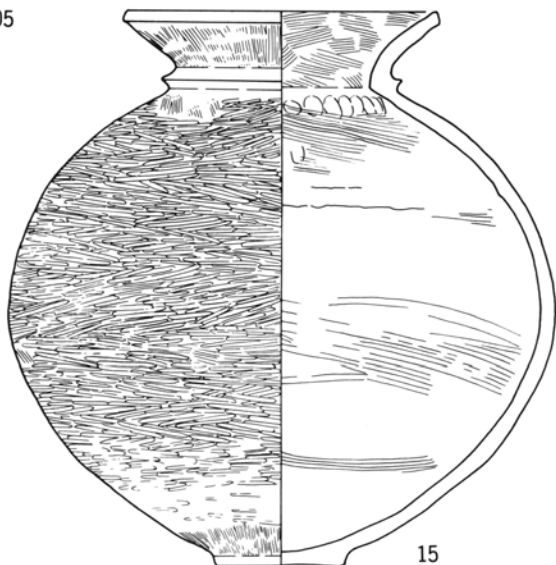
13



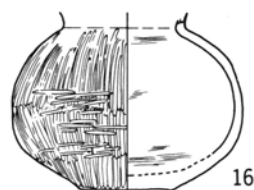
14



SZ 05

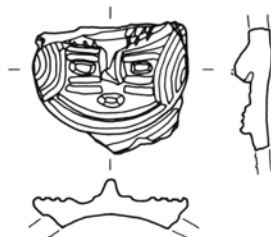


15

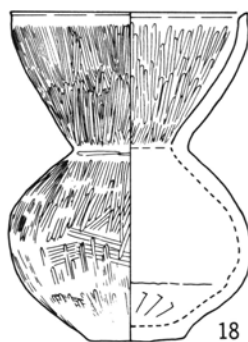


16

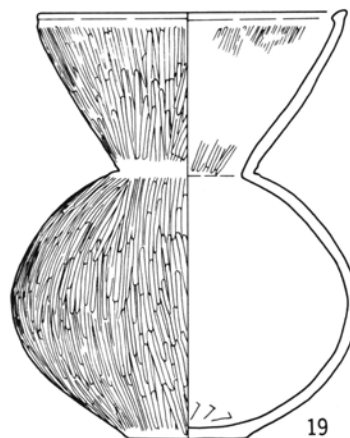
SZ 06



17



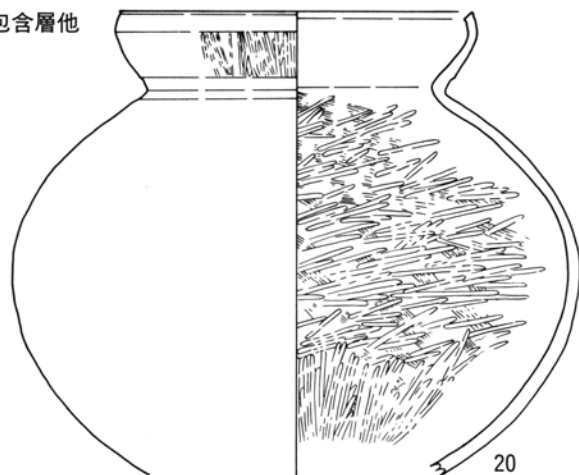
18



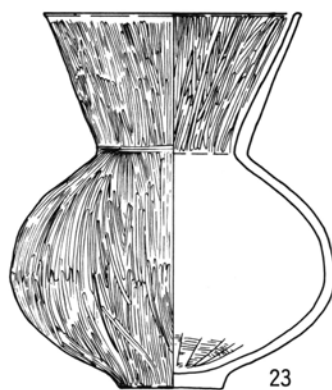
19

第35图 弥生土器(2) < 1 : 4 >

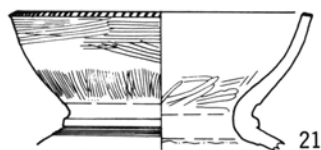
包含層他



20



23



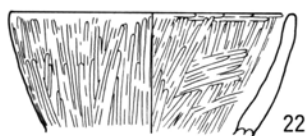
21



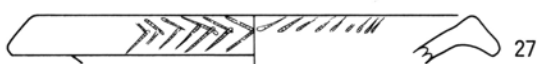
24



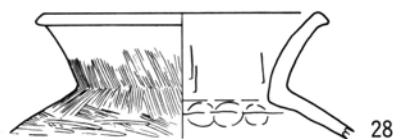
25



22



27



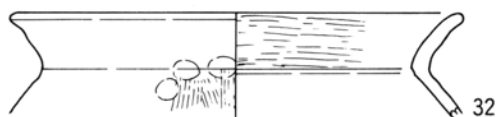
28



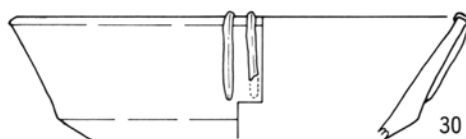
26



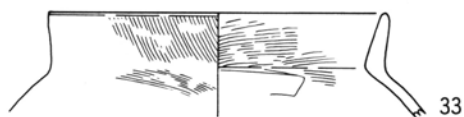
29



32



30



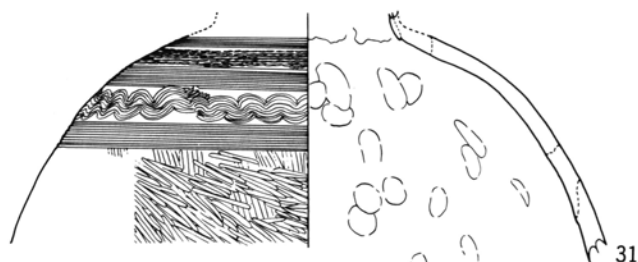
33



34



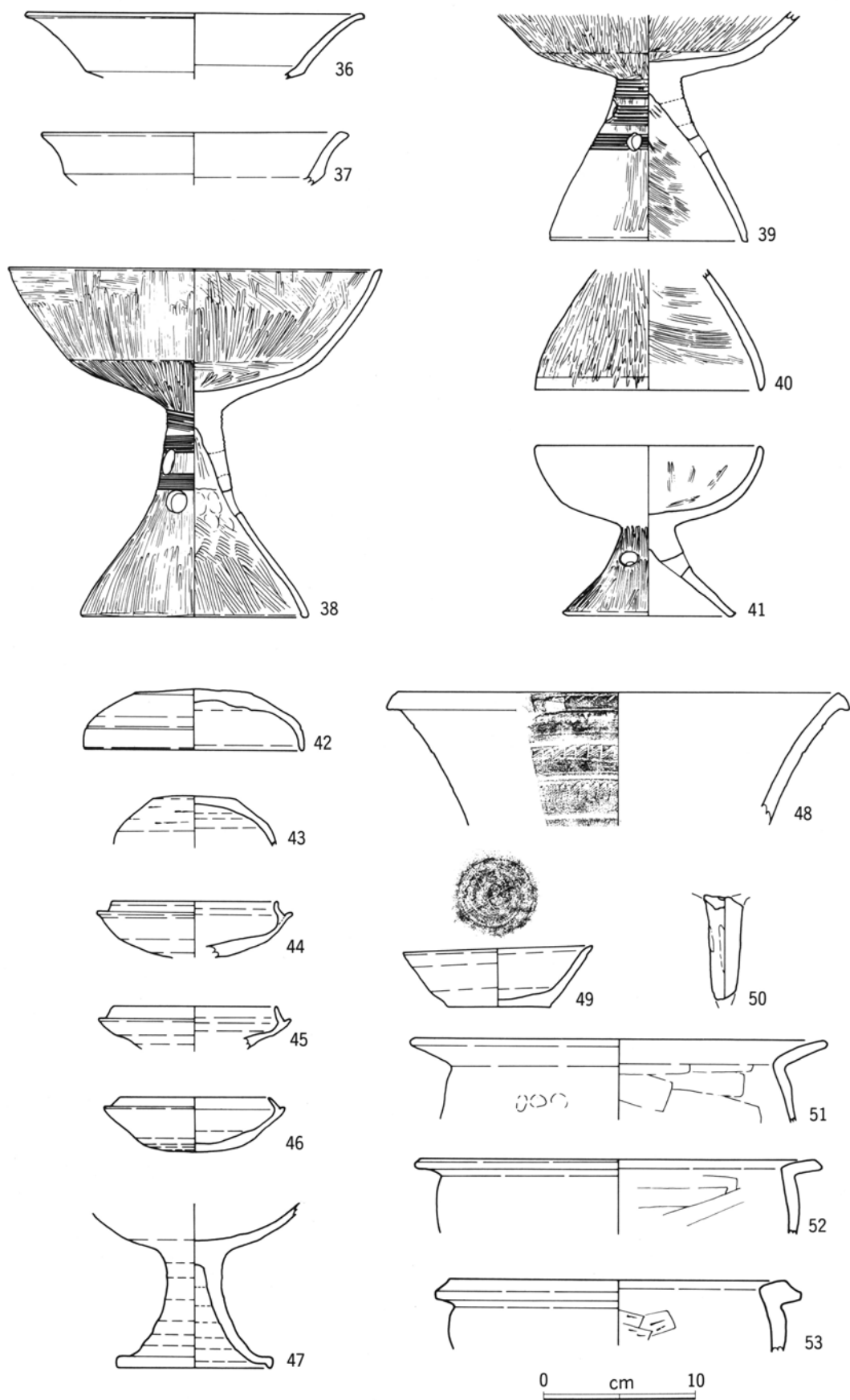
35



31

0 cm 10

第36図 弥生土器(3) <1 : 4>



第37図 弥生土器(4)・古代の土器 <1 : 4>

(4) 戦国・近世

溝

- SD01** 出土遺物はいずれも戦国期に属すると考えられる。54は瀬戸美濃陶器の天目茶碗。55・56は非クロ成形の土師器皿。57は瀬戸美濃陶器の鉢、内面に自然釉とみられる釉がかかっている。58は土師器の蓋で、口縁部内面にタールが付着している。59は茶釜形羽釜、肩部に沈線がめぐり、体部下半には横位のヘラケズリが施される。60・61は半球形の内耳鍋である。
- SD02** 68が上層のブロック混入層から出土した以外は、下層の暗褐色土層から出土している。時期はいずれも戦国期で、15世紀後半から16世紀前半に主体をおくと考えられる。
- 62～68は土師器皿。62～64・68は口縁端部に面をもつタイプで、体部は一段ナデられている。62は端部の面に沈線状のくぼみがめぐる。65・66は底部から体部にかけてゆるやかに立ち上がる。69は中国産の青磁碗。70は瀬戸美濃陶器で、鉄釉の碗。71は半球形の内耳鍋、外面に1条の沈線がめぐる。72・73は瀬戸美濃陶器の播鉢。
- SD03** ほとんどの遺物は下層の暗褐色土層より出土したものである。遺物の時期は戦国期を主体とするが、77は近世陶器である。
- 74は土師器皿。75は中国産の青磁碗。76は瀬戸美濃陶器の天目茶碗。77は灰釉の小型鉢、近世に属するものである。78・79は瀬戸美濃陶器の播鉢。80は常滑産と推定される無頸壺。81は頸部がくの字に屈曲する内耳鍋。いわゆる「遠江型」と呼ばれる形態である。82は半球形の内耳鍋。83は瓦器の十能。取っ手部分に3個の穿孔が施されている。
- SD04** 84～103の土師器皿はII I 1 n グリッド付近の上層からまとまって出土しており、形態的にもまとまりがある。器面調整はナデだがクロ成形の可能性もあり、体部と底部の境にヘラケズリによる面をとどめるものが特徴的である。時期は、近世に属す可能性が高い。
- 他の遺物はいずれも戦国期のもので、下層の暗褐色土層より出土したものが多い。104はクロ成形の土師器皿の底部。105～107は、体部一段ナデで口縁端部に面をもつタイプの土師器皿。108は瀬戸美濃陶器の天目茶碗。109は中国産青磁の稜花皿。110は茶釜形羽釜の体部。
- SD05** 近世の遺構であるが、戦国期の遺物も多く出土している。
- 111～114は土師器皿で戦国期のもの。115は白磁の端反皿で、中国産の輸入陶磁器。116・117は瀬戸美濃陶器の鉄釉鉢の口縁部と底部で、同一個体と考えられる。118は瀬戸美濃陶器の碗。119の鉄釉皿は灯明具として用いられたもの。120は肥前磁器の染付碗だが、焼成不良の生焼けである。SD06出土の破片と接合している。121～124は瀬戸美濃陶器の播鉢。121～123は戦国期に属し、124は近世の所産である。125～128は戦国期の鍋、125・126は口縁くの字の東三河通有のタイプ。127は半球形、128は遠江型と呼ばれるもの。129は口縁断面がN字状を呈する常滑産の甕。
- SD06** 戦国期の溝のうち、最も多くの遺物を出土した。上層の砂層から出土したものが多く、

L字状に屈曲するコーナー部分に遺物が集中する。

132～143は土師器皿。いずれも戦国期に属すると考えられ、132～141は体部一段ナデをもつもの。142はロクロ成形。143は不整形で外底部に指頭圧痕を多くとどめる。144～146は瀬戸美濃陶器の天目茶碗。147は青磁の碗で、外面に蓮弁文が施されている。148は壺ないしは鉢の底部で、内外面に鉄釉が施されている。149・150は筒状の鉢で、149は鉄釉、150は灰釉が施されている。152・153は茶釜形羽釜の口縁部と体部。151は土師器の蓋であるが、口径からみると152のような羽釜とセットとなる可能性がある。154・155は半球形の内耳鍋。154は体部に1条の沈線がめぐり、156は三脚の付く大型の土師器で、火鉢と考えられる。157は常滑の壺。158は瀬戸美濃陶器の壺である。159・160は同一個体で、瀬戸美濃陶器の壺。161～163は常滑陶器の甕。161・162は同一個体で、口縁部断面はN字状を呈する。164と165も同一個体と考えられるが、底部に穿孔が認められ骨蔵器として用いられた可能性もある。

S D 0 7 130は半球形の内耳鍋。131は肥前系磁器の平碗で、近世の遺物である。染付等の装飾は認められない。

S D 2 9 166～173は溝内に積まれた石垣SW04以西から出土したもの。171が最下層の自然堆積層から出土した他は溝を埋めた際の人為的な埋土から出土している。174～179はSW04以東から出土した遺物で、埋土上位より出土している。

166～168は土師器皿。169・170は灰釉碗の口縁部と底部。瀬戸美濃産で、近世に属す遺物である。171は瀬戸美濃陶器の灰釉皿で、口縁部を欠く。172・173はく字状口縁の内耳鍋である。174～177は土師器皿。179は頸部で屈曲し口縁部が内湾する「遠江型」の鍋。

土坑・集石遺構

建物柱穴、廃棄土坑等、略記号SKとした遺構から出土した遺物のうち主要なものについて報告する。

S K 323・327 両土坑ともSB09の柱穴で、18世紀後葉～19世紀前葉を主体とする遺物が出土している。191は瀬戸美濃陶器の鉢。192は瀬戸美濃陶器で染付の広東碗。193は瀬戸美濃陶器の灯明皿。194は瀬戸美濃磁器の碗で、麦藁文が施されている。195は肥前磁器の碗。196は肥前磁器の腰折碗で、18世紀後半から19世紀初頭に位置づけられる。

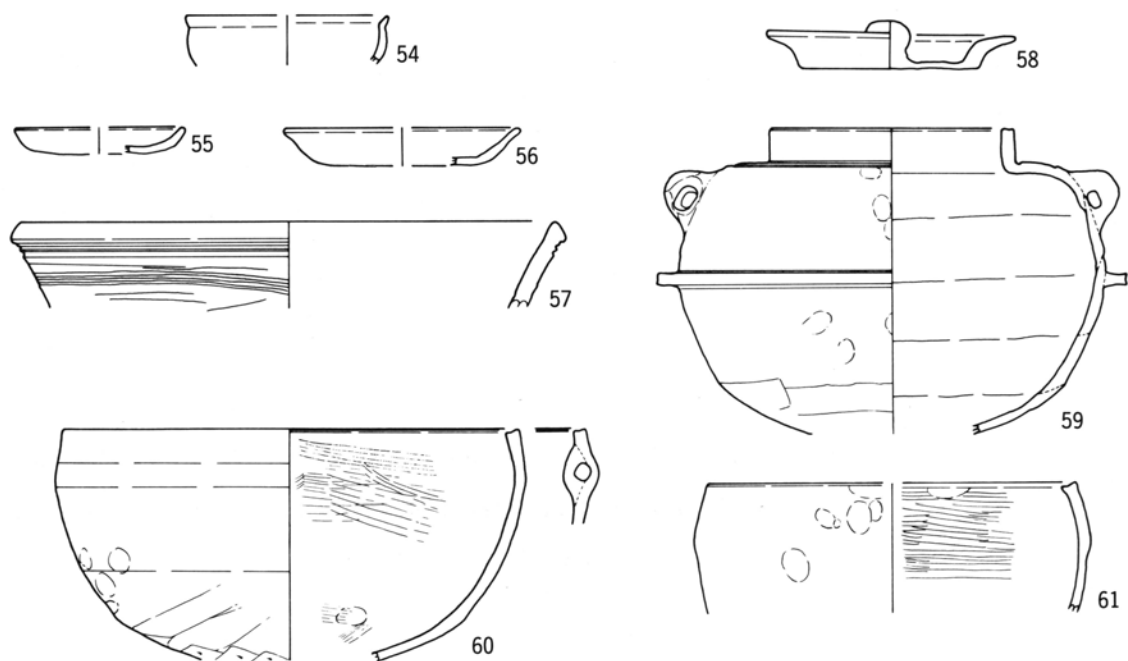
S K 1313 大量の瓦片とともに近世の遺物が出土している。225は土師器皿。226は瀬戸美濃陶器の灯明皿。227は肥前磁器で染付の水滴。228・229は瀬戸美濃の平碗と腰折碗。230は鉄釉壺の底部である。

S K 1321 大量の鉄釘の他、若干の陶磁器・土師器が出土している。231は半球形の内耳鍋で、戦国期のものである。232～234は近世の遺物。232は瀬戸美濃陶器の灰釉碗、233・234は染付の小碗。

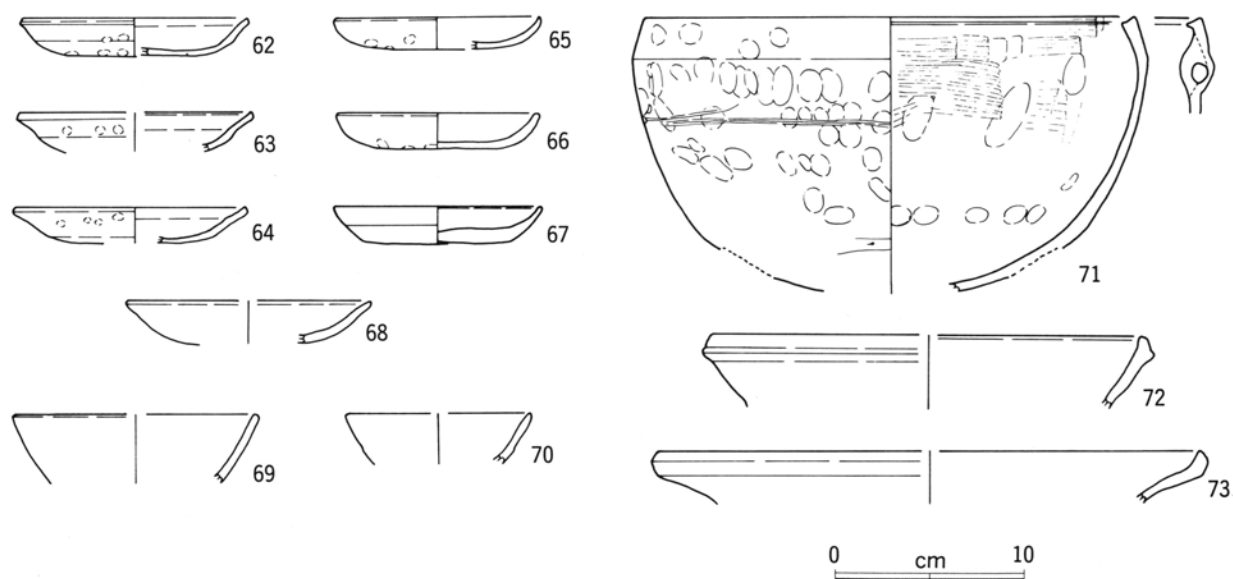
S K 1308 土坑底部より、完形の土師器皿3点が出土している。222は小型品。223・224は体部を一段ナデ、口縁端部に面をもつ。いずれも戦国期の遺物である。

S X 0 2 法量の異なる4点の土師器皿がまとまって出土している。最も小型の183で口径9.8cm、
 大型の186は13.4cmを測る。体部は直線的に立ち上がり、底部と体部の境にヘラケズリによる
 稜をもつ。S D 04上層出土の土師器皿と類似する。

SD 01

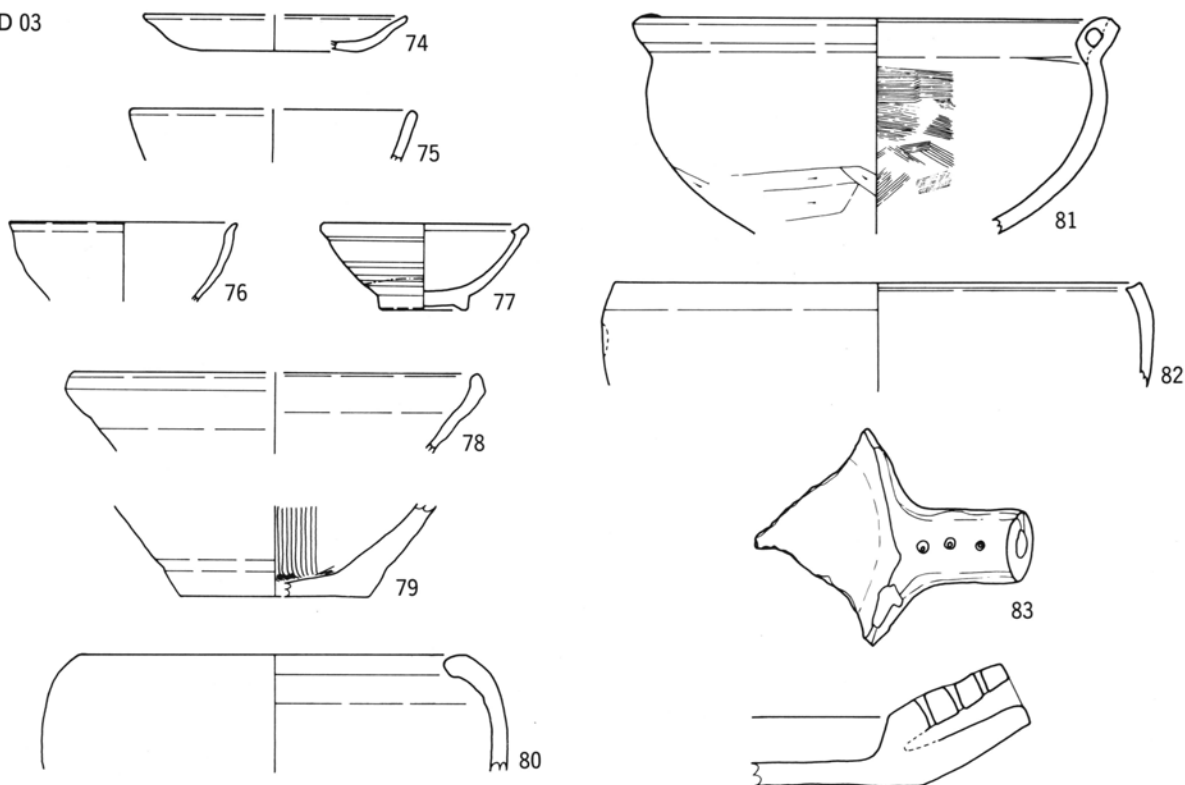


SD 02

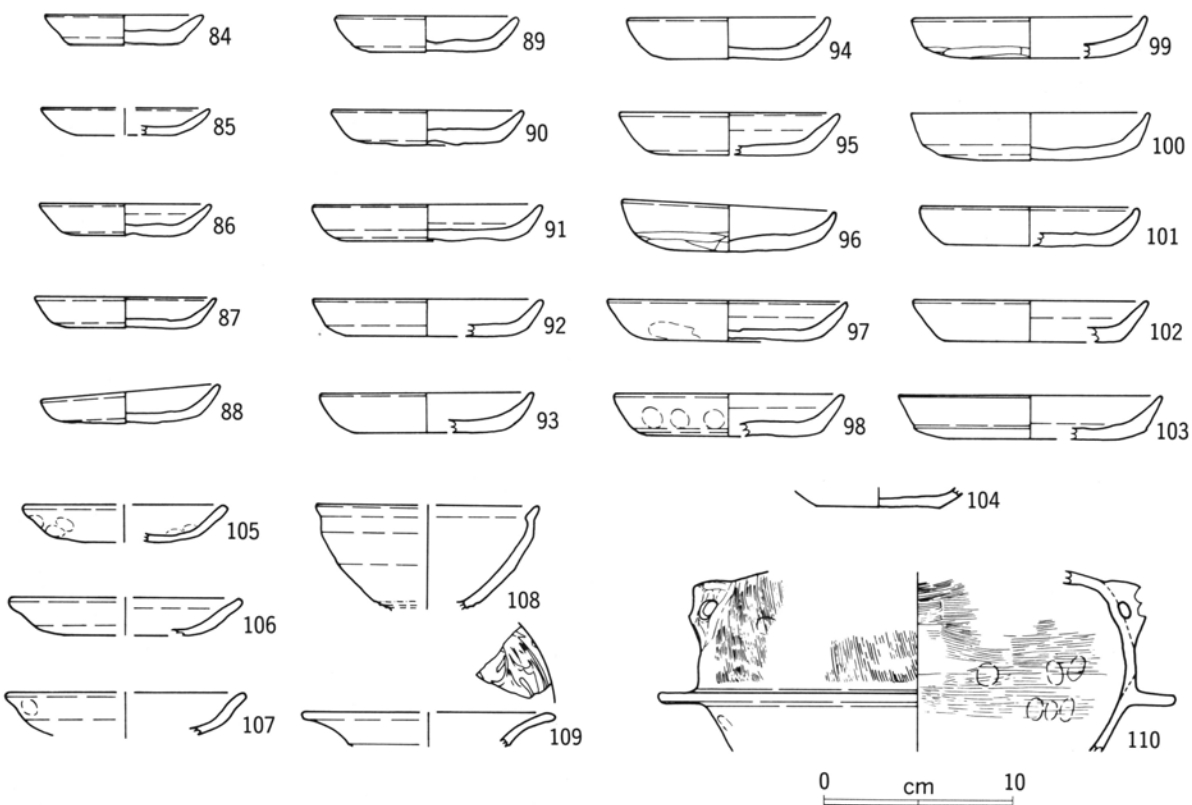


第38図 戦国・近世の陶磁器(1) <1 : 4>

SD 03

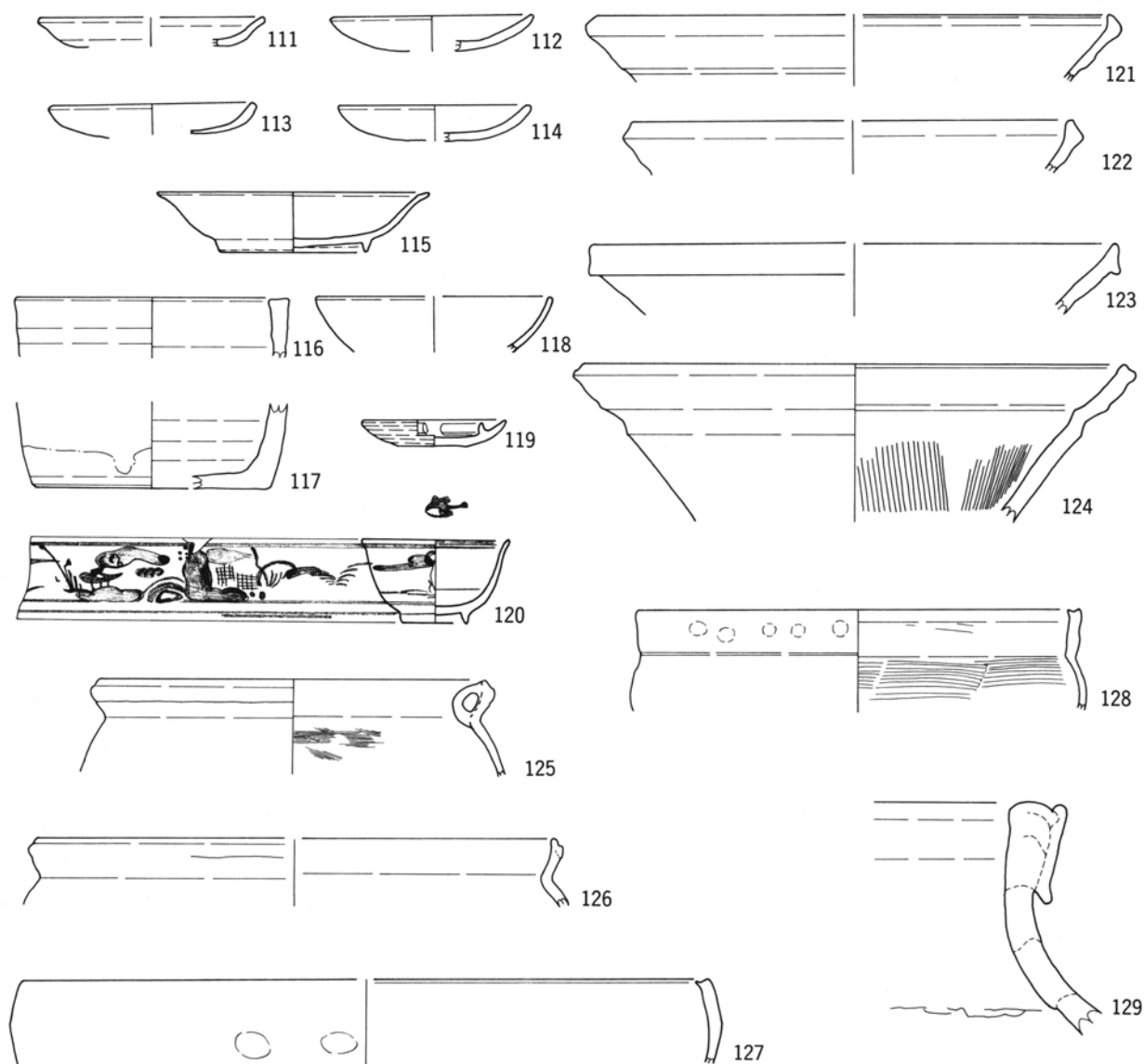


SD 04

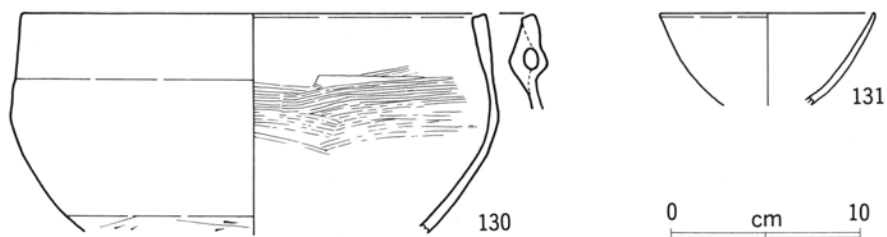


第39図 戦国・近世の陶磁器(2) <1 : 4>

SD 05

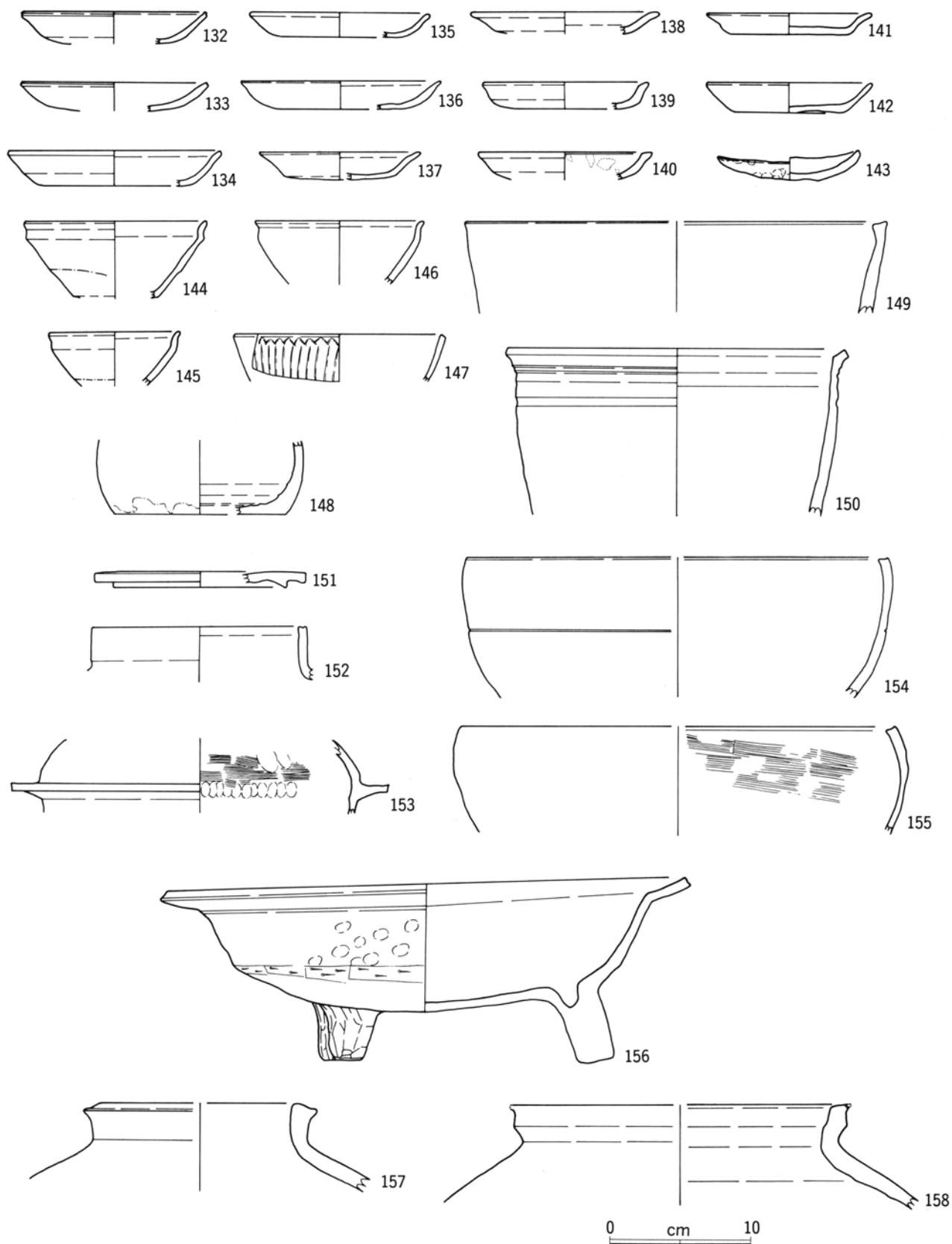


SD 07



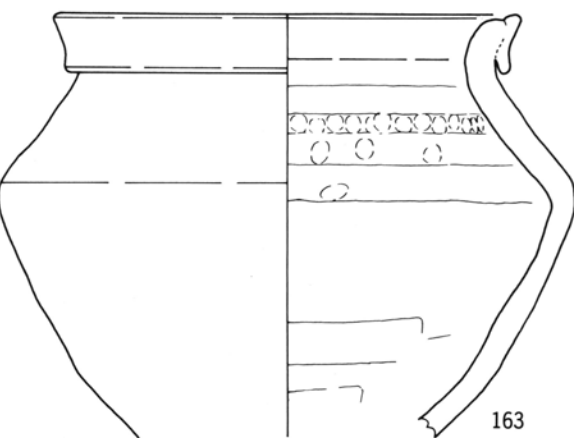
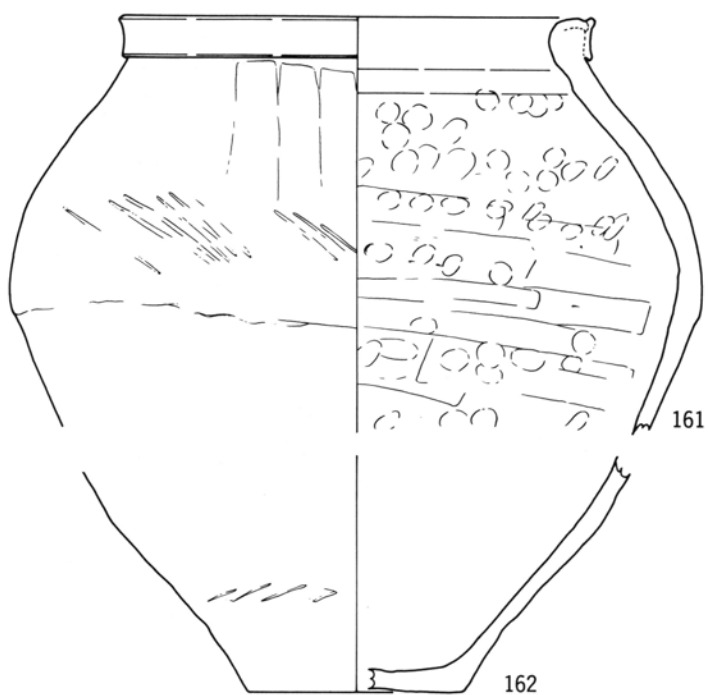
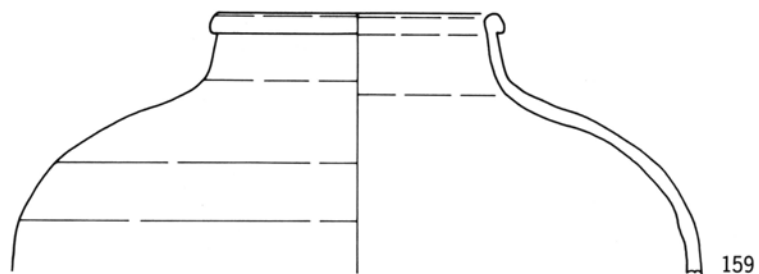
第40図 戦国・近世の陶磁器(3) <1 : 4>

SD 06



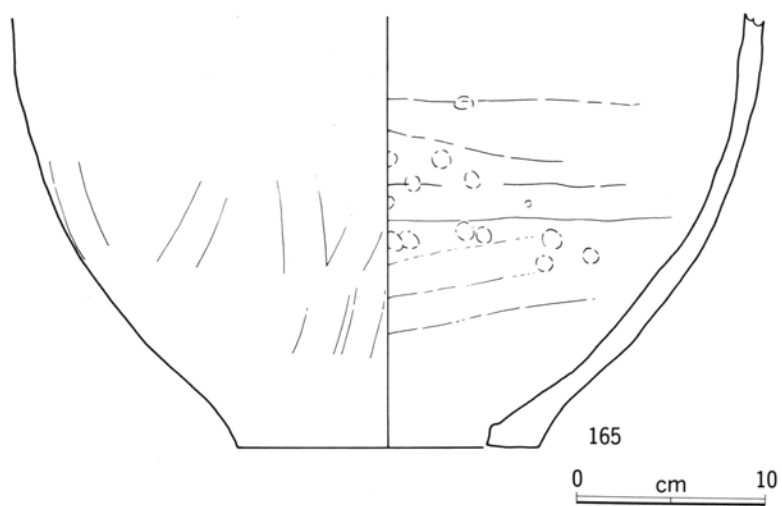
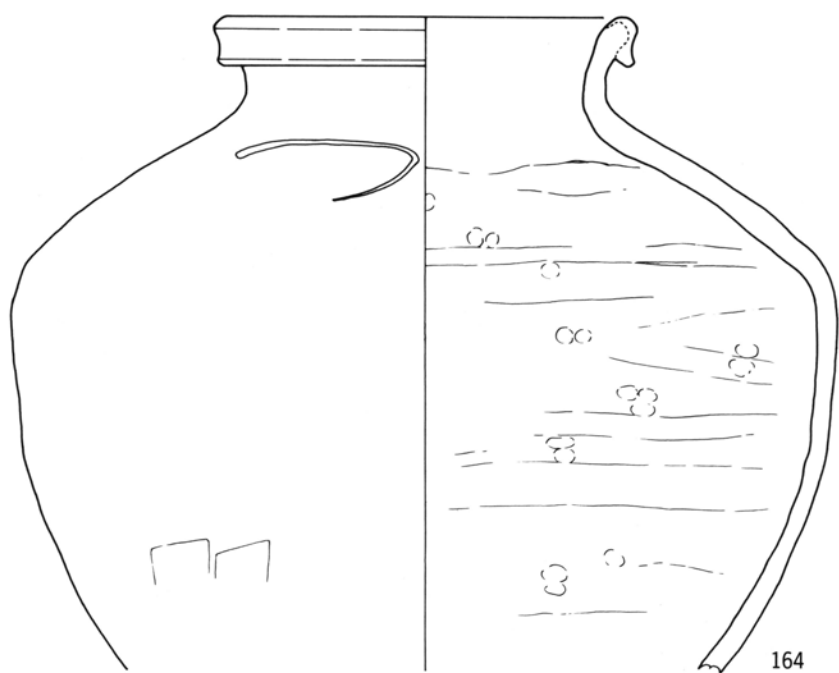
第41図 戦国・近世の陶磁器(4) <1 : 4>

SD 06



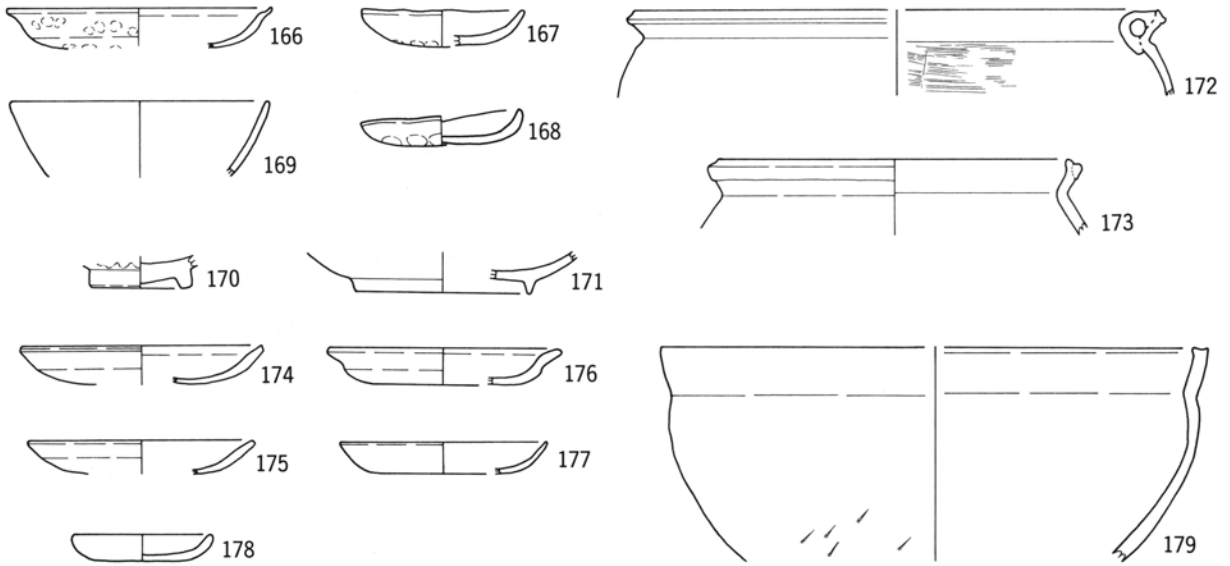
0 cm 10

第42図 戦国・近世の陶磁器(5) <1 : 4>



第43図 戦国・近世の陶磁器(6)〈1 : 4〉

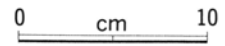
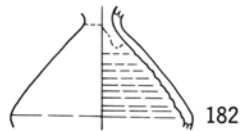
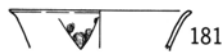
SD 29



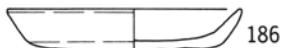
SW 02



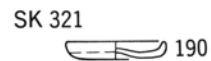
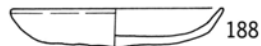
SW 03



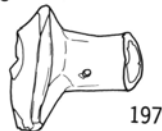
SX 02



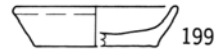
SK 260



SK 335



SK 408

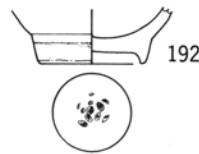


SK 466

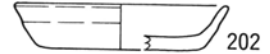
SK 593



SK 323



SK 600



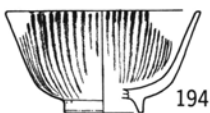
SK 705



SK 794



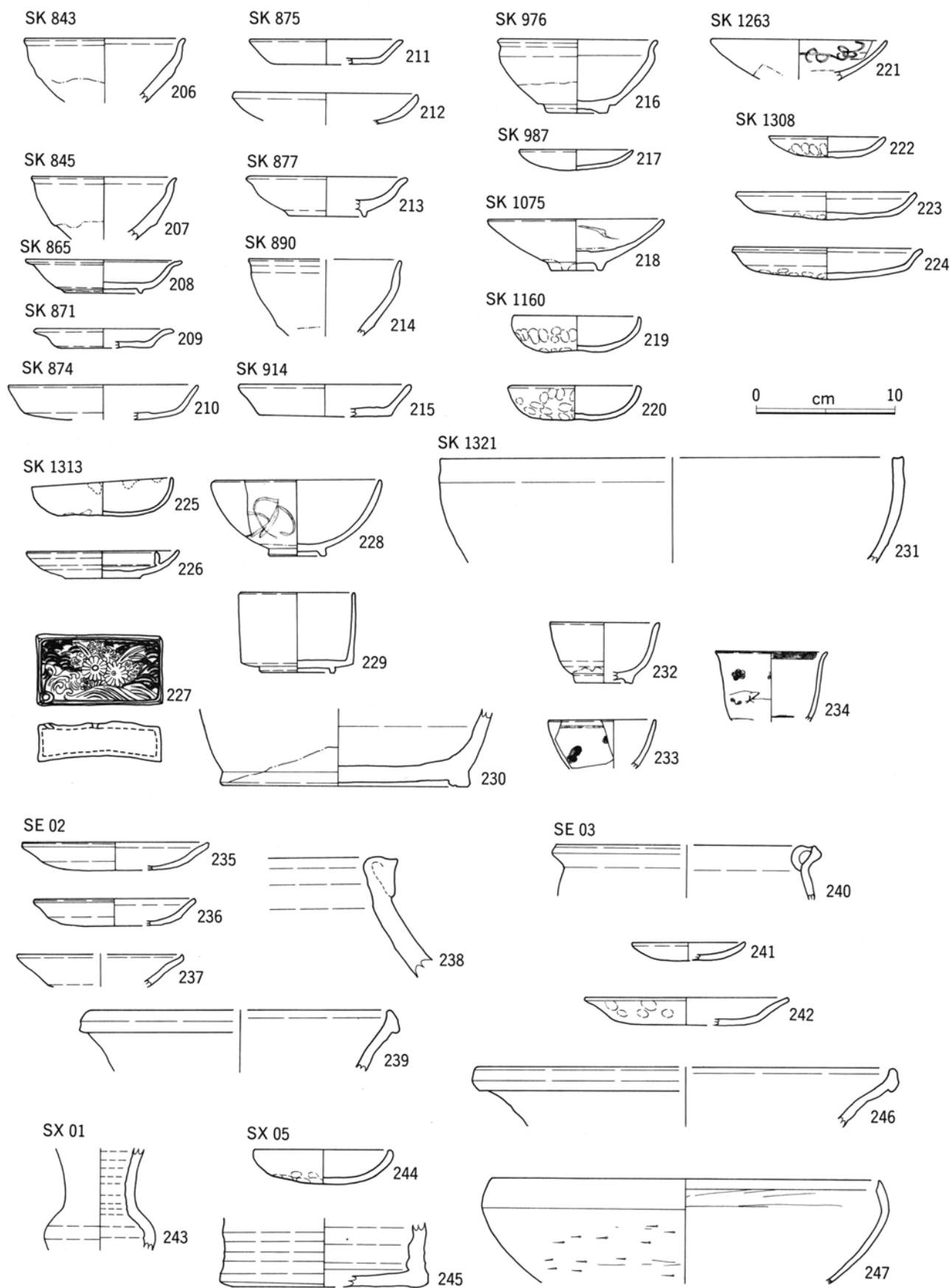
SK 327



SK 807



第44図 戦国・近世の陶磁器(7) <1 : 4>



第45図 戦国・近世の陶磁器(8) <1 : 4>

井戸

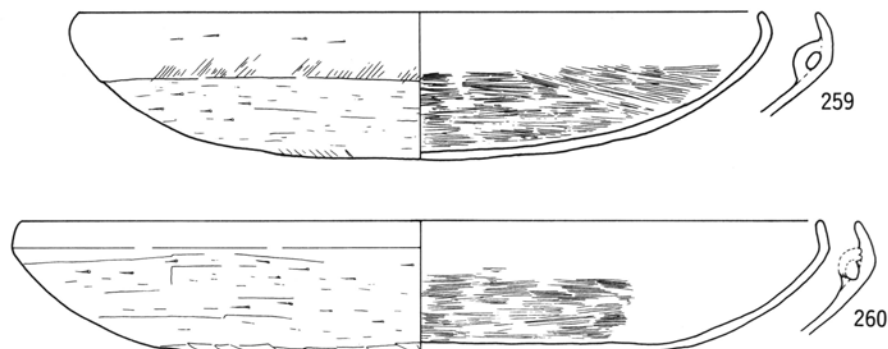
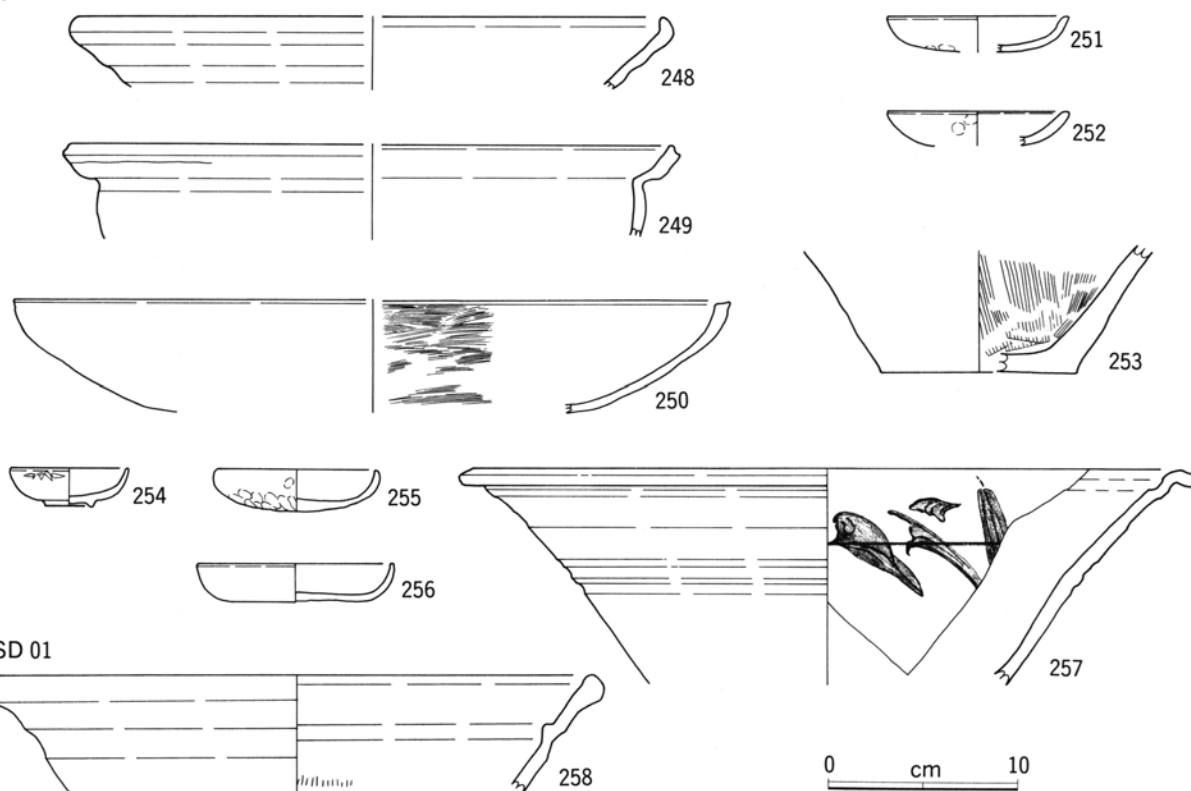
SE02 出土遺物はいずれも戦国期のものである。235～237は土師器皿。235は石組みの裏込、238・239は掘形から出土している。238・239は埋土上位から出土した遺物で、238は常滑の甕、239は瀬戸美濃陶器の播鉢である。

SE03 土師器類のみが出土している。240はくの字状口縁の内耳鍋、241・242は土師器皿。いずれも戦国期の遺物である。

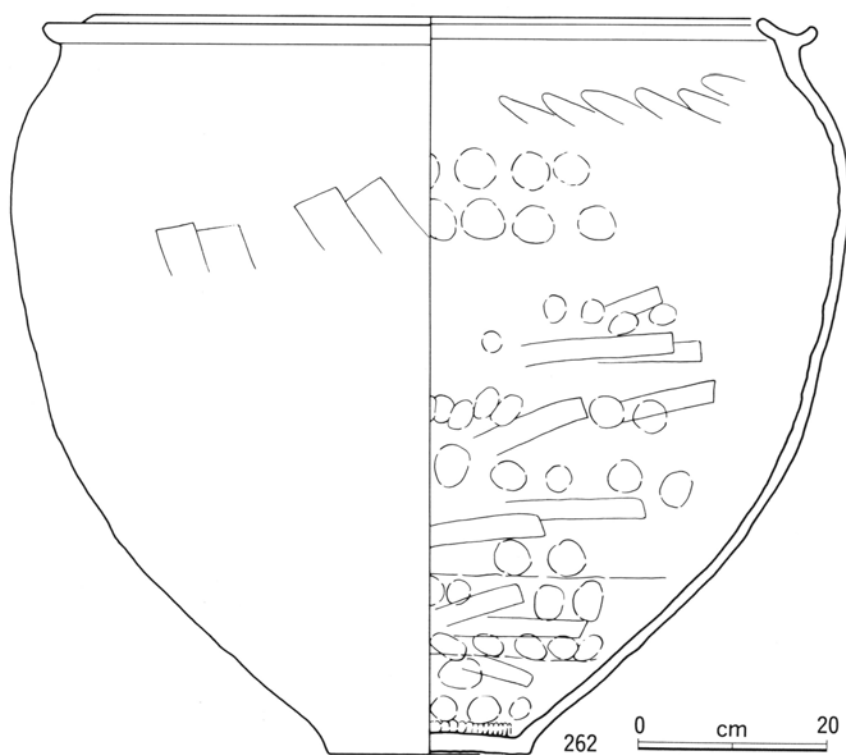
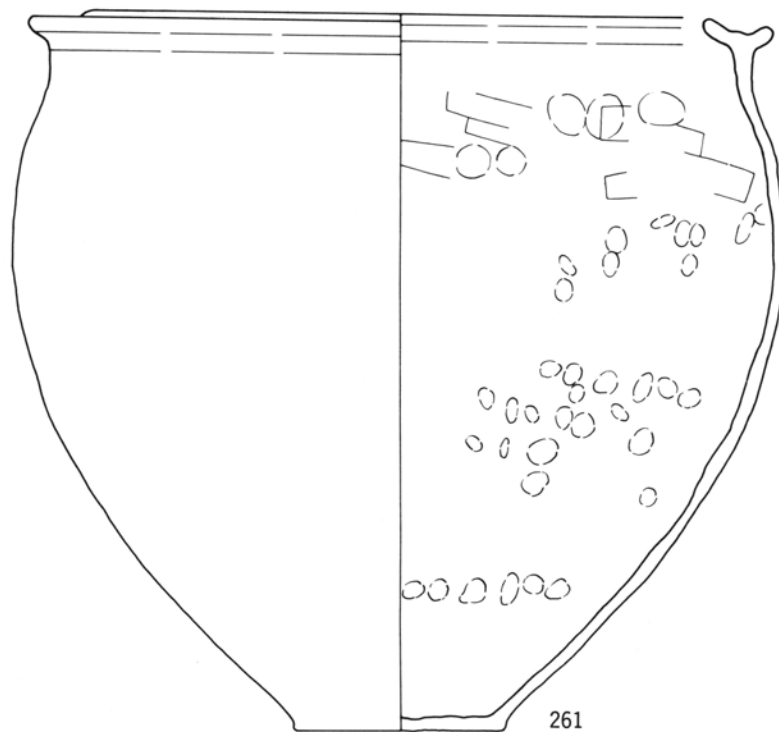
長方形土坑

SX05 246の播鉢以外は近世の遺物である。244の土師器皿は体部が上方に立ち上がりあまり開かないもので、近世にみられる形態である。245は瀬戸美濃陶器の鉢底部。247は焙烙ない

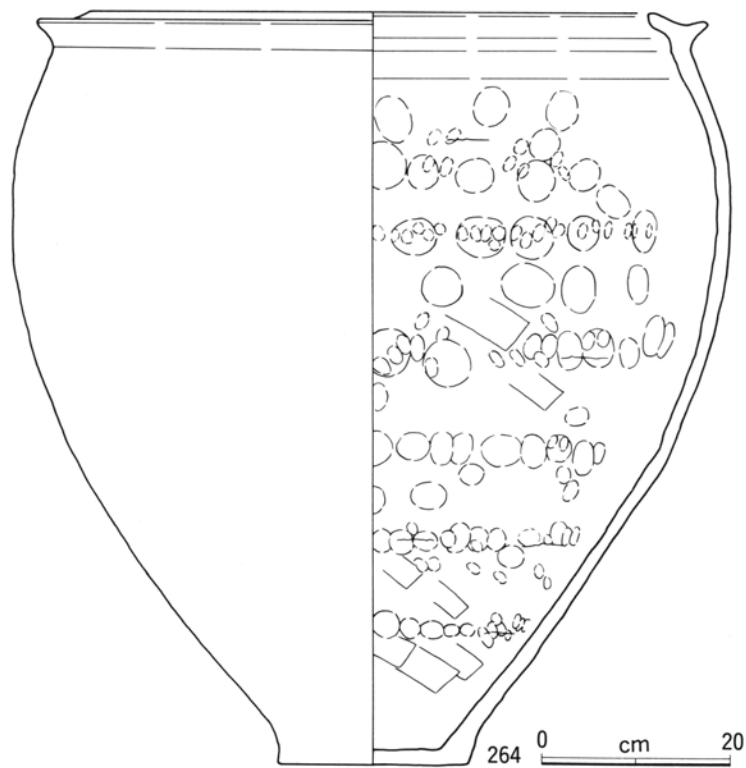
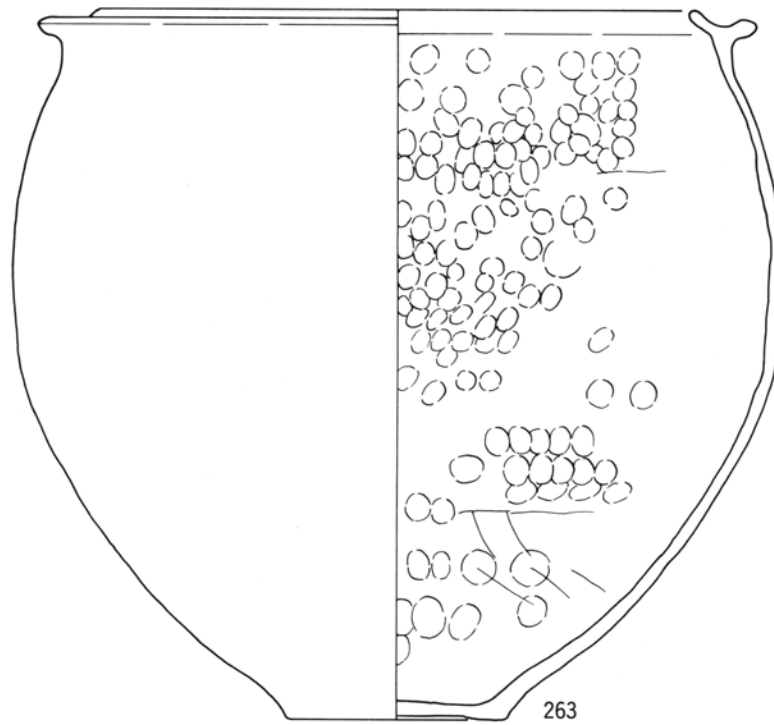
SX06



第46図 戦国・近世の陶磁器(9) <1:4>



第47図 戦国・近世の陶磁器(10) <1 : 8>



第48図 戦国・近世の陶磁器(1)〈1 : 8〉

しは鍋と考えられ、口縁部で内折し端部に面をもつ。体部以下には横位のヘラケズリが施されている。

- S X 0 6 遺構の大半がS X 05及び近世の溝に切られている。248は戦国期の播鉢。249も戦国期の内耳鍋である。250は近世の焙烙で、口縁端部に内傾する面をもつ。251・252は小型の土師器皿で、近世の遺物と考えられる。

埋設甕

- S X 0 7
~ 1 0 いずれも常滑産の大型甕で、いわゆる赤物と呼ばれるものである。口縁断面形がY字状を呈する形態から、18世紀後葉に比定される。261は体部があまり張らず、長胴気味の形態を呈す。262・263は口径が大きく、体部の張りが強い。264は底部が小さく、長胴気味の形態である。

包含層・その他

- 戦国期の
陶磁器 戦国期の陶器は天目茶碗、皿、播鉢等の瀬戸美濃陶器が中心で、若干の輸入陶磁、瓦器がみられる。瀬戸美濃陶器の年代観からみれば、時期は概ね大窯Ⅰ・Ⅱ期、15世紀後半から16世紀前半に比定されるものが主体となっている。

265～287は戦国期に比定される陶磁器類である。265～270は瀬戸美濃陶器の天目茶碗。265～267は口縁部が短く屈曲し、内面に明瞭な稜が認められる。269・270は口縁部の屈曲があまり強くない。265と268は底部に錆釉が施されている。271～277は瀬戸美濃陶器の皿。271は灰釉の端反皿で、底部内面に菊花が印刻されている。272～274・276は灰釉の丸皿。277は鉄釉の稜皿である。278は瀬戸美濃陶器の灰釉香炉。279～281は中国産の輸入陶磁である。279は青磁碗、280は青磁皿、281は染付の皿である。282～286は鉢。282は常滑陶器で、真焼の鉢である。283～286はいずれも瀬戸美濃陶器の播鉢である。287は瓦器製の風炉の口縁部である。

- 近世陶磁器 近世の陶磁器類は碗、皿類が主体で、鉢類がこれに次ぐ。産地材質では瀬戸美濃陶器、磁器、肥前磁器が認められ、磁器では肥前系が、陶器では瀬戸美濃が主体となる。時期は18世紀から19世紀に比定されるものが主体となっている。

288～297は磁器の染付で、蓋・碗・皿がみられる。288は蓋、289～297は碗、皿類である。289・290は腰折碗で、いずれも肥前磁器である。291・292は口縁部で短く屈曲する。295・296は丸皿、297は小皿である。298～304は瀬戸美濃陶器の染付碗である。298は広東碗、299～304は丸碗で、304には上絵が施されている。305は肥前陶器の丸碗で、刷毛目が施されている。306も碗で、底部内面に山水文が描かれ、さらに上絵が施されている。307～318は瀬戸美濃陶器の碗類である。307・308はいわゆる鎧碗。309は丸碗で、口縁部外面から内面が灰釉、体部外面は鉄釉である。310・313は灰釉の丸碗。311・315は鉄釉の丸碗。312は平碗で、釉は銅緑釉。316は産地不明の青磁碗。318は灰釉の小碗である。319～323は瀬戸美濃陶器の皿、322・323は灯明具である。324・325は灰釉の蓋。326・327は仏飯具

で、326は鉄釉、327は灰釉である。328・329は瀬戸美濃陶器の双耳壺。330～335は灰釉の鉢で、332・333は植木鉢。336～338は鉄釉の播鉢である。

土師器 戦国、近世のものを含め土師器を一括した。土師器は鍋、土師器皿が多く、鉢形のものや火のし、不明土製品等がある。

339～350は鍋、焙烙等の煮沸具である。339・340は半球形の内耳鍋。344・345は口縁部が内湾する遠江型の内耳鍋で、頸部屈曲部に沈線がめぐる。341～343・348はくの字状口縁の内耳鍋。以上は戦国期に属すものと考えられる。346～350は焙烙で、346・347は口縁端部に内傾する面をもち、349・350は口縁端部が丸く収められている。いずれも近世に属すものと考えられる。351～390は土師器皿。351～358はロクロ成形の土師器皿で、底部には回転糸切り痕がみられ、板状具の圧痕をとどめるものもある。351・352は判読できないが、底部に墨書が認められる。359～368は体部に一段のナデを施す。359は口縁を強く外反させる。362～368は端部に面をもつもの、凹線のめぐるもの、丸く収めるものなど口縁部形態のバリエーションは多様だが、口縁部内面で僅かに屈曲し稜をもつことで共通する。366は底部外面に墨書されている。368は内面に菊花の絵付けが施されている。369～374・377は底部と体部の境が不明瞭なもので、体部にも明瞭なナデによる屈曲が認められない。375・376は法量が著しく小さい小皿。378～390は体部が上方に立ち上がり比較的器高が高いことを特徴とし、おそらく近世に属す形態と考えられる。378～380は底部に墨書が認められ、379は中心部に穿孔が施されている。380は「本」の字が墨書されている。391は円盤状の土製品で、底面に布目痕を残す。392～394は筒状の形態を呈する小型の鉢。395は火のしである。

(5) 瓦

瓦は92年度調査区、93年度調査区ともかなりの量が出土しているが、特に93年度調査区南部に集中している。遺構では、S D 05 (403・406・407・410)、S K 1313 (396・402・404・411・412)・1338から大量に出土しており、S K 1313・1338は瓦を中心とする廃棄土坑と考えられる。

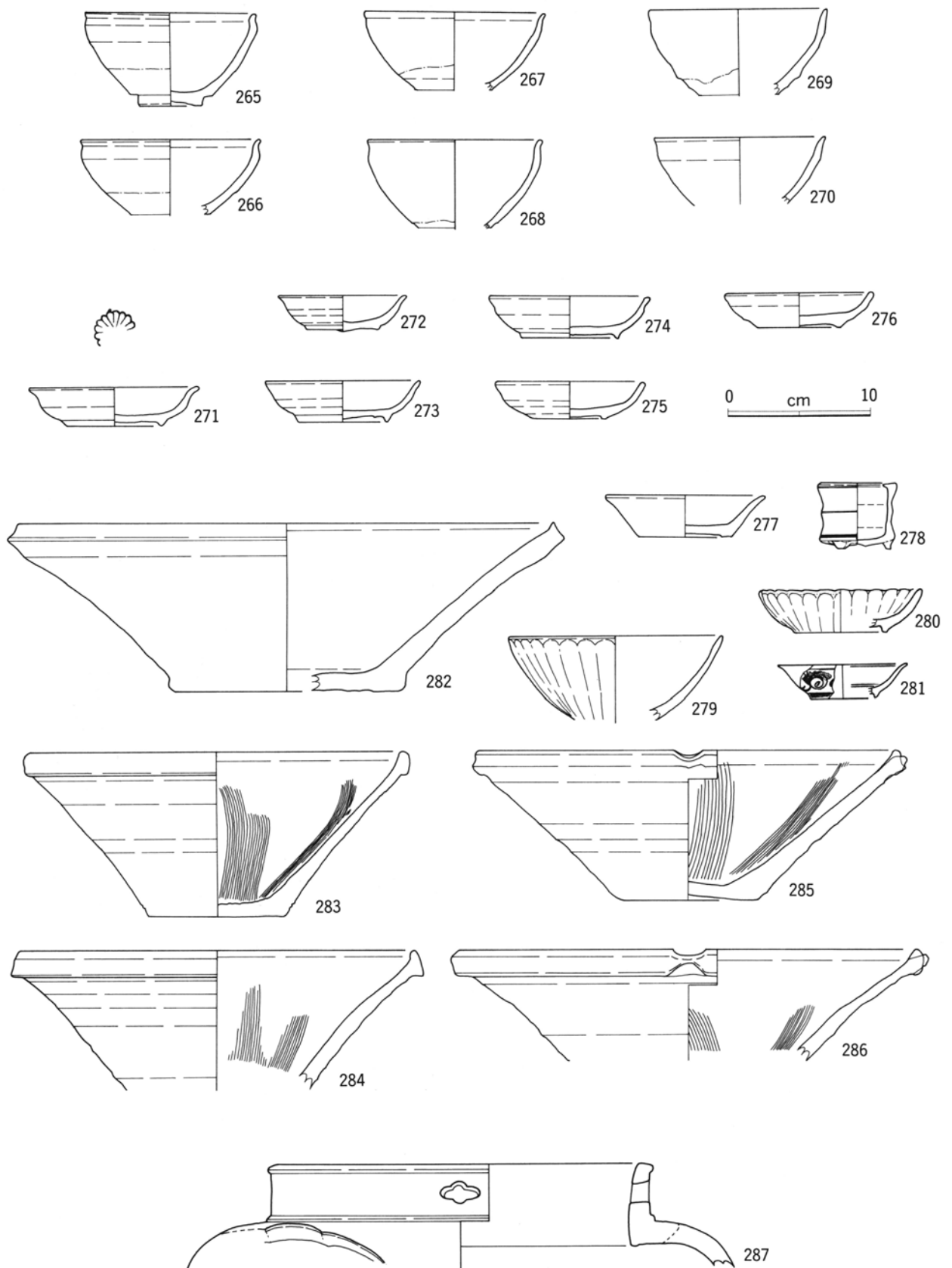
396～401は軒丸瓦としたが、小ぶりな398～400は軒棧瓦の軒丸部の可能性もある。396～400はいずれも連珠三つ巴文で、珠文は8ないし10のものが多く、三つ巴文は左巻きである。401は出土資料中唯一三つ巴文でなく、菊文が用いられている。

402は軒棧瓦。軒丸部は連珠三つ巴文で、三つ巴文は右巻きである。

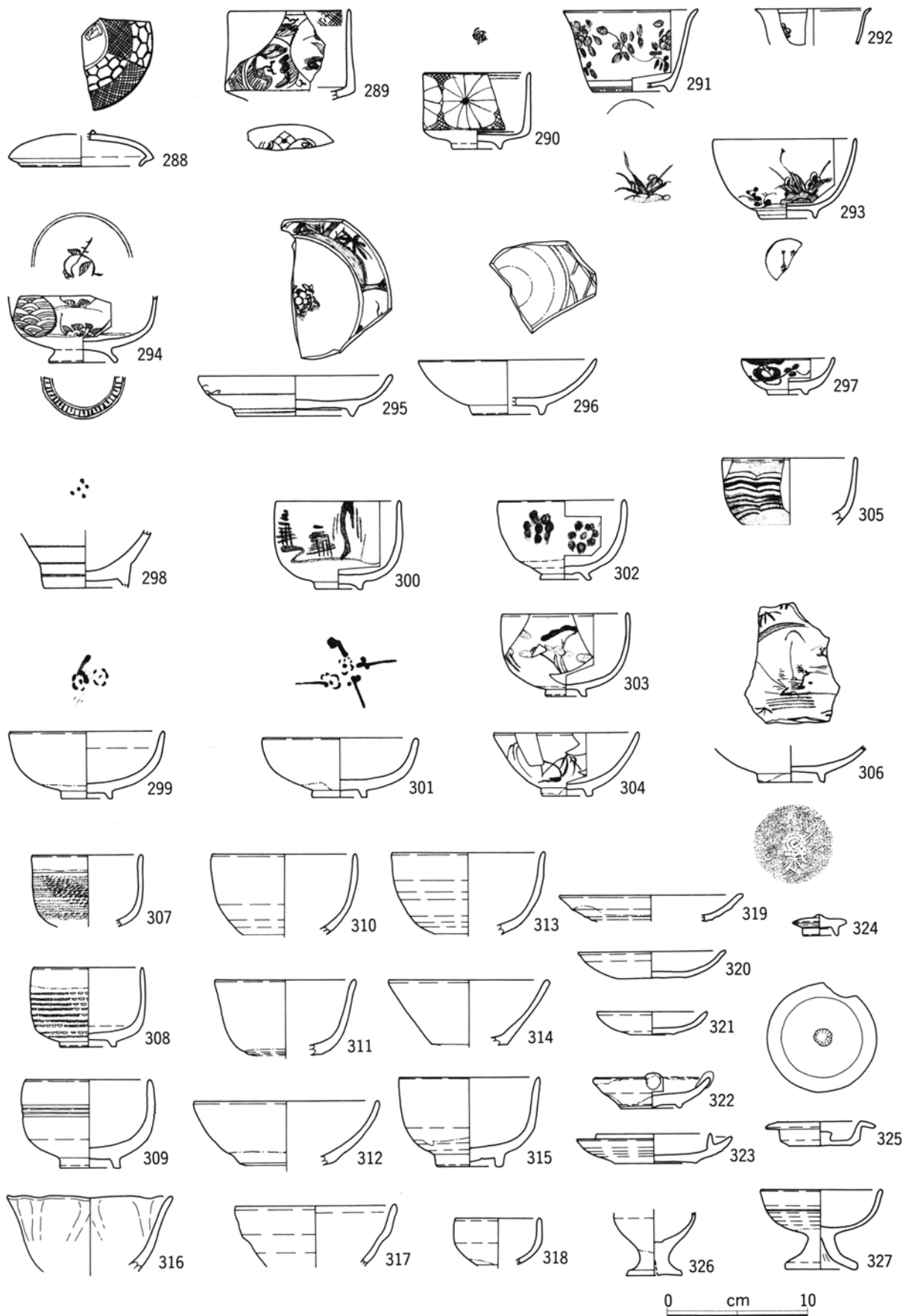
403～405は軒平瓦、ないしは軒棧瓦の平部である。403は中心に珠文、左右に唐草文を配す。404・405は巻き込みの強い唐草文。

406～409は丸瓦で、409は中心部に2個穿孔が施されている。410～412は棧瓦である。

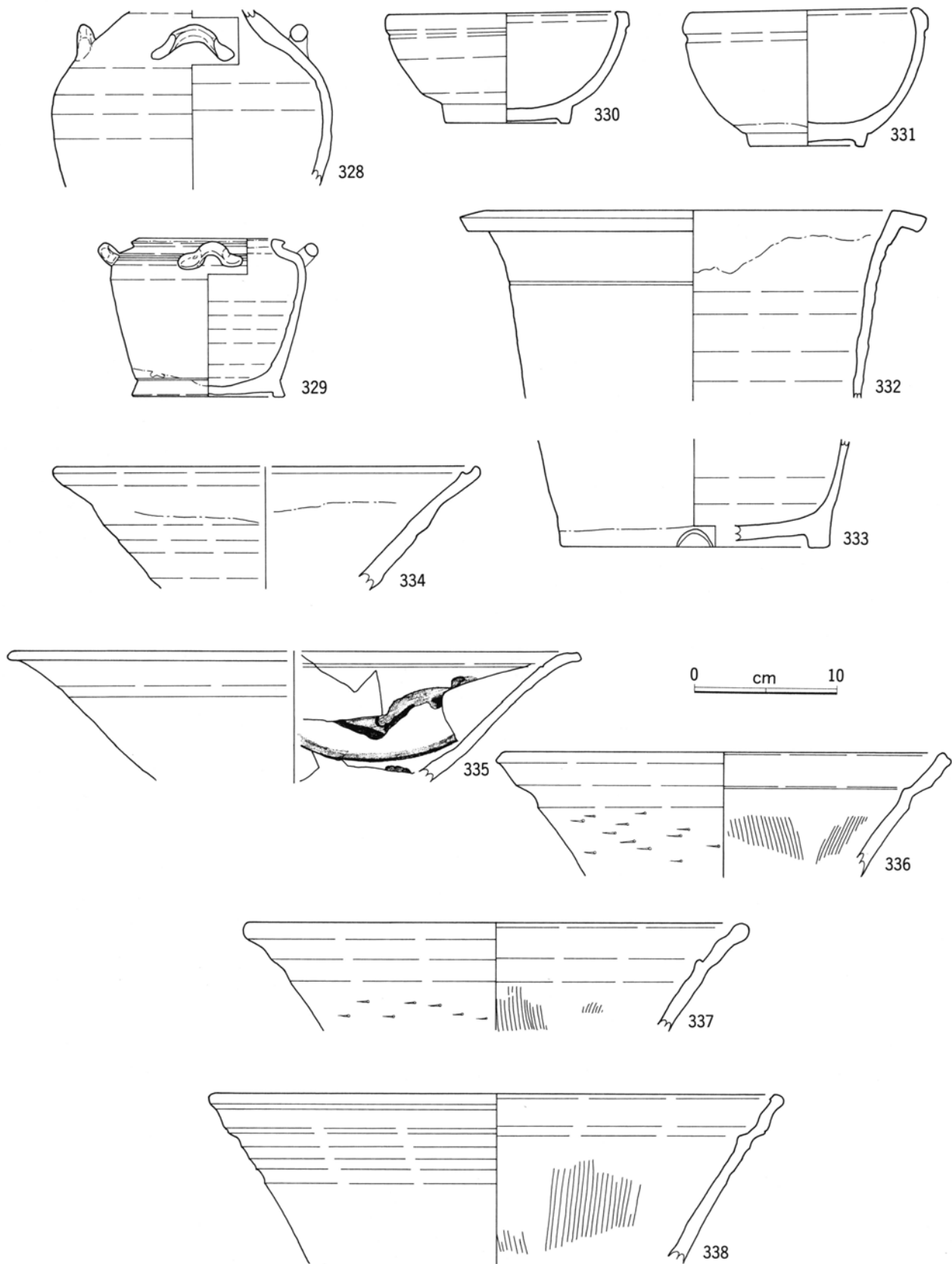
(原田 幹)



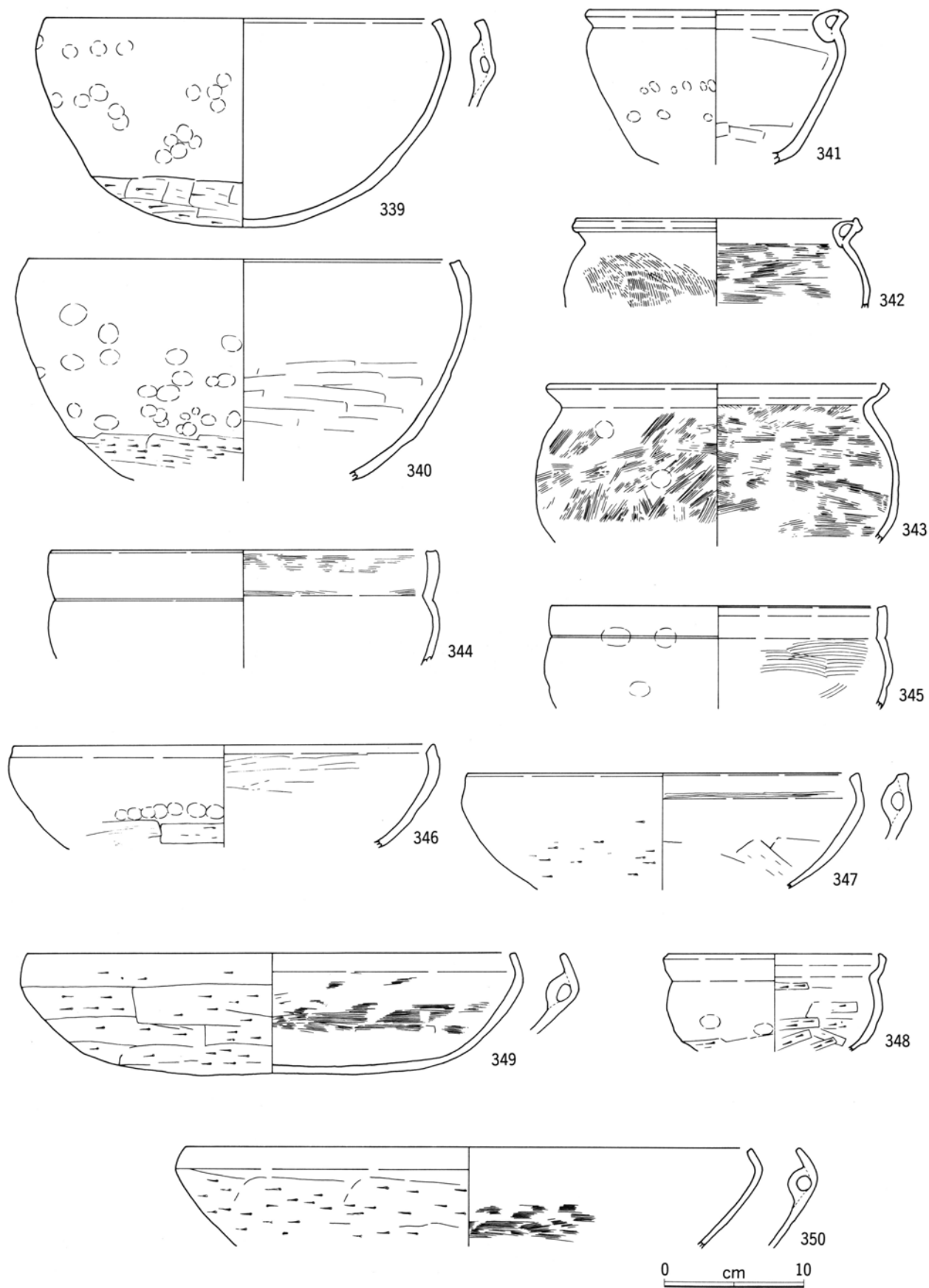
第49図 戦国・近世の陶磁器(12) <1 : 4>



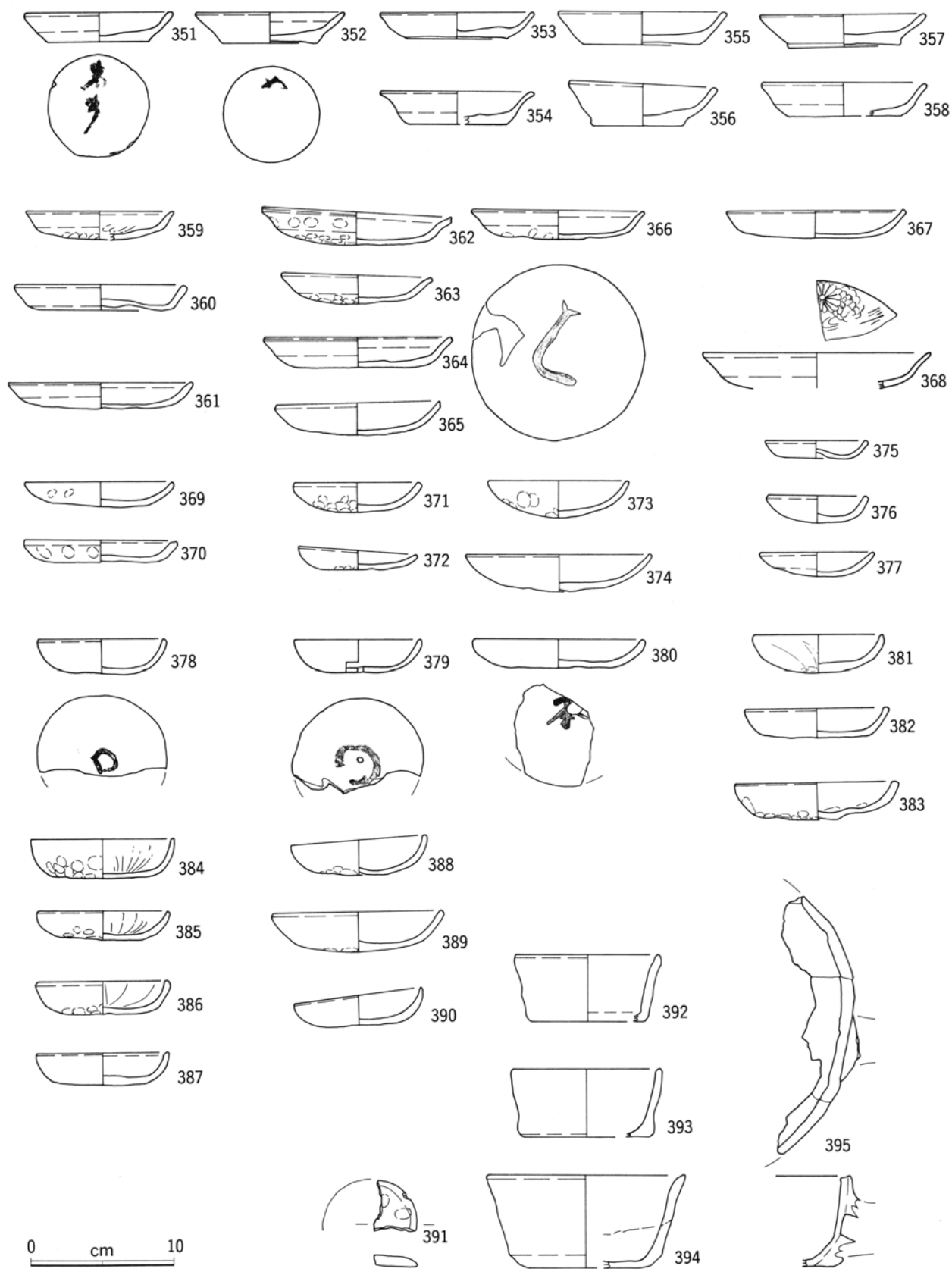
第50図 戦国・近世の陶磁器(13) <1 : 4>



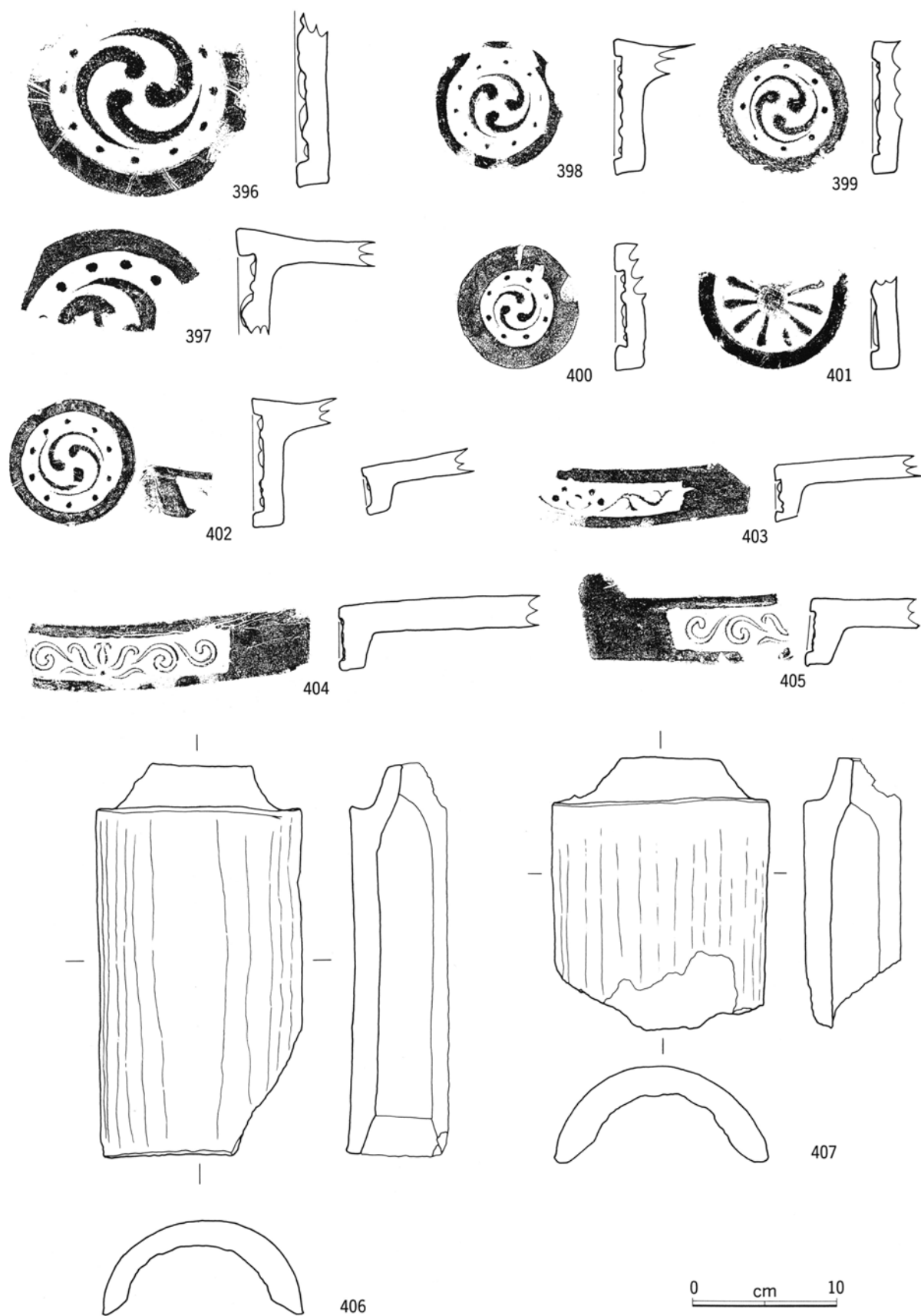
第51図 戦国・近世の陶磁器(14) <1 : 4>



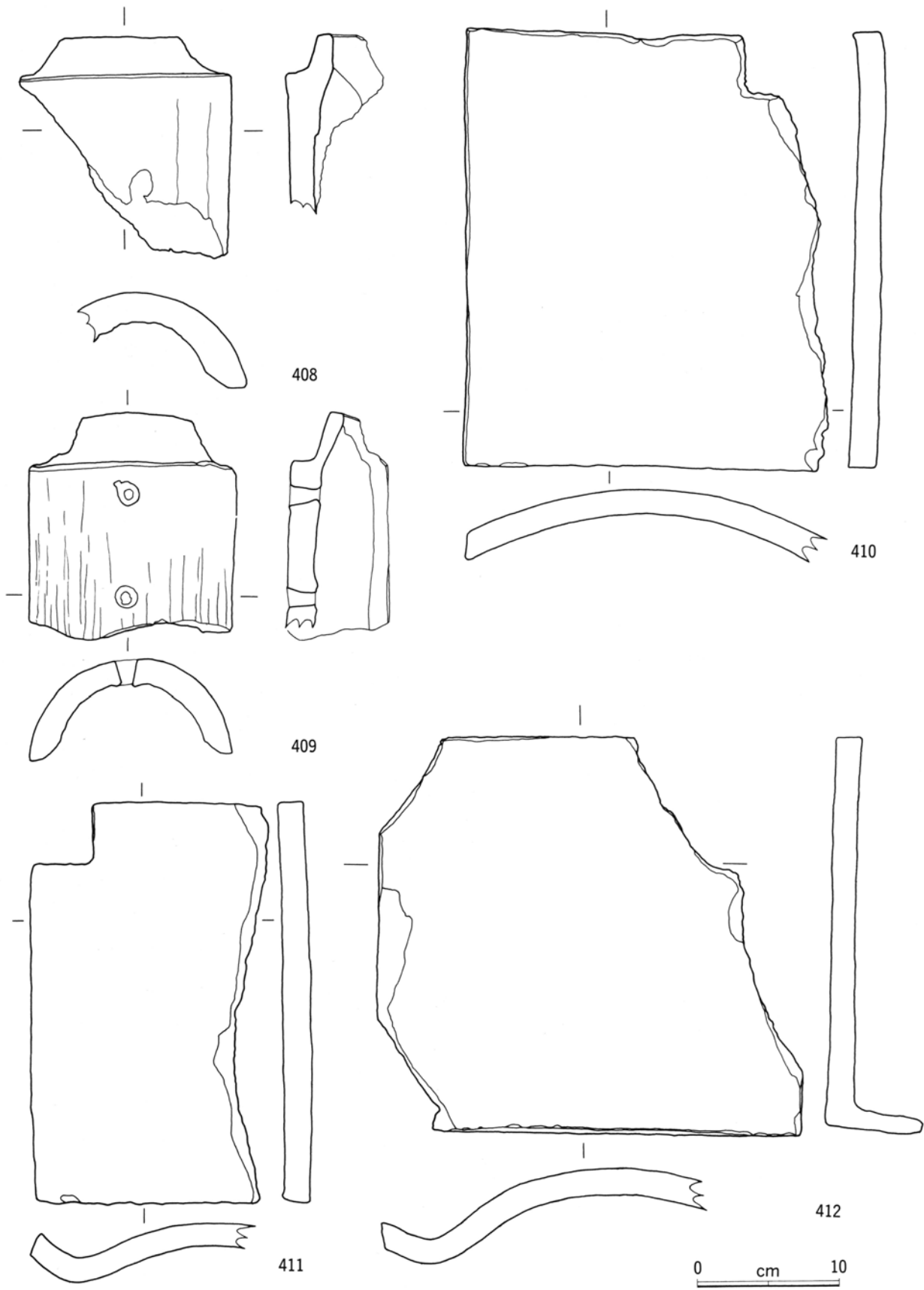
第52図 戦国・近世の陶磁器(15) <1 : 4>



第53図 戦国・近世の陶磁器(16) <1 : 4>



第54图 瓦(1) <1:4>

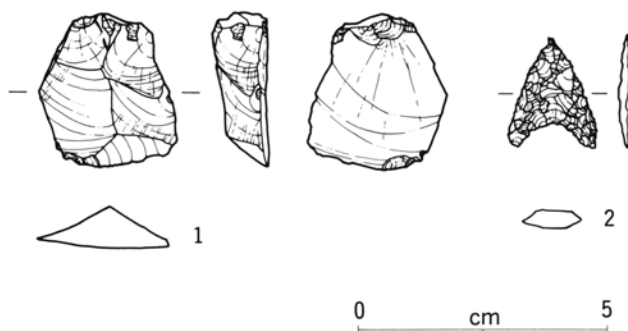


第55図 瓦(2) <1 : 4>

第2節 石器・石製品

概要 出土した石器・石製品は総数20点を数える。旧石器時代から近世にまで及ぶが、明確に時期決定できるものはわずかである。

剥片 第56図－1はS K1316より出土した縦長剥片。定型の石器として製作されたとは考えられないが、先端部と側面に刃こぼれが見られることから、搔（削）器として使用されたことは確かである。技法から見て旧石器時代に属する可能性が高い。石材は流紋岩質溶結凝灰岩⁽¹⁾である、



第56図 石器(1)〈2：3〉

この地方でしばしば見られる旧石器・縄文時代の石材（松脂岩）と異なり⁽²⁾、夾雑物がなく硬質で外面の風化がほとんど見られないことから、地域外から持ち込まれたと考えられる。

石鏃 2はS D04埋土上部より出土した黒曜石製の凹基無茎石鏃である。形態から考えて縄文時代に属すると考えられる。

打製石斧 合計5点、いずれも92年度調査区から出土。すべて欠損しており原形をとどめていないが、形態は短冊形であると思われる。さらに大きさから、長さが10cm前後、幅が4 cm程度のもの（第57図－3～6）と長さ20cmを超え、幅6 cmの大型のもの（7）とに分けられる。3は刃部が摩滅している。5は方形周溝墓S Z 02北溝から検出された再葬墓と考えられる壺内（第34図－7）から出土した。弥生後期の欠山式期に属すると考えてよい。出土地点・状況から判断すると、他の4点の打製石斧も同期と捉えて誤りないであろう。

砥石 形態は、断面形が方形または隅丸方形を呈しほぼ直方体のもの（8・11）、縦断面が山形になるもの（9）、厚みがなく平面形が短冊形になるもの（10・12）の3種に分けられる。8・11には粗めの、12には細かい擦痕がそれぞれ認められる。また、9・10には火を受けた痕跡があり、11には全体に煤が付着している。粒子の密度により、11は荒砥、8・10～12の4点は仕上げ砥に分類される。8・9はS D04の下層より出土。時期は戦国期か。

硯 13の1点のみ出土。破片のため全体像はつかめないが、長方硯であると思われる。側面には擦痕が認められ、砥石に転用されている。石材は泥岩。

五輪塔 一塊の石より造られた一石五輪塔である。側面と風輪部、空輪部が欠損しており、梵字の有無は不明である。外面の一部に鑿痕が残る。石垣S W05の崩落部から出土。

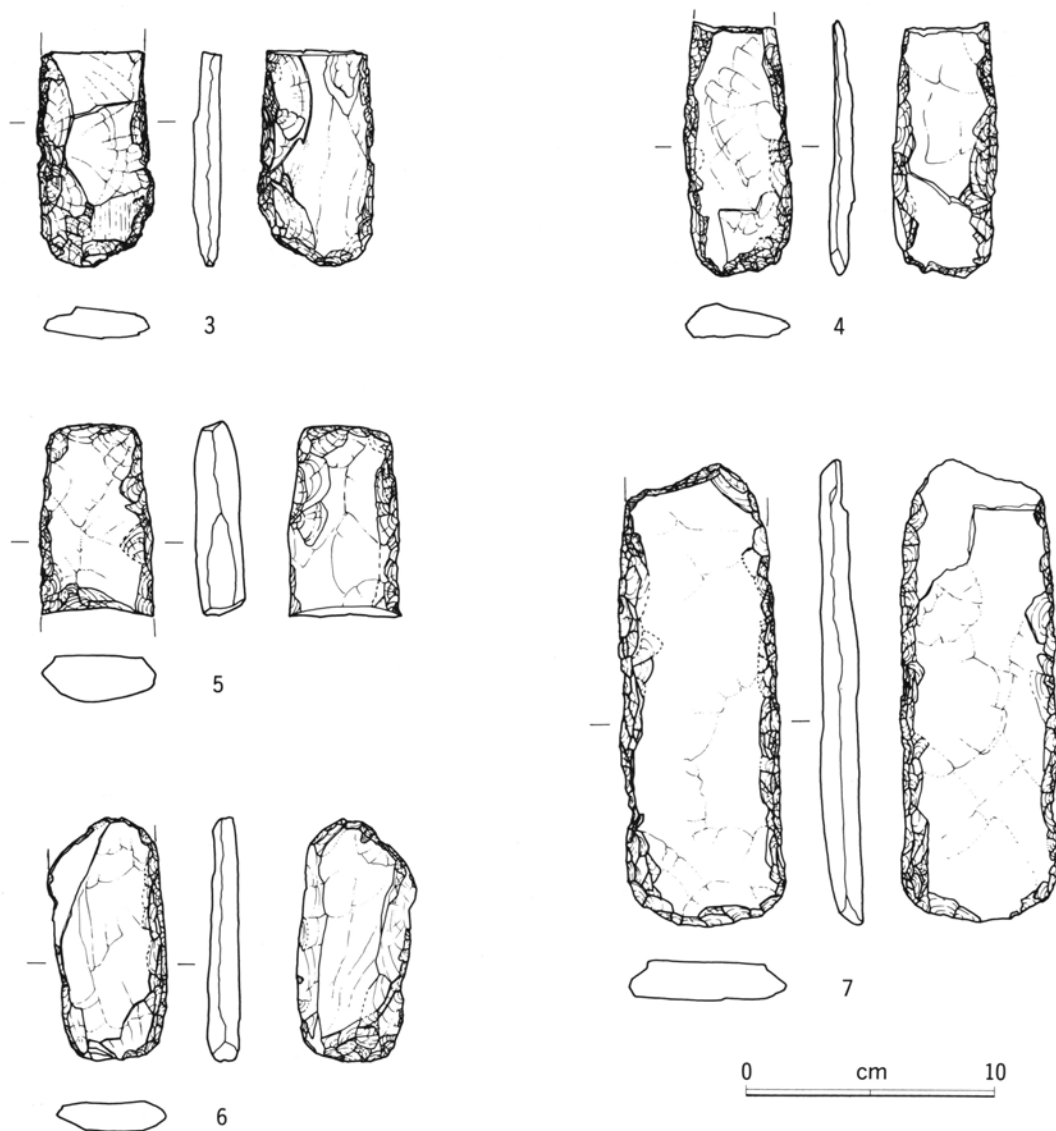
石鉢 15は、戦国期に掘削されたS E02から出土した石鉢である。内面上半は斜め方向、下半は横方向に研磨されている。外面は鑿痕を残したままである。また、全体に煤が付着して

いる。石材は砂質凝灰岩。

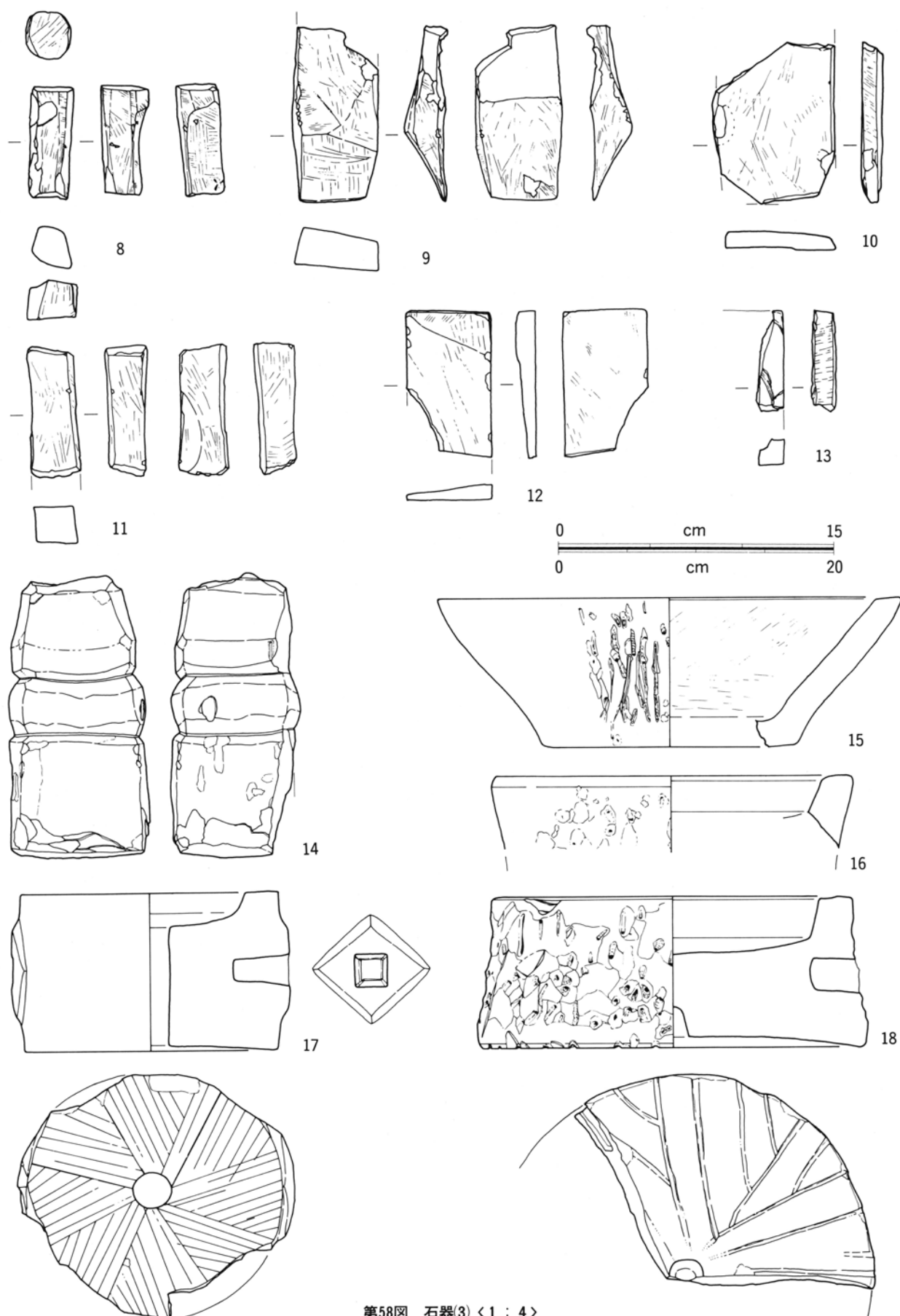
石臼 16は挽き臼の上臼の破片で、摩耗が激しいが側面には鑿痕が残っている。18も同じく挽き臼の上臼で、上面に直径22.4cm、深さ4.2cmのくぼみがある。下面には8分割されたとみられるが、不規則に刻まれた副溝が施され、その中央には直径2.4cm、深さ4.2cmの芯棒受けを有する。側面には鑿痕が残り、挽き木を差し込むための方形の孔が1カ所穿たれている。S D05より出土。17は茶臼の上臼である。上面に直径13.8cm、深さ2.0cmのくぼみがあり、下面には主溝によって8分割された中にそれぞれ6～8本の副溝が刻まれている。中央には直径2.6cmの穴が貫通している。側面には挽き棒をつける方形の穴が2カ所、対をなして穿たれており、その周囲は菱形の盛り上がりが施されている。 (高田恵理子)

註 (1) 石材は、本センターの堀木真美子調査研究員の鑑定による。

(2) 新城市教育委員会の鈴木隆司氏には、新城市の当該期の石器の実見に便宜を図っていただいた。



第57図 石器(2) <1 : 4>



第58图 石器(3) <1:4>

第3節 金属製品

概要 出土した金属製品は、材質で区分すると鉄製品451点、銅製品32点、鉛製品1点で合計484点を数える。推定した機能別に説明する。

武具類 第59図－1～3は有茎の鉄鏃。1は先端が菱形を呈し断面形が長方形であるに対して、2・3は短頭の先端部を持ち断面形が不正円形である。重さは1が16.7g、2が10.9g、3が12.2g。1はS K792、3はS K1202から出土。4は鉛玉で、鉄砲の玉と考えられる。直径11mm、重さ7.1gを測る。5は銅製の小柄断片である。6・7は鉄板を円錐形に巻いて整形したもので、用途不明。ソケット状になっていることから先端を尖らした石突きとも考えられる。8～10は鉄製の小札である。X線を照射して確認すると、8には小孔が2列10個、9には2列8個以上、10には5個以上認められる。10はS D04から出土。

刃物・工具類 11は鉄製の鎌で、半月状の幅広の身を持ち柄の基部は鉤状に曲がる。柄部は2枚の鉄板が合わさってできていて、刃部をはさみ込んでいる。12も鉄製の鎌で、11と比べてかなり小型である。基部と先端部が破損。13は鉄製の薄手の刃を持つ鉋で、石垣S W01の裏込部から出土。14は鉄製の小型の三股製品で、先端部は3本とも欠損している。15は鉄製の長方形の板で、用途不明。断面から考えて小刀とした方が良いかもしれない。

権衡具 16は銅製の分銅（銅錘）で、菊花状にノミ彫りされた鑄を持つ胴部に2段の隆起が乗り、有孔の小さなつまみが付いている。重さは45.1g（12匁）を測る。宮本佐知子氏の分類によれば、A-4類に当たり、中世末から近世初頭の時期に限定されるものである⁽¹⁾。

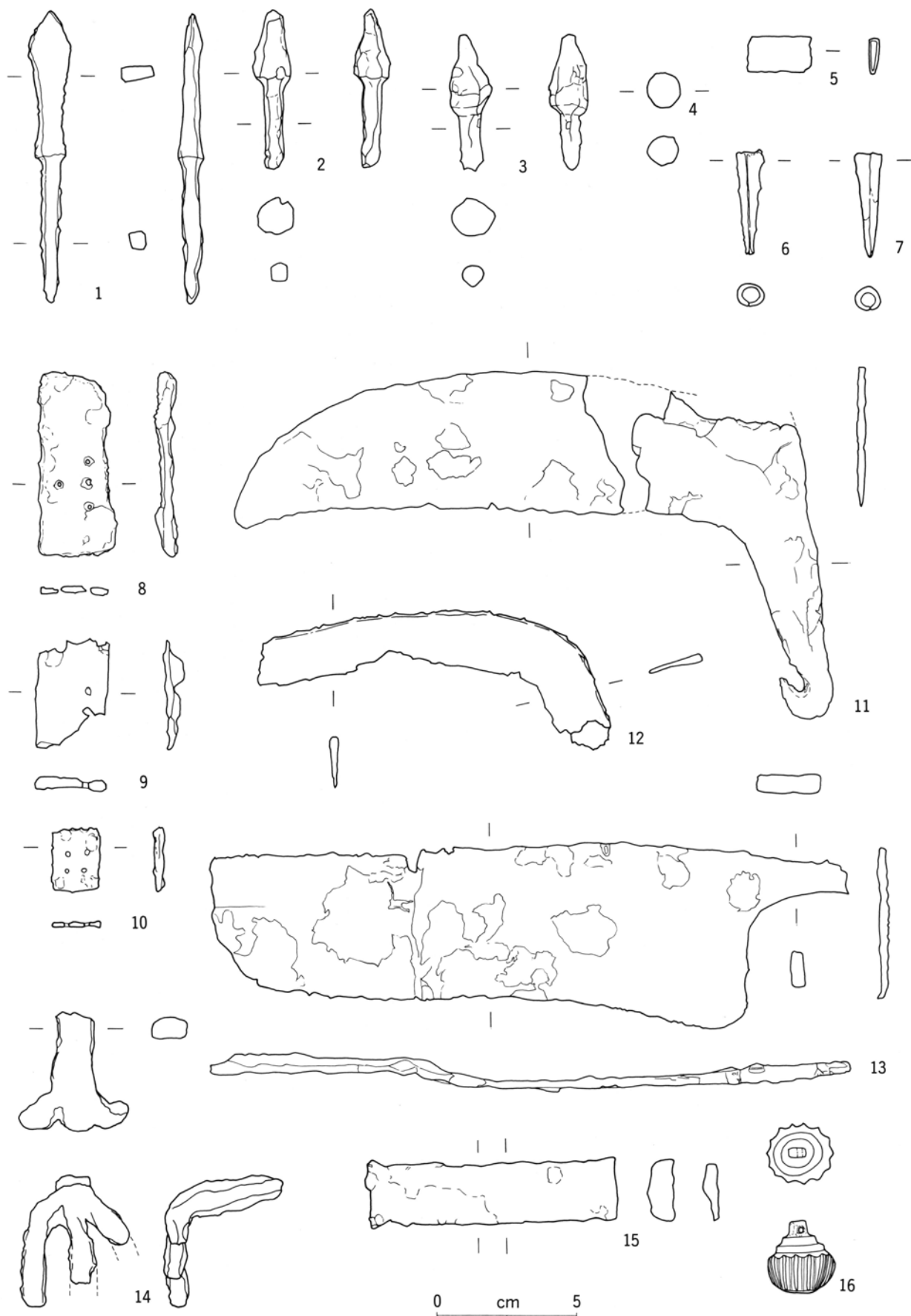
金具類 第60図－17は銅製の装飾用の金具と考えられるもので、細い板状の銅を円形に曲げ、一端を折り曲げてある。18は隅を切った鉄製の板で、2本の鉄釘が残存している。19はたんす類の鉄製の引き具である。20～23は飾金具で、20は鉄製で、円形の蓋状の金具である。21～23は銅製のボタン状の金具で、21には「三つ盛り三階菱」と思われる紋様が施されている。22・23はどちらも潰され、中央に孔が開いている。座金か。

蓋 24は銅製の蓋の残片である。直径約8cm。

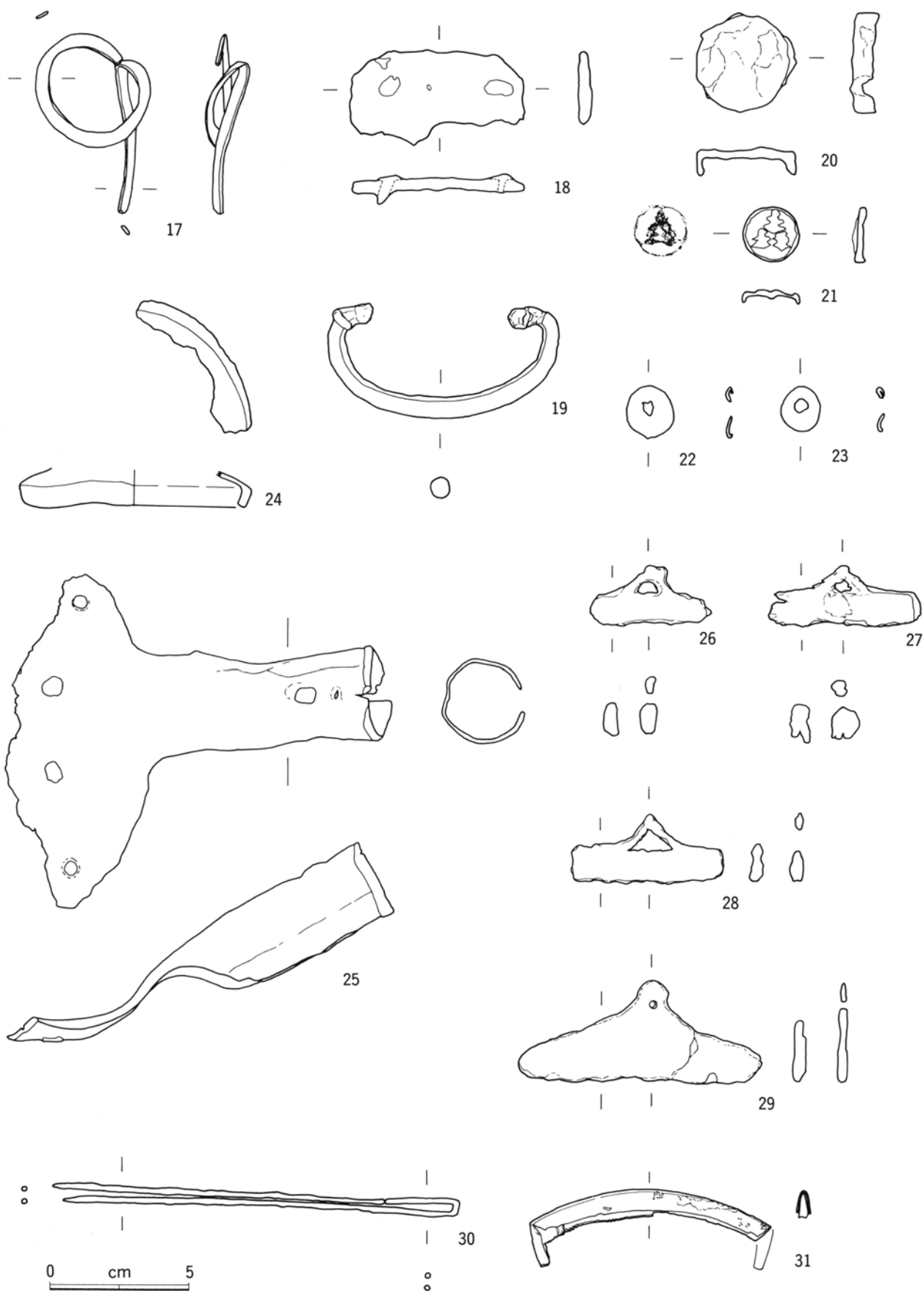
十能 25は銅製の十能で、本体の大部分は破損して失われている。柄に近いところには4カ所に円い孔が開けられ、うち中央の2カ所には同じ銅製の鉾が留められている。柄部は銅板を丸めてソケット状にしてあり、外側に短く折り曲げて端部を作っている。一カ所に方形の孔が穿たれて、差し込んだ柄を留めるようになっている。

火打ち金 26～29は鉄製の火打ち金である。長方形の板金に山形に突出部を付けた小型のもの（26～28）と逆T字形の板金の頂部に小孔を開けたやや大型のもの（29）とに大別される。

装身具 30は簪と思われる銅製品である。31は横櫛で、穏やかな円弧を呈する棟の部分から耳にかけて銅でかぶせてある。木製の棟の一部が残存しており、歯の間隔が密（2.4cmで18本）であることから梳櫛と思われる。近世のものか⁽³⁾。



第59図 金属製品(1) <1 : 2>



第60図 金属製品(2) <1 : 2>

喫煙具 第61図-32~36は銅製の煙管の雁首である。37~42は同じく吸口である。

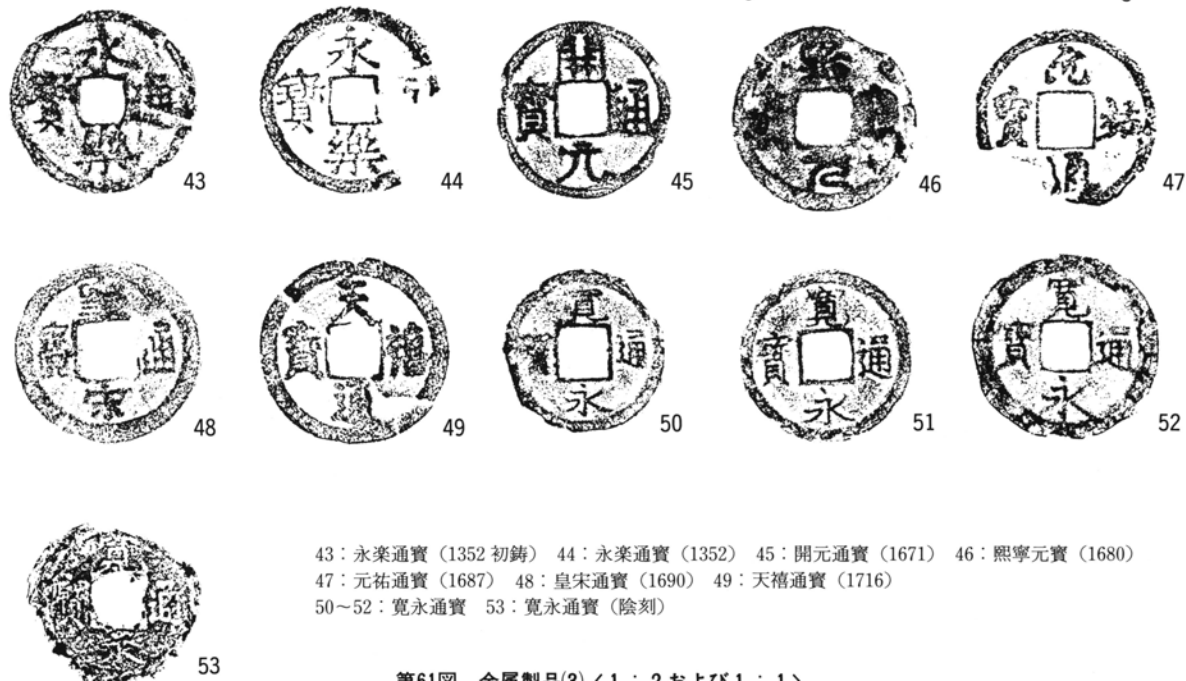
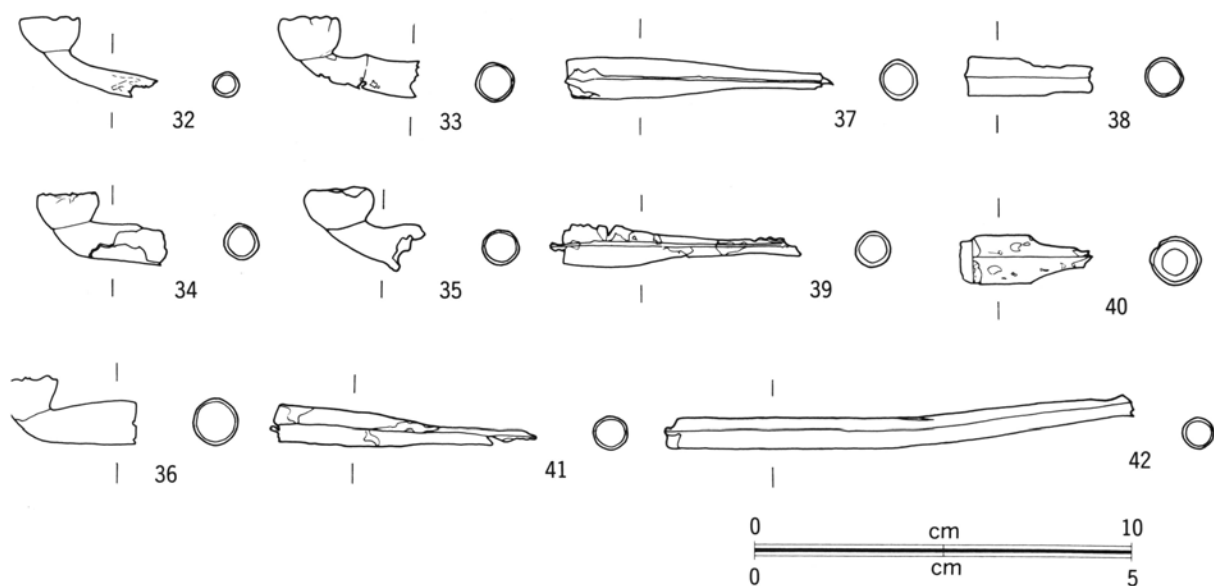
青銅貨幣 42~5は青銅貨幣である。49は古寛永、50・51は新寛永である。53には「寛永通寶」の文字が陰刻されており、他に類例がない。

建築具 第62図-54~65は鉄製の釘である。形状から次の3タイプに分類できる。先端を尖らせず板状を呈するもの（54~58）と、先端を尖らせかつ折り曲げて頭部を作り出したもの（59~63）、先端を尖らせかつ頭部を折らないもの（64・65）。（都築暢也）

註 (1) 同様な分銅は、清州城下町遺跡・一乗谷朝倉氏遺跡などでも出土している。また、室町時代初期に描かれたとされる『福富草紙』には薬の目方をはかる棹秤に使われる同様の分銅が見えている。

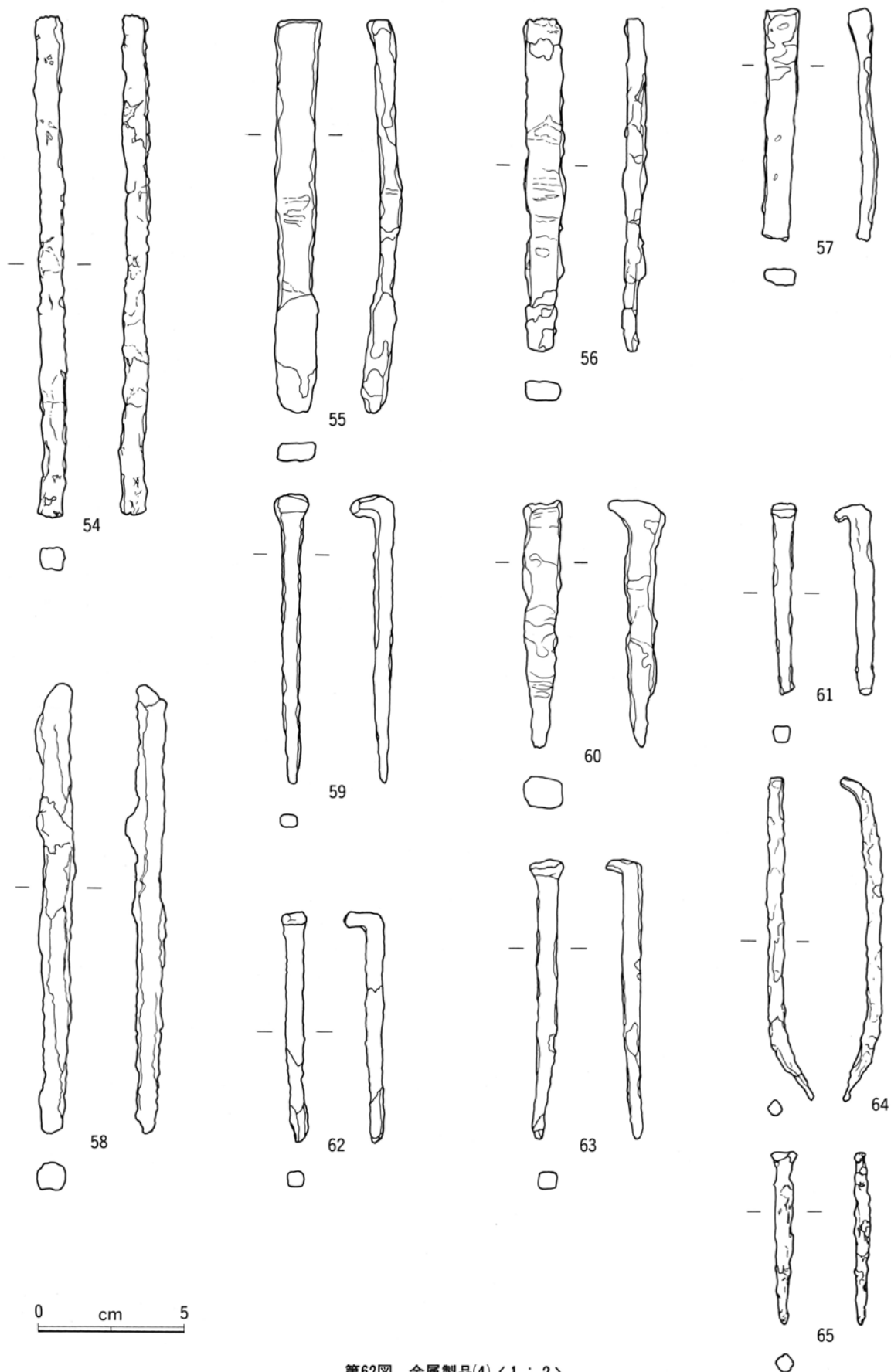
(2) 宮本佐知子 1994 「国内出土の権衡資料」『大阪市文化財論集』 P272

(3) 田阪仁氏（斎宮歴史博物館）から、横櫓の装飾性が高まるのは近世になってからであると教示を受けた。



43：永楽通寶（1352 初鑄） 44：永楽通寶（1352） 45：開元通寶（1671） 46：熙寧元寶（1680）
47：元祐通寶（1687） 48：皇宋通寶（1690） 49：天禧通寶（1716）
50~52：寛永通寶 53：寛永通寶（陰刻）

第61図 金属製品(3) <1：2および1：1>



第62図 金属製品(4) <1 : 2>

第4節 土師器・陶磁器の出土量計測

概要 今回の調査で出土した戦国期及び近世の土師器・陶磁器について口縁部計測法によるカウントを実施した。土師器・陶磁器のカウントについては本センターにおいても、すでに清洲城下町遺跡、名古屋城三の丸遺跡等で実施しており、一定の成果を上げている。今回実施したカウントは、本報告書と同年度刊行の『清洲城下町遺跡Ⅴ』『名古屋城三の丸遺跡Ⅴ』と同様な計測基準を用い今後のデータの比較が可能になるよう考慮したが、地域、遺跡の性格の違いなどから一部は独自の基準を設けている。

カウントの方法 対象とする遺物は、戦国期と近世の土師器・陶磁器で、金属製品、石製品等については行っていない。土師器・陶磁器は口縁部の遺存しているものを取りあげ、口縁部残存率(1/12単位)により分類別の総計を算出した。なお、1 cm以下の小片はデータから除外した。

分類 分類基準については、戦国期は『清洲城下町遺跡Ⅳ』に、近世は『名古屋城三の丸遺跡Ⅴ』のものに基本的には依拠しているが、土師器は戦国期、近世を含めて一括し、独自の分類基準を設定した。これは土師器がきわめて小地域の様相を反映するため尾張を対象にして設定された基準をそのまま三河地域に適用できないことと、三河地域での編年が確立されていないため土師器皿の一部などは戦国、近世の区別ができないためである。また、細かな用語の統一はしていない。分類は1.産地・材質、2.器種、3.器形、4.釉薬という階層別に設定している。以下に分類項目を列挙するが、()で括ったものは本遺跡では認められなかったものである。各項目の詳細については上記の報告書を参照していただきたい。

<戦国>

1. 産地・材質
瀬戸美濃陶器 瓦器 常滑 中国 その他
2. 器種－器形
碗－天目茶碗 丸碗 平碗 (台付碗) 小碗 (杓茶碗)
皿－縁釉皿 腰折皿 端反皿 丸皿 稜皿 内禿皿 (菊皿) 稜花皿 (ひだ皿)
(重圈皿) (はさみ皿)
浅鉢－平鉢 大皿 向付
搥鉢
大型製品－筒形 壺 瓶 花瓶 その他 甕
小型製品－(水注) (水滴) (茶入れ)
香炉
鍋
その他・不明
3. 釉薬
灰釉 鉄釉 (志野) (銅緑釉) 無釉 錆釉 (黄瀬戸) その他 青磁 白磁 染付 真焼 赤物

<近世>

1. 産地・材質
瀬戸美濃陶器 瀬戸美濃磁器 肥前陶器 肥前磁器 常滑産製品 瓦器 その他・不明陶器 その他・不明磁器
2. 器種－器形

椀－（天目茶椀） 丸椀 腰折椀 平椀 広東椀 仏飯具 小型椀 その他
 皿－丸皿 腰折皿 （非円形皿） 灯さん 無高台皿 小型皿 その他
 鉢－丸鉢 平鉢 擂鉢 筒形鉢 びんだらい 腰折鉢 植木鉢 大型皿 小型鉢
 その他
 壺・瓶－筒形壺 肩壺 （口壺） （小型壺） 花瓶 （土瓶類） （汁つぎ） 徳
 利 （小型徳利） （油壺） その他
 その他－筒形 （灰落とし） （ひしゃく） ひょうそく （燭台） （盤） （火
 鉢） （行平） （鍋） 蓋 その他
 甕
 蓋

3. 釉薬

灰釉 鉄釉 染付 銅緑釉 無釉 青磁 白磁 その他 真焼 赤物

<戦国・近世>

1. 産地・材質

土師器

2. 器種－器形

鍋－内耳鍋（A・B・C） 壺形 焙烙（A・B）

大型製品－火鉢

土師器皿－ロクロ 非ロクロ（A・B・C・D・E）

その他－鉢 蓋 火のし その他・不明

土師器の分類

今回実施したカウントでは、土師器を戦国、近世に分けず一括している。これは土師器皿の一部に時期不明のものがあり、時期別に集計することが困難なためである。また、土師器は地域間での形態差が大きく、尾張地域の分類基準をそのまま当てはめることはできない。以下、島田陣屋遺跡の土師器の分類について説明する。

まず、器種を鍋、大型製品、土師器皿、その他に分類する。鍋は内耳鍋と壺形、焙烙に分けられる。内耳鍋と焙烙は口縁部の形態から次のように細分する。

内耳鍋A 半球形の形態をもつ。底部にはヘラケズリを施す。体部に沈線が1条めぐるとめぐらないものがある。時期は戦国期。

B 口縁部の断面形はくの字状を呈する。比較的薄いつくりのものが多く、体部にハケを残すものが多い。時期は戦国期。

C 口縁部がくの字状を呈し、内湾する。いわゆる「遠江型」の鍋。頸部の屈曲部に沈線をめぐらせるものとめぐらせないものがある。時期は戦国期。

焙烙A 口縁部で屈曲し、口縁端部は内傾する面をもつ。体部下半はヘラケズリ。近世に属するものと考えられる。

B 口縁部で屈曲し、口縁端部は丸く収められる。屈曲部以下はヘラケズリ。Aと同様、近世に属するものである。

なお、壺形はいわゆる茶釜形羽釜と呼ばれるもので、戦国期に属す。

大型製品の火鉢は底部に三脚がつくもので、戦国期のものであろう。

土師器皿はロクロ成形と非ロクロ成形に分けられ、非ロクロ成形のものはA～Eの5つに細分する。

ロクロ 体部は直線的に立ち上がる。底部に回転糸切り痕を残し、板状具の圧痕をとどめるものも多い。時期は戦国期であらう。

非ロクロA 体部に1段ナデを施す。口縁部を強く外反させるのを特徴とする。時期は戦国期。

B 体部を1段ナデ、外反させる。口縁部内面が屈曲し弱い稜をもち、口縁端部に面をもつものが多い。なかには沈線状の凹みをもつものもある。戦国期に属するものである。

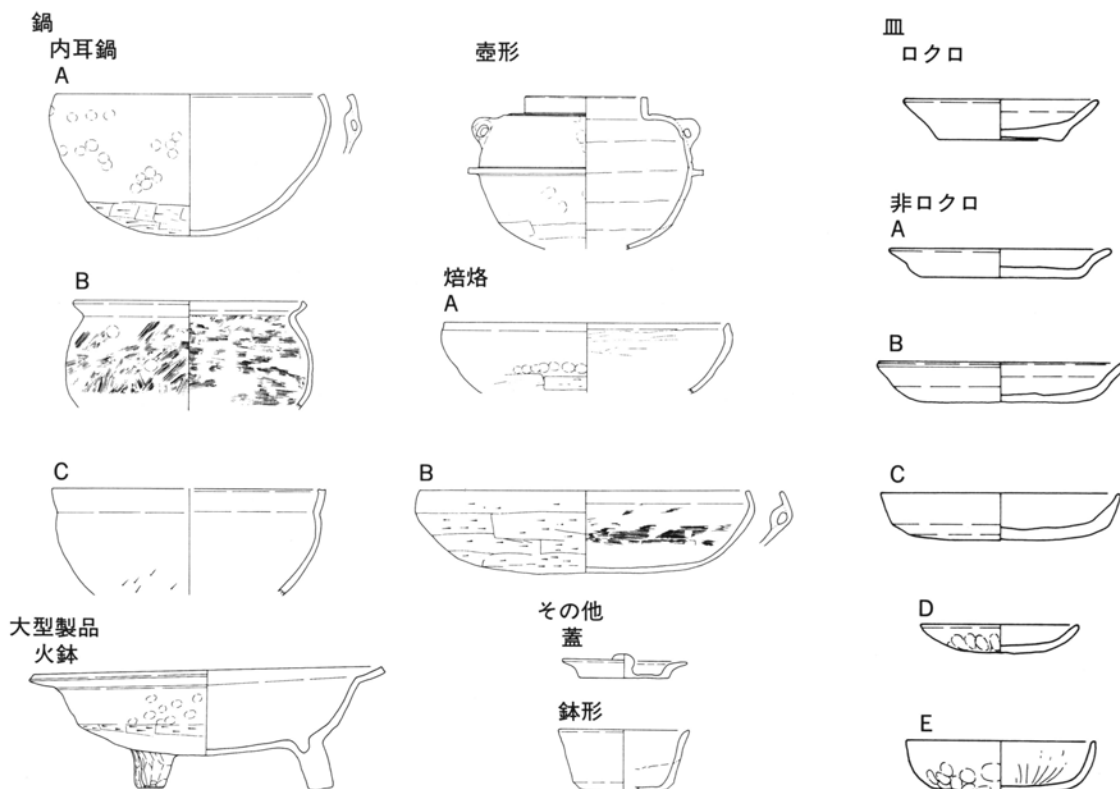
C 口縁部は比較的直線的で、口縁端部が細くなるものが多い。底部と体部の境にヘラケズリを施すものが特徴的である。帰属時期は不明。

D 底部と体部との境界が不明瞭で、体部はやや開き気味に立ち上がる。土坑出土資料で、非ロクロBとの共伴が確認されている。戦国期に属す。

E 体部は上方に立ち上がりあまり開かない。非ロクロDと比べると器高がやや高いが、小片では両者の区別が難しく、今回のカウントでも混同しているものが多いと思われる。Eは近世に帰属すると考えられる。

その他のものとしては土製の蓋、筒形の鉢、火のし等がある。

地区の設定 集計単位については大量の遺物を出土する遺構が認められないことから、近世に造成されたテラス面（平坦面）を単位とした（第V章第1節参照）。第1テラスは92年度調査区南端の落ち込みより北、第2テラスはこの落ち込みから93年度調査区中央のSW02・03までの範囲、第3テラスはSW05までの範囲である。この区画は近世陣屋敷地内の区割りをある程度反映していると考えられる。しかし、戦国期については屋敷地の区画は近世と異なる



第63図 土師器分類図

っており、全く任意の設定である。また、調査区全体において整地、耕作による北から南への土の移動があったことも考慮する必要がある、今回の集計単位の設定には限界があることを前提とする。

集計結果 戦国期の陶磁器、近世の陶磁器、土師器それぞれの集計結果は第1・2表のとおりである。表に示した数値は遺存率（1/12）の合計で、個体数は算出していない。

戦国期の陶磁器類は、産地・材質別では瀬戸美濃陶器が最も多く、このうち椀、皿、播鉢が主体となっている。椀では天目茶椀、皿では端反皿、丸皿が多い。地区別の出土数では、第2テラスと第3テラスで多く、第1テラスでの出土数が少なく、各器種別の量比もこれを反映した形となっている。遺物包含層の遺存状況と近世の整地による遺物の移動を考慮する必要があるが、戦国期には第1テラスは堀をめぐらした空間であり、居住空間ではなかったことも反映されていると思われる。

近世の陶磁器類は、産地・材質別では瀬戸美濃陶器が最も多く6割、これに次いで肥前磁器が3割程度であり、大半は瀬戸美濃陶器、肥前磁器によって占められている。器種別の組成は、椀が5割、皿2割、次いで鉢、壺・瓶、甕という構成になっており、椀、皿が器種組成の大半を占める。産地・材質別ごとの器種組成をみると、瀬戸美濃陶器が椀4割、皿2割、鉢2割、壺・瓶1割と各器種で構成されているが、肥前磁器では7割近くが椀、次いで皿2割であり、鉢や壺・瓶の占める割合が少ない。瀬戸美濃磁器も9割以上が椀であり、産地・材質別に異なる器種組成を有している。テラス別の出土量は、第1テラスで出土量が著しく少なく、第2テラス、第3テラスで倍増している。これも後世の土の移動の影響を受けているものと考えられる。ただし、器種別にみると、椀、皿が第2テラスより第3テラスで多いのに対し、鉢、壺・瓶については第2テラスが第3テラスを上回るかほぼ同率という結果が得られている。

土師器 土師器類は、皿が最も多く土師器全体の9割近くを占める。これに次いで煮沸具の鍋が1割程度となっている。地区別の出土量では、全体に第2テラスで多く出土し第3テラスがこれに次ぐが、鍋はどの器形も第3テラスでの出土量が多い。陶磁器類の出土が少ない第1テラスもかなり多く出土しており、陶磁器のように地区ごとの出土量が偏ることはない。

煮沸具の組成 鍋は内耳鍋が主体で、焙烙がこれに次ぐ。今回焙烙としたものはA、Bとも近世の遺物とみられる。時期を限定できる戦国期の鍋について組成をみると、内耳鍋A～C、壺形で構成されている。半球形の内耳鍋Aは尾張型ともいえる器形であるが、本遺跡でも6割近い比率を占め主体となっている。これに次ぐのは東三河地域特有の形態である内耳鍋Bで、約3割程度。「遠江型」の内耳鍋Cは1割程度である。壺形は全体の1割に満たない。

(原田 幹)

参考文献

- 松田 訓編 1995 『名古屋城三の丸遺跡V』 財愛知県埋蔵文化財センター
鈴木正貴編 1995 『清洲城下町遺跡IV』 財愛知県埋蔵文化財センター

①戦国期陶磁器集計表

合計：遺存率			テラス		
産地材質	器種	器形	1	2	3 総計
瀬戸美濃陶器	碗	天目	17	39	60 116
		丸碗	1	5	10 16
		平碗	3	1	0 4
		小碗	0	2	4 6
		不明他	5	8	5 18
	碗 計		26	55	79 160
	皿	縁釉皿	0	4	2 6
		腰折皿	0	0	1 1
		端反皿	0	17	18 35
		丸皿	12	12	11 35
		稜皿	0	0	14 14
		内禿皿	0	0	1 1
		不明他	2	11	6 19
	皿 計		14	44	53 111
	浅鉢	平鉢	2	8	4 14
		大皿	0	3	1 4
	浅鉢 計		2	11	5 18
	播鉢		17	38	53 108
	播鉢 計		17	38	53 108
	大型製品	筒形	0	0	5 5
		壺	0	6	5 11
		瓶	0	3	1 4
		花瓶	0	0	6 6
		甕	1	2	0 3
	大型製品 計		1	11	17 29
	香炉		2	14	0 16
	その他		0	1	4 5
瀬戸美濃陶器 計			62	174	211 447
瓦器	大型製品	風炉	0	10	0 10
瓦器 計			0	10	0 10
常滑	浅鉢	鉢	0	0	2 2
			0	0	2 2
	浅鉢 計		0	0	2 2
	大型製品	壺	0	11	0 11
		甕	4	35	10 49
大型製品 計		4	46	10 60	
常滑 計			4	46	12 62
中国	碗	丸碗	0	3	3 6
		小碗	0	1	0 1
		不明他	5	4	1 10
	碗 計		5	8	4 17
	皿	端反皿	0	9	3 12
		稜花皿	1	0	0 1
		不明他	1	2	0 3
	皿 計		2	11	3 16
中国 計			7	19	7 33
その他	その他	0	0	1 1	
その他 計		0	0	1 1	
総計			73	249	231 553

②戦国期器種別集計表

合計：遺存率	テラス			
器種	1	2	3	総計
碗	31	63	83	177
皿	16	55	56	127
浅鉢	2	11	7	20
播鉢	17	38	53	108
大型製品	5	67	27	99
香炉 ¹⁾	2	14	0	16
その他	0	1	5	6
総計	73	249	231	553

③近世陶磁器集計表

合計：遺存率			テラス			
産地材質	器種	器形	1	2	3	総計
瀬戸美濃陶器	碗	丸碗	5	34	142	181
		腰折碗	0	0	6	6
		平碗	0	1	11	12
		仏飯具	0	0	3	3
		小型碗	0	0	18	18
		不明他	3	11	26	40
	碗 計		8	46	206	260
	皿	丸皿	2	13	33	48
		腰折皿	0	0	2	2
		灯さん	0	17	16	33
		無高台皿	0	0	4	4
		その他	0	3	14	17
		不明他	0	17	14	31
	皿 計		2	50	83	135
	鉢	丸鉢	3	19	19	41
		平鉢	0	1	6	7
		播鉢	0	20	10	30
		筒型鉢	0	0	9	9
		びんだらい	0	6	0	6
		植木鉢	0	3	0	3
		小型鉢	1	0	1	2
		不明他	1	12	9	22
	鉢 計		5	61	54	120
	壺・瓶	筒型壺	0	0	7	7
		肩壺	0	0	8	8
		花瓶	0	2	2	4
		徳利	0	25	11	36
		不明他	0	5	0	5
	壺・瓶 計		0	41	28	69
	その他	筒型	1	9	7	17
		ひょうそく	0	0	3	3
		蓋	0	13	12	25
		不明他	0	0	8	8
	その他 計		1	22	22	45
瀬戸美濃陶器 計			16	211	401	628
瀬戸美濃磁器	碗	丸碗	2	6	4	12
		広東碗	0	1	0	1
		小型碗	0	1	0	1
		不明他	9	5	6	20
	碗 計		11	13	10	34
	皿	不明他	0	0	1	1
鉢		丸鉢	0	1	0	1
瀬戸美濃磁器 計			11	14	11	36
肥前陶器	碗	丸碗	0	0	2	2
肥前陶器 計			0	0	2	2
肥前磁器	碗	丸碗	0	12	33	45
		腰折碗	0	6	11	17
		平碗	0	8	4	12
		小型碗	0	18	13	31
		不明他	2	27	48	77
	碗 計		2	71	109	182
	皿	丸皿	0	4	15	19
		小皿	0	6	16	22
		その他	0	4	2	6
		不明他	0	3	9	12
	皿 計		0	17	42	59
	鉢	丸鉢	0	2	0	2
		その他	0	0	2	2
	鉢 計		0	2	2	4
その他	蓋	0	10	0	10	
	不明他	0	5	4	9	
その他 計		0	15	4	19	
肥前磁器 計			2	105	157	264
常滑産製品	蓋		1	0	44	45
	その他	無頸壺	0	1	0	1
		不明他	4	1	0	5
	その他 計		4	2	0	6
常滑産製品 計			5	2	44	51
不明磁器	碗		0	6	0	6
不明磁器 計			0	6	0	6
総計			34	347	615	996

第1表 土師器・陶磁器集計表(1)

①近世産地材質別集計表

合計：遺存率	テラス			
産地材質	1	2	3	総計
瀬戸美濃陶器	16	220	401	637
瀬戸美濃磁器	11	14	11	36
肥前陶器	0	0	2	2
肥前磁器	2	105	157	264
常滑産製品	5	2	44	51
不明磁器	0	6	0	6
総計	34	347	615	996

②近世器種別集計表

合計：遺存率	テラス			
器種	1	2	3	総計
碗	21	136	327	484
皿	2	67	126	195
鉢	5	64	56	125
壺・瓶	0	41	28	69
甕	1	0	44	45
その他	5	39	34	78
総計	34	347	615	996

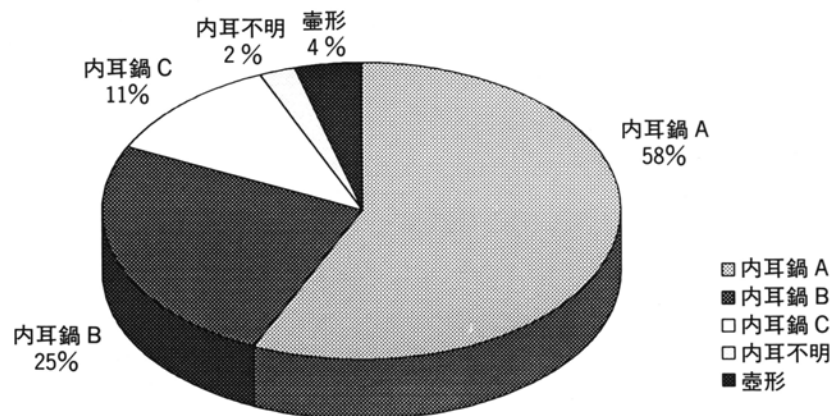
③土師器集計表

合計：遺存率			テラス			
器種	器形	器形 2	1	2	3	総計
鍋	内耳	A	50	89	184	323
		B	45	27	71	143
		C	9	24	32	65
		不明他	2	5	5	12
	内耳 計		106	145	292	543
	壺形		5	6	13	24
	壺形 計		5	6	13	24
	焙烙	A B	1	8	51	60
	1		21	25	47	
	焙烙 計		2	29	76	107
不明他		1	0	1	2	
鍋 計			114	180	382	676
大型製品	火鉢		0	16	5	21
	火鉢 計		0	16	5	21
大型製品 計			0	16	5	21
その他	火のし		0	0	3	3
	蓋		8	3	0	11
	鉢形		0	2	4	6
	その他		0	2	7	9
その他 計			8	7	14	29
皿	ロクロ		40	199	47	286
	非ロクロ	A	9	124	18	151
		B	166	450	259	875
		C	284	31	23	338
		D	349	551	316	1216
		E	149	463	644	1256
		不明他	33	96	58	187
	非ロクロ 計		990	1715	1318	4023
	皿 計			1030	1914	1365
総計			1152	2117	1766	5035

④近世産地材質・器種別集計表

合計：遺存率	器種						
産地材質	碗	皿	鉢	壺・瓶	甕	その他	総計
瀬戸美濃陶器	260	135	120	69	0	53	637
瀬戸美濃磁器	34	1	1	0	0	0	36
肥前陶器	2	0	0	0	0	0	2
肥前磁器	182	59	4	0	0	19	264
常滑産製品	0	0	0	0	45	6	51
不明磁器	6	0	4	0	0	0	6
総計	484	195	125	69	45	78	996

第2表 土師器・陶磁器集計表(2)



第64図 戦国期煮沸具組成図

IV

第Ⅳ章 自然科学分析



第IV章 自然科学分析

第1節 土師器皿・鍋の胎土重鉍物分析

はじめに

愛知県下の遺跡から出土した土器の胎土分析では、ある地域において土器の種類や時代を越えて共通する胎土（尾張地域の両輝石型や西三河型）が認められている。特に考古資料から在地性の強いといわれる土器の分析では、胎土の地域性が顕著に見出されることが多い。本分析の試料である中世の土師器皿もそのような土器の一つである。また、試料の出土した島田陣屋遺跡および牧野城跡の所在する新城市および豊川市は、いわゆる東三河地域にある。この地域は、これまで比較的分析例の少ない地域であることから、尾張地域や西三河地域で見出されたような胎土の地域性は、まだ明瞭になってはいない。したがって、本分析により豊橋平野を中心とする東三河地域の胎土の地域性を明らかにできる可能性がある。

一方、土師器皿と同じ中世から近世にかけて存在した素焼きの土器である鍋類は、土師器皿とは対照的に地域性よりも広域性を示唆する胎土分析の結果が得られている。特に伊勢型鍋と呼ばれる鍋については、愛知県を越えて同じ胎土のものが広がっている可能性がある。また、内耳鍋や焙烙なども、尾張地域において西三河型の胎土が認められている。本分析では、東三河地域の鍋類も分析することにより、これまでに得られてきた皿と鍋の違いが東三河地域でも認められるものかどうか比較検討をする。さらに、浜松市に所在する遺跡から出土した試料との比較も行い、土師器皿や鍋の広域性を検討する。

(1) 試料

試料は、愛知県新城市、豊川市および静岡県浜松市の各市に所在する遺跡から出土した土師器皿または鍋合計50点である。内訳は、新城市島田陣屋遺跡出土土師器皿18点（試料番号2・6・16・17・19～21・43～50）、同鍋11点（試料番号1・7～15・18）、豊川市牧野城遺跡出土土師器皿7点（試料番号34～42）、同鍋4点（試料番号32・33・38・40）、浜松市海東遺跡出土鍋5点（試料番号22～26）、同市城山遺跡出土鍋5点（試料番号27～31）である。

各試料の出土した遺跡名および遺構は、分析結果を提示した第65図に併記する。なお、第65図では左に土師器皿、右に鍋の分析結果を提示した。

(2) 分析方法

これまで、愛知県下で行なわれた胎土分析は、一貫して胎土中の砂分の重鉱物組成を胎土の特徴としてきた。本分析でもこの方法に従う。処理方法は以下の通りである。

土器片をアルミナ製乳鉢を用いて粉碎し、水を加え超音波洗浄装置により分散、#250の分析篩により水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた1/4mm-1/8mmの粒子をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96）により重液分離し、重鉱物を偏光顕微鏡下にて同定した。同定の際、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを不透明鉱物とし、それ以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とした。鉱物の同定粒数は250個を目標とし、その粒数%を算出し、グラフ（第65図）に示した。グラフでは、同定粒数が100個未満の試料については粒数を求めずに主な産出鉱物を提示するにとどめた。

(3) 分析結果

50点の試料のうち、同定粒数100個未満のものは18点あった。これらの試料のほとんどは、同定粒数100個以上を得られた試料の分量に比べて半分かそれ以上である。したがって、これらの試料の胎土は、特に重鉱物の含量が少ないということではない。これらの分析結果は、認められた中で主な鉱物を提示するにとどめた。以下に土師皿と鍋とに分けて、各遺跡ごとに結果を述べる。

<土師器皿>

a) 島田陣屋遺跡

どの試料も角閃石（ここでは特に断らない限り普通角閃石のことを指す）を含むことで共通するが、その量比と角閃石以外の鉱物の種類は様々である。試料番号2は、電気石が最も多く、次に角閃石が多い。他に黒雲母、ジルコン、ザクロ石を少量含む。試料番号3は、角閃石が最も多く、次に黒雲母が多い。試料番号4は、「その他」とした変質粒が非常に多く、少量の角閃石と微量の斜方輝石、黒雲母、ザクロ石を伴う。試料番号5も「その他」が多いが、少量の角閃石と緑レン石が特徴である。試料番号6は、角閃石が非常に多く、少量の黒雲母と微量のザクロ石、緑レン石、電気石を伴う。試料番号16も角閃石が非常に多いが、試料番号6をはじめとする他の試料の角閃石の結晶よりも新鮮であり、普通角閃石以外の角閃石も少量認められる。他に少量の斜方輝石、紅柱石、ザクロ石を伴う。試料番号20は、「その他」とした変質粒が非常に多く、少量の角閃石と微量の斜方輝石、ザクロ石を伴う。試料番号21および50も「その他」とした変質粒が非常に多いが、伴う鉱物は、角閃石、ジルコン、ザクロ石である。試料番号44は、角閃石が非常に多く、少量の斜方輝石、電気石、微量のジルコン、ザクロ石、緑レン石を伴う。

同定粒数100個未満の試料はすべて角閃石を含む。そのうち、試料番号17と19は、斜方輝石とザクロ石を伴い、試料番号46と48はザクロ石を伴う。試料番号45・47・49は黒雲母を

伴う。

b) 牧野城遺跡

7点の試料のうち、同定粒数100個以上を得られたのは、試料番号35と37の2点のみである。どちらも「その他」とした変質粒が多く、少量の角閃石、ザクロ石、電気石を伴うが、前者はさらに少量のジルコンを伴うことが特徴である。

同定粒数100個未満の試料は、どれも角閃石とザクロ石を含む。そのうち試料番号34はさらに電気石、試料番号39は斜方輝石 試料番号42は緑レン石と電気石をさらに含む。

<鍋>

a) 島田陣屋遺跡

試料番号1および9は、角閃石が多く、少量の黒雲母とザクロ石を含む。試料番号7および15は、「その他」とした変質粒が多く、少量の斜方輝石、角閃石、緑レン石を伴う。試料番号8・12・13・14は、角閃石が多く、少量の斜方輝石、普通角閃石以外の角閃石、微量のザクロ石と電気石を伴う。試料番号10は、「その他」とした変質粒が最も多く、少量の斜方輝石、角閃石、微量の紅柱石、ジルコン、ザクロ石、電気石を伴う。試料番号18は、角閃石が多く、少量の黒雲母とジルコンを伴う。

b) 海東遺跡

同定粒数100個未満の試料はない。どの試料も「その他」とした変質粒が非常に多いことが特徴である。そのうち試料番号24を除く4点は、微量～少量の角閃石、黒雲母、紅柱石、ジルコン、電気石を含み、さらにそのうち試料番号25を除く3点は、ザクロ石と緑レン石を含む。試料番号24は、微量の角閃石と黒雲母を含む。

c) 城山遺跡

同定粒数100個以上の試料は、試料番号30の1点のみである。試料番号30は、「その他」とした変質粒が非常に多く、これに少量の角閃石、ジルコン、ザクロ石、電気石を伴う。同定粒数100個未満の試料は、すべて斜方輝石を含み、そのうち試料番号27は角閃石とザクロ石、試料番号28は、緑レン石と電気石をさらに含む。

d) 牧野城遺跡

同定粒数100個未満の試料はない。どの試料も「その他」とした変質粒が非常に多い。そのうち、試料番号32は、少量の角閃石、ザクロ石、電気石、微量の普通角閃石以外の角閃石、紅柱石、ジルコン、緑レン石を含む。試料番号33と38は、ともに少量の斜方輝石、角閃石、ジルコン、ザクロ石、電気石を含む。試料番号38は、さらに紅柱石と緑レン石も含む。試料番号40は、微量の斜方輝石、角閃石、ザクロ石、緑レン石、電気石を含む。

(4) 考察

尾張・西
三河地域
との関係

これまでの分析により、尾張地域における中世～近世の土師器皿は、ほぼ全てが尾張地域特有の両輝石型の胎土を示し、その製作と流通は尾張地域内で収まっていたと考えられる。一方、尾張地域の鍋類は、ほとんどが西三河地域からの搬入品である可能性が示唆さ

れている。このような分析結果と器種の性格から、土師器皿はいわゆる在地性が強く、鍋は搬入品が多かったことが想定される。今回の島田陣屋遺跡の土師器皿と鍋の分析結果では、両者の胎土に出現する鉱物の種類は類似するが、その量比においては類似する胎土は認められず、全体的にも差異が存在する。すなわち、土師器皿の胎土は互いに類似するものがなく雑多であるが、鍋の胎土は結果に記載したように5種類程度にまとめられるのである。この両者の胎土の違いは、尾張地域におけると同様に在地と搬入の違いを表すものであろうか。まず、どちらの胎土にも両輝石型も西三河型も認められないことから、少なくとも土師器皿と鍋については尾張地域や西三河地域からの搬入は、ほとんどなかったと考えられる。

豊川下流域との関係

次に、豊川下流域にある牧野城遺跡との比較では、土師器皿では類似するものは認められず、鍋では試料番号10の1点のみが牧野城遺跡の鍋の胎土に類似する。したがって、土師器皿や鍋の両遺跡間での流通はあまりなかった可能性が高い。仮に牧野城遺跡の状況が豊川下流域の状況を代表するものであるとすると、島田陣屋遺跡の土師器皿と鍋には、豊川下流域からの搬入はごくわずかであったことになる。

西遠地域との関係

東三河地域と隣接する西遠地域との関係はどうであろうか。本分析における浜松市所在の2遺跡の鍋に認められる胎土は、2遺跡間の差異はそれほどなく、「その他」の多さと多種の鉱物が認められることで特徴づけられる（ただし、城山遺跡で認められる斜方輝石が海東遺跡ではほとんど認められていないという違いはある）。このような特徴は、牧野城遺跡の土師器皿および鍋の試料全てに認められるが、島田陣屋遺跡の試料では上述の試料番号10に認められただけである。この状況から、島田陣屋遺跡の土師器皿および鍋は、西遠地域からの搬入品はほとんどなかった可能性が高い。これに対し、牧野城遺跡の土師器皿や鍋では、西遠地域からの搬入品が多かった可能性がある。

遺跡周辺の地質

ところで、豊川中流域を取り囲む地質学的な背景は、比較的複雑である。最も主要な地質は、領家帯の花崗岩であり、これは角閃石および黒雲母の供給源となる。そして豊川の右岸には領家帯の変成岩、左岸には三波川帯の変成岩が広く分布する。これらの変成岩は、ザクロ石や電気石、緑レン石などの鉱物を含む。さらに、新城市よりも上流の豊川右岸には設楽層群と呼ばれる新第三紀の地質（設楽火山岩団研究グループ，1979）が分布している。設楽層群の中には、凝灰岩や安山岩からなる地質が比較的多くあり、これらの地質は斜方輝石、黒雲母、ザクロ石などを多く含んでいる（沢井・設楽団研究グループ，1985）。島田陣屋遺跡の土器胎土に見られる重鉱物組成は、上述の豊川中流域の地質学的背景をよく反映している。

在地性

以上のことから、島田陣屋遺跡から出土した土師器皿や鍋は、豊川中流域を中心とする在地性の高い土器であるということが出来る。このことと土師器皿と鍋の胎土の状況が異なることを考え合わせると、以下のような推定ができる。①豊川中流域では、土師器皿や鍋などの素焼きの土器生産と流通はほとんど域内で収まっており、域内から出ることもなくまた他地域、近接した豊川下流域からさえもほとんど搬入されることはなかった。②豊

川中流域では土師器皿の製作地は比較的多数あったが、鍋の製作地はある程度限られていた。③豊川中流域では土師器皿に適した土は入手しやすかった（どこにでもある）が、鍋に適した土は採取場所がある程度限られていた。ここでいう「適した」とは、成形ができてもその後の機能に耐え得るという意味である。④土師器皿も鍋も製作地は限られていたが、一つの製作地で複数種の素地土からなる製品が作られていた。

上述の4項のうち、①については、豊川下流域や西遠地域の分析例をさらに増やして、本分析で得られた結果がその地域を代表するものであるかどうか確かめる必要がある。②～④については、豊川中流域内での分析例の蓄積と自然堆積物（河川砂や粘土など）の分析、さらに生産地の発掘とそこにおける分析が必要であろう。今後の継続的な分析により、尾張地域や西三河地域とは異なった様相を持つらしい東三河地域での土器の状況を明らかにすることができると思われる。

（パリノ・サーヴェイ株式会社）

文献

沢井 誠・設楽団体研究グループ（1985） 設楽から見た瀬戸内火山岩類，地団研専報，29,p.131-136
設楽火山岩団体研究グループ（1979） 愛知県設楽火山岩類の火山層序（概報），地球科学，33,p.129-136

謝辞

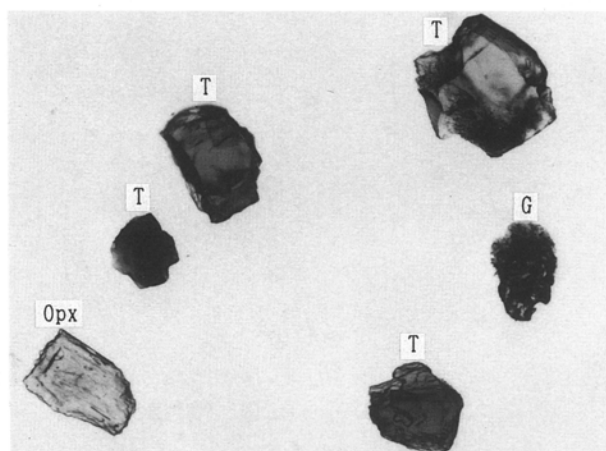
今回の島田陣屋遺跡の土師器皿と鍋の胎土分析を行なうにあたり、豊川市牧野城遺跡出土の土師器皿・鍋と浜松市海東遺跡（未発表資料）、同城山遺跡の鍋を比較資料とした。資料提供を快諾していただいた豊川市教育委員会および浜松市博物館には記して感謝を表します。

（都築暢也）

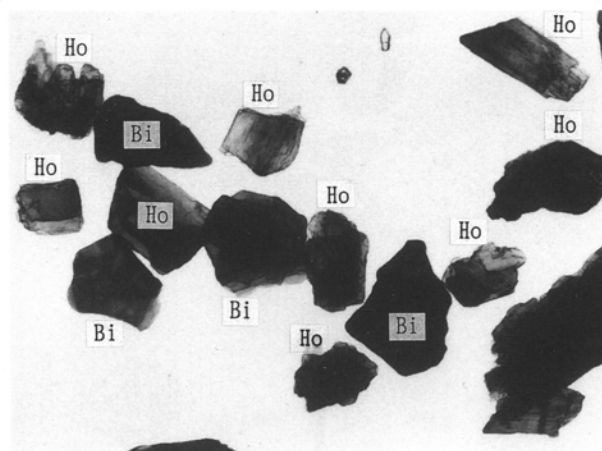
試料番号	遺跡名	遺構	器種	器形	斜方輝石	単斜輝石	普通角閃石	他の角閃石属	黒雲母	紅柱石	ジルコン	カンラン石	ザクロ石	緑レン石	電気石	不透明鉱物	その他	固定鉱物粒数
①	島田陣屋	SD03	鍋	内耳鍋B	17	4	91		32	3	2		37		7		57	250
②	島田陣屋	SD04	皿	非ロクロC	2		37		4		2		7		80		22	154
③	島田陣屋	SD04	皿	非ロクロC	3	1	132		71		1		2	1	5		34	250
④	島田陣屋	SD04	皿	不明	6	1	20		5				5				213	250
⑤	島田陣屋	SD06	皿	非ロクロB	7		22						1	14		7	86	137
⑥	島田陣屋	SD04	皿	非ロクロC		1	174		15	1			5	7	6	1	40	250
⑦	島田陣屋	SD06	鍋	内耳鍋B	14	3	24			1				15	1	1	191	250
⑧	島田陣屋	SD03	鍋	内耳鍋A	19	3	154	42					9		5		18	250
⑨	島田陣屋	SD29	鍋	内耳鍋C			118		49		1		7	1	1		73	250
⑩	島田陣屋	III J 12c 検IV	鍋	内耳鍋B	21		35		2	1	4		10	1	8	6	162	250
⑪	島田陣屋	III J 12c	鍋	内耳鍋A	3		3				3		4	1			51	65
⑫	島田陣屋	III J 11d 検IV	鍋	内耳鍋A	17	1	182	13	1		1		9		9		17	250
⑬	島田陣屋	SD02	鍋	内耳鍋A	24	3	164	25			1		5		3	1	24	250
⑭	島田陣屋	SD03	鍋	内耳鍋A	27	3	171	24		4			3		2		16	250
⑮	島田陣屋	III J 11d 検IV	鍋	内耳鍋C	39	2	56						2	8	1	2	140	250
⑯	島田陣屋	III J 11d 検IV	皿	非ロクロA	15	8	144	9	2	9			40		6		17	250
⑰	島田陣屋	III J 11d 検IV	皿	非ロクロA	5	2	29	1	1		1		4		1		18	62
⑱	島田陣屋	III J 11d 検IV	鍋	内耳鍋A			141	1	30		9						69	250
⑲	島田陣屋	III J 12c 検IV	皿	非ロクロB	2		4				1		2		1	3	28	41
⑳	島田陣屋	III J 11d 検IV	皿	不明	10		44	2					3				191	250
㉑	島田陣屋	III J 12c 検IV	皿	非ロクロB	1	1	13		1	1	5		4				107	133
㉒	海東		鍋	内耳鍋C	4	2	11	1	3	7	11		9	4	9	5	184	250
㉓	海東		鍋	内耳鍋C			6	2		2	3		5	7	7		148	180
㉔	海東		鍋	内耳鍋C			3		7		1						239	250
㉕	海東		鍋	内耳鍋C			2		3	3	5				3		158	174
㉖	海東		鍋	内耳鍋C	4	1	17	1	4	3	6		5	14	4	2	189	250
㉗	城山	SD01	鍋	内耳鍋B	5	1	6		1		2		5				64	84
㉘	城山	SD01	鍋	内耳鍋B	34		2						1	4	5	2	8	56
㉙	城山	SD01	鍋	内耳鍋B	3		1						1		1	1	8	15
㉚	城山	SD01	鍋	内耳鍋B	4		8	1			6		15		10	1	205	250
㉛	城山	SD01	鍋	内耳鍋B	17	1	1								1		2	22
㉜	牧野城	包含層	鍋	内耳鍋B	2		27	4		3	3		12	6	42	4	147	250
㉝	牧野城	包含層	鍋	内耳鍋B	20		9	1		1	6		5	1	5	1	114	163
㉞	牧野城	SD304	皿	非ロクロD			7	1			2		4	3	5		42	64
㉟	牧野城	SD304	皿	非ロクロB	11	1	23			3	9		16	3	10	2	172	250
㊱	牧野城	SD304	皿	非ロクロB	2		8				1		13		3	1	57	85
㊲	牧野城	SD304	皿	非ロクロB	2		23	1		1	1		9	4	8	9	81	139
㊳	牧野城	包含層	鍋	内耳鍋B	17		4		1	3	4		3	4	8	8	81	133
㊴	牧野城	SX103	皿	非ロクロB	4		1						4				10	19
㊵	牧野城	SX101	鍋	内耳鍋B	3		4			1	1		2	2	3	4	176	196
㊶	牧野城	SX103	皿	非ロクロD	1												5	6
㊷	牧野城	SX103	皿	非ロクロB			3			1	2		4	5	4	2	26	47
㊸	島田陣屋	III I 7r 上面清掃	皿	ロクロ			46		2	1					1		8	58
㊹	島田陣屋	III J 11a 検I	皿	ロクロ	17	1	99				2		2	3	8	5	8	145
㊺	島田陣屋	III J 11d 検IV	皿	ロクロ			43		12				1		3		9	68
㊻	島田陣屋	III J 11d 検II	皿	非ロクロB			3		0	3	1		6		1	4	29	47
㊼	島田陣屋	III I 6q 上面清掃	皿	ロクロ			17		5				2		1		8	33
㊽	島田陣屋	III I 7r 上面清掃	皿	非ロクロB			2		1				4		1	2	32	42
㊾	島田陣屋	III I 6q 上面清掃	皿	ロクロ	2		30		38		1		2		1		4	78
㊿	島田陣屋	III I 7r 上面清掃	皿	非ロクロB			5				6		11				161	183

第3表 試料の胎土重鉱物組成

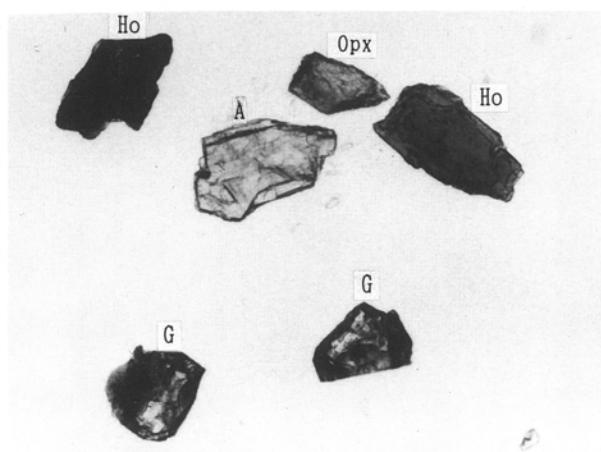
第66図 土師器胎土中の重鉱物



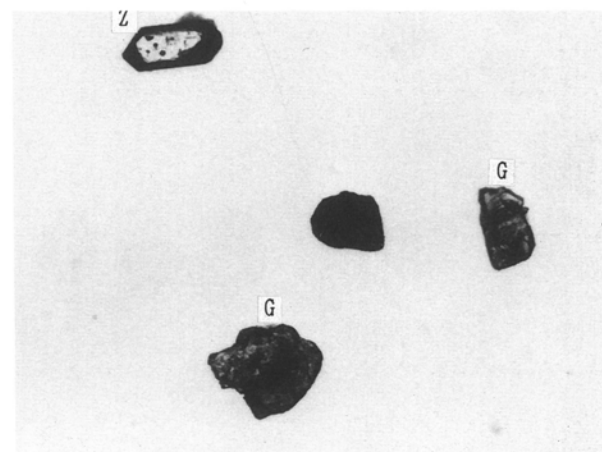
1. 試料番号 2



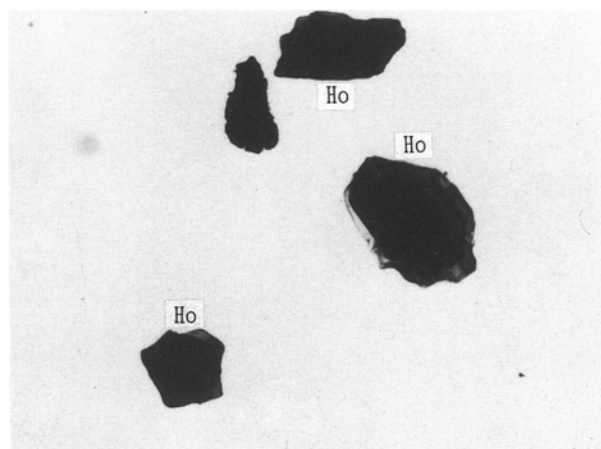
2. 試料番号 3



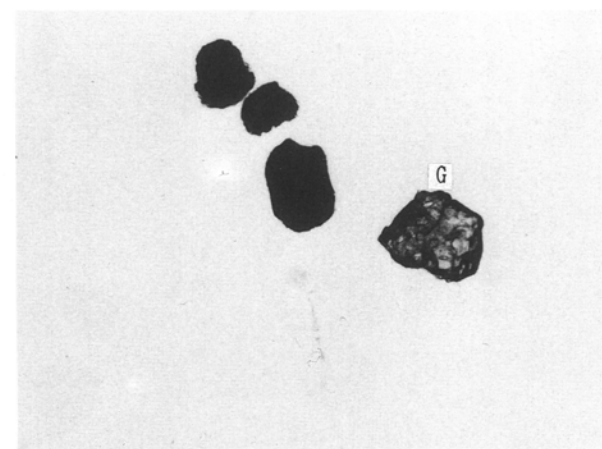
3. 試料番号16



4. 試料番号35



5. 試料番号44

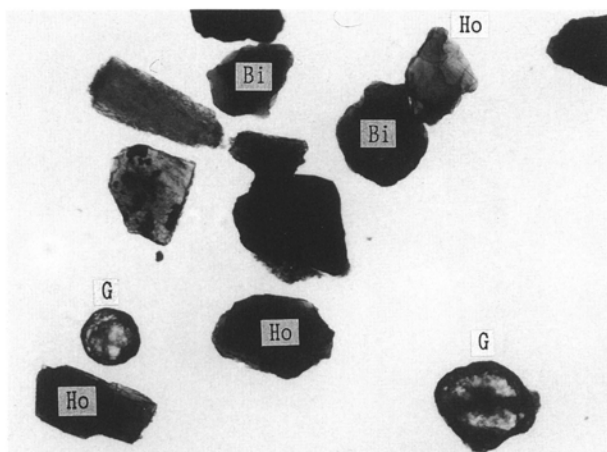


6. 試料番号50

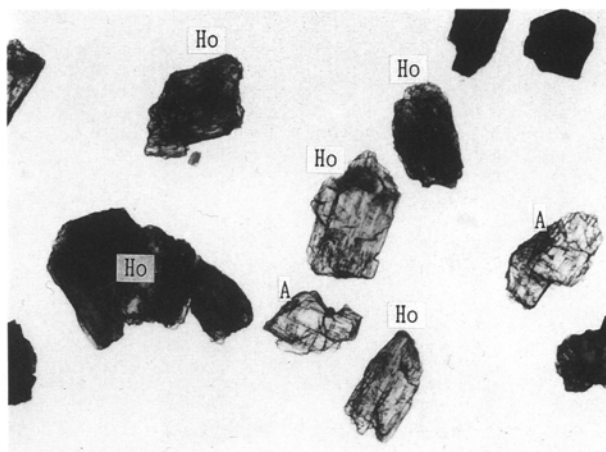
0.5mm

Opx:斜方輝石. Ho:角閃石. A:普通角閃石以外の角閃石. Bi:黒雲母. Z:ジルコン. G:ザクロ石.
T:電気石.

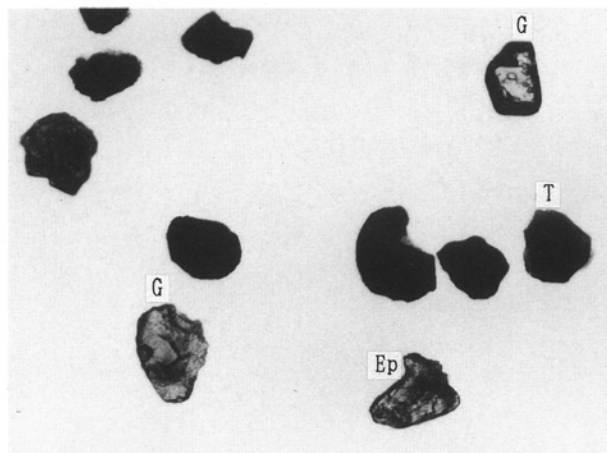
第67図 鍋胎土中の重鉱物



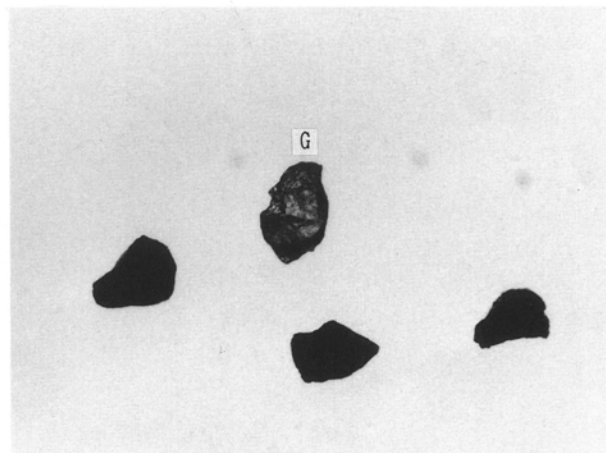
1. 試料番号 1



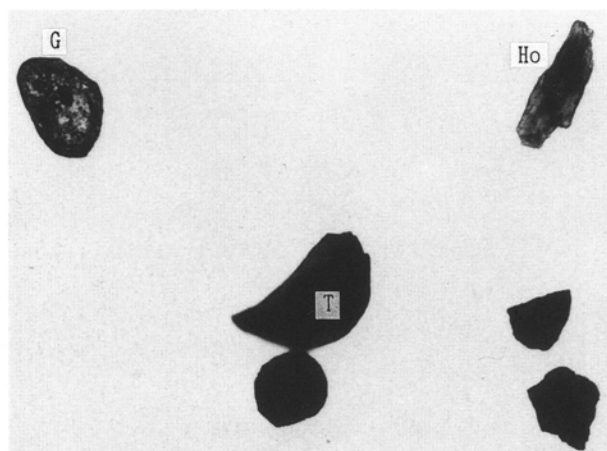
2. 試料番号 8



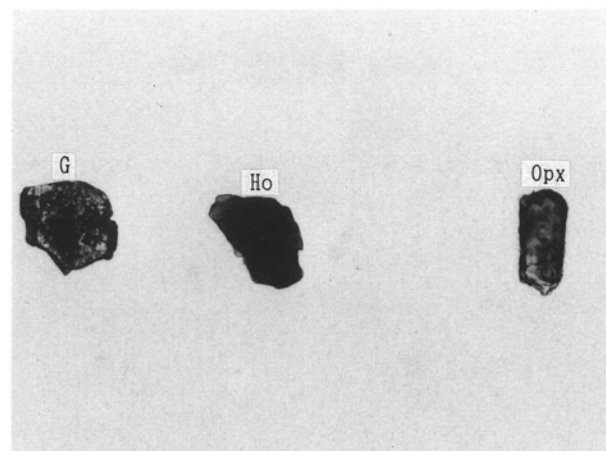
3. 試料番号 22



4. 試料番号 30



5. 試料番号 32



6. 試料番号 33

0.5mm

Opx:斜方輝石. Ho:角閃石. A:普通角閃石以外の角閃石. Bi:黒雲母. G:ザクロ石. Ep:緑レン石.
T:電気石.

V

第V章 まとめ・考察



第V章 まとめ・考察

第1節 遺構の変遷

今回の発掘調査で確認された遺構は、弥生時代・古代・戦国時代・江戸時代に区分することができた。以下、主要遺構の時期別の変遷について整理すると同時に島田陣屋遺跡について2・3の問題点を指摘しておきたい。(第66・67図)

(1) 弥生時代・古代

弥生時代以前には、調査区に明確な遺構は見出されず、旧石器時代の所産と考えられる剥片1点と縄文時代早期の押型文土器と黒曜石製の石鏃1点が、包含層中から出土しているのみである。

また、弥生時代になっても欠山式期以前では、中期の土器片が包含層中より数点、同じく中期前葉と思われる人面付土器片が方形周溝墓S Z 06の周溝中から出土しているだけで、同期の遺構は検出されていない。第I章の「地形・地質と遺跡の立地」で想定されたように、島田陣屋遺跡の南西方向に広がる氾濫原に生産域を求めれば、弥生時代中期に当遺跡周辺で初めて活動の痕跡が残されたのは、今回の調査区の西方にある下位段丘の端部であったであろうと推測される。しかし、中期の集団が小集団であったためか、今回の調査地点は集落の範囲外であったと考えられる。後期前半も同様に、竪穴住居S B 06の埋土上部や包含層中から寄道式の土器が数点出土しているだけで、明確な遺構を伴っていない。

ようやく後期後半の欠山式期になって、集落の居住域の拡大に伴い、調査区にまで居住
竪穴住居 が広がり、調査区の北半部に竪穴住居7棟と方形周溝墓6基が残された。隅田長方形の竪穴住居は一辺5 m前後と3 m程度の2種存在するが、この地域のこの時期の竪穴住居と共通するものである。竪穴住居群は、幾度かの建て替えをしつつ、下位段丘の低位面のなかで最も高位の場所に占地している。ただし、小規模なS B 07だけはやや離れて建てられている。

S B 04とS Z 01、S B 02とS Z 02の遺構の切り合い関係から、竪穴住居（古）→方形周溝墓（新）という新旧関係が明らかになっている。前者の時期を弥生I期、後者の時期を弥生II期とする。

方形周溝墓 一旦、住居域が廃絶した跡に、範囲は南に拡大するがほとんど同じ区域に方形周溝墓が造築される。S Z 06だけは他の方形周溝墓からかなり南に造られているが、「第II章 遺構」で述べたように空白部にも築造された可能性が高い。6基の方形周溝墓は、軸線の方位がN-26.0°~27.0°-WであるS Z 02・03・04の3基と、N-14.5°~21.5°-WであるS Z 01・

05・06の3基の2群に分けることができる。S Z 02→S Z 03、S Z 04→S Z 05という切り合いと位置関係から前者が古く後者が新しいと考えられ、S Z 02を中心に周辺に順次、造墓されたことが見てとれる。ただし、竪穴住居や方形周溝墓から出土する土器は欠山式の範疇で捉えられ、弥生Ⅰ期と弥生Ⅱ期との間に型式差は認められない。比較的短期間に、居住域から墓域へと変化したと考えられる。

また、今回の調査地点では、居住域あるいは墓域を区画する溝は検出されていない。近隣の諏訪遺跡⁽¹⁾のように囲郭する環濠を有する集落ではなさそうである。

弥生時代以降、活動の痕跡は極端に希薄になる。7世紀前半と8世紀末から9世紀初頭にかけての土坑がわずかに2基検出されただけで、古代に属する遺物も少ない。

(2) 戦国時代

約700年間の断絶の後、再び島田陣屋遺跡に遺構が残されたのは戦国時代になってからである。主な遺構としては、幅3～5mの規模の溝4条、柵列1列、建て替えも含めて建物が少なくとも4棟以上、井戸2基などが検出された。

溝 遺跡の北半部で検出されたT字状あるいはL字状を呈する溝は、その形状や規模から堀としての防御の役割をもっていたと考えられる。東西に走る溝の軸線を見ると、N-73.5°～75.0°-E<軸線①と呼ぶ>の方位をもつS D 03・04と、N-66.5°～67.0°-E<軸線②と呼ぶ>の方位のS D 02・06に二分できる。S D 01・02・03・04は近世初頭の整地層によって埋められるまで自然堆積が認められことから判断すると機能を失いつつあったのに対して、S D 06は近世初頭まで機能を有していたと考えられる。

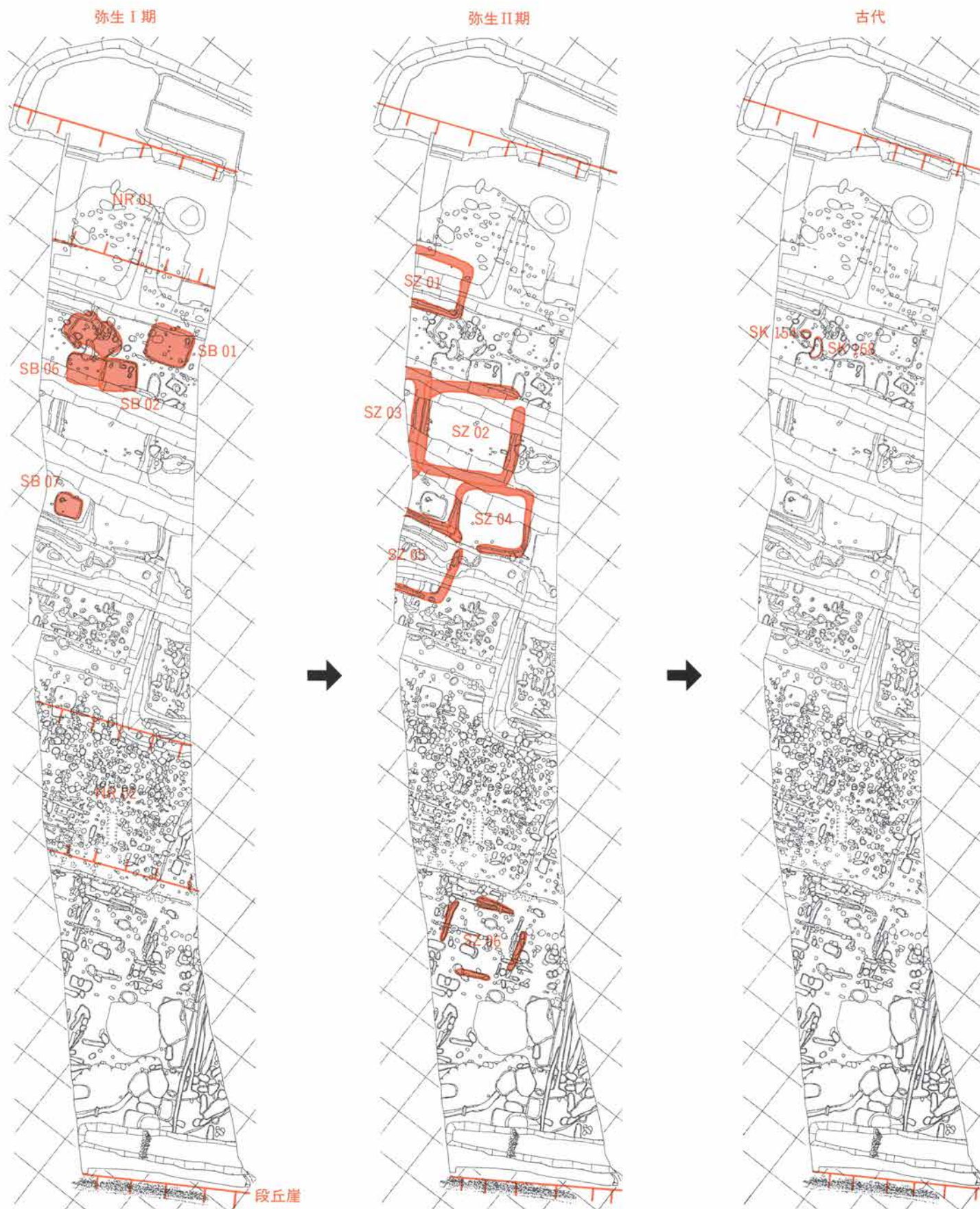
柵列 S D 03の北で検出した柵列S A 01は<軸線①>の方位をもつ。

土塁 また、S D 03・04を埋めた整地層が南から埋められているのを見ると、S D 04の南には土塁の存在を想定できる。この土塁を近世初頭に崩して整地したものと考えられる。

建物 戦国期の建物と考えられるものに、溝と段丘崖との中央にS B 10～13がある。そのうちのS B 10・11・13の軸線の方位はN-75.0°-Eで<軸線①>に、S B 12の方位はN-70.0°-Eで<軸線②>に区分される。柱穴の切り合い関係からS B 13(古)→S D 06・S B 12(新)であることが判明している。

このように溝と建物の関係を総合すると、基本的には<軸線①>(古)→<軸線②>(新)という時間差を想定できる。前者を「戦国Ⅰ期」、後者を「戦国Ⅱ期」とする。ただし、関係遺構から出土した遺物が15世紀後半から16世紀前半に位置付けられるが、Ⅰ期とⅡ期には編年上の時間差は認められない。すなわち、瀬戸美濃窯の編年で言えば大窯Ⅰ・Ⅱ期、中世常滑焼きの赤羽・中野編年⁽²⁾で言えば10・11型式に収まり、想定した時間差を土器型式は表現していない。

井戸 建物の南の段丘崖に近い場所に井戸が2基検出されている。S E 02とS E 03であるが、どちらも石組みの井戸である。2基の井戸はⅠ期に属するのかⅡ期に属するするのかは明



第68図 遺構変遷図 (1)

らかでない。S E 03は近世の溝S D 29によって破壊されているが、S E 02は近世まで存続していた可能性がある。

墓 S D 06から骨蔵器に用いられた可能性のある常滑の壺が4個体以上、また、石垣S W 05の崩落部から五輪塔が出土している。明確な遺構としては認識されないが、戦国期の敷地内のいずれかに墓地があったと推定されよう。

(3) 近世

戦国期の遺構を破壊して近世の遺構が築造されている。主な遺構としては、大小の溝、石垣、土塁、建物、井戸などがある。

整地 盛り土と削平を行なって、段丘の下位面に3つの平坦面を造成していることが認められた。この平坦面を上部（北）から「第1テラス」「第2テラス」「第3テラス」と呼称する。

第1テラス 第1テラスは上位面から下位面に移る段丘崖から中央部の削平部北端までで、南北約45mの規模を有する。S D 04の南にあったと思われる土塁を崩した土で戦国期に掘削された堀S D 01・02・03・04を埋めて平坦面を作っている。また、段丘崖下はこの時期まで凹地になっていたようで、同じように盛り土による整地が行われている。

第1テラスには、北半に建物S B 08の1棟と石組みの井戸S E 01 1基があり、S D 05の廃絶状況から見て、第2テラスとの境に石垣ないしは石垣を伴った土塁が築かれていたと思われる。

第2テラス 第2テラスは削平部から石垣S W 02・03までの範囲で、南北約35mの規模を有する。ただし、北端にはほぼ東西に走る区画溝S D 05とS D 07・08があるため、実際の屋敷地としては南北18～21mの範囲である。北半は黒ボク土層・基盤を0.8m以上削平し、南半は盛り土して平坦面を造り出している。石垣S W 02・03はこの盛り土の土留めのために造られたと考えられる。

S D 07はちょうど戦国期の溝S D 06の箇所ですべて完結すると思われ、そのS D 07の東への延長線上にS B 09のしっかりした根石をもつ長方形の柱穴が並ぶ。単なる塀・柵とは異なる重量のある上部構造を有する建造物を想定することができる。このS B 09の南に平行してS D 08が走る。S D 05とS D 07・S B 09・S D 08を合わせて、第1テラスと第2テラス・第3テラスを大きく区画する構造を有する。

また、この屋敷地は石垣S W 01によって東西にも区画される。石垣S W 01は当初から築造されたのではなく、建物S B 14が廃絶してから造られている。さらに、S W 02とS W 03は軸線の方位をほぼ共有しているけれども、S W 02（古）→S W 03（新）の時間差をもって造られていることが明らかになっている。

第3テラス 第3テラスは石垣S W 02・03から遺跡の南端の段丘崖に築造された石垣S W 05までを指し、南北35mの規模を有する。S W 05に平行して幅3.4mの溝S D 29があるため実際の屋敷地としては南北25mほどである。S D 29は調査区西端で完結し、さらに溝の西部を7.5mほ

どを埋めて石垣SW04によって土留めをして溝を縮めるための改変を行なっている。入口部の拡張に伴う造作であろう。また、SD29の廃絶状況を見ると、SD29の南、すなわち石垣SW05との間に土塁を想定することができる。

この屋敷地から建物が1棟ないしは2棟検出されている。SB15の東部の柱穴の状況から判断すると、かなりの重量の上部構造をもつ建物（蔵か）を想定できる。また、SB15の東には南北に走る小規模な溝SD18～23があり、屋敷地を東西に区画する可能性がある。

SK1313、SK1321、SK1338などの瓦を主体とする廃棄土坑が検出され、19世紀前半に、第3テラスで大規模な改変が行なわれたことを示している。

以上の第1テラスから第3テラスの別に、段丘の上位面南端には土塁が構築された。改変を受けてはいるが現在も比較的良く残っている。土塁の内側と段丘崖の間の6mほどには緩やかな傾斜面が存在してはいるが、構築物は検出されなかった。

このような近世の遺構群の時間差を考えるために、軸線の方位を取り上げて見ると、地形にかなり左右された土塁（N-76.5°-E）とSD29・SW05（N-60.0°-E）、SD18～23（N-28.5°-W）を除けば、すべてがN-66.0°～70.0°-Eの範囲に収まってしまい、時期決定に有効ではない。近世全体を通じて、かなり強い規制が軸方位に働いていたためと考えられる。

また、伴出した陶磁器・土器は、17世紀後半からわずかに出土しはじめ、主体は18世紀後半から19世紀前半である。しかし、残念ながら出土遺物から近世の遺構の変遷をたどることができない。

テラスごとの陶磁器類の遺物カウントの集計を見ると、後世に削平を受けた第1テラスは極端に出土点数が少ない。第2テラスと第3テラスの間を比較すると、第2テラスでは鉢・壺類の占める割合が高いのに対し、第3テラスでは碗と皿、甕の占める割合が高い傾向を示している。（第2表の②）これはテラスのもつ機能差を示していると思われる。

（4）戦国時代の問題

第I章の「地理的・歴史的環境」で見たように、戦国時代の野田の地は、16世紀前半から1560年代までは松平氏対今川氏、1570年代は徳川氏対武田氏の対立抗争の場であった。このような情勢のなかで各拠点に次々と城が築かれていった。

本遺跡で検出された戦国期の遺構は、伝承にも記録にも残されていないが、これらの城の一つと見て間違いない。東西部分は明らかではないが、北に2～3条の堀と土塁、柵列をめぐらし、南は自然の段丘崖で守られた単郭の居館城であったと推定される。堀などから出土した陶磁器類から、15世紀後半から16世紀前半の年代が得られている。生産地と消費地に若干の時間差を考えなければならないが、この時期の情勢を見ると、今川氏に対抗するために、富永氏が大野田城を、菅沼定継が天文年間に石田城を築いており、本遺跡もこの一連の築城に関係していると思われる。

また、遺跡南端の段丘崖に沿って初期の「伊那街道」が走り、豊川の水運が盛んな交通・物資輸送の拠点に占地していることを考えれば、本遺跡が重要な居館城であったと推定される。

中市場村 古城

1740（享保5）年に宝飯郡長山村の佐野監物知堯が著した『三河国二葉松』の中の「三州古城記」には、「中市場村古城」として「二ヶ所アリ、一ヶ所知らず。城所浄古齊俗名六左衛門次に菅沼新八郎定盈（が住した）。武田のために落城した。」と記されている。本遺跡の戦国期の居館城が、上記のことを考慮して、この「中市場古城」に当たる可能性があることを指摘しておきたい。後に触れるが「慶長九年検地帳」に「代官やしき」に隣接して「やしき 六右衛門」とあり、これを受けた『千郷村史』の絵図には「城所六右衛門」の名前が見え、『三河国二葉松』の言う「城所浄古齊俗名六左衛門」に関係があるとするならば、ますますこの可能性が高まる。しかし、「城所浄古齊俗名六左衛門次に菅沼新八郎定盈。武田のために落城した。」とあるのは大野田城のことを指すという考え⁽³⁾もあり、「城所浄古齊俗名六左衛門」と「城所六右衛門」を結びつけることはできないかもしれない。さらに、今回の調査では16世紀後半の陶磁器類が出土していないこと、戦国期の遺構に焼失したあるいは破壊された形跡がないことなど、一致しない点も残される。ただし、出土した金属製品の金具には「三つ盛り三階菱」の紋様が施されるもの（第60図-21）があり、『見聞諸家紋』には武田氏が用いた家紋の一つであるとされ、武田氏に関係した考古遺物として注目される。

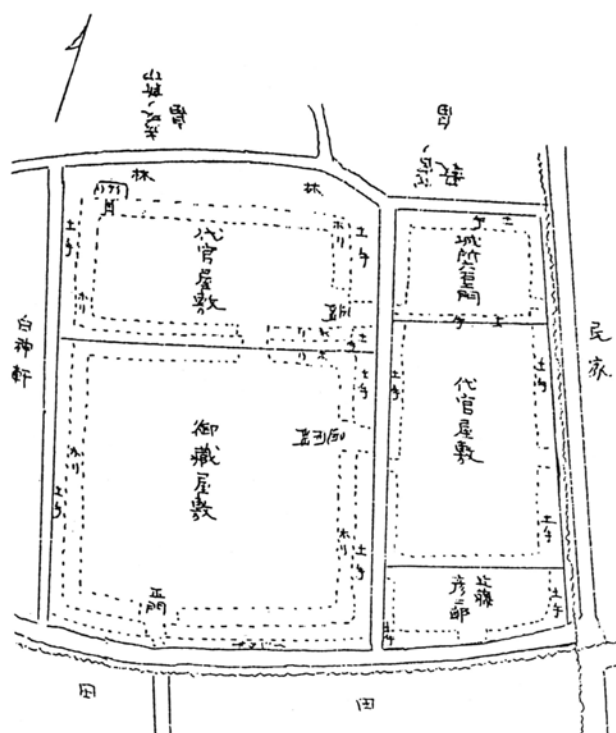
(5) 近世の問題

代官屋敷

1928（昭和3）年に発行された『千郷村史』（以下『村史』）⁽⁴⁾によると、この地に島田氏の陣屋が置かれる以前の1600（慶長5）年に、代官屋敷を「代官曾根源蔵が幕府の命を受けて築造した。」とされる。代官屋敷は「北部は傾斜した林、他の三面は土手を築き内に代官所を始め数棟と稲荷祠と門」をもち、1600（慶長5）年から1625（寛永2）年の間に「曾根源蔵・安藤弥兵衛・彦坂九兵衛・中川勘介」の四代が、在住の代官であったとしている。また、「御蔵屋敷」、代官所元結の住宅として「城所六右衛門屋敷」、代官家族の住宅として「代官屋敷」、代官所加判の住宅として「近藤彦二郎屋敷」が代官屋敷に付随していたことが記されている。さらに、「代官屋敷ノ図 但シ慶長年代」（第70図）が付記されている。

この資料の信憑性について、特に「代官屋敷ノ図」については、出典が定かでないことと描き方が近代的であるとの理由から、後世の脚色ではないかとの疑いがあった。また、出土した近世の陶磁器類が17世紀後半以降で17世紀前半のものが見られないという今回の発掘調査の成果も、否定的な要素であった。

しかし、『慶長九年検地帳』⁽⁵⁾の「野田」の項に「やしき 五畝七歩 六右衛門、同 七畝歩 代官やしき、同 三畝廿歩 同、同 一反八畝廿七歩 御蔵屋敷」がみえ、ここに



第70図 「代官屋敷ノ図」(『千郷村史』より転載)

代官屋敷の置かれていたことが明示されている。そこで、「代官屋敷ノ図」については、あるいは紛失して行方知れずである「慶長検地図」を元にして『村史』編集時に写し直した可能性も否定できない。いずれにせよ想像の域を出ないが、「代官屋敷ノ図」を批判的に援用しつつ、調査で得られた成果と照らし合わせて、この点を検討する必要がある。

島田陣屋 同じく『村史』によると、1625（寛永2）年に「代官所は嶋田家の陣屋とな」り、島田成重以下領主は江戸屋敷に居住することが多く、陣屋には代官あるいは番人を置いたとされる。

『村史』に掲載された陣屋改変の記事は、①1774（安永3）年：従来の建物が腐朽したため規模を縮小して改築、②1850（嘉永3）年：代官所創建時の土蔵数棟と番所の取り壊し、③1853（嘉永5）年：門の移築、④1868（明治元）年：版籍奉還にともないすべての建物が取り壊され笹生地となる、⑤1873（明治6）年：御蔵屋敷と共に竹林とする、⑥1912（明治45）年：畑を作るため土手を崩して堀に埋め、稲荷祠は半壊、門の入口の敷石も掘り出すとなっている。これによると、陣屋は18世紀前半に、御蔵屋敷は19世紀中頃に大きな改変を受けている。また、明治元年には陣屋としての役割を終えて廃絶し、明治末年には一部を残して土塁も崩され現状の姿となったようだ。

調査結果との対比 調査結果を見ると、近世の「第1テラス」と呼んだ平坦面は「代官屋敷ノ図」の「代官屋敷」に当たり、後に陣屋として受け継がれた部分とみられる。「第2・第3テラス」は「御蔵屋敷」に当たり、SB15の柱穴の状況から見て土蔵の存在を想起できる。南北の規模は「第1テラス」が45m、「第2・3テラス」が75mで、「代官屋敷ノ図」の屋敷割の比率とおおよそ合致する。また、「第1テラス」と「第2・3テラス」の間には、北から土塁・S

D05・SD07 (08) があり、SD07の延長線上東方向にはSB09があって特種な建造物が想定された。「代官屋敷ノ図」では、「ホリ・土手・ホリ」で区画され、土塁（土手）と溝の位置関係が調査結果と異なるが、この区画に切れ目が見え、門が想定されることは若干位置が東に偏るけれども調査結果と一致する。また、遺跡の南端のSD29・土塁・石垣SW05には、「ホリ・土手・イシガキ」が対応する。さらに、SD29が調査区西端で終結して「正門」につながることは位置も含め合致している。ただし、石垣SW05の築造技法は17世紀初頭のものとは考えられない。③1853（嘉永5）年の門の移築の際して、SD29の縮小（入口部の拡張）という改変と共に石垣の改築が行なわれた可能性もある。

遺跡の改変については、調査結果と『村史』の記載が概ね、次の2点で一致する。すなわち、第3テラスの瓦・釘を出土する廃棄土坑が②19世紀中頃の土蔵取り壊しに対応し、第2テラスのSD05の廃絶が⑥明治末年の土手の破壊に対応する。

(6) 結語

以上、遺跡の変遷をまとめ、限られた文献資料を、調査成果と対比させて若干の問題点を指摘した。遺跡の内部構造のさらなる分析と関係史料も含めた周辺遺跡の調査の蓄積を行なうことで、島田陣屋遺跡の構造と歴史的位置付けを明らかにすることができるものと考えられる。

（都築暢也）

- 註 (1) 酒井俊彦編 1989 『諏訪遺跡・杉山端城跡』 財愛知県埋蔵文化財センター
鈴木隆司編 1994 『諏訪遺跡発掘調査報告書』 新城市教育委員会
- (2) 中野晴久 1994 「赤羽・中野「生産地における編年について」」『全国シンポジウム「中世常滑焼をおって」資料集』
- (3) 渡辺靖氏教示
- (4) 今泉忠左衛門編 1928 『千郷村史』
- (5) 新城市教育委員会 1969 『新城市誌資料―慶長九年検地帳集成』

第2節 土師器の胎土重鉍物分析について

島田陣屋遺跡出土の遺物は、縄文時代から近世までの各時期に及ぶ。遺構が検出され遺物量が安定しているのは、弥生時代後期、戦国から近世にかけての時期である。弥生土器については第Ⅲ章第1節(1)で簡単なまとめを行い、戦国から近世にかけての遺物については第Ⅲ章第4節で陶磁器、土師器のカウントの結果を掲載した。これらを各時期の遺物のまとめにかえたい。本節ではバリノ・サーヴェイ株式会社による土師器の胎土重鉍物分析の報告(第Ⅳ章を参照)をもとに、第Ⅲ章第4節で示した土師器の分類に照らし、再度検討を加えてみたい。また、本センターが昭和61・62年に調査を行った新城市杉山遺跡での分析結果も合わせて検討する。

(1) 分析資料の概要(第71・72図)

島田陣屋遺跡 本遺跡出土資料のサンプルは、鍋11点、皿18点である。鍋はいずれも内耳鍋で、A 5点、B 4点、C 2点。皿はロクロ5点、非ロクロはA 2点、B 6点、C 4点、E 1点で、Eの17が近世である以外は全て戦国期と考えてよい。

杉山遺跡 豊川中流域右岸の低位段丘上に位置する。本遺跡からの距離は北約2 kmと近接し、時期も戦国期については15世紀から16世紀と本遺跡とほぼ同時期の遺跡である⁽¹⁾。杉山遺跡については、中世から戦国期の土師器37点について、バリノ・サーヴェイ株式会社に依頼し胎土重鉍物分析を実施している。このうち、本遺跡での分類に該当し、なおかつ分析の結果重鉍物が100点以上同定された資料について比較対象とした。内訳は内耳鍋A 2点、B 1点、皿の非ロクロDが3点である。各遺物の番号は報告書記載のサンプルNo.に対応している。

牧野城跡 豊川下流域右岸の低湿地に位置する遺跡で、島田陣屋遺跡からは南西に約9 km離れている。15世紀～16世紀初頭に主体をおき、島田陣屋遺跡とほぼ同時期の遺跡である。鍋、皿とも本遺跡と共通する器形が多くみられる。サンプルとして用いた資料は内耳鍋と皿で、内耳鍋はB 5点、皿は非ロクロB 5点、D 2点である⁽²⁾。

城山遺跡 静岡県浜松市に所在する弥生時代から戦国期にかけての複合遺跡である。浜名湖と天竜川の間位置する。資料は大溝S D01から出土した内耳鍋B 5点で、共伴した陶器から15世紀中葉から後半にかけてとみられる⁽³⁾。

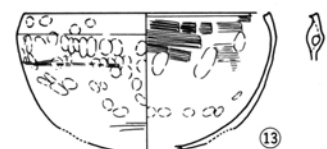
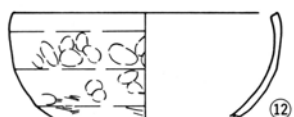
海東遺跡 天竜川下流の右岸に立地し、城山遺跡とは東に約5 km離れている。資料は5点とも内耳鍋Cに分類されるものである⁽⁴⁾。

(2) 内耳鍋の胎土(第73図)

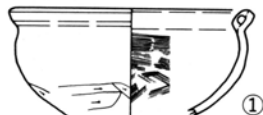
バリノ・サーヴェイ株式会社の分析報告では、豊川流域の遺跡でも島田陣屋遺跡と牧野城跡では異なる胎土を用い、豊川中流域での鍋の生産と流通はほとんど域内で収まっている。

島田陣屋遺跡

内耳鍋 A

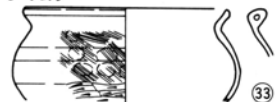


内耳鍋 B



牧野城跡

内耳鍋 B



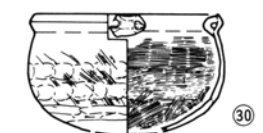
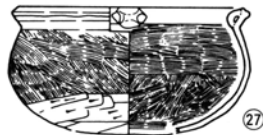
海東遺跡

内耳鍋 C



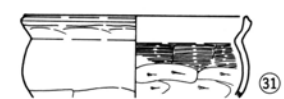
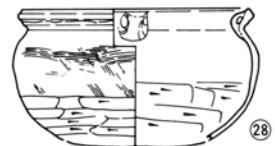
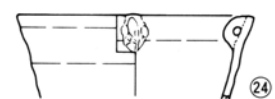
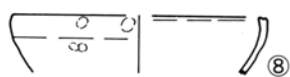
城山遺跡

内耳鍋 B

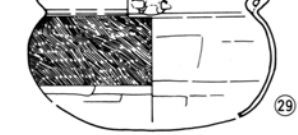
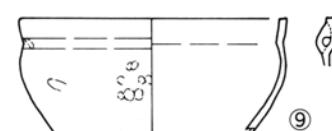
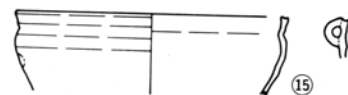


杉山遺跡

内耳鍋 A

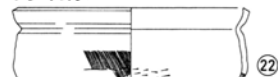


内耳鍋 C



0 cm 20

内耳鍋 B



第71図 内耳鍋分析資料実測図 <1 : 8>

たことが示唆されている。

本節では同定鉱物数100個以上の資料について、分類別にグラフに示した（第73図）。以下、分類ごとに胎土の構成についてみていく。

内耳鍋A 同定可能な資料は島田陣屋遺跡と杉山遺跡の資料で、いずれも豊川中流域の資料である。まず、島田陣屋遺跡であるが、資料18を除く4点は、普通角閃石を主体とし他の角閃石、斜方輝石、ザクロ石を一定量含み、少量の単斜輝石、ザクロ石、電気石を含む。極めて共通性が強く、内耳鍋Aの生産に特定の素地が用いられていたことを窺わせる。杉山遺跡の資料は黒雲母が鉱物の大半を占め、ザクロ石、電気石が少量伴うという構成で、やはり共通性がある。しかし、近接する島田陣屋遺跡との共通性は全く認められない。

内耳鍋B 島田陣屋遺跡の資料は3点である。その他の変質粒が多く、角閃石、斜方輝石を一定量含む。細かな組成比にはばらつきがあるが、同遺跡の内耳鍋Aとは明らかに異なる組成を示す。このうち資料10は第IV章でも指摘されているように、牧野城遺跡出土資料との共通性が強く、搬入品の可能性がある。牧野城遺跡ではその他の変質流が主体で、少量の斜方輝石、普通角閃石、ジルコン、ザクロ石、電気石を含み、一定の共通性がみられる。杉山遺

島田陣屋遺跡

非ロクロA



非ロクロB



非ロクロC

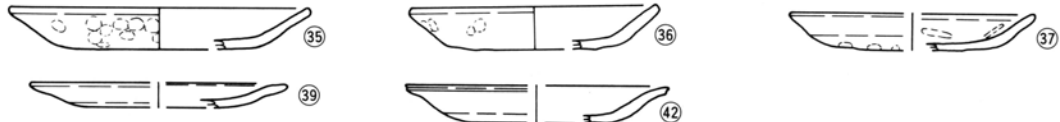


非ロクロE



牧野城跡

非ロクロB



非ロクロD

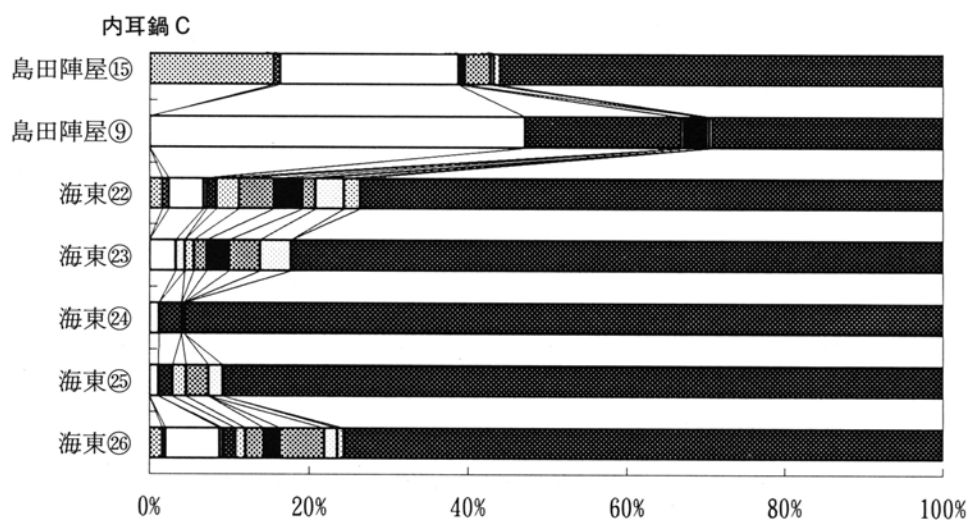
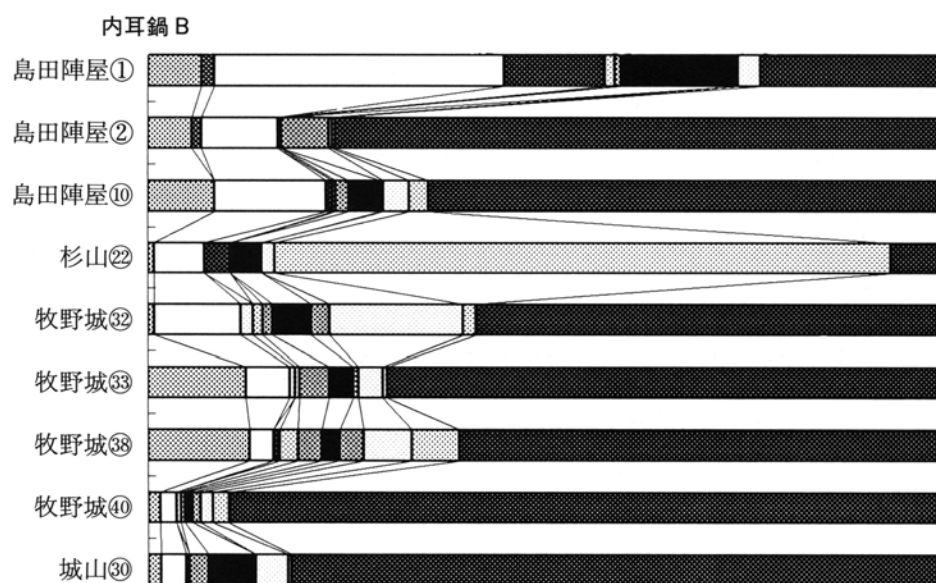
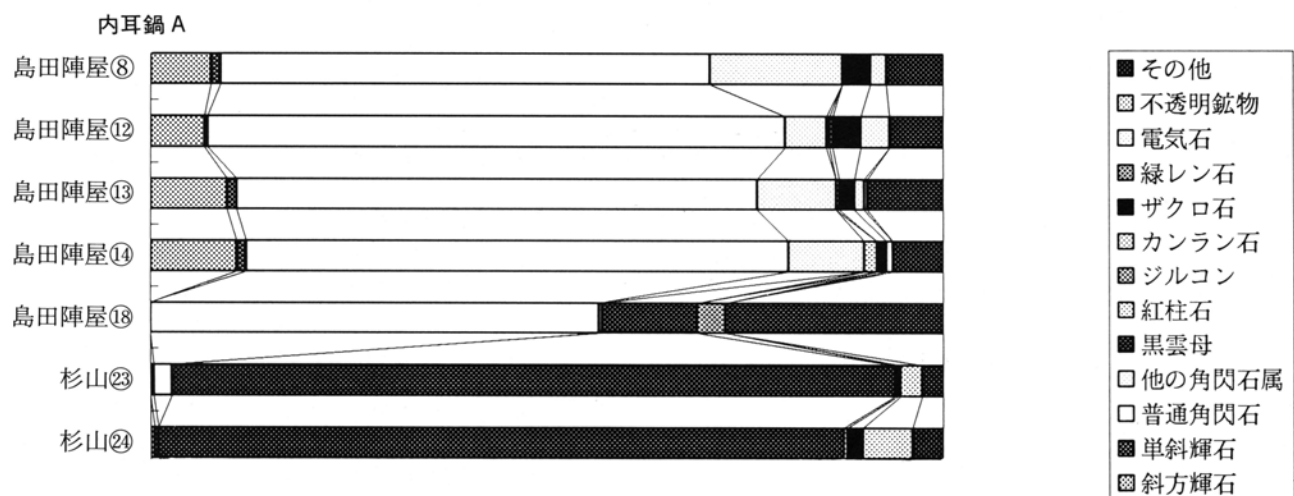


杉山遺跡

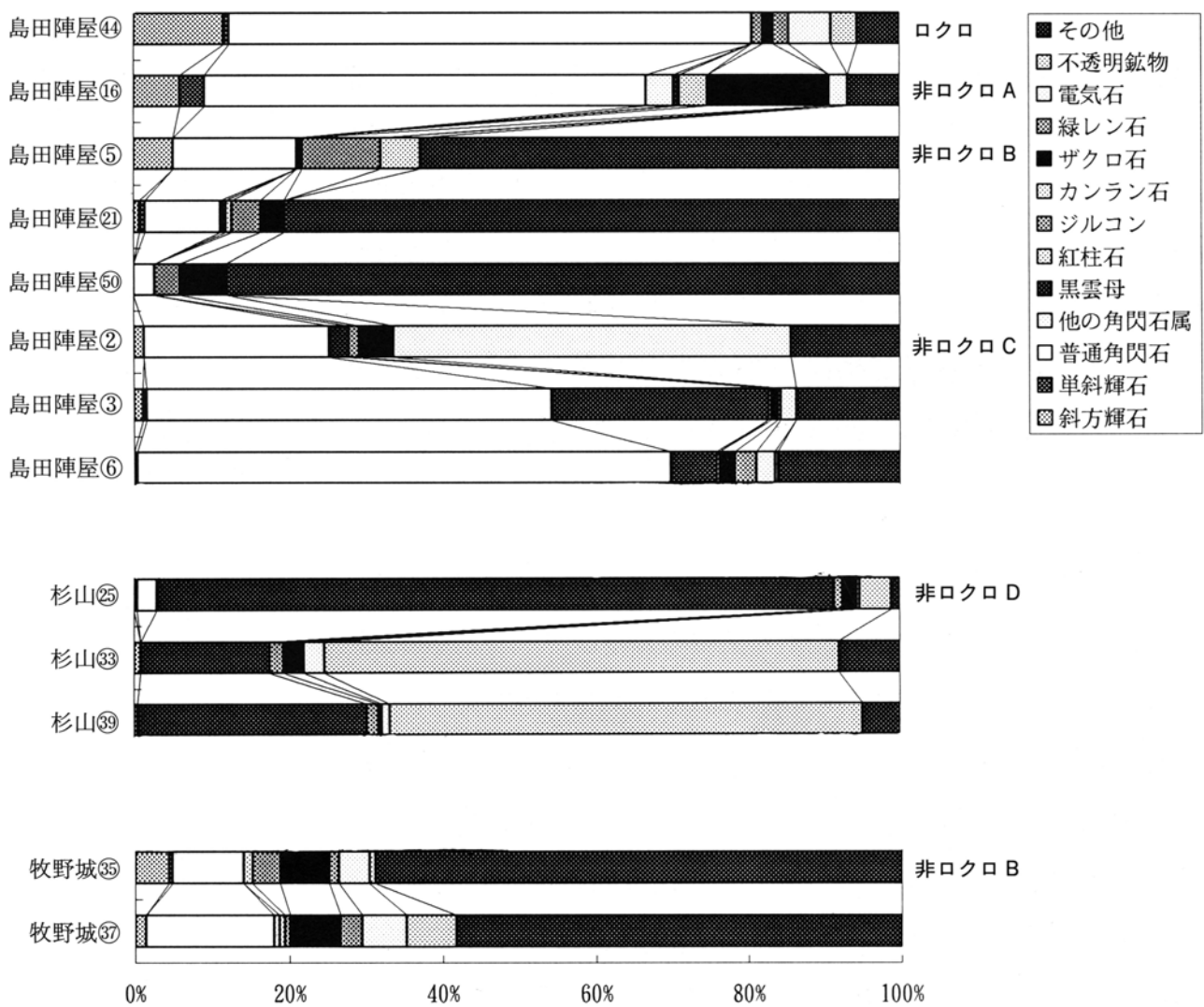
非ロクロD



第72図 土師器皿分析資料実測図〈1:4〉



第73図 内耳鍋重鉍物組成



第74図 土師器皿重鉱物組成

跡の資料は1点のみで比較は難しいが、島田陣屋遺跡とも牧野城跡とも異なるようである。

内耳鍋C 島田陣屋遺跡で同定可能な資料は2点のみ。いずれも角閃石を一定量含むが、それぞれ異なる組成である。内耳鍋Aとは全く異なり、Bとも鉱物の構成比に違いがみられる。海東遺跡の資料はその他の変質粒が多く、少量の角閃石、黒雲母、紅柱石、ジルコン、電気石を含む。やはり用いられる胎土に共通性がみられる。

(3) 土師器皿の胎土 (第74図)

鉱物組成は第IV章でもふれられているように類型化は難しい。なおかつ、同定数100個未満の資料が多く、分類別に比較することも困難である。ここでは遺跡別にまとめ、各遺跡の胎土の特徴を中心に概観する。

島田陣屋遺跡 ロクロ1点、非ロクロA1点、B3点、C3点が同定鉱物数100個以上の資料である。3点の同定資料のある非ロクロBではその他の比率が高く、斜方輝石、普通角閃石、ジルコ

ン、ザクロ石等が少量含まれる。他の分類とは異なる鉱物組成である。他は普通角閃石の量が多いという特徴はあるが、比較資料が少なく各分類の特徴を抽出するのは難しい。

杉山遺跡 いずれも非ロクロDである。資料33と39は不透明鉱物を主体とし、黒雲母、ザクロ石、電気石が組成しかなり似通った構成である。しかし、3点とも島田陣屋遺跡とは異なった鉱物組成である。内耳鍋でもみたように、黒雲母ないしは不透明鉱物が多く組成するのがこの遺跡の特徴であろうか。

牧野城跡 B類2点であるが、鉱物組成の共通性は強い。普通角閃石の占める比率がやや高いが、むしろ同遺跡の内耳鍋Bに近い胎土であろう。島田陣屋遺跡とも杉山遺跡とも類似しない。

(4) まとめ

以上、形態と胎土との関係を中心に概観してきた。この結果を以下のようにまとめる。

①遺跡ごとに異なる胎土を用いている。これは島田陣屋遺跡と牧野城跡のような豊川中流域と下流域といった小地域間での差異だけでなく、同じ地域内の島田陣屋遺跡と杉山遺跡の間でも認められる。

②内耳鍋の場合、各遺跡ごとに限定すれば、形態と胎土にはある程度の関連性を認めることができる。島田陣屋遺跡ではA、B、Cとも異なる組成を示し、特にAについては特定の組成を抽出することができた。B、Cについても分析資料を蓄積することで、形態と胎土との関連を類型化できると思われる。

③土師器皿については、島田陣屋遺跡の非ロクロB、杉山遺跡の非ロクロD、牧野城跡の非ロクロBなど、ある程度の傾向を読みとれるものもあるが、資料数が揃わず今後の課題となる部分が多い。

鉱物組成の差が生産地だけでなく製作者集団の違いも反映しているとすれば、豊川流域の各遺跡の土師器はそれぞれ異なる製作者集団より供給されていたことになる。今回の資料では近接する遺跡間でもほとんど搬入は認められず、生産と流通の範囲がきわめて狭小で特定の遺跡と結びついていたことすら窺わせる。また、内耳鍋については各分類ごとに胎土が異なるとみられ、さらに複数の製作者集団に分かれる可能性もある。分析資料数、各遺跡の性格付け等問題は多いが、土師器の生産と流通の構造は想像以上に複雑なものであり、今後詳細な検討を加えるべき課題であろう。

(原田 幹)

註 (1) 北村和宏編 1988 『杉山遺跡』 勸愛知県埋蔵文化財センター

(2) 林弘之編 1993 『牧野城跡』 豊川市教育委員会

豊川市教育委員会の御協力により、報告書未掲載資料から分析資料を提供していただいた。

(3) 鈴木敏則編 1994 『城山遺跡Ⅴ』 浜松市文化協会

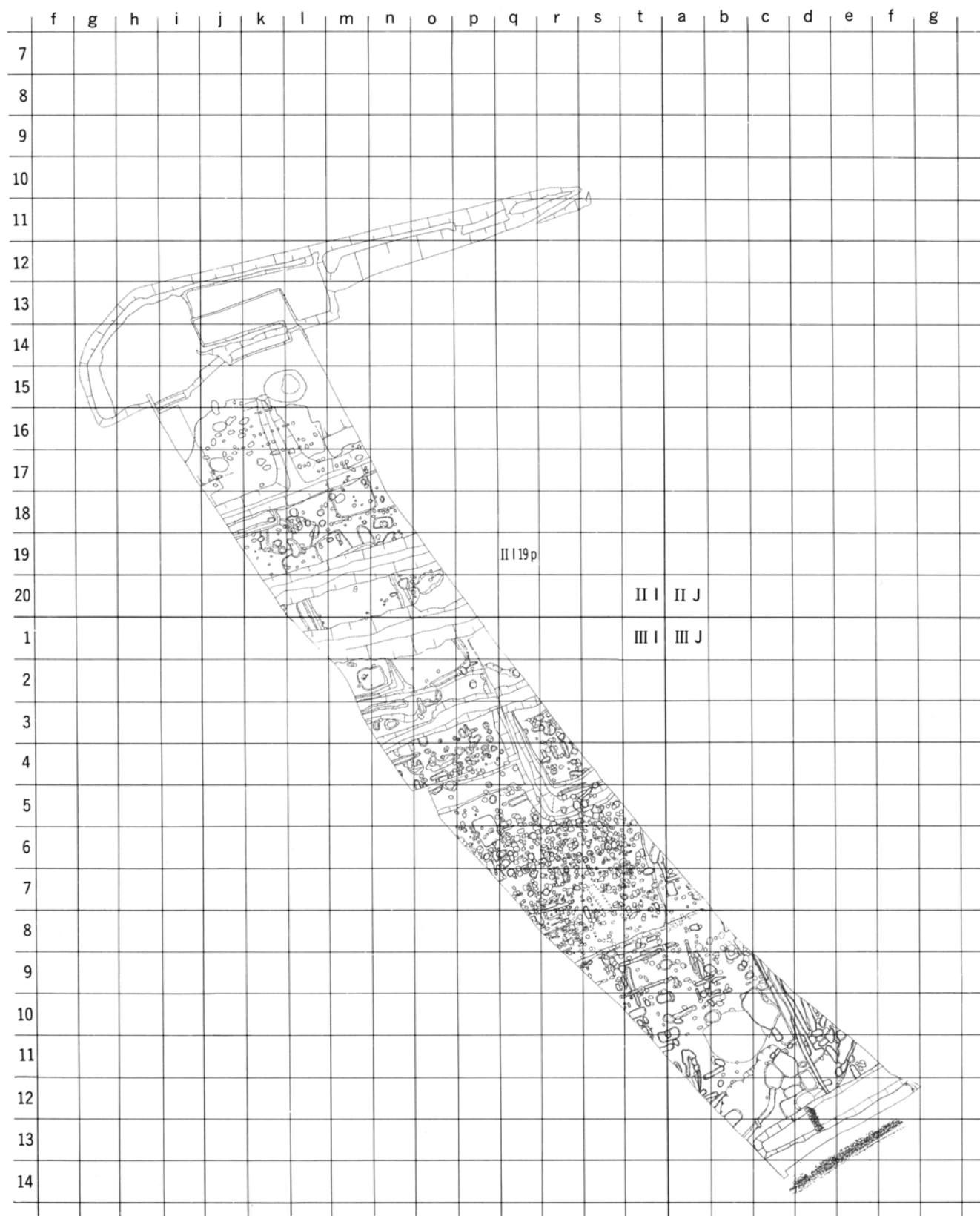
浜松市博物館の御協力で、報告書掲載資料から分析資料を提供していただいた。

(4) 未報告資料。浜松市博物館の御協力で、分析資料及び実測図を提供していただいた。

附 表



〔調査区グリッド一覧〕



〔遺構一覧表〕

1. 竪穴住居

調査区	新遺構No	旧遺構No	グリッド	長軸 m	短軸 m	深さ m	底レベル	時期
92	SB01	SB01	II I 17・18m	5.1		0.3	28.99	弥生時代後期(欠山式期)
92	SB02	SB02	II I 19l・m	4.1		0.1	29.11	弥生時代後期(欠山式期)
92	SB03	SB03	II I 18・19l	3.9		0.3	28.86	弥生時代後期(欠山式期)
92	SB04	SB04	II I 19k	2.8	2.9	0.5	28.74	弥生時代後期(欠山式期)
92	SB05	SB05	II I 19l	4.4		0.1	29.00	弥生時代後期(欠山式期)
92	SB06		II I 19k	3.1		0.4	28.73	弥生時代後期(欠山式期)
92	SB07	SB06	III I 2m・n	3.1	2.4	0.3	28.86	弥生時代後期(欠山式期)

2. 方形周溝墓

調査区	新遺構No	旧遺構No	グリッド	長軸 m	短軸 m	深さ m	底レベル	時期	方位
92	SZ01	SD06	II I 18j・k			0.55	28.55	弥生時代後期(欠山式期)	N-18.5°-W
92	SZ02	SD07・09	II I 20m	10.6		1.11	28.2	弥生時代後期(欠山式期)	N-27.0°-W
92	SZ03	SD08	II I 20l			0.38	28.82	弥生時代後期(欠山式期)	N-27.0°-W
92	SZ04	SD10・13・14	III I 2o	8.6		0.72	28.49	弥生時代後期(欠山式期)	N-26.0°-W
92	SZ05	SK10・14	III I 3n	8.3		0.3	27.7	弥生時代後期(欠山式期)	N-14.5°-W
93	SZ06	SD101-104	III J 9a	8.6	8.4	0.5	26.24	弥生時代後期(欠山式期)	N-21.0°-W

3. 溝

調査区	新遺構No	旧遺構No	幅 m	深さ m	底レベル	時期	方位
92	SD01	SD20	(4.2)	1.18	27.88	戦国	N-21.5°-W
92	SD02	SD03	(3.5)	1.32	27.73	戦国	N-67.0°-E
92	SD03	SD02	(3.9)	0.38	27.73	戦国	N-73.5°-E
92	SD04	SD01	(4.84)	1.74	27.46	戦国	N-75.0°-E
92・93	SD05	SD04・SD22	(3.22)	0.63	27.52	近世	N-67.5°-E
92・93	SD06	SD15・SD24・26	(1.3)	1.25	26.71	戦国	N-24.5°-W・N-66.5°-E
93	SD07	SD23	(3.26)	0.28	27.77	近世	N-69.0°-E
93	SD08	SD25	(2)	0.61	27.65		N-65.5°-E
93	SD09	SD13	(0.82)	0.12	27.91		N-67.0°-E
93	SD10	SD10	(0.4)				N-20.0°-W
93	SD11		(0.28)				
93	SD12	SD11	(0.5)				N-74.0°-E
93	SD13	SD50	(0.52)	0.79	25.99		N-69.0°-E
93	SD14		(0.4)	0.09	26.63		
93	SD15	SD51	(0.42)	0.42	26.34		N-69.5°-E
93	SD16	SD52	(0.5)	0.48	26.27		N-17.0°-W
93	SD17	SD53	(0.28)	0.27	26.44		N-19.0°-W
93	SD18	SD56	(1.62)	0.33	26.43		N-25.0°-W
93	SD19			0.32	26.27		
93	SD20	SD57	(0.74)	0.6	26.09		N-28.0°-W
93	SD21	SD58	(1.02)	0.42	26.17		N-24.5°-W
93	SD22	SD64	(0.94)	0.35	26.24		N-20.0°-W
93	SD23	SD63	(0.56)	0.27	26.11		N-25.0°-W
93	SD24	SD60	(0.44)	0.27	26.18		N-16.5°-W
93	SD25	SD59	(0.36)	0.2	26.26		N-1.5°-W
93	SD26	SD55	(0.56)	0.14	26.32		N-62.0°-W
93	SD27	SD62	(0.88)	0.39	25.9		N-43.5°-W
93	SD28	SD65	(0.72)	0.24	25.73		N-39.0°-E
93	SD29	SD20・21	(3.9)	1047	24.87	近世	N-60.0°-E

4. その他

調査区	新遺構No	旧遺構No	グリッド	長軸 m	短軸 m	深さ m	底レベル	時期	備考
92	SX01	SX03	II I 15・16 j	1.7	0.6	0.27	29.341	近世か	集石遺構
92	SX02	P103	II I 16j	1.6	1.1	0.24	29	近世か	集石遺構
92	SX03	P72	II I 16j・k	1.2	1.0	0.18	29.14	近世か	集石遺構
93	SX04	SX04	III I 6t	(2.3)	1.1	0.15	27.36	近世	集石遺構
93	SX05	SX06	III J 10c	4.72	3.1	0.6	26.09	戦国	長方形土坑
93	SX06	SX07	III J 10c	7	-	-	26.49	戦国	長方形土坑
93	SX07	SX03	III I 9t, III J 9a	1.32	1.07	0.43	26.48	近世	埋設竈
93	SX08	SX02	III J 11a	1.09	0.79	0.45	26.33	近世	埋設竈
93	SX09	SX01	III J 11c	0.8	0.8	0.41	26.39	近世	埋設竈
93	SX10	SX05	III J 11d	1.06	0.62	0.25	25.67	近世	埋設竈

5. 土坑（柱穴も含む）

調査区	新遺構No	旧遺構No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考	調査区	新遺構No	旧遺構No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考
92	SK0001	P101	II I 16j	0.43	(0.4)	0.06	29.30		92	SK0063	P34	II I 17k	0.95	0.57	0.16	29.22	
92	SK0003	P99	II I 15j・k	0.45	0.42	0.15	29.20		92	SK0064	P39	II I 17j	0.26	0.18	0.17	29.19	
92	SK0004		II I 18l	1.50	0.70	0.55	28.52		92	SK0065	P38	II I 17k	0.60	0.40	0.30	29.10	
92	SK0005	P102	II I 16j	0.98	0.61	0.12	29.24		92	SK0066		II I 17k	0.25	0.20	0.02	29.36	
92	SK0006	P105	II I 16j	0.69	0.38	0.07	29.25		92	SK0067	P36	II I 17k	0.30	0.21	0.19	29.21	
92	SK0007	P104	II I 16j	0.86	0.40	0.14	29.21		92	SK0068	P35	II I 17k	0.25	0.21	0.11	29.30	
92	SK0008	P81	II I 16j・k	0.45	0.40	0.07	29.26	SB08	92	SK0069	P18	II I 16・17l	0.62	0.58	0.21	29.14	
92	SK0009	P107	II I 16j	0.87	0.62	0.15	29.33		92	SK0070	P19	II I 17l	(0.21)	0.32	—	—	
92	SK0010	P106	II I 16j	0.39	0.20	0.09	29.23		92	SK0071	P24	II I 17l	0.49	0.46	0.12	29.29	
92	SK0011	P108	II I 16j	0.54	0.38	0.17	29.19		92	SK0072	P23	II I 17l	0.34	0.31	0.26	29.14	
92	SK0012	P109	II I 16j	0.49	0.37	0.08	29.23		92	SK0073	P22	II I 17l	0.50	0.36	0.24	29.18	
92	SK0013	P110	II I 16j	0.30	0.27	0.11	29.19		92	SK0074	P21	II I 17l	0.40	0.41	0.16	29.28	
92	SK0014	P93	II I 16j・k	0.46	0.25	0.08	29.24		92	SK0075	P20	II I 17l	0.42	0.41	0.20	29.25	
92	SK0015	P69	II I 16k	0.35	0.27	0.07	29.28	SB08	92	SK0076	P26	II I 17l	0.32	0.31	0.52	28.93	
92	SK0016	P68	II I 16k	0.42	0.37	0.09	29.26	SB08	92	SK0077	P25	II I 17l	0.44	0.33	0.40	29.07	
92	SK0017	P67	II I 16k	0.37	0.33	0.09	29.28	SB08	92	SK0078	P28	II I 17l	0.37	0.28	0.08	29.32	
92	SK0018	P66	II I 16k	0.42	0.42	0.01	29.27	SB08	92	SK0079	P27	II I 17l	0.25	0.21	0.12	29.33	
92	SK0019		II I 18l	—	—	0.32	28.75		92	SK0080	P6	II I 17m	0.40	0.30	0.10	29.39	
92	SK0020	P71	II I 16k	0.21	0.20	0.05	29.30	SB08	92	SK0081	P5	II I 17m	0.41	0.32	0.08	29.43	
92	SK0021	P70	II I 16k	0.22	0.20	0.08	29.27	SB08	92	SK0082	P4	II I 17m	0.48	0.35	0.13	29.39	
92	SK0022	P80	II I 16k	0.48	0.33	0.05	29.29	SB08	92	SK0083	P3	II I 17m	0.99	0.60	0.22	29.30	
92	SK0023	P79	II I 16k	0.39	0.31	0.15	29.19	SB08	92	SK0084	P7	II I 17m	0.72	0.58	0.03	29.48	
92	SK0024	P78	II I 16k	0.40	0.35	0.06	29.28	SB08	92	SK0085	P8	II I 17m	0.92	0.32	0.02	29.51	
92	SK0025	P77	II I 16k	0.42	0.36	0.09	29.25	SB08	92	SK0086	P10	II I 17m	(0.41)	0.24	0.14	29.40	
92	SK0026	P76	II I 16k	0.31	0.29	0.10	29.25	SB08	92	SK0087	P9	II I 17m	0.22	0.20	0.24	29.30	
92	SK0027	P75	II I 16k	0.30	0.30	0.09	29.27	SB08	92	SK0088	P11	II I 17m	0.31	0.25	0.39	29.14	
92	SK0028	P74	II I 16k	0.31	0.28	0.06	29.29	SB08	92	SK0089	P12	II I 17m	0.42	0.20	0.01	29.52	
92	SK0029	P73	II I 16k	0.27	0.23	0.12	29.23	SB08	92	SK0090	P13	II I 17m	0.23	0.23	0.04	29.49	
92	SK0030	P88	II I 16k	0.40	0.30	0.10	29.22	SB08	92	SK0091	P14	II I 17m	0.19	0.18	0.11	29.47	
92	SK0031	P87	II I 16k	0.36	0.25	0.08	29.25	SB08	92	SK0092		II I 17m	0.78	0.58	0.35	28.71	
92	SK0032	P86	II I 16k	0.27	0.20	0.19	29.14	SB08	92	SK0093		II I 17m	0.28	0.66	0.22	28.89	
92	SK0033	P85	II I 16k	0.29	0.25	0.08	29.26	SB08	92	SK0094		II I 17m	0.48	0.34	0.24	28.80	
92	SK0034	P84	II I 16k	0.38	0.32	0.13	29.20	SB08	92	SK0095		II I 17m	0.20	0.20	0.06	28.96	
92	SK0035	P83	II I 16k・l	0.30	0.30	0.13	29.19	SB08	92	SK0096	P202	II I 17n	0.26	0.24	0.16	29.29	
92	SK0036	P92	II I 16k	0.83	0.49	0.05	29.28		92	SK0097	P40	II I 18k	0.23	0.23	0.08	29.33	
92	SK0037	P91	II I 16k	0.26	0.27	0.15	29.15	SB08	92	SK0098		II I 18k	0.38	0.34	0.14	28.53	
92	SK0038	P90	II I 16k	0.40	0.37	0.09	29.23	SB08	92	SK0099		II I 18k	0.56	0.30	0.19	28.52	
92	SK0039	P89	II I 16k	0.40	0.39	0.10	29.22	SB08	92	SK0100	P46	II I 18・19k	(0.38)	0.48	0.06	29.10	
92	SK0040	P30	II I 16・17k	0.39	0.31	0.13	29.19		92	SK0101		II I 18・19k	0.26	0.24	0.19	28.59	
92	SK0041	P63	II I 16l	0.35	0.29	0.09	29.24	SB08	92	SK0102	P229	II I 18l	0.58	0.38	0.13	29.12	
92	SK0042	P62	II I 16l	0.37	(0.24)	0.07	29.25	SB08	92	SK0103	P230	II I 18l	0.30	0.28	0.09	29.11	
92	SK0043	P54	II I 16l	0.29	0.21	0.15	29.19		92	SK0104	P238	II I 18l	1.00	0.92	0.05	29.08	
92	SK0044	P53	II I 16l	0.41	0.31	0.14	29.20		92	SK0105	P236	II I 18l	0.38	0.32	0.09	29.08	
92	SK0045	P52	II I 16l	0.54	0.35	0.09	29.31		92	SK0106	P231	II I 18l	0.80	0.80	0.08	29.30	
92	SK0046	P51	II I 16・17l	0.48	0.26	0.14	29.23		92	SK0107	SK03	II I 18l	2.20	(1.0)	0.29	28.84	
92	SK0047	P50	II I 16・17l	0.48	0.41	0.12	29.24		92	SK0108		II I 18l	0.52	0.30	0.29	28.84	
92	SK0048		II I 16l	0.45	0.27	—	—		92	SK0109		II I 18l	(0.4)	0.50	0.29	28.84	
92	SK0049	P2	II I 16m	0.31	0.26	0.24	29.22		92	SK0110		II I 18l	0.42	0.30	0.25	28.88	
92	SK0050	P1	II I 16・17m	0.49	0.36	0.09	29.40		92	SK0111		II I 18l	(0.3)	(0.2)	0.31	28.98	
92	SK0051	P44	II I 17j	0.76	0.36	0.08	29.28		92	SK0112	P237	II I 18l	0.90	0.64	0.38	28.91	
92	SK0052	P43	II I 17j	0.74	0.39	0.11	29.24		92	SK0113	P232	II I 18l	0.90	0.76	0.28	29.11	
92	SK0053	P41	II I 17j	0.64	0.45	0.16	29.16		92	SK0114	P239	II I 18l	0.60	0.52	0.30	28.78	
92	SK0054	P42	II I 17j	0.73	0.48	0.15	29.18		92	SK0115	P233	II I 18l	0.40	0.32	0.18	29.19	
92	SK0055	P45	II I 17j	2.22	1.65	0.14	29.24		92	SK0116		II I 18・19l	0.62	0.38	0.48	28.76	
92	SK0056	P46	II I 17j	0.38	0.39	0.12	29.26		92	SK0117	SK02	II I 18・19l	1.60	0.60	0.43	28.88	
92	SK0057	P49	II I 17j	0.35	0.31	0.06	29.35		92	SK0118		II I 18m	0.81	0.72	0.04	29.44	
92	SK0058	P47	II I 17j	0.84	0.37	0.09	29.31		92	SK0119		II I 18m	1.24	0.83	0.03	29.50	
92	SK0059	P48	II I 17j	0.50	0.36	0.08	29.32		92	SK0120	P217	II I 18m	(0.2)	0.30	0.11	29.10	
92	SK0060	P32	II I 17k	0.78	0.37	0.12	29.20		92	SK0121		II I 18m	0.18	0.18	0.04	29.07	
92	SK0061	P31	II I 17k	1.25	0.55	0.12	29.21		92	SK0122		II I 18m	0.30	0.26	0.07	29.06	
92	SK0062	P33	II I 17k	0.91	0.87	0.04	29.33		92	SK0123	P218	II I 18m	(0.44)	0.28	0.10	29.21	

調査区	新遺構No	旧遺構No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考	調査区	新遺構No	旧遺構No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考
92	SK0124	P215	II 118m	0.92	0.52	0.22	29.24		92	SK0185	P98	II 119o	0.32	0.26	0.17	29.18	
92	SK0125		II 118m	0.24	0.18	0.10	29.03		92	SK0186		II 120k	(0.6)	0.74	0.48	28.69	
92	SK0126		II 118m	0.38	(0.3)	0.31	28.86		92	SK0187	P71	II 120l	0.30	0.24	0.09	29.13	
92	SK0127		II 118m	0.20	0.18	0.03	29.13		92	SK0188	P72	II 120l	0.26	(0.24)	0.06	29.18	
92	SK0128	P219	II 118m	0.52	0.46	0.02	29.33		92	SK0189	P75	II 120m	0.36	(0.28)	0.08	29.13	
92	SK0129	P228	II 118m	0.42	0.34	0.08	29.31	SA01	92	SK0190	P76	II 120m	0.40	0.34	0.07	29.14	
92	SK0130	P226	II 118m	1.24	0.24	0.12	29.29	SA01	92	SK0191	P78	II 120m	(0.16)	0.14	0.04	29.27	
92	SK0131	P225	II 118m	0.42	0.20	0.14	29.27	SA01	92	SK0192	P79	II 120m	0.22	0.16	0.05	29.25	
92	SK0132	P224	II 118m	0.38	0.38	0.17	29.21	SA01	92	SK0193	P90	II 119・20n	0.26	0.26	0.11	29.17	
92	SK0133	P222	II 118m	0.32	0.26	0.14	29.21	SA01	92	SK0194	P91	II 119・20n	0.46	0.30	0.16	29.18	
92	SK0134	P220	II 118m	0.52	0.32	0.16	29.16	SA01	92	SK0195	SK07	II 120n	1.40	1.30	0.23	29.24	
92	SK0135	P221	II 118m	0.52	0.48	0.37	28.97		92	SK0196	P92	II 120n・o	0.46	0.32	0.16	29.18	
92	SK0135		II 118m	0.50	0.48	0.37	28.97		92	SK0197	P95	II 120n・o	0.50	0.32	0.17	29.20	
92	SK0136	P227	II 118m	0.30	0.26	0.09	29.28		92	SK0198	P96	II 120n・o	0.50	0.44	0.26	29.11	
92	SK0137	P203	II 118n	(0.28)	0.28	0.10	29.27		92	SK0199	P88	II 120n	0.90	0.36	0.06	29.26	
92	SK0138	P204	II 118n	0.70	0.48	0.23	29.24		92	SK0200	P89	II 120n	(0.2)	0.26	0.09	29.21	
92	SK0139	P209	II 118n	0.46	0.32	0.15	29.16	SA01	92	SK0201	P83	II 120n	0.24	0.24	0.14	29.14	
92	SK0140	P207	II 118n	0.98	0.34	0.16	29.18	SA01	92	SK0202	P85	II 120n	0.34	0.30	0.17	29.19	
92	SK0141	P206	II 118n	0.42	0.30	0.02	29.29	SA01	92	SK0203	P84	II 120n	0.20	0.20	0.13	29.18	
92	SK0142	P205	II 118n	0.40	0.28	0.08	29.32	SA01	92	SK0204	P86	II 120n	0.24	0.20	0.06	29.29	
92	SK0143	P210	II 118n	0.42	0.24	0.09	29.22		92	SK0205	P93	II 120o	0.24	0.24	0.18	29.16	
92	SK0144	P208	II 118n	0.32	0.26	0.06	29.28		92	SK0206		II 119o	0.40	0.36	0.09	28.31	
92	SK0145		II 118n	0.30	0.26	0.08	29.27		92	SK0207	P94	II 120n・o	0.30	0.26	0.11	29.23	
92	SK0146		II 118n	0.30	0.20	0.15	29.20		92	SK0208		II 119・20o	4.00	2.10	1.06	28.30	
92	SK0147		II 118n	0.22	0.16	0.09	29.25		92	SK0209	P97	II 120o	0.26	0.20	0.09	29.28	
92	SK0148	SK01	II 118n	2.30	1.30	0.14	29.20		92	SK0210	P73	III 11l	0.34	(0.24)	0.07	29.17	
92	SK0149	P213	II 118n	0.90	0.82	0.48	28.86		92	SK0211	P74	III 11l	0.36	0.22	0.12	29.08	
92	SK0150	P212	II 118n	0.32	0.32	0.10	29.22		92	SK0212	P82	III 11m	0.30	0.22	0.26	29.06	
92	SK0151	P214	II 118・19n	0.24	0.22	0.12	29.18		92	SK0213		III 12m	(1.06)	(0.74)	—	—	
92	SK0152	P48	II 119k	0.52	0.40	0.11	29.08		92	SK0214	P101	III 12m	0.70	0.56	0.48	28.68	
92	SK0153	P49	II 119k	0.82	0.62	0.21	28.93		92	SK0215	P102	III 12m	(0.34)	0.32	0.02	29.13	
92	SK0154		II 119k	1.00	0.84	0.25	28.53		92	SK0216		III 12m	0.16	0.16	—	—	
92	SK0155	P51	II 119k	0.40	0.32	0.22	28.98		92	SK0217		III 12m	0.60	0.48	0.10	28.81	
92	SK0156	P53	II 119k	0.32	0.28	0.17	29.03		92	SK0218	P103	III 12m	0.28	0.22	0.16	28.97	
92	SK0157		II 119k	(0.76)	(0.3)	0.48	28.70		92	SK0219		III 12m・n	0.16	0.10	—	—	
92	SK0158		II 119k	0.34	0.28	0.60	28.58		92	SK0220	P104	III 12n	(0.4)	0.34	0.35	28.80	
92	SK0159		II 119k	(0.3)	0.34	0.11	28.64		92	SK0221	P105	III 12n・o	0.28	0.28	0.17	29.03	
92	SK0160		II 119k	0.90	(0.54)	0.35	28.73		92	SK0222	P109	III 12o	0.38	0.28	0.07	29.05	
92	SK0161	P52	II 119k	0.24	0.18	0.22	29.00		92	SK0223	P108	III 12o	0.32	0.30	0.24	28.89	
92	SK0162	P54	II 119k	0.34	0.26	0.21	29.04		92	SK0224	P106	III 12o	0.30	0.28	0.45	28.62	
92	SK0163	P56	II 119k	0.26	0.24	0.19	29.06		92	SK0225	P107	III 12o	(0.28)	0.26	0.02	29.04	
92	SK0164	P55	II 119k	0.30	0.30	0.20	29.04		92	SK0226		III 12o	1.24	0.70	—	—	
92	SK0165		II 119l	0.34	0.30	0.21	28.98		92	SK0227	P111	III 12p	(0.94)	0.40	0.05	29.14	
92	SK0166	P58	II 119k	0.32	0.28	0.15	29.06		92	SK0228	P110	III 12p	1.26	0.68	0.46	28.66	
92	SK0167		II 119l	0.36	0.24	0.17	28.66		92	SK0229	P112	III 12p	0.34	0.26	0.10	29.06	
92	SK0168	SK04	II 119l	2.30	1.20	0.49	28.72		92	SK0230	P174	III 12p	0.95	0.85	0.08	28.35	
92	SK0169		II 119l	(0.4)	0.40	0.06	28.80		92	SK0230		III 12p	0.30	0.28	0.08	29.03	
92	SK0170		II 119l	0.34	0.24	0.13	28.99		92	SK0231	SK16	III 12p	(0.85)	(0.6)	0.25	28.26	
92	SK0171		II 119l	0.38	0.32	—	—		92	SK0232		III 12q	1.04	(0.74)	0.09	28.62	
92	SK0172		II 119l	(0.46)	(0.44)	0.17	28.85		92	SK0233	P166	III 13m	(0.6)	0.30	0.20	27.86	
92	SK0173		II 119l	0.28	0.20	0.11	28.90		92	SK0234	P169	III 13n	0.44	0.32	0.10	27.95	
92	SK0174		II 119l	0.36	0.28	0.07	29.00		92	SK0235	P168	III 13n	1.24	0.64	0.22	27.90	
92	SK0175		II 119l	0.36	0.30	0.12	28.85		92	SK0236	SK09	III 13n	1.70	1.25	0.42	27.61	
92	SK0176		II 119l	0.28	0.28	0.07	28.93		92	SK0237		III 13o	0.78	0.46	0.31	27.67	
92	SK0177		II 119l	0.74	0.48	0.24	28.93		92	SK0238	P126	III 14n・o	(1.2)	1.18	0.44	27.56	
92	SK0178	P60	II 119m	0.78	0.54	0.14	29.20		92	SK0239	P116	III 13・4o	(1.18)	1.08	0.14	27.88	
92	SK0179	SK05	II 118・19m, 19n	(2.15)	1.40	0.19	29.12		92	SK0240	P117	III 13・4o	0.39	0.34	0.24	27.83	
92	SK0180	P61	II 119m	0.58	0.36	0.12	29.18		92	SK0241	P119	III 13o・p	0.44	0.38	0.11	28.06	
92	SK0181		II 119n	0.54	0.42	0.15	29.10		92	SK0242	P124	III 13p	0.82	0.64	0.30	27.73	
92	SK0182	SK06	II 119n	(1.45)	0.90	0.08	29.15		92	SK0243	P123	III 13p	—	—	0.54	27.65	
92	SK0183	P63	II 119n	1.00	(0.76)	0.53	28.74		92	SK0244	P122	III 13p	1.12	0.68	0.26	27.95	
92	SK0184	P62	II 119n	(0.38)	(0.6)	0.06	29.16		92	SK0245	P125	III 13p	0.56	0.46	0.13	27.90	

調査区	新遺構No	旧遺構No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考	調査区	新遺構No	旧遺構No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考
92	SK0246	P120	III I 3p	0.44	0.38	0.08	28.15		93	SK0308		III I 4p	(0.7)	(0.28)	0.15	27.91	
92	SK0247	SK12	III I 3・4p	1.45	(0.8)	0.25	27.98		93	SK0309	P1050	III I 4p	0.38	0.36	0.32	27.86	
92	SK0248		III I 3p	0.88	0.72	0.56	27.47		93	SK0310	P1052	III I 4p	(0.32)	0.34	0.16	28.06	
93	SK0249	SK158	III I 3q・r	1.00	0.75	0.25	28.20		93	SK0311	P1054	III I 4p	0.50	(0.44)	0.25	28.00	
93	SK0250	P1017	III I 3q	0.34	0.32	0.16	28.31		93	SK0312	P1053	III I 4p	0.32	0.32	0.31	27.91	
93	SK0251	P1016	III I 3q	0.46	0.34	0.19	28.28		93	SK0313	P1055	III I 4p	0.52	0.32	0.20	28.10	
93	SK0252	P1022	III I 3q	—	0.30	—	—		92	SK0314	P160	III I 4q	0.56	0.48	0.08	28.03	
93	SK0253	P1023	III I 3q	0.50	0.46	0.26	28.21		92	SK0315	P159	III I 4p・q	(0.44)	0.38	0.52	27.71	
93	SK0254	P1024	III I 3q・r	0.66	0.50	0.19	28.28		93	SK0316	P1058	III I 4p・q	(0.62)	0.50	0.33	27.96	
93	SK0255	SK158	III I 3q・r	1.50	0.60	0.33	28.01		93	SK0317	P1060	III I 4q	(0.76)	(0.62)	—	—	
93	SK0256		III I 3q	0.60	0.54	0.27	28.01		93	SK0318	P1061	III I 4q	0.64	0.60	0.23	27.52	
93	SK0257	P1026	III I 3q	0.30	0.26	0.15	28.19		93	SK0319	P1062	III I 4q	0.54	0.46	0.21	27.55	
93	SK0258	P1019	III I 3r	0.52	0.50	0.13	28.26		93	SK0320	P1027	III I 3・4r	0.42	0.34	0.32	28.04	
93	SK0259	P1020	III I 3r	(0.3)	0.28	0.31	28.31		93	SK0321	P1028	III I 4r	0.38	0.26	0.29	28.07	
93	SK0260	SK161	III I 3r	1.55	(0.65)	0.42	27.92		93	SK0322	P1029	III I 3・4r	0.66	0.60	0.17	28.16	
93	SK0261	SK159	III I 3r	1.75	(0.9)	0.20	28.24		93	SK0323	SK165	III I 4r	1.70	0.47	0.45	27.80	SB09・礎石
93	SK0262	SK160	III I 3r	1.10	(1)	0.23	28.21		93	SK0324	P1031	III I 4r	0.60	0.48	0.35	27.96	礎石
93	SK0263	P1025	III I 3r	0.56	0.46	0.09	28.25		93	SK0325	SK167	III I 4r	1.66	0.50	0.47	27.68	SB09・礎石
93	SK0264	SK162	III I 3r	0.90	(0.6)	0.14	28.19		93	SK0326	P1031	III I 4r	0.40	(0.38)	0.11	28.19	
93	SK0265	SK163	III I 3・4r	0.55	0.30	0.09	28.23		93	SK0327	SK168	III I 4r	2.09	0.46	0.44	27.84	SB09・礎石
93	SK0266	SK164	III I 3r	0.60	0.30	0.13	28.18		93	SK0328	P1032	III I 4r	0.24	0.20	0.27	28.07	
92	SK0267	P136	III I 4・5o	0.42	0.56	0.06	27.98		93	SK0329	SK169	III I 4r	0.80	0.50	0.42	27.88	SB09・礎石
92	SK0268	P127	III I 4n	0.80	(0.26)	0.25	27.74		93	SK0330	SK166	III I 4r	1.15	0.47	0.28	27.99	
92	SK0269	P128	III I 4o	0.70	0.48	0.25	27.79		93	SK0331	P1033	III I 4r	0.36	—	0.17	28.11	
92	SK0270	P138	III I 4o	0.70	0.48	0.27	27.84		93	SK0332	P1034	III I 4r	0.42	0.40	0.30	28.00	
92	SK0271	P129	III I 4o	0.54	0.46	0.28	27.81		93	SK0333	P1035	III I 4r	0.36	-0.20	0.13	28.17	
92	SK0272	P130	III I 4o	(0.64)	0.56	0.23	27.83		93	SK0334		III I 4r	0.28	0.26	—	—	
92	SK0273	P132	III I 4o	1.12	0.82	0.72	27.37		93	SK0335	SK170	III I 3・4r	(0.4)	(0.45)	0.25	28.09	
92	SK0274		III I 4o	(0.4)	0.36	0.09	28.02		93	SK0336	P1039	III I 4r	0.30	0.26	0.27	27.95	
92	SK0275	P131	III I 4n・o	1.62	1.08	0.65	27.42		93	SK0337	P1040	III I 4r	0.32	0.28	0.25	27.96	
92	SK0276	SK11	III I 4o・p	(3.45)	1.20	0.54	27.62		93	SK0338	P1036	III I 4r	0.24	0.22	0.36	27.86	
92	SK0277	P139	III I 4o・p	0.44	0.40	0.28	27.92		93	SK0339	P1037	III I 4r	0.42	0.40	0.24	28.00	
92	SK0278	P133	III I 4o	0.42	0.40	0.30	27.75		93	SK0340	P1038	III I 4r	0.50	0.46	0.56	27.76	
92	SK0279	SK13	III I 4・5o	2.30	0.55	0.22	27.92		93	SK0341	P1041	III I 4r	0.34	0.28	0.36	27.97	
92	SK0280	P141	III I 4o・p	0.46	0.34	0.19	28.02		93	SK0342	SK171	III I 4r	0.70	0.65	0.39	27.94	
92	SK0281	P142	III I 4o	0.38	0.36	0.22	27.95		93	SK0343	SK172	III I 4r・s	0.70	0.30	0.37	28.00	
92	SK0282	P135	III I 4・5o	(1.15)	0.64	0.08	27.96		93	SK0344	SK173	III I 4r・s	0.70	0.40	0.22	28.12	
92	SK0283	P134	III I 4o	0.68	0.56	0.24	27.81		93	SK0345	SK174	III I 4r	0.70	0.75	0.44	27.76	
92	SK0284	P140	III I 4o	(0.42)	0.36	0.15	27.97		93	SK0346	P1042	III I 4r	0.24	0.20	0.33	27.98	
92	SK0285	P143	III I 4o	(0.44)	0.48	0.35	27.80		93	SK0347	P1043	III I 4r	0.48	0.32	0.36	28.07	
92	SK0286		III I 4p	0.82	0.60	0.51	27.68		93	SK0348	P1046	III I 4s	(0.32)	—	0.36	27.95	
92	SK0287		III I 4p	(0.24)	0.56	0.31	27.91		93	SK0349	SK175	III I 4r・s	(1.7)	0.55	0.24	28.02	
92	SK0288		III I 4p	1.12	(0.9)	0.74	27.54		93	SK0350	P1044	III I 4r	0.40	0.34	0.21	27.92	
92	SK0289		III I 4p	1.00	0.82	0.55	27.69		93	SK0351	P1045	III I 4r	0.40	0.34	0.23	28.01	
92	SK0290		III I 4p	0.24	0.22	0.08	28.14		93	SK0352	SK177	III I 5o	1.20	0.60	0.20	27.57	
92	SK0291		III I 4p	0.92	0.46	0.43	27.79		93	SK0353	SK178	III I 4・5・o・p	(1.25)	1.20	0.12	27.63	
92	SK0292	P156	III I 4p	0.68	0.66	0.14	28.08		93	SK0354	SK179	III I 5o・p	0.80	0.30	0.07	27.74	
92	SK0293	P153	III I 4p	0.96	(0.6)	0.40	27.83		93	SK0355	P1048	III I 5o	0.50	0.42	0.12	27.66	
92	SK0294		III I 4o・p	0.82	0.60	0.56	27.68		93	SK0356	P1057	III I 4・5p	0.74	0.72	0.27	27.50	
92	SK0295	P150	III I 4p	0.40	0.32	0.26	28.01		93	SK0357	P1056	III I 5p	0.50	0.44	0.37	27.49	
92	SK0296	P151	III I 4p	0.48	0.38	0.50	27.75		93	SK0358	P602	III I 5p	0.68	0.54	0.39	27.73	
92	SK0297	P154	III I 4p	(0.62)	0.14	0.01	28.25		93	SK0359	P603	III I 5p	1.00	0.90	0.39	27.75	
92	SK0298	P157	III I 4p	0.50	0.42	0.07	28.16		93	SK0360	P566	III I 5p	0.54	0.32	0.36	27.70	礎石
92	SK0299	P144	III I 4p	0.66	(0.42)	0.40	27.84		93	SK0361	P567	III I 5p	0.32	0.32	0.25	27.83	礎石
92	SK0300	P146	III I 4p	0.62	0.32	0.09	28.15		93	SK0362	P555	III I 5p	0.56	0.50	0.21	27.81	
92	SK0301	P145	III I 4p	0.62	0.46	0.46	27.78		93	SK0363	P554	III I 5p	0.50	0.40	0.58	27.50	
92	SK0302	P152	III I 4p	0.26	0.22	0.23	28.02		93	SK0364	P553	III I 5p	(0.26)	0.30	0.21	27.86	
92	SK0303	P155	III I 4p	0.26	0.22	0.04	28.22		93	SK0365	P552	III I 5p	0.22	0.18	0.25	27.81	
92	SK0304	P158	III I 4p	0.24	0.22	0.02	28.21		93	SK0366	P550	III I 5・6p	0.76	0.44	0.47	27.56	
92	SK0305	P147	III I 4p	0.82	0.50	0.25	27.97		93	SK0367	SK02	III I 5・6p,6q	3.50	2.70	0.21	27.86	
92	SK0306	P148	III I 4p	(0.62)	0.48	0.25	27.96		93	SK0368	P605	III I 5q	0.54	0.46	0.51	27.70	
92	SK0307	P149	III I 4p	0.72	0.56	0.11	28.14		93	SK0369	P607	III I 5q	0.62	0.56	0.37	27.89	

調査区	新造構No	旧造構No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考	調査区	新造構No	旧造構No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考
93	SK0370	P606	III I 5q	0.50	0.40	0.39	27.78		93	SK0432	P326	III I 5s	0.28	0.28	0.50	27.55	
93	SK0371	P608	III I 5q+r	0.70	0.28	0.07	27.92		93	SK0433	P328	III I 5t	0.30	0.22	0.46	27.62	
93	SK0372		III I 5q	0.60	0.36	—	—		93	SK0434	P317	III I 5t	0.20	0.20	0.48	27.60	
93	SK0373	P564	III I 5p+q	0.50	0.40	0.25	27.55		93	SK0435	P291	III I 5+6t	0.36	0.32	0.53	27.55	
93	SK0374	P565	III I 5q	0.40	0.40	0.40	27.69		93	SK0436	P329	III I 5t	—	—	0.30	27.76	SB14
93	SK0376	P596	III I 5q	—	—	0.38	27.66		93	SK0437	P549	III I 6p	0.24	0.22	0.25	27.78	
93	SK0377	P591	III I 5q	0.22	0.20	0.24	27.80		93	SK0438	P548	III I 6p	0.50	0.48	0.45	27.56	
93	SK0375	P595	III I 5p+q	(0.6)	0.60	0.45	27.61		93	SK0439	P545	III I 6p	0.48	0.40	0.39	27.60	
93	SK0378	P592	III I 5q	0.32	0.28	0.46	27.58		93	SK0450	P534	III I 6p	0.66	0.64	0.55	27.46	
93	SK0379	P572	III I 5q	0.52	(0.3)	0.16	27.90		93	SK0440	P544	III I 6p	0.30	(0.22)	0.18	27.86	SB10
93	SK0380	P571	III I 5q	0.64	0.54	0.34	27.71		93	SK0441	P543	III I 6p	0.30	0.30	0.26	27.74	
93	SK0381	P575	III I 5q	0.54	0.58	0.36	27.76		93	SK0442	P542	III I 6p	0.32	0.24	0.22	27.79	
93	SK0382		III I 5q	0.44	0.38	—	—		93	SK0443	P593	III I 6p	0.32	0.20	0.39	27.63	
93	SK0383	P562	III I 5+6q	1.10	0.84	0.33	27.71	SB10	93	SK0444	P594	III I 6p	0.34	0.22	0.46	27.56	
93	SK0384	P563	III I 5q	0.58	0.46	0.19	27.84	礎石	93	SK0445	P590	III I 6p	0.64	0.48	0.60	27.42	SB10
93	SK0385	P564	III I 5q	0.90	(0.58)	0.25	27.55	SB10	93	SK0446	P547	III I 6p+q	0.24	0.14	0.29	27.73	
93	SK0386	P570	III I 5q	0.46	0.36	0.32	27.74		93	SK0447	P546	III I 6p	0.30	(0.18)	0.42	27.56	
93	SK0387	P568	III I 5+6q	0.48	0.46	0.34	27.70		93	SK0448	P540	III I 6p	(0.48)	0.52	0.60	27.37	SB10
93	SK0388	P573	III I 5+6q	0.46	0.40	0.35	27.71		93	SK0449	P541	III I 6p	0.22	0.20	0.15	27.86	
93	SK0389	P517	III I 5q	0.34	0.26	0.34	27.71		93	SK0451	P535	III I 6p	0.38	0.28	0.15	27.84	
93	SK0390	P516	III I 5q	0.90	0.80	0.15	27.58	SB10	93	SK0452	P533	III I 6p	0.16	0.16	0.56	27.41	
93	SK0391	P515	III I 5q	(0.32)	0.34	0.41	27.63		93	SK0453	P588	III I 6p	0.26	0.20	0.25	27.77	
93	SK0392	P514	III I 5q	(0.24)	0.30	0.44	27.59		93	SK0454	P589	III I 6p	0.36	0.32	0.28	27.74	礎石
93	SK0393	P513	III I 5+6q	0.32	0.28	0.44	27.60		93	SK0455	P539	III I 6p	(0.38)	0.46	0.34	27.64	
93	SK0394	P581	III I 5r	0.44	0.38	0.32	27.78		93	SK0456	P538	III I 6p	0.64	0.42	0.32	27.65	
93	SK0395	P586	III I 5r	0.62	0.50	0.43	27.69		93	SK0457	P536	III I 6p	0.18	0.18	0.17	27.80	
93	SK0396	P585	III I 5r	0.52	0.48	0.34	27.76		93	SK0458	P537	III I 6+7p	0.42	0.30	0.34	27.67	
93	SK0397	P583	III I 4+5s	0.76	0.70	0.39	27.80		93	SK0459	P532	III I 6p	0.32	0.28	0.17	27.81	
93	SK0398	P387	III I 5s	0.40	0.36	0.33	27.71		93	SK0460	P704	III I 6p+q	0.32	0.30	0.10	27.45	
93	SK0399	P385	III I 5s	0.70	(0.42)	0.15	27.99		93	SK0461	P702	III I 6p			0.16	27.39	
93	SK0400	P389	III I 5s	0.38	0.34	0.41	27.67		93	SK0462	P702	III I 6p			0.10	27.39	
93	SK0401	P386	III I 5s	0.60	0.44	0.72	27.40		93	SK0463		III I 6p	(0.34)	0.40	—	—	SB10
93	SK0402	P399	III I 5r+s	(0.7)	0.60	0.10	27.94	SB13	93	SK0464	P501	III I 6p	0.46	0.40	0.26	27.69	
93	SK0403		III I 5s	0.54	0.34	—	—		93	SK0465	P502	III I 6p	(0.22)	0.30	0.43	27.49	
93	SK0404	P521	III I 5s	—	—	0.25	27.78	SB13	93	SK0466	P499	III I 6p	0.72	0.72	0.68	27.27	SB10
93	SK0405	P520	III I 5s	0.52	(0.32)	—	—		93	SK0467	P444	III I 6p	0.40	0.36	0.27	27.65	
93	SK0406	P436	III I 6p	0.66	(0.6)	0.03	27.80		93	SK0468	P701	III I 6p	0.26	0.24	0.04	27.31	
93	SK0407	P405	III I 5+6r	0.70	(0.62)	—	—	SB13	93	SK0469	P512	III I 6p	0.60	(0.38)	0.28	27.64	
93	SK0408	P412	III I 5r	(0.54)	0.68	0.51	27.51	SB13	93	SK0470	P539	III I 6p	0.52	0.40	0.27	27.65	
93	SK0409		III I 5s	0.54	0.50	—	—		93	SK0471	P709	III I 6p	0.40	0.34	0.08	27.24	
93	SK0410	P403	III I 6r	(0.8)	(0.6)	0.54	27.46	SB10	93	SK0472		III I 6p+q	0.26	(0.1)	—	—	
93	SK0411	P402	III I 5+6r	0.60	0.54	0.37	27.64		93	SK0473	P436	III I 5s	—	—	0.57	27.51	礎石
93	SK0412	P401	III I 5r	—	0.64	0.48	27.53	SB11	93	SK0474	P442	III I 6p	0.34	(0.16)	0.36	27.54	
93	SK0413	P398	III I 5s	0.46	(0.34)	0.31	27.69		93	SK0475	P441	III I 6p	0.42	(0.18)	0.37	27.51	
93	SK0414	P397	III I 5s	0.70	0.70	0.44	27.57	SB10	93	SK0476	P443	III I 6p	(0.2)	0.20	0.42	27.48	
93	SK0415	P396	III I 5s	0.42	(0.24)	0.34	27.67		93	SK0477	P598	III I 6p	0.24	0.22	0.43	27.46	
93	SK0416	P394	III I 5s	0.38	0.28	0.40	27.63		93	SK0478	P437	III I 6p	0.86	0.70	0.38	27.53	
93	SK0417	P519	III I 5s	0.82	0.78	0.42	27.59	SB10	93	SK0479	P478	III I 6p	0.70	(0.22)	0.60	27.16	
93	SK0418	P392	III I 5s	0.46	0.42	0.31	27.72		93	SK0480		III I 6p	0.60	0.50	—	—	
93	SK0419	P390	III I 5s	0.46	0.44	0.45	27.58		93	SK0481	P477	III I 6p	(0.54)	0.48	0.16	27.60	
93	SK0420	P393	III I 5s	(0.22)	0.32	0.46	27.58		93	SK0482	P469	III I 6+7p	(0.68)	0.30	0.19	27.56	
93	SK0421	P364	III I 5s	0.40	0.32	0.41	27.60	SB12	93	SK0483	P561	III I 6q	0.24	0.22	0.13	27.89	
93	SK0422	P361	III I 5+6s	0.90	0.66	0.50	27.50		93	SK0484		III I 6q	0.52	(0.3)	—	—	
93	SK0423	P360	III I 5s	0.44	0.40	0.45	27.58		93	SK0485	P538	III I 6q	0.36	0.36	0.15	27.64	
93	SK0424	P333	III I 5s	0.54	0.30	0.44	27.63		93	SK0486	P537	III I 6q	(0.26)	0.30	0.32	27.62	
93	SK0425	P323	III I 5s	0.48	0.46	0.39	27.67		93	SK0487	P559	III I 6q	1.20	0.26	0.22	27.78	
93	SK0426	P322	III I 5s	0.46	0.36	0.43	27.71		93	SK0488	P576	III I 5+6q	0.34	0.20	0.19	27.83	
93	SK0427	P321	III I 5t	—	—	0.28	27.82		93	SK0489	P518	III I 6q	0.88	0.42	0.39	27.61	
93	SK0428	P320	III I 5s+t	0.42	0.40	0.47	27.62		93	SK0490	P525	III I 5r	(0.16)	0.18	0.10	27.95	
93	SK0429	P332	III I 6s	0.44	0.44	0.98	27.06		93	SK0491	P523	III I 5+6+r+s	0.34	0.32	0.05	27.99	
93	SK0430	P324	III I 5s	0.24	0.16	0.42	27.64		93	SK0492	P527	III I 6q+r	0.90	0.60	0.39	27.63	SB13
93	SK0431	P325	III I 5s	(0.62)	0.40	0.39	27.67		93	SK0493	P529	III I 6q+r	(0.52)	0.52	0.53	27.49	SB10

調査区	新道橋No	旧道橋No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考	調査区	新道橋No	旧道橋No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考
93	SK0494	P705	III I 6q	0.32	0.30	0.11	27.45		93	SK0555	P406	III I 6r	1.00	(0.78)	0.54	27.49	SB13
93	SK0495	P498	III I 6q	0.22	0.22	0.19	27.79		93	SK0556	P404	III I 5r	0.70	0.50	0.06	27.97	
93	SK0496	P497	III I 6q	0.36	(0.2)	0.22	27.77		93	SK0557	P369	III I 6r	(0.2)	(0.28)	0.31	27.69	
93	SK0497	P496	III I 6q	0.60	(0.42)	0.41	27.58		93	SK0558	P368	III I 5・6r	0.56	0.30	0.46	27.56	
93	SK0498	P706	III I 6q	0.48	0.32	0.06	27.42		93	SK0559	P435	III I 6q・r	0.36	0.34	0.59	27.43	
93	SK0499	P707	III I 6q	0.46	0.40	0.17	27.30		93	SK0560	P717	III I 6r	0.40	0.34	0.06	27.16	
93	SK0500		III I 6q	0.74	(0.7)	—	—	SB10	93	SK0561		III I 6r	0.56	0.44	—	—	
93	SK0501	P491	III I 6q	(0.48)	0.60	0.44	27.54		93	SK0562	P423	III I 6r	0.52	0.40	—	—	SB12
93	SK0502	P712	III I 6q	0.36	0.32	0.15	27.31		93	SK0563	P414	III I 6r	0.38	0.24	0.37	27.65	
93	SK0503	P492	III I 6q	0.72	0.68	0.10	27.40	SB11	93	SK0564	P413	III I 6r	0.24	0.22	0.36	27.66	
93	SK0504	P494	III I 6q	0.44	0.44	0.49	27.50	SB10	93	SK0565	P611	III I 6r	0.20	0.20	0.20	27.82	
93	SK0505	P495	III I 6q	0.36	0.36	0.36	27.63		93	SK0566	P410	III I 6r	0.22	0.16	0.47	27.56	
93	SK0506	P495	III I 6q	0.36	0.34	0.23	27.73		93	SK0567	P409	III I 6r	0.34	0.32	0.18	27.49	SB12
93	SK0507		III I 6q	0.38	0.40	0.10	27.34		93	SK0568	P367	III I 6r・s	0.52	0.52	0.13	27.88	
93	SK0508	P451	III I 6q	0.30	0.20	0.37	27.61		93	SK0569	P430	III I 6r	0.68	0.34	0.31	27.65	
93	SK0509	P448	III I 6q	0.94	0.86	0.53	27.48	SB11・礎石	93	SK0570	P720	III I 6r	0.34	0.26	0.11	27.06	
93	SK0510	P447	III I 6q	0.40	(0.38)	0.52	27.50		93	SK0571	P428	III I 6r	0.30	0.28	0.52	27.35	
93	SK0511	P487	III I 6q	0.36	0.28	0.30	27.70		93	SK0572	P719	III I 6r	0.42	0.30	0.06	27.11	
93	SK0512	P708	III I 6q	0.20	0.20	0.15	27.33		93	SK0573	P718	III I 6r	0.28	(0.2)	0.06	27.13	
93	SK0513	P498	III I 6q	0.24	0.22	0.29	27.70		93	SK0574	P429	III I 6r	0.22	0.16	0.21	27.68	
93	SK0514	P440	III I 6q	0.30	0.20	0.12	27.80		93	SK0575	P432	III I 6r	0.54	0.34	0.24	27.65	
93	SK0515	P486	III I 6q	0.36	0.34	0.65	27.32		93	SK0576	P417	III I 6r	(0.5)	0.24	0.20	27.78	
93	SK0516	P485	III I 6q	0.22	0.20	0.21	27.76		93	SK0577	P418	III I 6r	0.58	0.48	0.57	27.42	
93	SK0517	P484	III I 6q	0.34	0.30	0.22	27.76		93	SK0578	P419	III I 6r	0.40	0.32	0.30	27.65	
93	SK0518	P483	III I 6q	0.90	0.60	0.14	27.83		93	SK0579	P416	III I 6r	(0.44)	0.44	0.39	27.58	
93	SK0519	P482	III I 6q	0.70	0.62	0.79	27.16		93	SK0580	P725	III I 6r	0.38	0.32	0.07	27.34	
93	SK0520		III I 6q	0.40	0.22	0.02	27.38		93	SK0581	P506	III I 6r	(0.38)	0.50	0.58	27.43	
93	SK0521	P450	III I 6q	0.48	0.42	0.40	27.55	SB12	93	SK0582	P407	III I 6r	0.60	0.44	0.47	27.44	
93	SK0522	P449	III I 6q	0.48	0.40	0.31	27.67		93	SK0583	P347	III I 6r	—	0.80	0.75	27.21	SB10・礎石
93	SK0523	P446	III I 6q・r	0.58	0.38	0.27	27.73	SB12	93	SK0584	P408	III I 6r	0.60	0.40	0.46	27.45	SB12
93	SK0524	P481	III I 6q	(0.24)	0.30	0.28	27.67		93	SK0585	P427	III I 6r	0.44	0.40	0.36	27.48	
93	SK0525	P480	III I 6q	0.72	0.58	0.32	27.61		93	SK0586	P721	III I 6r	0.50	0.28	0.17	26.96	
93	SK0526	P623	III I 6q	—	0.66	0.21	27.69		93	SK0587	P426	III I 6r	0.70	0.58	0.47	27.38	SB10
93	SK0527	P476	III I 6q	(0.96)	0.62	0.23	27.70		93	SK0588	SK50	III I 6r	1.15	0.65	0.14	26.92	
93	SK0527	P477	III I 6q	(0.96)	0.62	0.25	27.65		93	SK0589	P425	III I 6r	(0.54)	0.48	0.32	27.55	礎石
93	SK0528	P478	III I 6q	0.32	0.32	0.39	27.53		93	SK0590	P609	III I 6r	0.46	0.26	0.48	27.40	
93	SK0529	P476	III I 6q	(0.78)	(0.86)	0.19	27.66		93	SK0591	P420	III I 6r	(0.54)	0.30	0.27	27.62	
93	SK0530	P471	III I 6・7q	0.42	0.32	0.57	27.26	SB10	93	SK0592	P421	III I 6r	0.66	0.34	0.48	27.45	SB10・礎石
93	SK0531	P475	III I 6q	0.66	0.62	0.13	27.45	SB12	93	SK0593	P422	III I 6r	0.38	0.28	0.21	27.71	
93	SK0532		III I 6q	0.56	(0.68)	—	—		93	SK0594	P452	III I 6r	0.20	0.18	0.28	27.46	SB12
93	SK0533	P473	III I 6p	(0.78)	0.52	0.50	27.40		93	SK0595	P722	III I 6r	0.30	0.30	0.30	26.66	
93	SK0534	P462	III I 6q	0.52	0.52	0.46	27.44	SB10	93	SK0596	P380	III I 6r	0.26	0.24	0.12	27.63	SB11
93	SK0535	P461	III I 6q	0.58	0.28	0.25	27.67		93	SK0597	P723	III I 6r	0.40	0.28	0.05	26.83	SB11
93	SK0536	P460	III I 6q	0.28	(0.26)	0.28	27.64		93	SK0598	P381	III I 6r	0.32	0.30	0.15	27.64	SB11
93	SK0537	P457	III I 6q	0.46	0.36	0.29	27.63		93	SK0599	P371	III I 6r	0.62	0.50	0.24	27.58	礎石
93	SK0538	P456	III I 6q	0.72	0.72	0.44	27.47	SB10・礎石	93	SK0600	P370	III I 6r	0.72	0.60	0.75	27.07	SB10
93	SK0539	P459	III I 6q	0.44	0.38	0.26	27.63		93	SK0601	P724	III I 6・7r	0.36	0.26	0.12	26.74	
93	SK0540	P455	III I 6q	0.62	0.26	0.18	27.67		93	SK0602	P424	III I 6r	0.64	0.62	0.58	27.28	SB11
93	SK0541	P458	III I 6q	0.22	0.22	0.46	27.37	SB12	93	SK0603	P313	III I 6・7r	0.28	(0.22)	0.28	27.52	
93	SK0542	P454	III I 6q	0.42	0.36	0.24	27.51		93	SK0604	SK01	III I 6・7r	2.30	1.00	0.28	27.52	
93	SK0543	P453	III I 6q	0.54	0.40	0.39	27.36	礎石	93	SK0605	P726	III I 6r	0.58	0.54	0.10	26.91	
93	SK0544	P375	III I 6・7q	0.52	0.46	0.54	27.28		93	SK0606	P423	III I 6r	0.72	0.42	0.43	27.47	礎石
93	SK0545	P377	III I 6・7q	1.00	0.88	0.53	27.31	SB11	93	SK0607	P308	III I 6r	(0.4)	0.44	0.57	27.32	SB10
93	SK0546	P378	III I 6・7q	0.68	0.48	0.34	27.44	SB10・礎石	93	SK0608	P307	III I 6r	0.38	0.30	0.30	27.54	SB10
93	SK0547	P524	III I 6r	0.22	0.20	0.30	27.74		93	SK0609	P306	III I 6r	0.28	0.28	0.31	27.53	
93	SK0548	P528	III I 6r	0.60	0.52	0.41	27.63	礎石	93	SK0610	P372	III I 6r	0.86	0.62	0.52	27.39	SB11
93	SK0549	P716	III I 6r	0.56	0.22	0.16	27.41		93	SK0611	P304	III I 6r・s	0.56	0.50	0.49	27.45	SB10
93	SK0550	P523	III I 6r	(0.86)	0.74	0.56	27.45	SB11	93	SK0612	P729	III I 6r	0.38	0.32	0.10	26.88	
93	SK0551	P715	III I 6r	0.44	0.30	0.06	27.46		93	SK0613	P728	III I 6r	0.24	0.24	0.10	26.86	
93	SK0552	P714	III I 6r	0.16	0.10	0.30	27.22		93	SK0614	P373	III I 6r	0.40	0.36	0.52	27.36	
93	SK0553	P411	III I 5・6r	—	—	0.65	27.40	SB10	93	SK0615		III I 6r	0.26	0.22	—	—	
93	SK0554	P522	III I 6s	—	0.46	0.20	27.82		93	SK0616	P303	III I 6r	0.70	0.50	0.50	27.38	

調査区	新道橋No	旧道橋No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考	調査区	新道橋No	旧道橋No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考
93	SK0617	P302	Ⅲ I 6・7r	0.64	0.34	0.50	27.36		93	SK0679	P244	Ⅲ I 6s	0.44	0.36	0.73	27.12	
93	SK0618	P395	Ⅲ I 5・6s	0.30	0.20	0.42	27.60		93	SK0680	P245	Ⅲ I 6s	0.46	0.34	0.45	27.40	
93	SK0619	P366	Ⅲ I 6r+s	0.42	0.38	0.54	27.49	SB12	93	SK0681	P246	Ⅲ I 6s	(0.14)	0.32	0.20	27.63	
93	SK0620	P365	Ⅲ I 6s	0.40	0.40	0.65	27.38		93	SK0682	P243	Ⅲ I 6s	0.36	0.16	0.25	27.58	
93	SK0621	P356	Ⅲ I 6s	0.60	0.36	0.49	27.53		93	SK0683	P241	Ⅲ I 6s	0.26	0.28	0.29	27.58	
93	SK0622	P355	Ⅲ I 6s	0.22	0.22	0.42	27.60		93	SK0684	P769	Ⅲ I 6s	0.28	0.26	0.11	26.88	
93	SK0623	P358	Ⅲ I 6s	0.60	0.42	0.55	27.46		93	SK0685	P138	Ⅲ I 6・7s	0.70	0.60	0.54	27.32	
93	SK0624	P359	Ⅲ I 5・6s	0.96	0.90	0.66	27.35		93	SK0686	P287	Ⅲ I 6s	0.24	0.22	0.36	27.48	
93	SK0625		Ⅲ I 6s	0.58	0.42	—	—		93	SK0687	P289	Ⅲ I 6s	0.32	(0.22)	0.40	27.44	
93	SK0626		Ⅲ I 6s	0.54	(0.24)	—	—		93	SK0688	P290	Ⅲ I 6s+t	0.32	0.30	0.66	27.22	
93	SK0627	P331	Ⅲ I 6s	0.30	(0.28)	0.48	27.53		93	SK0689	P137	Ⅲ I 6s+t	0.90	(0.44)	0.53	27.30	SB14・礎石
93	SK0628	P332	Ⅲ I 6s	0.30	0.28	0.46	27.54	SB12	93	SK0690	P282	Ⅲ I 6t	0.52	0.50	0.63	27.42	
93	SK0629	P745	Ⅲ I 6s	0.34	0.30	0.20	27.19		93	SK0691	P255	Ⅲ I 6t	0.42	0.40	0.45	27.52	
93	SK0630	P363	Ⅲ I 6s	0.64	0.50	0.60	27.41	SB12	93	SK0692	P755	Ⅲ I 6t	0.32	0.28	0.09	27.23	
93	SK0631	P746	Ⅲ I 6s	0.32	0.30	0.16	27.29		93	SK0693	P756	Ⅲ I 6t	0.36	0.34	0.14	27.21	
93	SK0632	P298	Ⅲ I 6s	0.70	0.60	0.54	27.47		93	SK0694	P256	Ⅲ I 6t	1.00	0.62	0.73	27.26	SB14
93	SK0633	P296	Ⅲ I 6s	(0.8)	0.72	0.67	27.25		93	SK0695	P254	Ⅲ I 6s+t	0.68	0.60	0.66	27.29	
93	SK0634		Ⅲ I 6s	(0.6)	0.50	—	—		93	SK0696	P253	Ⅲ I 6t	0.36	0.30	0.50	27.42	
93	SK0635		Ⅲ I 6s	0.26	0.24	—	—		93	SK0697	P252	Ⅲ I 6t	0.46	0.36	0.38	27.52	
93	SK0636		Ⅲ I 6s	0.58	0.36	0.19	27.26		93	SK0698	P249	Ⅲ I 6t	0.26	0.22	0.02	27.89	
93	SK0637	P297	Ⅲ I 6s	(0.32)	0.26	0.32	27.59		93	SK0699	P250	Ⅲ I 6t	0.16	0.16	0.08	27.77	
93	SK0638	P286	Ⅲ I 6s	0.42	0.30	0.45	27.58	SB12	93	SK0700	P251	Ⅲ I 6t	0.24	0.11	0.23	27.62	
93	SK0639	P285	Ⅲ I 6s	0.38	0.35	0.56	27.47		93	SK0701		Ⅲ I 6t	0.34	0.22	0.03	26.96	
93	SK0640	P292	Ⅲ I 6s+t	0.32	0.32	0.41	27.65		93	SK0702	P248	Ⅲ I 6t	0.20	0.18	0.12	27.76	
93	SK0641	P748	Ⅲ I 6s	0.28	0.22	0.19	27.16		93	SK0703	P247	Ⅲ I 6t	0.18	0.16	0.16	27.69	
93	SK0642	P293	Ⅲ I 6 s	0.60	0.52	0.53	27.37		93	SK0704	P131	Ⅲ I 6t	(0.34)	0.54	0.52	27.34	
93	SK0643	P749	Ⅲ I 6 s	0.38	0.34	0.15	27.18		93	SK0705	P130	Ⅲ I 6t	0.88	0.52	0.62	27.23	SB14
93	SK0644	P354	Ⅲ I 6 s	0.40	0.34	0.32	27.68		93	SK0706	P132	Ⅲ I 6t	(0.4)	0.50	0.21	27.65	
93	SK0645	P353	Ⅲ I 6 s	0.32	0.22	0.27	27.70		93	SK0707	P129	Ⅲ I 6t	(0.4)	0.36	0.71	27.10	
93	SK0646	P352	Ⅲ I 6 s	0.20	0.20	0.17	27.77		93	SK0708	P136	Ⅲ I 6s+t	1.34	0.54	0.33	27.50	
93	SK0647	P351	Ⅲ I 6 s	0.26	(0.2)	0.25	27.73		93	SK0709		Ⅲ I 6t	0.30	0.28	0.10	26.80	
93	SK0648	P350	Ⅲ I 6 s	0.46	(0.26)	0.60	27.40	SB10	93	SK0710	P772	Ⅲ I 6t	0.50	0.40	0.17	26.59	
93	SK0649	P349	Ⅲ I 6 s	0.68	0.48	0.36	27.61	SB12	93	SK0711	P135	Ⅲ I 6t	(0.3)	0.30	0.40	27.43	
93	SK0650	P383	Ⅲ I 6 s	0.30	(0.18)	—	—		93	SK0712	P134	Ⅲ I 6t	(0.44)	0.40	0.19	27.65	
93	SK0651	P348	Ⅲ I 6 s	0.32	0.22	0.29	27.66		93	SK0713	P133	Ⅲ I 6t	(0.7)	0.50	0.37	27.48	
93	SK0652	P260	Ⅲ I 6 s	0.78	0.56	0.48	27.47	SB11	93	SK0714	P73	Ⅲ I 6t	0.48	0.36	0.34	27.43	SB12
93	SK0653	P730	Ⅲ I 6 s	0.46	0.24	0.24	26.89		93	SK0715	P508	Ⅲ I 6t	(0.28)	0.30	0.16	27.12	
93	SK0654	P263	Ⅲ I 6 s	0.58	0.44	0.50	27.45		93	SK0716	P468	Ⅲ I 7p	0.60	(0.4)	0.51	27.26	SB10
93	SK0655	P262	Ⅲ I 6 s	0.54	0.46	0.88	27.07		93	SK0717	P467	Ⅲ I 7p	0.30	0.26	0.24	27.52	
93	SK0656	P266	Ⅲ I 6 s	0.68	(0.3)	0.63	27.27		93	SK0718	P466	Ⅲ I 7p-q	0.40	0.28	0.45	27.30	
93	SK0657	P295	Ⅲ I 6 s	0.38	0.30	0.73	27.17		93	SK0719	P472	Ⅲ I 6・7q	0.44	0.40	0.17	27.58	
93	SK0658	P267	Ⅲ I 6 s	0.40	0.30	0.44	27.46		93	SK0720	SK03	Ⅲ I 6・7P,7q	(2,7)	0.90	0.24	27.52	
93	SK0659	P265	Ⅲ I 6 s	0.44	0.32	0.56	27.30		93	SK0721	P464	Ⅲ I 7q	0.36	0.36	0.31	27.42	
93	SK0660	P261	Ⅲ I 6 s	0.38	0.36	0.48	27.38		93	SK0722	P345	Ⅲ I 7q	0.88	0.82	0.37	27.47	
93	SK0661	P292	Ⅲ I 6 s	(0.62)	0.64	0.64	27.26	SB14	93	SK0723	P344	Ⅲ I 7q	0.34	0.34	0.36	27.45	
93	SK0662	P765	Ⅲ I 6 s	0.28	0.24	0.14	26.65		93	SK0724	P343	Ⅲ I 7q	(0.3)	0.22	0.30	27.50	
93	SK0663	P281	Ⅲ I 6 s	(0.22)	0.30	0.46	27.45		93	SK0725	P374	Ⅲ I 7q	0.44	0.30	0.25	27.56	
93	SK0664	P753	Ⅲ I 6 s	0.56	0.42	0.21	27.14		93	SK0726	P376	Ⅲ I 7q	0.64	0.52	0.49	27.32	SB10
93	SK0665	P270	Ⅲ I 6 s	(0.6)	0.38	0.43	27.47		93	SK0727	P342	Ⅲ I 7q	0.76	0.76	0.47	27.29	
93	SK0666	P268	Ⅲ I 6 s	0.26	0.20	0.33	27.57		93	SK0728	P341	Ⅲ I 7q	0.42	(0.3)	0.36	27.39	
93	SK0667	P752	Ⅲ I 6 s	0.30	0.26	0.18	26.95		93	SK0729	P340	Ⅲ I 7q	(0.4)	0.32	0.22	27.56	
93	SK0668	P269	Ⅲ I 6 s	0.38	0.36	0.48	27.41		93	SK0730	P502	Ⅲ I 7q	0.28	0.26	—	—	
93	SK0669	P284	Ⅲ I 6 s	(0.24)	0.22	0.34	27.67		93	SK0731	P362	Ⅲ I 7q	0.50	0.30	0.50	27.26	
93	SK0670	P283	Ⅲ I 6s+t	0.74	0.34	0.42	27.60		93	SK0732	P337	Ⅲ I 7q	0.40	0.34	0.19	27.60	
93	SK0671	P754	Ⅲ I 6s+t	0.48	0.40	0.16	27.10		93	SK0733	P338	Ⅲ I 7q	(0.44)	0.50	0.35	27.42	
93	SK0672	P301	Ⅲ I 6s	0.70	0.60	0.62	27.31		93	SK0734	P326	Ⅲ I 7q	0.42	(0.36)	0.55	27.23	
93	SK0673	P259	Ⅲ I 6s	0.48	0.46	0.62	27.30		93	SK0735	P757	Ⅲ I 7q	(0.36)	0.28	0.10	26.57	
93	SK0674	P258	Ⅲ I 6s	0.44	—	0.53	27.34		93	SK0736	P334	Ⅲ I 7q	0.18	0.18	0.28	27.49	
93	SK0675	P300	Ⅲ I 6・7s	0.48	0.42	0.66	27.23		93	SK0737	P758	Ⅲ I 7q	0.26	0.22	0.11	26.66	
93	SK0676	P299	Ⅲ I 6・7s	0.34	0.29	0.49	27.37		93	SK0738	P335	Ⅲ I 7q	0.20	0.18	0.26	27.52	
93	SK0677	P257	Ⅲ I 6・7s	0.36	0.36	0.58	27.26		93	SK0739	P346	Ⅲ I 7q	(0.2)	(0.3)	0.17	27.61	
93	SK0678	P242	Ⅲ I 6s	0.58	0.56	0.46	27.43		93	SK0740	P339	Ⅲ I 7q	0.60	0.40	0.47	27.31	

調査区	新造構No	旧造構No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考	調査区	新造構No	旧造構No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考
93	SK0741	P503	Ⅲ I 7q	0.44	(0.34)	0.37	27.41		93	SK0803	P217	Ⅲ I 7r	—	—	0.38	27.39	SB12
93	SK0742		Ⅲ I 7q	0.62	(0.14)	—	—		93	SK0804	P171	Ⅲ I 7q・r	0.64	0.20	0.27	27.48	
93	SK0743	P504	Ⅲ I 7q	0.24	0.22	—	—		93	SK0805	P172	Ⅲ I 7r	0.18	0.16	0.41	27.38	
93	SK0744	P233	Ⅲ I 7q	0.78	0.60	0.45	27.37	礎石	93	SK0806	P173	Ⅲ I 7r	0.22	0.18	0.41	27.38	
93	SK0745	P234	Ⅲ I 7q	0.38	0.36	0.58	27.17		93	SK0807	P177	Ⅲ I 7r	(0.22)	0.20	0.08	27.72	
93	SK0746	P239	Ⅲ I 7q	0.56	0.56	0.17	27.30		93	SK0808	P178	Ⅲ I 7r	—	0.26	0.37	27.45	SB12
93	SK0747	P236	Ⅲ I 7q	0.58	0.42	0.24	27.57		93	SK0809	P176	Ⅲ I 7r	0.20	0.18	0.22	27.61	
93	SK0748	P231	Ⅲ I 7q	(0.26)	0.34	0.40	27.41		93	SK0810		Ⅲ I 7q	1.20	0.28	—	—	
93	SK0749	P232	Ⅲ I 7q	0.50	0.24	0.49	27.41		93	SK0811	P182	Ⅲ I 7r	0.30	0.22	0.31	27.51	
93	SK0750	P230	Ⅲ I 7・9r	0.46	0.40	0.40	27.37		93	SK0812	P183	Ⅲ I 7r	0.44	0.30	0.35	27.46	
93	SK0751	P212	Ⅲ I 7q	0.46	0.24	0.38	27.40		93	SK0813	P180	Ⅲ I 7r	0.14	0.14	0.15	27.71	
93	SK0752	P216	Ⅲ I 7q	0.36	0.30	0.53	27.24		93	SK0814	P181	Ⅲ I 7r	0.16	0.14	0.23	27.61	
93	SK0753		Ⅲ I 7q	0.36	(0.24)	—	—		93	SK0815	P184	Ⅲ I 7r	0.36	0.32	0.61	27.22	
93	SK0754		Ⅲ I 7q	0.58	0.46	—	—		93	SK0816	P185	Ⅲ I 7r	0.18	0.16	0.39	27.61	
93	SK0755		Ⅲ I 7q	0.40	0.36	—	—		93	SK0817	P156	Ⅲ I 7r	0.26	0.24	0.38	27.44	
93	SK0756	P211	Ⅲ I 7q	(0.5)	0.36	0.39	27.39		93	SK0818	P160	Ⅲ I 7r	0.36	(0.2)	0.28	27.48	
93	SK0757	P210	Ⅲ I 7q	0.26	0.22	0.26	27.49		93	SK0819	P157	Ⅲ I 7r	0.46	0.36	0.33	27.48	
93	SK0758	P207	Ⅲ I 8q	0.11	0.08	—	26.73		93	SK0821	P109	Ⅲ I 7r	0.46	(0.34)	0.56	27.23	
93	SK0759	P219	Ⅲ I 7q	0.26	0.24	0.24	27.53		93	SK0822	P110	Ⅲ I 7r	0.26	0.22	0.19	27.57	
93	SK0760	P213	Ⅲ I 7q	0.36	(0.3)	0.38	27.39		93	SK0823	P53	Ⅲ I 7r	0.44	0.40	0.40	27.34	SB10
93	SK0761	P170	Ⅲ I 7q	0.40	0.38	0.23	27.50		93	SK0824	P783	Ⅲ I 7・8r	0.60	0.34	0.19	26.52	
93	SK0762	P169	Ⅲ I 7q	(0.18)	0.20	0.23	27.50		93	SK0825	P784	Ⅲ I 7・8r	0.28	(0.18)	0.14	26.57	
93	SK0763	P168	Ⅲ I 7・8q	0.42	(0.44)	0.17	27.51		93	SK0826	P288	Ⅲ I 7s	0.54	0.44	0.76	27.10	
93	SK0764	P312	Ⅲ I 7r	0.52	0.40	0.48	27.31		93	SK0827	P240	Ⅲ I 7s	0.46	0.38	0.40	27.44	
93	SK0765		Ⅲ I 7r	0.38	(0.18)	—	—		93	SK0828	P238	Ⅲ I 7s	0.14	0.12	0.94	26.90	
93	SK0766	P754	Ⅲ I 7r	0.24	0.22	0.16	26.64		93	SK0820	P159	Ⅲ I 7r	0.48	0.34	0.48	27.28	
93	SK0767	P314	Ⅲ I 6・7r	0.52	0.40	0.38	27.43		93	SK0829	P239	Ⅲ I 7s	0.36	0.30	0.16	27.70	
93	SK0768	P760	Ⅲ I 7r	0.40	0.34	0.21	26.59		93	SK0830		Ⅲ I 6s	0.26	0.20	—	—	
93	SK0769	P305	Ⅲ I 7r	0.96	0.64	0.53	27.31		93	SK0831		Ⅲ I 6s	0.30	0.24	—	—	
93	SK0770	P278	Ⅲ I 7r	0.22	0.18	0.29	27.51		93	SK0832	P139	Ⅲ I 6・7s	0.36	0.34	0.58	27.24	
93	SK0771	P279	Ⅲ I 7r	0.46	(0.32)	0.16	27.64		93	SK0833	P771	Ⅲ I 6・7s	0.36	0.32	0.15	26.61	
93	SK0772	P277	Ⅲ I 7r	0.54	0.40	0.44	27.42		93	SK0834	P124	Ⅲ I 7s	0.52	0.36	0.49	27.33	
93	SK0773	P276	Ⅲ I 7r	0.36	0.30	0.30	27.53		93	SK0835	P75	Ⅲ I 7s	0.64	(0.4)	0.43	27.38	
93	SK0774	P275	Ⅲ I 7r	0.32	0.28	0.23	27.58		93	SK0836	P123	Ⅲ I 7s	0.18	(0.22)	0.44	27.36	
93	SK0775	P309	Ⅲ I 7r	0.54	0.50	0.71	27.04		93	SK0837	P204	Ⅲ I 7s	0.56	0.30	0.33	27.84	
93	SK0776	P311	Ⅲ I 7r	0.18	0.18	0.31	27.44		93	SK0838	P146	Ⅲ I 7s	0.24	0.16	0.29	27.56	
93	SK0777	P600	Ⅲ I 7r	0.12	0.12	0.14	27.62		93	SK0839	P766	Ⅲ I 7s	0.24	0.22	0.13	26.48	
93	SK0778	P310	Ⅲ I 7r	0.70	0.60	0.54	27.25		93	SK0840	P767	Ⅲ I 7s	0.42	0.32	0.14	26.50	
93	SK0779	P761	Ⅲ I 7r	0.44	0.22	0.16	26.52		93	SK0841		Ⅲ I 7s	(0.2)	0.08	—	—	
93	SK0780	P762	Ⅲ I 7r	0.28	0.26	0.20	26.60		93	SK0842	P144	Ⅲ I 7s	(0.36)	0.32	0.40	27.43	SB12
93	SK0781	P316	Ⅲ I 7r	0.38	0.30	0.61	27.19		93	SK0843	P205	Ⅲ I 7s	0.38	0.28	0.32	27.56	
93	SK0782	P274	Ⅲ I 7r	0.38	0.32	0.44	27.36	SB10	93	SK0844	P143	Ⅲ I 7s	0.58	(0.5)	0.21	27.63	
93	SK0783	P315	Ⅲ I 7r	0.26	0.24	0.31	27.48		93	SK0845	P142	Ⅲ I 7s	0.32	0.32	0.31	27.50	
93	SK0784	P273	Ⅲ I 7r	0.30	0.30	0.42	27.38		93	SK0846	P141	Ⅲ I 7s	(0.24)	0.22	0.20	27.61	
93	SK0785	P227	Ⅲ I 7r	0.46	0.44	0.55	27.25		93	SK0847	P140	Ⅲ I 7s	0.40	(0.32)	0.22	27.61	
93	SK0786	P226	Ⅲ I 7r	0.70	(0.46)	0.50	27.33		93	SK0848	P768	Ⅲ I 7s	0.38	0.30	0.03	26.67	
93	SK0787	P224	Ⅲ I 7r	0.24	0.20	0.16	27.68		93	SK0849	P122	Ⅲ I 7s	0.52	0.56	0.70	27.10	SB12・礎石
93	SK0788	P223	Ⅲ I 7r	0.78	0.84	0.29	27.50		93	SK0850	P183	Ⅲ I 7s	0.46	0.30	0.26	27.54	
93	SK0789	P225	Ⅲ I 7r	0.34	0.30	0.53	27.28		93	SK0851	P147	Ⅲ I 7s	0.54	0.50	0.65	27.20	SB12・礎石
93	SK0790	P280	Ⅲ I 7r	0.22	0.20	0.58	27.23		93	SK0852	P151	Ⅲ I 7s	0.24	0.24	0.58	27.26	
93	SK0791	P763	Ⅲ I 7r	0.38	0.26	0.38	26.34		93	SK0853	P67	Ⅲ I 7s	0.54	(0.44)	0.16	27.69	
93	SK0792	P222	Ⅲ I 7r	0.38	0.32	0.51	27.30		93	SK0854	P148	Ⅲ I 7s	0.52	0.40	0.40	27.44	
93	SK0793	P22	Ⅲ I 7r	0.42	0.40	0.40	27.47		93	SK0855		Ⅲ I 7s	(0.22)	0.40	—	—	
93	SK0794	P233	Ⅲ I 7r	0.40	0.24	0.29	26.46		93	SK0856		Ⅲ I 7s	0.36	0.32	—	—	
93	SK0795	P382	Ⅲ I 7r	0.52	0.48	0.66	27.15		93	SK0857	P66	Ⅲ I 7s	0.36	0.32	0.40	27.41	
93	SK0796	P153	Ⅲ I 7r	(0.37)	0.35	0.50	27.36	礎石	93	SK0858	P64	Ⅲ I 7s	0.52	(0.5)	0.49	27.31	
93	SK0797	P152	Ⅲ I 7r	0.82	0.70	0.46	27.35	SB12	93	SK0859	P65	Ⅲ I 7s	0.74	(0.34)	0.28	27.49	
93	SK0798	P155	Ⅲ I 7r	0.28	0.26	0.47	27.35	SB10	93	SK0860	P76	Ⅲ I 7s	0.62	0.46	0.49	27.31	
93	SK0799	P271	Ⅲ I 7r	0.36	(0.3)	0.36	27.42		93	SK0861	P59	Ⅲ I 7s	0.34	0.28	0.29	27.47	
93	SK0800	P149	Ⅲ I 7r	0.66	0.60	0.40	27.41		93	SK0862	P63	Ⅲ I 7s・t	0.70	0.54	0.40	27.38	
93	SK0801	P150	Ⅲ I 7r・s	0.32	0.24	0.43	27.42		93	SK0863	P77	Ⅲ I 7s	0.22	0.20	0.33	27.45	
93	SK0802	P228	Ⅲ I 7q・r	0.64	—	0.57	27.20	SB12	93	SK0864	P60	Ⅲ I 7s	0.42	0.32	0.30	27.45	SB12

調査区	新遺構No	旧遺構No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考	調査区	新遺構No	旧遺構No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考
93	SK0865	P58	Ⅲ I 7s	0.36	0.30	0.31	27.44		93	SK0927	P190	Ⅲ J 7a	0.60	0.46	0.32	27.13	
93	SK0866	P56	Ⅲ I 7r・s	0.28	0.26	0.11	27.69		93	SK0928	P202	Ⅲ J 7a	0.70	0.30	0.25	27.18	SB14
93	SK0867		Ⅲ I 7s	0.36	0.24	—	—		93	SK0929	P191	Ⅲ J 7a	0.44	0.26	0.26	27.13	
93	SK0868	P55	Ⅲ I 7s	0.56	0.44	0.56	27.22	SB12	93	SK0930	P192	Ⅲ J 7a	0.40	0.28	0.29	27.07	
93	SK0869	P54	Ⅲ I 7s	0.26	0.24	0.29	27.44		93	SK0931	P201	Ⅲ J 7a	—	—	0.09	27.22	
93	SK0870	P51	Ⅲ I 7・8s	(1.48)	0.60	0.27	27.46		93	SK0932	P200	Ⅲ J 7a	—	—	0.30	27.01	
93	SK0871	P49	Ⅲ I 7・8s	0.56	0.30	0.66	27.03		93	SK0933		Ⅲ J 7a	1.60	1.10	—	—	
93	SK0872	P793	Ⅲ I 7・8s	0.50	0.36	0.22	26.52		93	SK0934	P8	Ⅲ J 7a	0.40	0.30	0.33	27.20	
93	SK0873	P795	Ⅲ I 7・8s	0.32	0.30	0.25	26.49		93	SK0935	P194	Ⅲ J 7a	0.36	0.32	0.40	26.99	
93	SK0874	P480	Ⅲ I 7・8s	0.34	0.30	0.34	27.35		93	SK0936	P193	Ⅲ J 7a	0.52	0.40	0.10	27.23	
93	SK0875	P32	Ⅲ I 7s	0.56	0.28	0.90	27.01		93	SK0937	P199	Ⅲ J 7a	0.46	0.36	0.32	26.95	
93	SK0876	P57	Ⅲ I 7s	0.62	(0.28)	0.49	27.19		93	SK0938	P198	Ⅲ J 7a	(0.7)	(0.7)	0.34	26.87	
93	SK0877	P31	Ⅲ I 7s	(0.34)	0.30	0.31	27.39		93	SK0939	P197	Ⅲ J 7a	0.34	0.32	0.15	27.08	
93	SK0878	P30	Ⅲ I 7s・t	(0.28)	0.24	0.13	27.53		93	SK0940	P196	Ⅲ J 7a	0.30	0.28	0.25	26.99	
93	SK0879	P33	Ⅲ I 7s	0.44	0.36	0.11	27.58		93	SK0941		Ⅲ I 8q	0.36	(0.1)	—	—	
93	SK0880	P773	Ⅲ I 6・7t	0.32	0.30	0.50	26.26		93	SK0942	P777	Ⅲ I 7・8q	0.38	0.32	0.12	26.66	
93	SK0881	P74	Ⅲ I 6・7t	0.60	0.42	0.76	27.07	SB12	93	SK0943	P208	Ⅲ I 8q	(0.22)	0.24	0.23	27.49	
93	SK0882	P125	Ⅲ I 7s・t	0.24	0.18	0.36	27.46		93	SK0944	P778	Ⅲ I 8q	0.28	0.26	0.04	26.70	
93	SK0883	P126	Ⅲ I 7t	0.42	0.24	0.57	27.25		93	SK0945	P167	Ⅲ I 8q	0.38	0.22	0.31	27.36	
93	SK0884	P127	Ⅲ I 7t	(0.26)	0.24	0.52	27.28		93	SK0946	P121	Ⅲ I 8q	(0.12)	—	0.07	27.59	
93	SK0885	P128	Ⅲ I 7t	0.32	0.30	0.25	27.59		93	SK0947	P120	Ⅲ I 8q	0.16	(0.1)	0.02	27.64	
93	SK0886	P774	Ⅲ I 7t	0.50	0.44	0.21	26.51		93	SK0948	P119	Ⅲ I 8q	0.20	0.20	0.20	27.41	
93	SK0887	P775	Ⅲ I 7t	0.26	0.24	0.18	26.49		93	SK0949	P118	Ⅲ I 8r	0.24	0.20	0.34	27.33	
93	SK0888		Ⅲ I 7t	0.62	0.34	—	—		93	SK0950	P166	Ⅲ I 8q・r	(1.26)	0.70	0.16	27.51	
93	SK0889	P72	Ⅲ I 6・7t	0.36	0.34	0.19	27.54	礎石	93	SK0951	P165	Ⅲ I 8r	(0.34)	0.34	0.38	27.35	
93	SK0890	P71	Ⅲ I 7t	0.42	0.34	0.35	27.48		93	SK0952	P164	Ⅲ I 8r	0.46	0.38	0.40	27.33	SB12
93	SK0891	P70	Ⅲ I 7t	0.18	0.16	0.27	27.52		93	SK0953	P163	Ⅲ I 8r	0.26	0.20	0.12	27.61	
93	SK0892	P507	Ⅲ I 6・7t	1.26	0.70	0.54	27.22	SB14・礎石	93	SK0954		Ⅲ I 8r	1.60	0.30	—	—	
93	SK0893	P188	Ⅲ I 7t	(0.46)	0.34	0.29	27.13		93	SK0955	P161	Ⅲ I 8r	0.12	0.12	0.22	27.54	
93	SK0894	P622	Ⅲ I 7t	(0.4)	0.40	0.34	27.43		93	SK0955		Ⅲ I 8r	0.18	0.14	—	—	
93	SK0895	P621	Ⅲ I 7t	0.34	0.28	0.18	27.54		93	SK0956	P162	Ⅲ I 8r	0.14	0.12	0.23	27.53	
93	SK0896	P61	Ⅲ I 7t	0.18	0.14	0.37	27.38		93	SK0957	P111	Ⅲ I 7・8r	(0.46)	0.46	0.51	27.24	SB12
93	SK0897	P62	Ⅲ I 7t	0.42	0.20	0.26	27.44		93	SK0958	P112	Ⅲ I 8r	0.18	0.14	0.23	27.52	
93	SK0898	P79	Ⅲ I 7t	—	0.42	0.32	27.44	SB12	93	SK0959	P108	Ⅲ I 8r	0.36	0.34	0.37	27.37	
93	SK0899	P78	Ⅲ I 7t	0.28	(0.2)	0.47	27.25		93	SK0960	P785	Ⅲ I 8r	0.58	0.40	0.12	26.60	
93	SK0900		Ⅲ I 7t	0.50	0.34	—	—		93	SK0961	P115	Ⅲ I 8r	0.24	0.22	0.17	27.50	
93	SK0901		Ⅲ I 7t	0.38	0.32	—	—		93	SK0962	P779	Ⅲ I 8r	0.54	0.32	—	26.47	
93	SK0902		Ⅲ I 7t	(0.4)	0.62	—	—		93	SK0963	P117	Ⅲ I 8r	0.50	0.42	0.30	27.37	
93	SK0903	P81	Ⅲ I 7t	0.82	0.52	0.54	27.19	SB14	93	SK0964	P116	Ⅲ I 8r	0.56	0.20	0.11	27.53	
93	SK0904	P80	Ⅲ I 7t	0.44	0.36	0.51	27.22		93	SK0965	P114	Ⅲ I 8r	0.36	0.18	0.21	27.49	
93	SK0905	P29	Ⅲ I 7・8t	0.86	0.54	0.30	27.35		93	SK0966	P104	Ⅲ I 8r	(0.4)	0.30	0.72	27.60	
93	SK0906	P25	Ⅲ I 7t	0.60	0.46	0.41	27.24		93	SK0967	P103	Ⅲ I 8r	0.26	0.22	0.27	27.38	
93	SK0907	P24	Ⅲ I 7・8t	0.70	0.32	0.21	27.45		93	SK0968	P113	Ⅲ I 8r	(0.34)	0.32	0.11	27.58	
93	SK0908	P23	Ⅲ I 7・8t	(0.28)	0.30	0.10	27.51		93	SK0970	P105	Ⅲ I 8r	(0.24)	0.20	0.14	27.55	
93	SK0909	P14	Ⅲ I 7t	0.32	0.22	0.18	27.52		93	SK0971	P106	Ⅲ I 8r	0.70	0.54	0.37	27.27	
93	SK0910	P15	Ⅲ I 7t	0.52	0.48	0.11	27.59		93	SK0972	P107	Ⅲ I 8r	(0.18)	0.44	0.01	27.49	
93	SK0911	P16	Ⅲ I 7t	(0.26)	0.24	0.08	27.57		93	SK0973		Ⅲ I 8r	(0.22)	0.20	—	—	
93	SK0912	P68	Ⅲ I 7t	0.34	0.26	0.42	27.36		93	SK0974	P787	Ⅲ I 8r	0.38	0.30	0.15	26.65	
93	SK0913	P13	Ⅲ I 7t	0.46	0.28	0.37	27.37		93	SK0975	P788	Ⅲ I 8r	0.54	0.46	0.15	26.63	
93	SK0914	P12	Ⅲ I 7t	0.40	0.38	0.44	27.35		93	SK0976	P52	Ⅲ I 8r・s	0.58	0.54	0.69	27.03	礎石
93	SK0915		Ⅲ I 7t	0.29	0.26	—	—		93	SK0977	P789	Ⅲ I 8r	0.38	0.34	0.14	26.73	
93	SK0916	P82	Ⅲ I 7t	0.88	0.62	0.80	27.02	SB14	93	SK0978	P790	Ⅲ I 8r	0.40	0.38	0.08	26.76	
93	SK0917	P11	Ⅲ I 7t	0.50	0.38	0.85	26.90		93	SK0979	P44	Ⅲ I 8r・s	0.42	0.36	0.29	27.34	SB10
93	SK0918	P9	Ⅲ I 7t	0.32	0.26	0.16	27.51		93	SK0980	P101	Ⅲ I 8r	(0.3)	0.50	0.06	27.51	
93	SK0919	P10	Ⅲ I 7t	0.48	0.34	0.34	27.37		93	SK0981	P100	Ⅲ I 8r	0.38	0.30	0.10	27.41	
93	SK0920	P7	Ⅲ I 7t	0.60	0.42	0.26	27.36		93	SK0982	P102	Ⅲ I 8r	(0.7)	(0.36)	0.53	27.06	
93	SK0921	P189	Ⅲ I 7t	0.40	0.36	0.11	27.31		93	SK0983	P800	Ⅲ I 8r	0.30	0.28	0.34	26.54	
93	SK0922	P776	Ⅲ I 7t	0.34	0.32	0.15	26.37		93	SK0984	P801	Ⅲ I 8r	0.44	0.30	0.19	26.69	
93	SK0923	P6	Ⅲ I 7t	0.24	0.18	0.12	27.51		93	SK0985	P98	Ⅲ I 8r	(0.72)	(0.2)	0.29	27.27	
93	SK0924	P4	Ⅲ I 7t	0.92	0.50	0.22	27.38		93	SK0986	P802	Ⅲ I 8r	0.58	0.30	0.14	26.72	
93	SK0925	P799	Ⅲ I 7t	0.40	0.38	0.27	26.35		93	SK0987	P97	Ⅲ I 8r	(0.7)	0.84	0.44	27.14	
93	SK0926	P5	Ⅲ I 7・8t	0.64	0.64	0.19	27.43	礎石	93	SK0988	P803	Ⅲ I 8r	0.40	0.36	0.18	26.78	

調査区	新道橋No	旧道橋No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考	調査区	新道橋No	旧道橋No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考
93	SK0969	P782	Ⅲ 1 8r	0.28	0.22	0.30	26.47		93	SK1050	P850	Ⅲ 1 8s	—	0.16	—	—	
93	SK0989	P804	Ⅲ 1 8r	0.36	0.26	0.16	26.76		93	SK1051		Ⅲ 1 8s	0.38	0.54	0.13	26.86	
93	SK0990	P96	Ⅲ 1 8r	0.98	0.40	0.10	27.47			SK1052							欠番
93	SK0991	P810	Ⅲ 1 8r	0.50	0.32	0.29	26.62		93	SK1053	P28	Ⅲ 1 8t	0.18	0.14	0.12	27.47	
93	SK0992	P91	Ⅲ 1 8r	—	0.30	0.13	27.31	SB12	93	SK1054	P27	Ⅲ 1 8t	0.42	0.24	0.15	27.29	
93	SK0993	P92	Ⅲ 1 8r	(0.32)	(0.2)	0.17	27.30	SB12	93	SK1055	P26	Ⅲ 1 8t	1.20	0.48	0.17	27.43	
93	SK0994	P93	Ⅲ 1 8r	0.36	0.23	0.15	27.32		93	SK1056	P17	Ⅲ 1 8t	0.36	0.32	0.36	27.24	
93	SK0995	P94	Ⅲ 1 8r	0.48	0.26	0.20	27.29		93	SK1057	P18	Ⅲ 1 8t	(0.44)	0.52	0.26	27.25	
93	SK0996	P806	Ⅲ 1 8r	0.26	0.26	0.05	26.95		93	SK1058	P1	Ⅲ 1 7・8t	0.52	0.44	0.48	27.07	
93	SK0997	P95	Ⅲ 1 8r	0.52	0.42	0.26	27.27		93	SK1059	P3	Ⅲ 1 8t	0.30	0.22	0.01	27.49	
93	SK0998	P99	Ⅲ 1 8r	0.24	0.18	0.09	27.44		93	SK1059	P831	Ⅲ 1 8s	(0.36)	0.34	0.12	26.86	
93	SK0999	P805	Ⅲ 1 8r	0.76	0.48	0.22	26.74		93	SK1060	P2	Ⅲ 1 8t	0.22	0.20	0.33	27.45	
93	SK1000	P90	Ⅲ 1 8r	(0.2)	0.12	0.17	27.32		93	SK1061	P19	Ⅲ 1 8t	0.30	0.22	0.43	27.00	
93	SK1001	P87	Ⅲ 1 8r	0.36	0.22	0.09	27.36		93	SK1062	P22	Ⅲ 1 8t	0.28	0.20	0.18	27.27	
93	SK1002	P88	Ⅲ 1 8r	1.30	0.60	0.50	26.95	SB12	93	SK1063	P21	Ⅲ 1 8t	0.42	0.34	0.44	27.00	
93	SK1003	P811	Ⅲ 1 8r	0.42	0.32	0.17	26.77		93	SK1064	P20	Ⅲ 1 8t	0.52	0.30	0.37	27.06	
93	SK1004		Ⅲ 1 8r	0.90	0.22	—	—		93	SK1065	P832	Ⅲ 1 8t	0.44	0.42	0.35	26.58	
93	SK1005		Ⅲ 1 8r	0.52	0.22	—	—		93	SK1066	P859	Ⅲ 1 8t	1.00	0.44	0.30	26.52	
93	SK1006	P89	Ⅲ 1 8r	(0.34)	0.30	0.14	27.39		93	SK1067	P853	Ⅲ 1 8s・t	0.68	0.54	0.34	26.56	
93	SK1007		Ⅲ 1 8r	1.20	0.24	—	—		93	SK1068	P854	Ⅲ 1 8t	0.32	0.28	0.34	26.56	
93	SK1008	P809	Ⅲ 1 8r	0.76	0.32	0.24	26.78		93	SK1069	P855	Ⅲ 1 8t	(0.4)	0.60	0.16	26.60	
93	SK1009	P42	Ⅲ 1 8r・s	(0.36)	0.30	0.37	27.14		93	SK1070	SK57	Ⅲ 1 8t	0.60	0.40	—	—	礎石
93	SK1010	P41	Ⅲ 1 8r・s	0.74	0.28	0.15	27.31		93	SK1071	SK55	Ⅲ 1 8t	(0.95)	(0.8)	0.23	26.57	
93	SK1011		Ⅲ 1 8r	(0.26)	0.24	—	—		93	SK1072	P861	Ⅲ 1 8t	1.32	0.46	0.17	26.58	
93	SK1012	P823	Ⅲ 1 8r	0.28	0.28	0.05	27.03		93	SK1073	P862	Ⅲ 1 8t	0.44	0.32	0.19	26.58	
93	SK1013	P824	Ⅲ 1 8r・s	0.52	0.40	0.22	26.84		93	SK1074	P863	Ⅲ 1 8t	0.52	(0.36)	0.23	26.53	
93	SK1014	P791	Ⅲ 1 8r・s	0.50	0.40	0.19	26.65		93	SK1075	P864	Ⅲ 1 8t	0.70	0.50	0.31	26.46	
93	SK1015	P792	Ⅲ 1 8s	0.60	0.60	0.18	26.78		93	SK1076	SK53	Ⅲ 1 8・9・s・t	(2.7)	1.00	0.37	26.45	
93	SK1016	P43	Ⅲ 1 8s	0.60	0.60	0.10	27.51		93	SK1077	P856	Ⅲ 1 8t	0.74	0.62	0.26	26.56	
93	SK1017	P794	Ⅲ 1 8s	0.46	0.36	0.09	26.65		93	SK1078	P860	Ⅲ 1 8t	0.62	0.48	0.14	26.63	
93	SK1018	P796	Ⅲ 1 8s	0.42	0.40	0.20	26.61		93	SK1079	P882	Ⅲ 1 8t	(0.36)	0.50	0.12	26.65	
93	SK1019	P797	Ⅲ 1 8s	0.40	0.36	0.19	26.62		93	SK1080	P885	Ⅲ 1 8t,Ⅲ J 8a	0.90	0.32	0.26	26.52	
93	SK1020	P47	Ⅲ 1 8s	0.12	0.12	0.09	27.52		93	SK1081	P195	Ⅲ J 7・8a	0.46	0.44	0.16	27.11	
93	SK1021	P46	Ⅲ 1 8s	0.70	0.42	0.66	27.00		93	SK1082	P833	Ⅲ 1 8t,Ⅲ J 8a	0.56	0.48	0.41	26.39	
93	SK1022	P45	Ⅲ 1 8s	0.62	0.62	0.48	27.11		93	SK1083	P834	Ⅲ J 8a	0.50	0.34	0.16	26.58	
93	SK1023		Ⅲ 1 8s	0.46	(0.32)	—	—	礎石	93	SK1084	P839	Ⅲ J 8a	0.58	0.50	0.25	26.50	
93	SK1024	P813	Ⅲ 1 8s	—	0.46	0.25	26.64		93	SK1085	P838	Ⅲ J 8a	0.56	0.42	0.16	26.61	
93	SK1025	P814	Ⅲ 1 8s	—	0.36	0.21	26.68		93	SK1086	P840	Ⅲ J 8a	0.26	0.16	0.12	26.63	
93	SK1026	P815	Ⅲ 1 8s	0.58	0.46	0.24	26.67		93	SK1087	P841	Ⅲ J 8a	0.56	0.50	0.20	26.58	
93	SK1027	P817	Ⅲ 1 8s	0.38	0.28	0.18	26.66		93	SK1088	P842	Ⅲ J 8a	0.76	0.70	0.08	26.63	
93	SK1028	P818	Ⅲ 1 8s	0.32	0.26	0.15	26.74		93	SK1089	P843	Ⅲ J 8a	0.88	0.28	0.23	26.75	
93	SK1029	P819	Ⅲ 1 8s	0.60	0.42	0.26	26.58		93	SK1090	P835	Ⅲ J 8a	0.40	0.34	0.22	26.51	
93	SK1030		Ⅲ 1 7・8s	0.40	0.32	—	—		93	SK1091	P844	Ⅲ J 8a	0.54	0.26	0.05	26.68	
93	SK1031	P34	Ⅲ 1 7・8s	0.64	0.58	0.60	27.05		93	SK1092	P836	Ⅲ J 8a	0.32	0.22	0.15	26.59	
93	SK1032	P35	Ⅲ 1 8s	0.18	0.18	0.14	27.46		93	SK1093	P865	Ⅲ J 8a	0.32	0.30	0.12	26.64	
93	SK1033	P820	Ⅲ 1 8s	0.38	0.30	0.18	26.66		93	SK1094	P866	Ⅲ J 8a	0.32	0.24	0.15	26.62	
93	SK1034	P798	Ⅲ 1 8s・t	0.58	0.38	0.27	26.50		93	SK1095	P867	Ⅲ J 8a	0.50	0.42	0.08	26.68	
93	SK1035	P816	Ⅲ 1 8s	0.26	0.26	0.11	26.82		93	SK1096	SK58	Ⅲ J 8a	(1.1)	0.80	0.24	26.54	
93	SK1036	P821	Ⅲ 1 8s	0.34	0.30	0.12	26.77		93	SK1097	P868	Ⅲ J 8a	0.38	0.36	0.08	26.70	
93	SK1037	P39	Ⅲ 1 8s	0.48	0.46	0.65	26.92		93	SK1098	P869	Ⅲ J 8a	0.44	0.24	0.17	26.62	
93	SK1038	P40	Ⅲ 1 8s	0.34	0.30	0.40	27.03		93	SK1099	P986	Ⅲ J 8a	0.30	(0.2)	0.07	26.70	
93	SK1039	P38	Ⅲ 1 8s	0.22	0.22	0.18	27.35		93	SK1100	P886	Ⅲ J 8a	0.40	0.26	0.18	26.60	
93	SK1040	P37	Ⅲ 1 8s	0.38	0.32	0.39	27.02		93	SK1101	P887	Ⅲ J 8a	0.44	0.24	0.19	26.58	
93	SK1041	P827	Ⅲ 1 8s	0.38	0.38	0.21	26.78		93	SK1102	P888	Ⅲ J 8a	0.46	0.42	0.25	26.52	
93	SK1042	P36	Ⅲ 1 8s	0.50	0.46	0.19	27.20		93	SK1103	P890	Ⅲ J 8a	0.38	0.28	0.04	26.72	SB15・礎石
93	SK1043	P828	Ⅲ 1 8s	0.58	0.50	0.13	26.81		93	SK1104	P889	Ⅲ J 8・9a	0.28	0.24	0.19	26.60	
93	SK1044	P829	Ⅲ 1 8s	0.28	0.22	0.00	26.86		93	SK1105	P870	Ⅲ J 8a	0.38	0.32	0.04	26.74	
	SK1045							欠番	93	SK1106	SK59	Ⅲ K J 8a・b	0.99	0.86	0.24	26.55	SB15・礎石
93	SK1046	P830	Ⅲ 1 8s	0.54	0.32	0.07	26.92		93	SK1107	P935	Ⅲ K J 8a・b	—	—	0.13	26.64	
93	SK1047	P825	Ⅲ 1 8s	0.46	0.34	0.17	26.89		93	SK1108	P938	Ⅲ K J 8a・b	0.48	0.42	0.06	26.71	
93	SK1048	P826	Ⅲ 1 8s	0.64	(0.26)	0.22	26.82		93	SK1109	SK162	Ⅲ J 8b	1.50	0.56	0.18	26.55	SB15・礎石
93	SK1049	P849	Ⅲ 1 8・9s	0.68	0.54	0.05	26.95		93	SK1110	SK61	Ⅲ J 8b	0.77	0.73	0.32	26.47	SB15・礎石

調査区	新道橋No	旧道橋No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考	調査区	新道橋No	旧道橋No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考
93	SK1111	P937	Ⅲ J 8b	0.36	0.34	0.23	26.52		93	SK1173	P915	Ⅲ I 9t	0.48	0.40	0.09	26.69	SB15
93	SK1112	SK60	Ⅲ J 8b	0.79	0.62	0.24	26.53	SB15・礎石	93	SK1174	P921	Ⅲ I 9t	0.39	0.36	0.20	26.55	
93	SK1113	SK63	Ⅲ J 8b	0.60	0.60	0.16	26.57		93	SK1175	SK78	Ⅲ I 9a,Ⅲ J 10a	0.60	0.48	0.15	26.59	SB15・礎石
93	SK1114	SK150	Ⅲ J 8b	0.75	(0.45)	0.13	26.51		93	SK1176	P891	Ⅲ I 9a,Ⅲ J 10a	0.40	0.28	0.04	26.75	
93	SK1115	P944	Ⅲ J 8b	0.68	0.46	0.16	26.58		93	SK1177	P926	Ⅲ J 9a	0.34	0.34	0.10	26.75	
93	SK1116		Ⅲ J 8b	0.54	(0.2)	—	—		93	SK1178	P985	Ⅲ J 9a	0.62	0.52	0.16	26.57	
93	SK1117	SK64	Ⅲ J 8b	0.95	(0.7)	0.21	26.51		93	SK1179	P929	Ⅲ J 9a	0.46	0.40	0.34	26.42	
93	SK1118	SK66	Ⅲ J 8・9b	0.65	(0.55)	0.27	26.48		93	SK1180	P931	Ⅲ J 9a	0.70	0.40	0.21	26.53	
93	SK1119	SK65	Ⅲ J 8・9b	(0.55)	(0.45)	0.14	26.56		93	SK1181	P932	Ⅲ J 9a	(0.3)	(0.24)	0.28	26.47	
93	SK1120	SK68	Ⅲ J 8b	(0.71)	(0.61)	0.13	26.47	SB15・礎石	93	SK1182	P933	Ⅲ J 9a	1.06	0.40	0.30	26.45	
93	SK1121	P946	Ⅲ J 8b	(0.3)	0.32	0.17	26.56		93	SK1183	P925	Ⅲ J 9a	0.34	0.34	0.10	26.65	
93	SK1122	SK102	Ⅲ J 8・9b,9c	0.90	(0.5)	0.24	26.49		93	SK1184	P927	Ⅲ J 9a	0.62	0.58	0.21	26.52	
93	SK1123	P947	Ⅲ J 8・9b,9c	0.84	(0.34)	0.15	26.55		93	SK1185	P928	Ⅲ J 9a	0.34	(0.22)	0.22	26.52	
93	SK1124	P86	Ⅲ I 8・9r	0.16	0.16	0.16	27.26		93	SK1186	P930	Ⅲ J 9a	0.28	0.28	0.29	26.44	
93	SK1125	P85	Ⅲ I 8・9r	0.50	0.44	0.57	26.85		93	SK1187	P916	Ⅲ I 9a,Ⅲ J 10a	0.50	0.54	0.28	26.47	
93	SK1126	P84	Ⅲ I 8・9r	0.10	0.10	0.16	27.22		93	SK1188	SK87	Ⅲ J 9a	1.20	0.60	0.44	26.30	
93	SK1127	P845	Ⅲ I 8・9s,9r	0.40	0.28	0.11	26.98		93	SK1189		Ⅲ J 9a	0.58	(0.32)	0.15	26.58	
93	SK1128	P846	Ⅲ I 9r・s	0.48	0.34	0.15	26.97		93	SK1190	P924	Ⅲ J 9a	0.30	0.26	0.04	26.68	
93	SK1129		Ⅲ I 9s	0.28	(0.14)	—	—		93	SK1191	SK88	Ⅲ J 9a	0.50	(0.3)	0.19	26.53	SB15・礎石
93	SK1130	P852	Ⅲ I 9s	0.22	0.18	0.23	26.69		93	SK1192	P960	Ⅲ J 9a	0.78	0.36	0.23	26.75	
93	SK1131	P848	Ⅲ I 9s	—	0.44	—	—		93	SK1193	P961	Ⅲ J 9a	0.48	0.34	0.19	26.53	
93	SK1132	SK100	Ⅲ I 9s	(0.65)	0.35	0.37	26.55		93	SK1194	P958	Ⅲ J 9a	0.50	0.24	0.18	26.48	
93	SK1133	SK101	Ⅲ I 9s	0.75	0.30	0.35	26.44		93	SK1195		Ⅲ J 9a	(0.7)	0.38	0.27	26.48	
93	SK1134	SK52	Ⅲ I 9s	1.40	0.85	0.59	26.31		93	SK1196	P959	Ⅲ J 9a	0.48	0.38	0.28	26.44	
93	SK1135	SK51	Ⅲ I 8・9s	(1.1)	0.80	0.52	26.27		93	SK1197	P962	Ⅲ J 9a	(0.42)	0.38	0.15	26.59	
93	SK1136	P875	Ⅲ J 9s	0.94	(0.8)	0.30	26.49		93	SK1198	SK90	Ⅲ J 9a	1.60	0.45	0.41	26.31	
93	SK1137	P876	Ⅲ J 9s	0.30	0.18	0.28	26.49		93	SK1199		Ⅲ J 9a・b	0.62	(0.54)	0.12	26.55	
93	SK1138	P871	Ⅲ J 9s	0.38	(0.18)	0.03	26.75		93	SK1200	P963	Ⅲ J 9a	0.40	0.32	0.12	26.60	
93	SK1139	P872	Ⅲ J 9s	0.40	0.40	0.10	26.68		93	SK1201	SK76	Ⅲ J 9・10a	0.90	0.85	—	—	SB15・礎石
93	SK1140	P874	Ⅲ J 9s	(0.7)	0.34	0.11	26.64		93	SK1202	P939	Ⅲ J 9a・b	0.52	0.26	0.40	26.36	
93	SK1141	P873	Ⅲ J 9s	0.38	0.32	0.20	26.55		93	SK1203	P940	Ⅲ J 8・9b	0.72	0.38	0.32	26.44	
93	SK1142	P879	Ⅲ J 9s	(0.7)	(0.52)	0.49	26.28		93	SK1204	P941	Ⅲ J 9b	(0.48)	0.40	0.03	26.73	
93	SK1143	P878	Ⅲ J 9s	0.32	0.20	—	—		93	SK1205	P942	Ⅲ J 9b	0.28	0.22	0.23	26.54	
93	SK1144	P877	Ⅲ J 9s	0.76	(0.32)	0.34	26.39		93	SK1206	P943	Ⅲ J 9b	0.84	0.34	0.27	26.48	
93	SK1145	P881	Ⅲ I 9s・t	0.68	(0.48)	0.11	26.66		93	SK1207	SK67	Ⅲ J 8・9b	(1.8)	1.50	0.09	26.62	
93	SK1146	SK54	Ⅲ I 9s・t	0.90	0.90	0.20	26.54		93	SK1208	P949	Ⅲ J 9b	0.70	0.42	0.22	26.53	
93	SK1147		Ⅲ I 9s	(0.4)	0.36	—	—		93	SK1209	P948	Ⅲ J 9b	0.36	(0.24)	0.10	26.66	
93	SK1148		Ⅲ I 9s	(0.7)	0.46	—	—		93	SK1210	SK69	Ⅲ J 9c	0.86	0.66	0.22	26.53	SB15・礎石
93	SK1149		Ⅲ I 9s	0.74	0.28	—	—		93	SK1211	SK97	Ⅲ J 9b	0.90	0.70	0.28	26.44	
93	SK1150	P898	Ⅲ I 9s	0.56	0.28	—	—		93	SK1212	SK98	Ⅲ J 9b	0.80	(0.55)	0.35	26.34	
93	SK1151	P897	Ⅲ I 9s	0.46	0.28	—	—		93	SK1213	SK73	Ⅲ J 9a・b	(1.02)	1.13	0.40	26.36	SB15・礎石
93	SK1152	P899	Ⅲ I 9s	0.56	0.32	0.19	26.53		93	SK1214		Ⅲ J 9b	0.40	(0.38)	0.14	26.62	
93	SK1153	P900	Ⅲ I 9s	0.78	0.20	0.07	26.64		93	SK1215	P953	Ⅲ J 9b	0.70	0.52	0.30	26.46	
93	SK1154	P900	Ⅲ I 9s	0.60	0.20	0.09	26.67		93	SK1216	SK89	Ⅲ J 9a・b	1.40	0.35	0.46	26.26	
93	SK1155	P902	Ⅲ I 9s	0.98	0.56	0.13	26.58		93	SK1217	P951	Ⅲ J 9b	0.22	0.18	0.09	26.67	
93	SK1156		Ⅲ I 9s	0.42	0.36	0.09	26.61		93	SK1218	P952	Ⅲ J 9b	0.72	0.40	0.40	26.33	
93	SK1158	P905	Ⅲ I 9t	0.36	0.28	0.06	26.66		93	SK1219		Ⅲ J 9b	0.46	0.22	—	—	
93	SK1157	SK56	Ⅲ I 9s・t	1.50	0.45	0.54	26.19		93	SK1220	SK91	Ⅲ J 9b	1.95	0.45	0.26	26.45	
93	SK1159		Ⅲ I 9t	0.72	0.44	0.39	—		93	SK1221	SK74	Ⅲ J 9b	0.50	(0.35)	0.22	26.47	SB15・礎石
93	SK1160	P989	Ⅲ I 9t	0.44	0.28	0.81	25.97		93	SK1222	P957	Ⅲ J 9b	0.48	0.24	0.13	26.54	
93	SK1161	P883	Ⅲ I 9t	0.54	0.44	0.08	26.68		93	SK1223	SK92	Ⅲ J 9a,9・10b	(0.55)	0.60	0.12	26.54	
93	SK1162	P894	Ⅲ I 9t	0.48	0.28	0.05	26.73	SB15	93	SK1224	SK93	Ⅲ J 9・10b	1.20	0.40	0.50	26.18	
93	SK1163	P895	Ⅲ I 9t	0.44	0.40	0.06	26.71	SB15	93	SK1225	SK95	Ⅲ J 9b	0.80	0.30	0.14	26.54	
93	SK1164	P896	Ⅲ I 9t	0.86	0.30	0.10	26.68		93	SK1226	SK96	Ⅲ J 9b	1.10	0.50	0.06	26.62	
93	SK1165	P884	Ⅲ I 9t	0.56	0.54	0.10	26.69	SB15	93	SK1227	SK70	Ⅲ J 9c	0.59	0.52	0.25	26.50	SB15・礎石
93	SK1166	P893	Ⅲ I 9t	0.48	0.40	0.17	26.61		93	SK1228	SK99	Ⅲ J 9b・c	1.20	0.85	0.18	26.53	
93	SK1167		Ⅲ I 9t	0.28	0.24	—	—		93	SK1229	SK71	Ⅲ J 9c	0.60	0.48	0.18	26.49	SB15・礎石
93	SK1168	P892	Ⅲ I 9t	0.38	(0.26)	0.07	26.72	SB15・礎石	93	SK1230	P990	Ⅲ J 9c	(0.48)	0.40	0.14	26.55	
93	SK1169	P914	Ⅲ I 9t	0.32	0.30	0.55	26.47		93	SK1231	P993	Ⅲ J 9b	0.34	0.28	0.33	26.34	
93	SK1170	P982	Ⅲ I 9・10t	0.46	0.20	0.06	26.69		93	SK1232	P994	Ⅲ J 9c	0.24	0.16	0.23	26.44	
93	SK1171	P981	Ⅲ I 9・10t	(0.34)	0.22	0.08	26.67		93	SK1233	SK109	Ⅲ J 9c	(0.85)	0.35	0.13	26.53	
93	SK1172	P987	Ⅲ I 9t	(0.22)	0.46	0.21	26.54		93	SK1234	SK72	Ⅲ J 9c	0.74	0.38	0.20	26.45	SB15・礎石

調査区	新道橋No	旧道橋No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考	調査区	新道橋No	旧道橋No	グリッド	長軸m	短軸m	深さm	底レベル	備考	
93	SK1235	P992	Ⅲ J 9c	0.44	0.22	0.10	26.52		93	SK1297	SK106	Ⅲ J 11a	(0.7)	0.70	0.22	26.27		
93	SK1236	P906	Ⅲ I 10s	0.42	0.30	0.10	26.60		93	SK1298	SK110	Ⅲ J 11a	0.50	0.30	0.11	26.35		
93	SK1237	P907	Ⅲ I 9・10s, 10t	0.48	0.32	0.17	26.59		93	SK1299	SK112	Ⅲ J 11b	1.20	0.50	0.13	26.31		
93	SK1238	P910	Ⅲ I 10t	0.52	0.20	0.29	26.44		93	SK1300	SK113	Ⅲ J 11b	1.30	0.75	0.21	26.23		
93	SK1239	P913	Ⅲ I 10t	0.60	0.26	0.16	26.54		93	SK1301	P996	Ⅲ J 11b	0.44	0.34	0.09	26.35		
93	SK1240	P911	Ⅲ I 10s・t	0.28	0.11	0.08	26.65		93	SK1302	P1005	Ⅲ J 11b	0.34	0.32	0.11	26.33		
93	SK1241	P912	Ⅲ I 10t	0.38	0.26	0.09	26.60		93	SK1303	P998	Ⅲ J 11b	0.38	0.38	0.13	26.29		
93	SK1242	P917	Ⅲ I 10t	(0.34)	0.32	0.08	26.65		93	SK1304		Ⅲ J 11b	0.65	0.60	0.62	25.76		
93	SK1243	P918	Ⅲ I 10t	0.60	0.44	0.07	26.66	SB15	93	SK1305		Ⅲ J 11b・c	0.80	0.60	0.72	26.16		
93	SK1244	P919	Ⅲ I 10t	0.96	0.60	0.21	26.49		93	SK1306	SK138	Ⅲ J 11c・d	0.80	0.50	0.11	26.27		
93	SK1245	P920	Ⅲ I 10t	(0.44)	0.40	0.08	26.62		93	SK1307		Ⅲ J 11b	0.56	0.32	0.15	26.13		
93	SK1246	SK79	Ⅲ I 9・10t	1.80	1.15	0.38	26.33		93	SK1308	SK148	Ⅲ J 11c	0.90	(0.4)	0.04	26.16		
93	SK1247	SK81	Ⅲ I 10t	(2.15)	1.00	0.16	26.56		93	SK1309	SK147	Ⅲ J 11c	(0.7)	0.50	0.10	26.10		
93	SK1248		Ⅲ I 10t	0.40	0.36	—	—		93	SK1310	SK139	Ⅲ J 11c・d	3.40	2.40	0.26	26.02		
93	SK1249	P972	Ⅲ I 10t	0.94	0.64	0.30	26.41		93	SK1311	SK149	Ⅲ J 11c	0.60	(0.3)	0.04	26.11		
93	SK1250	P973	Ⅲ I 10t	0.44	0.26	0.14	26.54		93	SK1312	P1015	Ⅲ J 11c	0.44	0.40	0.10	26.08		
93	SK1251	P971	Ⅲ I 10t	1.00	0.48	0.11	26.54		93	SK1313	SK142	Ⅲ J 11・12c	3.15	2.25	0.26	25.92		
93	SK1252	P976	Ⅲ I 10t	1.00	(0.44)	0.32	26.33		93	SK1314	SK125	Ⅲ J 11d	1.60	1.10	0.14	26.07		
93	SK1253	P975	Ⅲ I 10t	1.22	0.34	0.03	26.61		93	SK1315	SK126	Ⅲ J 11d	(0.6)	(0.5)	0.13	26.09		
93	SK1254	P974	Ⅲ I 10t	0.28	0.24	0.05	26.59		93	SK1316	SK127	Ⅲ J 11d	(12.5)	0.70	0.11	26.09		
93	SK1255	P977	Ⅲ I 10t	0.28	(0.24)	0.35	26.33		93	SK1317	SK146	Ⅲ J 11d	(2.1)	1.10	0.18	25.99		
93	SK1256	P980	Ⅲ I 10・11t	0.38	0.30	0.06	26.62		93	SK1318	P1011	Ⅲ J 11d	(0.44)	0.32	0.02	26.11		
93	SK1257	P970	Ⅲ I 10t	0.40	0.26	0.04	26.65	SB15・礎石	93	SK1319	SK132	Ⅲ J 11d	(0.4)	0.45	0.02	26.14		
93	SK1258	SK80	Ⅲ J 9・10a	1.30	(0.4)	0.18	26.52		93	SK1320	SK131	Ⅲ J 11d・e	2.40	0.80	0.17	26.08		
93	SK1259	P965	Ⅲ J 10a	0.58	0.50	0.17	26.52		93	SK1321	SK140	Ⅲ J 11・12d	2.55	(1.75)	0.48	25.65		
93	SK1260	SK77	Ⅲ J 10a・b	0.64	0.43	0.30	26.35	SB15・礎石	93	SK1322	SK130	Ⅲ J 11e	(3.5)	1.65	0.08	26.08		
93	SK1261		Ⅲ J 10a	(0.4)	0.36	—	—		93	SK1323	SK133	Ⅲ J 11e	1.80	(0.65)	0.09	26.07		
93	SK1262	P967	Ⅲ J 10a	0.60	0.44	0.11	26.59		93	SK1324	SK134	Ⅲ J 11e	1.10	0.80	0.12	25.95		
93	SK1263	SK82	Ⅲ J 10a	(1.45)	1.10	0.47	26.19		93	SK1325	SK151	Ⅲ J 11e	(0.7)	(0.7)	0.24	26.29		
93	SK1264	P969	Ⅲ J 10a	1.08	0.60	0.17	26.47		93	SK1326	SK152	Ⅲ J 11e	0.55	(0.25)	0.25	26.28		
93	SK1265	P968	Ⅲ J 10a	(0.3)	(0.28)	—	—	SB15・礎石	93	SK1327	SK153	Ⅲ J 11e	(0.55)	0.50	0.14	26.36		
93	SK1266	P1014	Ⅲ J 10a	0.52	0.40	0.16	26.45		93	SK1328	SK154	Ⅲ J 11e	1.10	0.45	0.24	26.22		
93	SK1267	P1001	Ⅲ J 10a	0.72	0.32	0.13	26.47	礎石	93	SK1329	SK155	Ⅲ J 11e	0.70	0.40	0.10	26.36		
93	SK1268	SK84	Ⅲ J 10a	1.05	0.70	0.33	26.33		93	SK1330	SK156	Ⅲ J 11e	(1.7)	0.80	0.20	26.26		
93	SK1269	SK85	Ⅲ J 10a	2.60	1.30	0.26	26.37		93	SK1331		Ⅲ J 11f	0.20	0.20	—	—		
93	SK1270	P1003	Ⅲ J 10a	0.56	0.30	0.25	26.36		93	SK1332		Ⅲ J 12a	0.70	0.58	0.12	26.29		
93	SK1271		Ⅲ J 10b	0.72	0.60	—	—		93	SK1333	SD61	Ⅲ J 12a・b	(1.68)	0.54	—	0.09		
93	SK1272	SK75	Ⅲ J 10b	(1.5)	(1)	0.22	26.45	SB15・礎石	93	SK1334	P995	Ⅲ J 12b	0.80	0.60	0.24	26.21		
93	SK1273	SK94	Ⅲ J 10b	1.05	0.40	0.16	26.52		93	SK1335	P999	Ⅲ J 12b	0.44	0.36	0.07	26.33		
93	SK1274	P988	Ⅲ J 10b	0.70	0.30	0.39	26.21		93	SK1336	P1000	Ⅲ J 12b	0.32	0.32	0.13	26.28		
93	SK1275	SK111	Ⅲ J 10a・b	1.90	1.40	0.39	26.07			SK1337							欠番	
93	SK1276	P1002	Ⅲ J 10a・b	(0.42)	0.64	0.10	26.48		93	SK1338	SK114	Ⅲ J 12・13b	(1.8)	1.70	0.34	25.90		
93	SK1277	P1004	Ⅲ J 10b	(0.38)	0.70	0.26	26.33		93	SK1339	SK141	Ⅲ J 11・12c・d	(2.6)	(1.6)	0.12	26.01		
93	SK1278	SK115	Ⅲ J 9・10b	(1.1)	(0.7)	—	—		93	SK1340	SK143	Ⅲ J 12c・d	2.30	(1.1)	0.18	25.95		
93	SK1279	P1006	Ⅲ J 10c	0.40	0.34	0.11	26.41		93	SK1341	P1012	Ⅲ J 12c	0.34	0.34	0.17	25.80		
93	SK1280	P1007	Ⅲ J 10c	0.40	(0.24)	0.15	26.40		93	SK1342		Ⅲ J 12c・d	(1.0)	(0.8)	—	—		
93	SK1281	SK116	Ⅲ J 10・11c	1.60	0.90	0.06	26.49		93	SK1343	SK145	Ⅲ J 12・13c	1.20	0.35	0.19	25.75		
93	SK1282	SK119	Ⅲ J 10d	(0.5)	0.40	0.10	26.31		93	SK1344	SK137	Ⅲ J 12d	(1.0)	0.7	0.05	26.02		
93	SK1283	P1008	Ⅲ J 10d	0.34	0.30	0.24	26.24											
93	SK1284	P978	Ⅲ I 11t	(0.12)	(0.3)	—	—											
93	SK1285	P979	Ⅲ I 11t	(0.12)	(0.14)	0.16	26.53											
93	SK1286	P1009	Ⅲ J 10d	0.28	0.24	0.10	26.17											
93	SK1287	SK124	Ⅲ J 10d	(0.75)	0.60	0.09	26.20											
93	SK1288	SK123	Ⅲ J 10d	1.40	0.90	0.16	26.13											
93	SK1289	SK128	Ⅲ J 10d	1.85	1.20	0.15	26.10											
93	SK1290	SK122	Ⅲ J 10d・e	0.75	(0.2)	0.07	26.21											
93	SK1291	SK129	Ⅲ J 10・11e	(1.05)	1.25	0.27	26.03											
93	SK1292	SK103	Ⅲ J 11a		0.75	0.25	26.31											
93	SK1293	SK104	Ⅲ J 11a	1.40	0.80	0.29	26.24											
93	SK1294	SK107	Ⅲ J 11a		0.4	0.23	26.33											
93	SK1295	SK108	Ⅲ J 11a	(1.55)	0.30	0.27	26.28											
93	SK1296	SK105	Ⅲ J 11a	1.00	0.60	0.23	26.26											

〔遺物一覧表〕

1. 縄文土器・弥生土器

図版番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考	遺構	登録番号
第33図A	縄文土器					III J 11d 検IV	E-A
B	縄文土器					III J 11d 検IV	E-B
第33図1	人面付土器					SZ06 北溝	E-1
2	甕					SK0619	E-2
第34図3	甕	19.4				SB02	E-3
4	高杯		12.8			SB02	E-4
5	甕	22.8				SB06	E-5
6	壺					SZ01 南溝	E-6
7	壺	23.4	6.8	25.2		SZ02 北溝	E-7
8	壺	15.7	7.0	25.3		SZ02 北溝	E-8
9	高杯	22.2				SZ02 北溝	E-9
10	高杯		12.4			SZ02 北溝	E-10
11	高杯	15.9	12.0	12.1		SZ02 東溝	E-11
第35図12	壺	14.4	8.4	24.3		SZ04 南溝	E-12
13	壺	7.0	3.8	8.5		SZ04 南溝	E-13
14	壺	18.8	7.4	20.9		SZ04 南溝	E-14
15	壺	16.4	6.8	29.5		SZ05 南溝	E-15
16	壺		5.1			SZ05 南溝	E-16
17	壺	7.9	3.2	9.4		SZ06 西溝	E-17
18	壺	12.4	5.0	17.5		SZ06 東溝	E-18
19	壺	15.8	6.1	22.7		SZ06 南溝	E-19
第36図20	壺	18.6				III I 7r 検II (黒ボク)	E-20
21	壺	16.0				II I 5q 検II (黒ボク)	E-21
22	壺	15.1				II I 15j 検I (黒ボク)	E-22
23	壺	13.5	5.4	20.0		SK0560	E-23
24	壺	8.6	4.1	9.8		III I 6r 検II	E-24
25	壺		5.4			II I 15j 検I (黒ボク)	E-25
26	壺					III J 13c・e 検II	E-26
27	壺	22.8				SD06	E-27
28	壺	15.4				III I 8r 検II (黒ボク)	E-28
29	壺	15.4				SD29	E-29
30	壺	12.0				II I 16m 検I	E-30
31	壺					II I 19l・m 攪乱	E-31
32	甕	24.0				III J 13c 検IV	E-32
33	甕	18.0				SE01 崩落部	E-33
34	甕					II I 19l・m 攪乱	E-34
35	甕		9.0			III I 6r 検II (黒ボク)	E-35
第37図36	高杯	22.2				III I 7s 検II	E-36
37	高杯	20.2				SE01 崩落部	E-37
38	高杯	24.5	15.0	23.1		II I 19l・m 攪乱	E-38
39	高杯		12.8			II I 19l・m 攪乱	E-39
40	高杯		14.7			II I 19l・m 攪乱	E-40
41	高杯	15.0	10.4	11.3		II I 15i 検II	E-41

2. 須恵器・土師器

図版番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考	遺構	登録番号
第37図42	蓋	14.4		4.0		III I 6r 検III (黒ボク)	E-42
43	蓋					III I 6s 検II (黒ボク)	E-43
44	坏	10.6				III J 11d 検IV	E-44
45	坏	10.6				II I 17m 検I	E-45
46	坏	9.8	4.4	3.6		II I 17l 検I	E-46
47	高杯		10.4			SK0168	E-47
48	甕	29.2				III I 4q 上面清掃	E-48
49	碗	12.5	6.8	4.0	底部外面へラ記号あり	SK0154	E-49
50	製塩土器					SD02	E-50
51	甕	27.4				SD29上層	E-51
52	甕	27.0				II I 20m 基盤直上	E-52
53	甕	24.3				II I 15j 検I	E-53

3. 戦国・近世陶磁器類

図版番号	産地材質	器種	器形	器形2	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	軸差	備考	遺構	登録番号
第38図54	瀬戸美濃陶器	碗	天目					鉄軸		SD01	E-54
55	土師器	皿	非ロクロ	D						SD01	E-55
56	土師器	皿	非ロクロ	B						SD01	E-56
57	瀬戸美濃陶器	浅鉢	平鉢		28.1			灰軸		SD01	E-57
58	土師器	その他	蓋		13.0	2.6				SD01	E-58
59	土師器	鍋	壺形		12.8					SD01	E-59
60	土師器	鍋	内耳	A	24.1					SD01	E-60
61	土師器	鍋	内耳	A						SD01	E-61
62	土師器	皿	非ロクロ	B	12.2	2.0	7.0			SD02下層	E-62
63	土師器	皿	非ロクロ	B						SD02下層	E-63

図版番号	産地材質	器種	器形	器形2	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	釉薬	備考	遺構	登録番号
64	土師器	皿	非ロクロ	B	12.4					SD02下層	E-64
65	土師器	皿	非ロクロ	D	11.0	1.7				SD02下層	E-65
66	土師器	皿	非ロクロ	D	10.8	1.9	6.2			SD02下層	E-66
67	土師器	皿	非ロクロ	C	11.0	2.0	7.8			SD02下層	E-67
68	土師器	皿	非ロクロ	B						SD02上層	E-68
69	中国	碗						青磁		SD02下層	E-69
70	瀬戸美濃陶器	碗	天目					鉄釉		SD02下層	E-70
71	土師器	鍋	内耳	A	26.2					SD02	E-71
72	瀬戸美濃陶器	播鉢						錆釉		SD02下層	E-72
73	瀬戸美濃陶器	播鉢						錆釉		SD02下層	E-73
第39図74	土師器	皿	非ロクロ	B						SD03	E-74
75	中国	碗						青磁		SD03	E-75
76	瀬戸美濃陶器	碗	天目		12.0			鉄釉		SD03下層	E-76
77	瀬戸美濃陶器	鉢	小型鉢		11.0	4.6	4.6	灰釉		SD03下層	E-77
78	瀬戸美濃陶器	播鉢						錆釉		SD03下層	E-78
79	瀬戸美濃陶器	播鉢					10.0	錆釉		SD03下層	E-79
80	常滑	大型製品	壺		20.4			真焼		SD03上層	E-80
81											
82	土師器	鍋	内耳	A	28.0					SD03	E-82
83	瓦器	その他	十能							SD03下層	E-83
84	土師器	皿	非ロクロ	C	8.3	1.6	6.0			SD04上層	E-84
85	土師器	皿	非ロクロ	C						SD04上層	E-85
86	土師器	皿	非ロクロ	C	9.0	1.7	6.6			SD04上層	E-86
87	土師器	皿	非ロクロ	C	9.5	1.6	7.6			SD04上層	E-87
88	土師器	皿	非ロクロ	C	9.4	1.8	7.5			SD04上層	E-88
89	土師器	皿	非ロクロ	C	9.5	1.8	7.0			SD04上層	E-89
90	土師器	皿	非ロクロ	C	10.0	1.8	7.8			SD04上層	E-90
91	土師器	皿	非ロクロ	C	11.9	1.9	8.5			SD04上層	E-91
92	土師器	皿	非ロクロ	C	12.2	2.0	8.4			SD04	E-92
93	土師器	皿	非ロクロ	C	11.1	2.0	7.6			SD04上層	E-93
94	土師器	皿	非ロクロ	C	10.6	2.1	8.1			SD04	E-94
95	土師器	皿	非ロクロ	C	11.6	2.2	7.0			SD04上層	E-95
96	土師器	皿	非ロクロ	C	11.2	2.6	5.5			SD04	E-96
97	土師器	皿	非ロクロ	C	12.6	2.1	8.0			SD04上層	E-97
98	土師器	皿	非ロクロ	C	11.9	2.2	8.0			SD04上層	E-98
99	土師器	皿	非ロクロ	C	12.3	2.1	8.8			SD04上層	E-99
100	土師器	皿	非ロクロ	C	12.6	2.5	9.8			SD04	E-100
101	土師器	皿	非ロクロ	C	11.4	2.0	8.8			SD04上層	E-101
102	土師器	皿	非ロクロ	C	12.3	2.2	9.0			SD04上層	E-102
103	土師器	皿	非ロクロ	C	14.0	2.3	9.8			SD04	E-103
104	土師器	皿	ロクロ				6.4			SD04	E-104
105	土師器	皿	非ロクロ	B						SD04下層	E-105
106	土師器	皿	非ロクロ	B						SD04上層	E-106
107	土師器	皿	非ロクロ	B						SD04上層	E-107
108	瀬戸美濃陶器	碗	天目					鉄釉		SD04	E-108
109	中国	皿	稜花皿					青磁		SD04	E-109
110	土師器	鍋	壺形							SD04	E-110
第40図111	土師器	皿	非ロクロ	B						SD05	E-111
112	土師器	皿	非ロクロ	D	11.5					SD05	E-112
113	土師器	皿	非ロクロ	D	11.9					SD05	E-113
114	土師器	皿	非ロクロ	D	11.0					SD05	E-114
115	中国	皿	端反皿		15.5	3.4	8.4	白磁		SD05	E-115
116	瀬戸美濃陶器	鉢	筒形鉢		15.6			鉄釉		SD05	E-116
117	瀬戸美濃陶器	鉢	筒型				13.4	鉄釉		SD05	E-117
118	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗					灰釉		SD05	E-118
119	瀬戸美濃陶器	皿	灯さん		8.2	1.5	3.9	鉄釉		SD05	E-119
120	肥前磁器	碗			8.4	4.7	3.6	染付		SD05	E-120
121	瀬戸美濃陶器	播鉢						錆釉		SD05	E-121
122	瀬戸美濃陶器	播鉢						錆釉		SD05	E-122
123	瀬戸美濃陶器	播鉢						錆釉		SD05	E-123
124	瀬戸美濃陶器	鉢	播鉢		31.0			鉄釉		SD05	E-124
125	土師器	鍋	内耳	B	23.0					SD05	E-125
126	土師器	鍋	内耳	B						SD05	E-126
127	土師器	鍋	内耳	A						SD05	E-127
128	土師器	鍋	内耳	C	25.4					SD05	E-128
129	常滑	大型製品	壺					真焼		SD05	E-129
130	土師器	鍋	内耳	A	24.6					SD07	E-130
131	肥前産磁器	碗	平碗		11.4			白磁		SD07	E-131
第41図132	土師器	皿	非ロクロ	B	13.1					SD06上層	E-132
133	土師器	皿	非ロクロ	B	13.3					SD06上層	E-133

図版番号	産地材質	器種	器形	器形2	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	釉薬	備考	遺構	登録番号
134	土師器	皿	非ロクロ	B	15.2	2.5	10.2			SD06下層	E-134
135	土師器	皿	非ロクロ	B	12.8	1.7	9.0			SD06上層	E-135
136	土師器	皿	非ロクロ	B	14.2	2.0	8.6			SD06	E-136
137	土師器	皿	非ロクロ	B	11.4	2.0	8.0			SD06下層	E-137
138	土師器	皿	非ロクロ	A	13.5					SD06	E-138
139	土師器	皿	非ロクロ	A	15.8	1.9	7.2			SD06上層	E-139
140	土師器	皿	非ロクロ	A	12.4					SD06	E-140
141	土師器	皿	非ロクロ	A	11.8	1.7	8.4			SD06上層	E-141
142	土師器	皿	ロクロ		12.0	2.1	6.8			SD06	E-142
143	土師器	皿	非ロクロ	D	10.1	1.9				SD06	E-143
144	瀬戸美濃陶器	碗	天目		13.0			鉄・錆		SD06上層	E-144
145	瀬戸美濃陶器	碗	天目		9.4			鉄・錆		SD06	E-145
146	瀬戸美濃陶器	碗	天目					鉄釉		SD06上層	E-146
147	中国	碗	丸碗		15.0			青磁		SD06上層	E-147
148	瀬戸美濃陶器	鉢					12.0	鉄釉		SD06上層	E-148
149	瀬戸美濃陶器	鉢						鉄釉		SD06	E-149
150	瀬戸美濃陶器	鉢			14.4			灰釉		SD06	E-150
151	土師器	その他	蓋		12.2	1.1				SD06下層	E-151
152	土師器	鍋	壺形		15.2					SD06	E-152
153	土師器	鍋	壺形							SD06上層	E-153
154	土師器	鍋	内耳	A						SD06上層	E-154
155	土師器	鍋	内耳	A						SD06	E-155
156	土師器	大型製品	火鉢		38.8	11.8				SD06	E-156
157	常滑	大型製品	壺					真焼		SD06上層	E-157
158	瀬戸美濃陶器	大型製品	壺					鉄釉		SD06	E-158
第42図159	瀬戸美濃陶器	大型製品	壺		14.6			鉄釉		SD06	E-159
160	瀬戸美濃陶器	大型製品	壺				14.8	鉄釉		SD06	E-160
161	常滑	大型製品	甕		25.2			真焼		SD06	E-161
162	常滑	大型製品	甕				11.4	真焼		SD06	E-162
163	常滑	大型製品	甕		24.0			真焼	骨蔵器か？	SD06上層	E-163
第43図164	常滑	大型製品	壺		22.4			真焼	骨蔵器か？	SD06下層	E-164
165	常滑	大型製品	壺				16.0	真焼		SD06	E-165
第44図166	土師器	皿	非ロクロ	B	14.0					SD29下層	E-166
167	土師器	皿	非ロクロ	E	8.5	2.0				SD29下層	E-167
168	土師器	皿	非ロクロ	E	8.5	1.5				SD29下層	E-168
169	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		13.6			灰釉		SD29上層	E-169
170	瀬戸美濃陶器	碗					5.4	灰釉		SD29上層	E-170
171	瀬戸美濃陶器	皿					10.8	灰釉		SD29下層	E-171
172	土師器	鍋	内耳	B						SD29上層	E-172
173											
174	土師器	皿	非ロクロ	B	12.7					SD29上層	E-174
175	土師器	皿	非ロクロ	B	12.0					SD29上層	E-175
176	土師器	皿	非ロクロ	B	12.4	1.9	7.5			SD29上層	E-176
177	土師器	皿	非ロクロ	B	10.9	1.7	7.0			SD29上層	E-177
178	土師器	皿	非ロクロ	E	7.4	1.4	4.0			SD29上層	E-178
179	土師器	鍋	内耳	C						SD29上層	E-179
180	土師器	皿	非ロクロ	E	10.0	2.2				SW02	E-180
181	肥前磁器	碗			9.6			染付		SW03	E-181
182	瀬戸美濃陶器	壺・瓶						灰釉		SW03	E-182
183	土師器	皿	非ロクロ	C	9.8	1.7	6.6			SX02	E-183
184	土師器	皿	非ロクロ	C	10.6	2.0	7.8			SX02	E-184
185	土師器	皿	非ロクロ	C	12.0	2.2	9.0			SX02	E-185
186	土師器	皿	非ロクロ	C	13.4	2.2	8.8			SX02	E-186
187	土師器	皿	非ロクロ		11.2	1.8	7.5			SK0260	E-187
188	土師器	皿	非ロクロ		11.2	2.1	8.5			SK0260	E-188
189	土師器	皿	非ロクロ	D	11.0	1.0	8.0			SK0293	E-189
190	土師器	皿	非ロクロ		5.7	0.9	5.0		底部板状具圧痕	SK0321	E-190
191	瀬戸美濃陶器	鉢	平鉢					灰釉		SK0323	E-191
192	瀬戸美濃磁器	碗				5.6		染付		SK0323	E-192
193	瀬戸美濃陶器	皿	灯さん		7.8	1.4	3.6	鉄釉		SK0327	E-193
194	瀬戸美濃磁器	碗	丸碗		10.4	5.4	4.2	染付		SK0327	E-194
195	肥前磁器	碗					4.0	染付		SK0327	E-195
196	肥前産磁器	碗	腰折碗		8.8	7.1	4.8	染付		SK0327	E-196
197	瓦器	その他	十能							SK0335	E-197
198	土師器	皿	ロクロ		11.2	2.0	7.5			SK0343	E-198
199	土師器	皿	ロクロ		8.8	2.1	6.0		底部板状具圧痕	SK0408	E-199
200	土師器	皿	非ロクロ	B	13.7	2.0	7.0			SK0466	E-200
201	瀬戸美濃陶器	鉢	丸鉢					灰釉		SK0593	E-201
202	土師器	皿	ロクロ		11.4	2.4	8.6			SK0600	E-202
203	土師器	皿	非ロクロ		5.4	1.0	4.0		底部板状具圧痕	SK0705	E-203

図版番号	産地材質	器種	器形	器形2	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	釉薬	備考	遺構	登録番号
204	瀬戸美濃陶器	碗	天目					鉄・錆		SK0794	E-204
205	瀬戸美濃陶器	皿					5.2	灰・錆		SK0807	E-205
第45図206	瀬戸美濃陶器	碗	天目		11.5			鉄・錆		SK0843	E-206
207	瀬戸美濃陶器	碗	天目		10.4			鉄・錆		SK0845	E-207
208	中国	皿	端反皿		11.2	2.4	5.4	白磁		SK0865	E-208
209	土師器	皿	非ロクロ	A	10.0	1.4	6.6			SK0871	E-209
210	土師器	皿	非ロクロ	C	13.6		10.8			SK0874	E-210
211	土師器	皿	ロクロ		11.2	1.8	8.4			SK0875	E-211
212	土師器	皿	非ロクロ		13.4					SK0875	E-212
213	瀬戸美濃陶器	皿	端反皿		11.6	2.8	5.6	灰釉		SK0877	E-213
214	瀬戸美濃陶器	碗	天目					鉄・錆		SK0890	E-214
215	土師器	皿	ロクロ		12.4	2.3	9.4			SK0914	E-215
216	瀬戸美濃陶器	碗	天目		11.4	5.3	4.4	鉄・錆		SK0976	E-216
217	土師器	皿	非ロクロ	D	8.2	1.5				SK0987	E-217
218	肥前産磁器	碗	平碗		12.6	3.7	3.7	染付		SK1075	E-218
219	土師器	皿	非ロクロ	E	9.2	2.6	4.0			SK1160	E-219
220	土師器	皿	非ロクロ	E	9.5	2.5	5.0			SK1160	E-220
221	肥前産磁器	碗	平碗		12.8			染付		SK1263	E-221
222	土師器	皿	非ロクロ	D	8.4	1.5				SK1308	E-222
223	土師器	皿	非ロクロ	B	13.0	2.0	10.4			SK1308	E-223
224	土師器	皿	非ロクロ	B	13.8	2.3	11.0			SK1308	E-224
225	土師器	皿	非ロクロ	E	10.2	2.5	6.0			SK1313	E-225
226	瀬戸美濃陶器	皿	灯さん		11.0	2.0	5.4	鉄釉		SK1313	E-226
227	肥前産磁器	その他	水滴		9.0×5.0×2.8			染付		SK1313	E-227
228	瀬戸美濃陶器	碗	平碗		12.2	5.4	3.8	灰釉		SK1313	E-228
229	瀬戸美濃陶器	碗	腰折碗		8.3	5.8	5.2	灰釉		SK1313	E-229
230	瀬戸美濃陶器						18.6	鉄釉		SK1313	E-230
231	土師器	鍋	内耳	A						SK1321	E-231
232	瀬戸美濃陶器	碗	小型碗		7.8	4.3	4.1	灰釉		SK1321	E-232
233	瀬戸美濃陶器	碗	小型碗		7.7			染付		SK1321	E-233
234	瀬戸美濃陶器	碗	小型碗		8.0			染付		SK1321	E-234
235	土師器	皿	非ロクロ	B	13.4	2.0	6.8			SE02	E-235
236	土師器	皿	非ロクロ	B	11.6	1.9	7.2			SE02	E-236
237	土師器	皿	非ロクロ	B						SE02	E-237
238	常滑	大型製品	甕					真焼		SE02	E-238
239	瀬戸美濃陶器	播鉢						錆釉		SE02	E-239
240	土師器	鍋	内耳	B						SE03	E-240
241	土師器	皿	非ロクロ	D	8.2	1.3				SE03	E-241
242	土師器	皿	非ロクロ	B	14.8	2.0	8.0			SE03	E-242
243	瀬戸美濃陶器							鉄釉		SX04	E-243
244	土師器	皿	非ロクロ	E	10.0	2.4	15.0			SX05	E-244
245	瀬戸美濃陶器	鉢								SX05	E-245
246	瀬戸美濃陶器	播鉢						錆釉		SX05	E-246
247	土師器	鍋	焙烙	A	29.1					SX05	E-247
第46図248	瀬戸美濃陶器	播鉢						錆釉		SX06	E-248
249	土師器	鍋	内耳	B						SX06	E-249
250	土師器	鍋	焙烙	A						SX06	E-250
251	土師器	皿	非ロクロ	E	9.6					SX06	E-251
252	土師器	皿	非ロクロ	D	9.6					SX06	E-252
253	瀬戸美濃陶器	播鉢					10.4	錆釉		SX06	E-253
254	肥前産磁器	皿	小型皿		6.2	2.0	2.4	染付		SU01	E-254
255	土師器	皿	非ロクロ	E	8.8	2.2	2.3			SU01	E-255
256	土師器	皿	非ロクロ	E	10.4	2.0	7.0			SU01	E-256
257	瀬戸美濃陶器	鉢	丸鉢		39.0			灰釉		SU01	E-257
258	瀬戸美濃陶器	鉢	播鉢		32.4			錆釉		SU01	E-258
259	土師器	鍋	焙烙	B	36.0	7.7	18.4			SU01	E-259
260	土師器	鍋	焙烙	B	43.0	7.0	21.8			SU01	E-260
第47図261	常滑	甕			79.0	76.0	22.0	赤物		SX07	E-261
262	常滑	甕			82.0	78.0	21.2	赤物		SX08	E-262
第48図263	常滑	甕			76.0	75.2	23.2	赤物		SX09	E-263
264	常滑	甕			71.2	78.0	20.0	赤物		SX10	E-264
第49図265	瀬戸美濃陶器	碗	天目		11.7	6.6	4.2	鉄釉・錆		IIIJ11d 検IV	E-265
266	瀬戸美濃陶器	碗	天目		12.2			鉄釉・錆薄の		IIIJ11e 検II	E-266
267	瀬戸美濃陶器	碗	天目		12.5			鉄釉・錆		SE01 崩壊部	E-267
268	瀬戸美濃陶器	碗	天目		12.2			鉄釉・錆		表土	E-268
269	瀬戸美濃陶器	碗	天目		12.5			鉄釉・無		II I 171 検 I	E-269
270	瀬戸美濃陶器	碗	天目		11.8			鉄釉・錆		IIIJ11e 検 I	E-270
271	瀬戸美濃陶器	皿	端反皿		11.8	2.7	6.6	灰釉		IIIJ13d 東壁トレンチ	E-271
272	瀬戸美濃陶器	皿	端反皿		8.8	2.5	4.9	灰釉		III J 11e 検出	E-272
273	瀬戸美濃陶器	皿	丸皿		10.8	2.9	6.2	灰釉		III17s 検 I	E-273

図版番号	産地材質	器種	器形	器形2	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	釉薬	備考	遺構	登録番号
274	瀬戸美濃陶器	皿			11.2	2.9	6.8	灰釉		III7s 検I	E-274
275	瀬戸美濃陶器	皿	丸皿		10.4	2.6	5.0	鉄釉		III J 11d 検IV	E-275
276	瀬戸美濃陶器	皿	丸皿		10.4	2.9	5.8	灰釉		II I 16k 検I	E-276
277	瀬戸美濃陶器	皿	稜皿		11.2	2.9	6.6	鉄釉		III J 11d 検IV	E-277
278	瀬戸美濃陶器	香炉			5.6	4.6	5.2	灰釉		III I 4r 検I	E-278
279	中国	碗	丸碗		15.0			青磁		III J 11f 検出	E-279
280	中国	皿			11.4	3.0	6.2	青磁		II I 15l 検I	E-280
281	中国	皿	端反皿			2.4		染付		III J 13c 検II	E-281
282	常滑	浅鉢	鉢		37.4	11.7	16.4	真焼き		III J 11f 検出	E-282
283	瀬戸美濃陶器	播鉢			27.0	11.5	9.8	錆釉		III J 11d 検IV	E-283
284	瀬戸美濃陶器	播鉢			29.0			錆釉		III J 11d 検IV	E-284
285	瀬戸美濃陶器	播鉢			30.0	10.4	10.0	錆釉		II I 15l 検I	E-285
286	瀬戸美濃陶器	播鉢			33.0			錆釉		III J 11d 検IV	E-286
287	瓦器	大型製品	風炉		27.0					III I 4q 検I	E-287
第50図288	肥前産磁器	その他	蓋		8.5			染付		III J 7a 検I	E-288
289	肥前産磁器	碗	腰折碗		8.4			染付		III6r 検I	E-289
290	肥前産磁器	碗	腰折碗		7.6	5.4	3.6	染付		III I 6t 落込	E-290
291	肥前産磁器	碗	小型碗		9.6	5.6	5.8	染付		III8t 検II	E-291
292	肥前産磁器	碗	小碗					染付		III I 6r 検I	E-292
293	肥前産磁器	碗	小碗		10.3	5.7	3.8	染付		III J 12d 検I	E-293
294	肥前産磁器	碗	小碗				4.8	染付		III I 2p 検II	E-294
295	肥前産磁器	皿	丸皿		13.8	2.9	8.2	染付		III8t 検III	E-295
296	肥前産磁器	皿	丸皿		12.6	3.9	5.0	染付		III J 10c 検I	E-296
297	肥前産磁器	皿	小型皿		6.4	2.6	2.8	染付		III J 13e-f 検出	E-297
298	瀬戸美濃陶器	碗	広東碗				5.9	染付		III 15s 東壁トレンチ	E-298
299	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		10.8	4.8	3.7	染付		III J 10b 検II	E-299
300	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		9.0	6.2	3.4	染付		III 13p 南部落込・覆群	E-300
301	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		10.8	4.2	3.8	染付		III J 12c 検I	E-301
302	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		8.9	5.6	3.6	染付		III J 10d 検II	E-302
303	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		9.2	5.8	3.0	灰釉		III J 9a 検II	E-303
304	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		10.4	4.5	3.6	灰釉		III J 11c 検II	E-304
305	肥前産陶器	碗	丸碗		9.2			灰釉		III J 9b 検I	E-305
306	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗				4.8	染付		III J 11d 検I	E-306
307	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		7.8			鉄釉・灰釉		III J 12c 検I	E-307
308	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		7.4	5.7	3.9	鉄釉・灰釉		III J 11d 検I	E-308
309	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		8.7	6.3	4.0	灰釉・鉄釉		III J 9a 検I	E-309
310	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		10.0			灰釉		III J 10d 検II	E-310
311	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		10.0			鉄釉		III I 4r 検I	E-311
312	瀬戸美濃陶器	碗	平碗		12.8			銅緑釉		III J 7a 検I	E-312
313	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		10.8			灰釉		III J 8a 検I	E-313
314	瀬戸美濃陶器	碗	平碗		13.6			灰釉		III J 11c 検II	E-314
315	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		10.1	6.3	4.6	鉄釉		III J 10b 検III	E-315
316	不明磁器	碗			11.8			青磁		III I 6t 検I	E-316
317	瀬戸美濃陶器	碗	丸碗		11.6			灰釉		II I 19l 検I	E-317
318	瀬戸美濃陶器	碗	小型碗		6.2			灰釉		III J 11d 検II	E-318
319	瀬戸美濃陶器	皿			13.0			灰釉		III J 10a 検III	E-319
320	瀬戸美濃陶器	皿	丸皿		10.4	1.9	4.6	鉄釉		III I 8s 検I	E-320
321	瀬戸美濃陶器	皿	丸皿		7.6	1.6	3.3	鉄釉		III J 9a 上面清掃	E-321
322	瀬戸美濃陶器	皿	その他		8.3	2.2	4.1	灰釉		III J 11c 検II	E-322
323	瀬戸美濃陶器	皿	灯さん		11.0	2.1	5.9	鉄釉		III J 13d 上面清掃	E-323
324	瀬戸美濃陶器	その他	蓋		3.8	1.5		灰釉		III J 12c 検I	E-324
325	瀬戸美濃陶器	その他	蓋		7.8	1.7		灰釉		III I 3p 検III	E-325
326	瀬戸美濃陶器	碗	仏飯具				3.9	鉄釉		III J 11c 検II	E-326
327	瀬戸美濃陶器	碗	仏飯具		8.6	5.7	5.0	灰釉		III J 13d 検I	E-327
第51図328	瀬戸美濃陶器	壺・瓶	肩壺					鉄釉		III J 11d 検IV	E-328
329	瀬戸美濃陶器	壺・瓶	肩壺		9.4	11.0	10.4	灰釉		III J 12d 検II	E-329
330	瀬戸美濃陶器	鉢	丸鉢		16.1	7.8	8.1	灰釉		東壁セクション	E-330
331	瀬戸美濃陶器	鉢	丸鉢		15.7	9.6	7.8	灰釉		III J 8a-b 検I	E-331
332	瀬戸美濃陶器	鉢	植木鉢		33.0			灰釉		III I 3n 検III	E-332
333	瀬戸美濃陶器	鉢	植木鉢				19.0	灰釉		III I 3n 検III	E-333
334	瀬戸美濃陶器	鉢	丸鉢					灰釉		III I 2q 検I	E-334
335	瀬戸美濃陶器	鉢	丸鉢					灰釉		III8t 上面清掃	E-335
336	瀬戸美濃陶器	鉢	播鉢		31.6			鉄釉		III3o 南部落込・覆群	E-336
337	瀬戸美濃陶器	鉢	播鉢		35.2			錆釉		III J 9b 検I	E-337
338	瀬戸美濃陶器	鉢	播鉢		40.0			錆釉		III J 7a 検I	E-338
第52図339	土師器	鍋	内耳	A	28.4	15.0				III J 11d 検IV	E-339
340	土師器	鍋	内耳	A	31.0					III J 11d 検I	E-340
341	土師器	鍋	内耳	B	19.0					III J 11d 検IV	E-341
342	土師器	鍋	内耳	B	20.4					III J 11d 検IV	E-342
343	土師器	鍋	内耳	B	24.0					III J 11c 検IV	E-343

図版番号	産地材質	器種	器形	器形2	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	釉薬	備考	遺構	登録番号
344	土師器	鍋	内耳	C	27.4					III J 11e 検 I	E-344
345	土師器	鍋	内耳	B	24.0					III I 2q 検 I	E-345
346	土師器	鍋	焙烙	A	30.4					III J 12d 検 II	E-346
347	土師器	鍋	焙烙	A	28.2					III I 8t 検 II	E-347
348	土師器	鍋	内耳	B	16.0					III J 11d	E-348
349	土師器	鍋	焙烙	B	34.8	8.7				III J 11c 検 IV	E-349
350	土師器	鍋	焙烙	B	40.6					III J 8a 検 I	E-350
第53図351	土師器	皿	ロクロ		10.4	2.3	7.1	墨書		III I 2o 南部落込・礫群	E-351
352	土師器	皿	ロクロ		10.4	2.2	6.6	墨書		III I 2o 南部落込・礫群	E-352
353	土師器	皿	ロクロ		10.8	1.8	7.2			III I 2o 南部落込・礫群	E-353
354	土師器	皿	ロクロ		10.7	2.3	6.8			III I 5r 検 I	E-354
355	土師器	皿	ロクロ		11.8	2.3	8.1			III I 3n 南部落込・礫群	E-355
356	土師器	皿	ロクロ		10.4	2.9	6.4			III I 5r 検 I	E-356
357	土師器	皿	ロクロ		11.5	2.3	7.9			III I 2q 検 I	E-357
358	土師器	皿	非ロクロ	C	11.3	2.4	8.0			III I 2q 検 I	E-358
359	土師器	皿	非ロクロ	A	10.4	2.0	3.8			III I 2q 検 I	E-359
360	土師器	皿	非ロクロ	C	12.0	1.8	8.0			III J 11d 検 IV	E-360
361	土師器	皿	非ロクロ	B	12.6	1.9	8.8	底部穿孔		東壁セクション	E-361
362	土師器	皿	非ロクロ	B	13.2	2.3	6.4			III J 11d 検 IV	E-362
363	土師器	皿	非ロクロ	B	10.6	2.0	6.6			III I 2q 検 I	E-363
364	土師器	皿	ロクロ		12.8	2.1	8.2			III J 11d 検 IV	E-364
365	土師器	皿	非ロクロ	B	11.6	2.4	3.2			III J 11d 検 IV	E-365
366	土師器	皿	非ロクロ	B	12.0	2.0	3.0	墨書		III J 12d 検 IV	E-366
367	土師器	皿	非ロクロ	B	12.5	1.9	6.2			III J 11f 検 II	E-367
368	土師器	皿	非ロクロ	B	15.8			絵付け		III I 4n・o 南部落込・礫群	E-368
369	土師器	皿	非ロクロ	D	10.4	1.7				III I 6p 検 I	E-369
370	土師器	皿	非ロクロ	E	10.8	1.6	7.0			III J 8a 検 II	E-370
371	土師器	皿	非ロクロ	D	9.0	2.1				III I 9t 検 I	E-371
372	土師器	皿	非ロクロ	D	8.2	1.3	4.5			表土	E-372
373	土師器	皿	非ロクロ	E	9.8	2.6				III I 10t 検 III	E-373
374	土師器	皿	非ロクロ	D	13.0	2.6				III I 2o 南部落込・礫群	E-374
375	土師器	皿	非ロクロ	E	7.2	1.3	4.5			III I 7t 検 I	E-375
376	土師器	皿	非ロクロ	E	7.1	1.9	4.6			III J 11e 検 IV	E-376
377	土師器	皿	非ロクロ	C	8.0	1.7	5.4			III I 6t 上面清掃	E-377
378	土師器	皿	非ロクロ	E	9.0	2.5	6.0	墨書		III J 7a 検 I	E-378
379	土師器	皿	非ロクロ	E	8.9	2.4	6.0	墨書・穿孔		III J 11・12c 検 II	E-379
380	土師器	皿	非ロクロ	D	11.6	2.0	7.3	墨書		III J 13c 検 II	E-380
381	土師器	皿	非ロクロ	E	9.0	2.7	4.4			III I 6t 東壁トレンチ	E-381
382	土師器	皿	非ロクロ	E	10.5	2.1	7.8			III J 12d 検 I	E-382
383	土師器	皿	非ロクロ	E	11.5	2.6	8.4			III J 11d 検 IV	E-383
384	土師器	皿	非ロクロ	E	10.0	1.7	5.8			III I 6t 検 I	E-384
385	土師器	皿	非ロクロ	E	9.3	2.0	5.7			III I 2q 検 I	E-385
386	土師器	皿	非ロクロ	E	9.4	2.3	5.0			III I 8t 検 I	E-386
387	土師器	皿	非ロクロ	E	9.2	2.3	5.4			III I 6t 東壁トレンチ	E-387
388	土師器	皿	非ロクロ	E	9.5	2.5	6.8			III J 11d 検 IV	E-388
389	土師器	皿	非ロクロ	E	12.0	2.8	8.8			III I 6s 検 I	E-389
390	土師器	皿	非ロクロ	E	9.0	2.6	5.0			III I 2q 検 I	E-390
391	土師器	その他			直径6.6					III J 12c 検 II	E-391
392	土師器	その他	鉢形		10.2	4.7	8.0			III J 10d 検 II	E-392
393	土師器	その他	鉢形		10.4	4.7	8.8			III J 11d 検 II	E-393
394	土師器	その他	鉢形		13.8	6.6	9.0			III J 11d 検 IV	E-394
395	土師器	その他								III J 10d 検 II	E-395

4. 瓦

図版	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	軒丸部直径(cm)	軒平部幅(cm)	遺構	登録	備考
第54図396	軒丸瓦						SK1313	E-396	
397	軒丸瓦			1.6			III J 4a 上面清掃	E-397	
398	軒丸瓦			2.2	9.4		III J 4a 上面清掃	E-398	
399	軒丸瓦				9.2		III I 4p 上面清掃	E-399	
400	軒丸瓦				8.6		III I 3p 検 II	E-400	
401	軒丸瓦						SK1321	E-401	
402	軒棧瓦			2.0	8.9	6.5	SK1313	E-402	
403	軒平瓦			1.6		3.8	SD05	E-403	
404	軒平瓦			2.2		4.4	SK1313	E-404	
405	軒平瓦			1.9		4.8	III I 3r 東壁トレンチ	E-405	
406	丸瓦	26.9	14.0	1.8			SD05	E-406	
407	丸瓦		14.8	1.8			SD05	E-407	
第55図408	丸瓦		14.9	2.2			III I 8t 検 I	E-408	
409	丸瓦		14.6	2.0			III I 8t 検 I	E-409	

図版	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	軒丸部直径(cm)	軒平部幅(cm)	遺構	登録	備考
410	平瓦	30.5		1.8			SD05	E-410	
411	平瓦	28.4		2.0			SK1313	E-411	
412	平瓦	28.0		1.6			SK1313	E-412	

5. 石器・石製品

図版番号	器種	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(g)	重さ(g)	備考	遺構	登録番号
第56図1	縦長剥片	頁岩	(3.1)	2.6	0.95	6.8	播器か?	SK1316	S-1
2	石鏃	黒曜石	2.2	1.2	0.35	0.9		SD04上層	S-2
第57図3	打製石斧	流紋岩	(8.6)	4.4	1.1	(63.5)		SD04下層	S-3
4	打製石斧	蛇紋岩	(10.0)	4.2	1.2	(87.8)		SD03下層	S-4
5	打製石斧	砂岩	(7.6)	4.5	1.9	(112.8)		SZ02 北溝再葬墓	S-5
6	打製石斧	緑色片岩	9.7	4.4	1.1	(93.3)		II I 15j 検I	S-6
7	打製石斧	結晶片岩	(18.4)	6.2	1.5	(314)		II I 18l 検II	S-7
8	砥石	凝灰岩	6.0	2.35	2.2	52.8		SD04下層	S-8
9	砥石	凝灰岩	(7.6)	4.6	2.1	(109.4)		SD04下層	S-9
10	砥石	凝灰岩	(8.7)	6.6	0.95	(90.8)		SK408	S-10
11	砥石	凝灰岩	(7.1)	2.45	2.2	(73.3)		II I 15l 検I (黒ボク)	S-11
12	砥石	凝灰質泥岩	(8)	4.6	1.1	(48.1)		III I 9s 検I	S-12
13	硯	泥岩	(5.5)	(1.4)	1.3	(17.2)	砥石に転用	II I 16j 検I	S-13
14	五輪塔	凝灰岩	(20.5)	(10)	(9.2)	(3000)		SW05 崩落部	S-14
図版番号	器種	材質	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	重さ(g)	備考	遺構	登録番号
15	石鉢	砂質凝灰岩	34.2	10.8	18.8	(464)		SE03	S-15
16	挽臼	砂質凝灰岩	25.6	(5.4)		(254.9)		III I 3m 南部落込	S-16
17	茶臼	砂質凝灰岩	18.8	11.5	18.4	(4500)		III J11e 検出	S-17
18	挽臼	砂質凝灰岩	28.6	11.0	27.4	(3500)		SD05	S-18

6. 金属製品

図版番号	器種	材質	長さ(cm)	幅(cm)	重さ(g)	備考	遺構	登録番号
第59図1	鉄鏃	鉄	10.5	1.5	16.2		SK792	M-1
2	鉄鏃	鉄	5.1	1.4	10.9		III J 7t 落込	M-2
3	鉄鏃	鉄	4.9	1.5	12.2		SK1202	M-3
4	鉛玉	鉛	1.2	1.2	7.1		III I 3p 検IV	M-4
5	小柄断片	銅	2.3	1.3	2.9		SK1206	M-5
6	不明	鉄	3.8	1.0	1.7	石突きか	II I 19l 検I	M-6
7	不明	鉄	3.8	1.0	2.2	石突きか	II I 18l 検I	M-7
8	小札	鉄	6.6	2.8	11.0		II I 16l・m 基盤直上	M-8
9	小札	鉄	3.9	2.7	5.9		SK406	M-9
10	小札	鉄	2.3	1.7	2.4		SD04	M-10
11	鎌	鉄	21.3	12.5	111.4		III I 5p 上面清掃	M-11
12	鎌	鉄	12.7	5.0	26.2		III I 4p 上面清掃	M-12
13	鉈	鉄	22.9	6.7	99.6		SW02	M-13
14	三股製品	鉄	4.3	3.9	22.5		SK1321	M-14
15	不明	鉄	9.0	2.5	20.7	小刀か	III I 8t 検I	M-15
16	分銅(銅鎌)	銅	2.6	2.4	44.9(12%)		III J 10c 検II	M-16
第60図17	装飾用の金具	銅	6.5	4.2	7.9		III J 12c 検I	M-17
18	板	鉄	6.3	3.4	18.0		II I 15l 検I	M-18
19	引き具	鉄	8.3	4.1	23.3		III J 10a 検I	M-19
20	飾金具	鉄	3.6	3.6	4.7		SK0051	M-20
21	飾金具	銅	2.1	2.0	2.0		III J 11d 検II	M-21
22	飾金具	銅	1.9	0.7	1.2		III J 11c 検II	M-22
23	飾金具	銅	1.6	1.4	1.2		III J 12c 検I	M-23
24	蓋	銅			10.2	直径8.4cm 高さ0.9cm	SK0679	M-24
25	十能	銅	13.9	12.0	125.0		III I 3n 検II	M-25
26	火打ち金	鉄	4.3	2.2	6.3		III I 6t 落込	M-26
27	火打ち金	鉄	5.5	2.2	9.1		III I 4p 検II	M-27
28	火打ち金	鉄	5.5	2.5	7.7		III I 6t 落込	M-28
29	火打ち金	鉄	8.8	3.7	11.6		III I 9t 検III	M-29
30	簪	銅	15.6	0.7	5.0		III J 8a 検I	M-30
31	横櫛	銅	8.7	0.9	5.3	木質部一部残存	III J 3a 上面清掃	M-31
第61図32	雁首	銅	3.6	1.6	3.1		SX10	M-32
33	雁首	銅	3.7	1.6	3.1		III J 11d 検IV	M-33
34	雁首	銅	3.4	1.6	4.3		III J 8a 検I	M-34
35	雁首	銅	3.2	1.9	4.1		SD04下層	M-35
36	雁首	銅	3.6	1.5	6.0		III I 3n 検出	M-36
37	吸口	銅	7.8		6.1	直径1.1cm	III I 3n 検II	M-37
38	吸口	銅	3.4	1.1	3.8		SD03下層	M-38
39	吸口	銅	6.6		3.4	直径0.9cm	SD03下層	M-39
40	吸口	銅	3.5		3.2	直径1.3cm	SD04下層	M-40
41	吸口	銅	7.1		2.6	直径0.9cm	III J 7a 検I	M-41

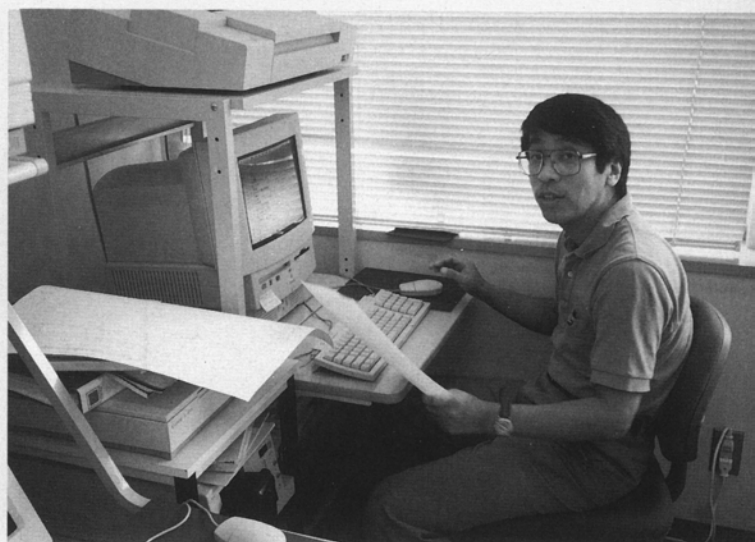
図版番号	器種	材質	長さ(cm)	幅(cm)	重さ(g)	備考	遺構	登録番号
42	吸口	銅	12.5		11.2	直径0.8cm	SD04下層	M-42
第62図54	釘	鉄	17.2	0.8	34.0		III J 11c 検IV	M-54
55	釘	鉄	13.5	0.8	37.0		SK1321	M-55
56	釘	鉄	11.4	1.2	17.4		SK1321	M-56
57	釘	鉄	8.0	1.1	14.3		III J 12c 検IV	M-57
58	釘	鉄	15.4	1.0	28.1		SK556	M-58
59	釘	鉄	9.9	0.6	11.8		SK1321	M-59
60	釘	鉄	8.5	1.3	14.8		SK1321	M-60
61	釘	鉄	6.6	0.6	7.3		SD02下層	M-61
62	釘	鉄	7.9	0.6	7.9		SK1321	M-62
63	釘	鉄	9.6	0.7	13.3		SK1321	M-63
64	釘	鉄	11.1	0.5	8.3		SK327	M-64
65	釘	鉄	5.9	0.6	2.6		III I 6t 落込	M-65

7. 金属製品（銭貨）

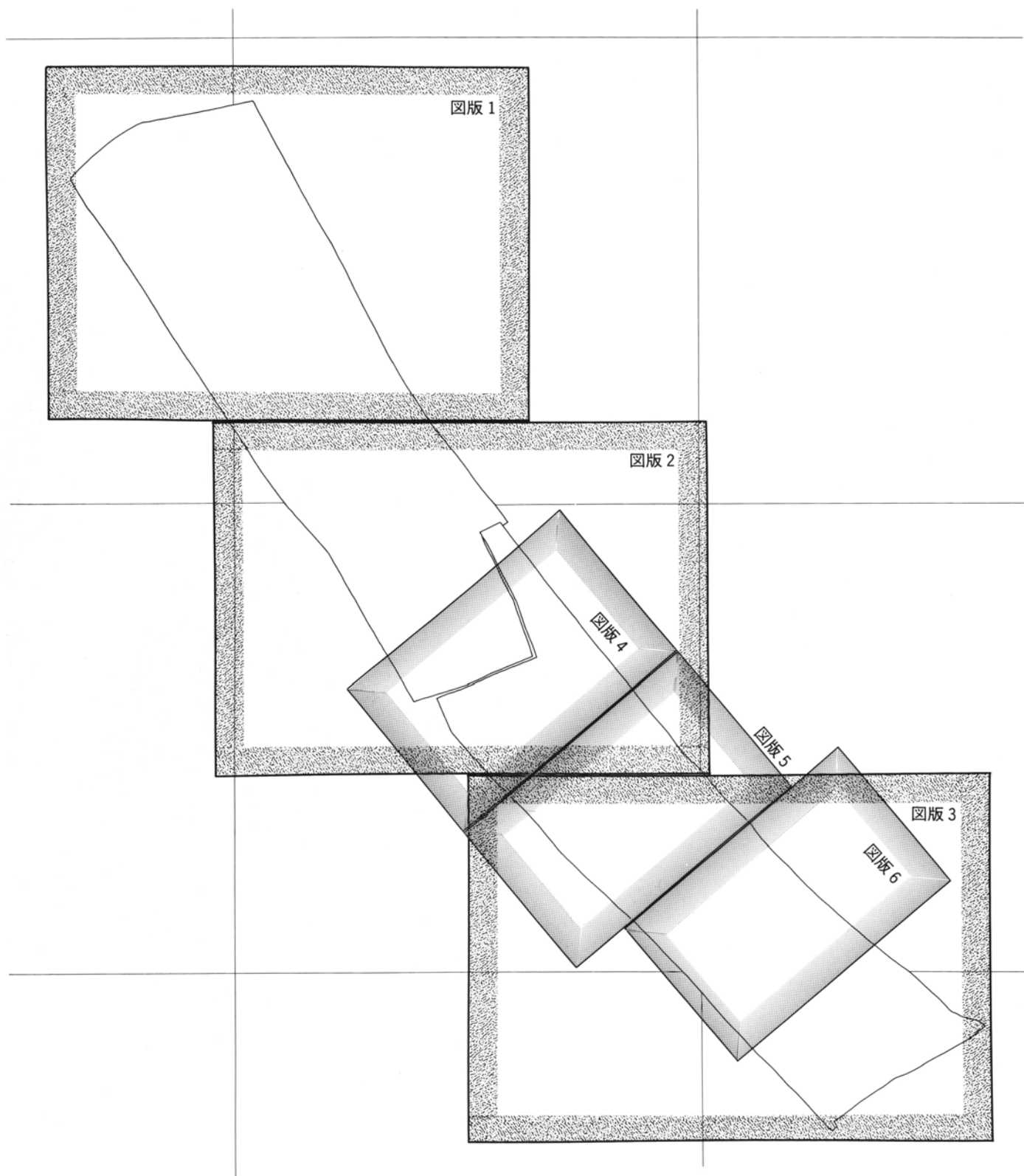
図版番号	古銭名	書体	直径(cm)	重さ(g)	備考	遺構	登録番号
第61図43	永楽通寶	楷書	2.5	2.5		II I 16k 検I	M-43
44	永楽通寶	楷書	2.5	(1.2)		III J 11e 検II	M-44
45	開元通寶	楷書	2.4	2.5		III I 7s 検II	M-45
46	熙寧元寶	篆書	2.4	2		III J 13d 検II	M-46
47	元祐通寶	行書	2.4	(1.7)		SW3 裏込	M-47
48	皇宋通寶	隸書	2.5	(1.7)		SD06	M-48
49	天禧通寶	楷書	2.5	1.6		III I 4q 検I	M-49
50	寛永通寶		2.2	1.7	古寛永無背	III I 4o 検III	M-50
51	寛永通寶		2.3	2.5	新寛永無背	III I 4o 検III	M-51
52	寛永通寶		2.5	2.3	新寛永無背	SK1246	M-52
53	寛永通寶	陰刻	2.3	(1.9)	新寛永無背	III J 12c 検IV	M-53



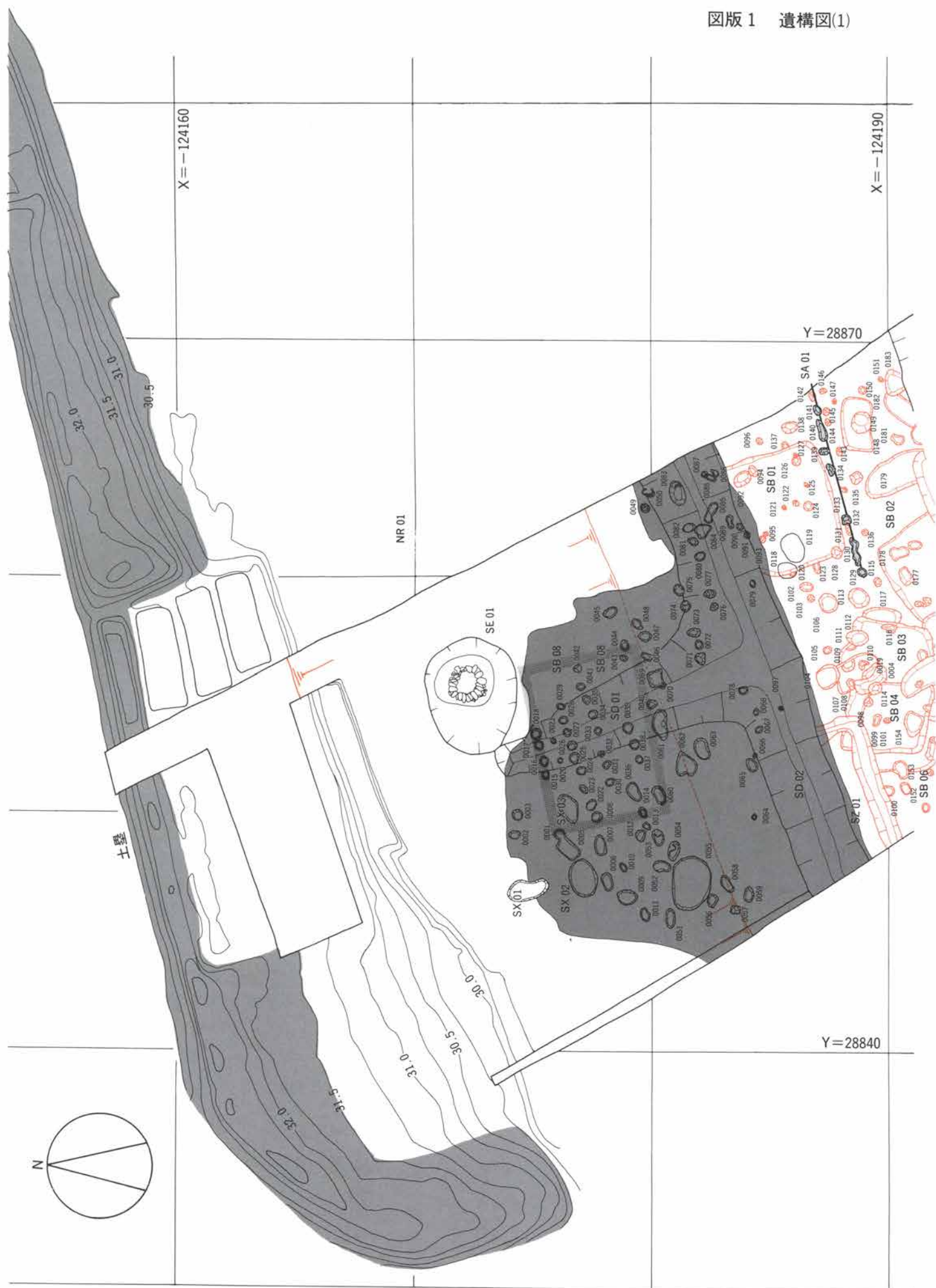
版 図

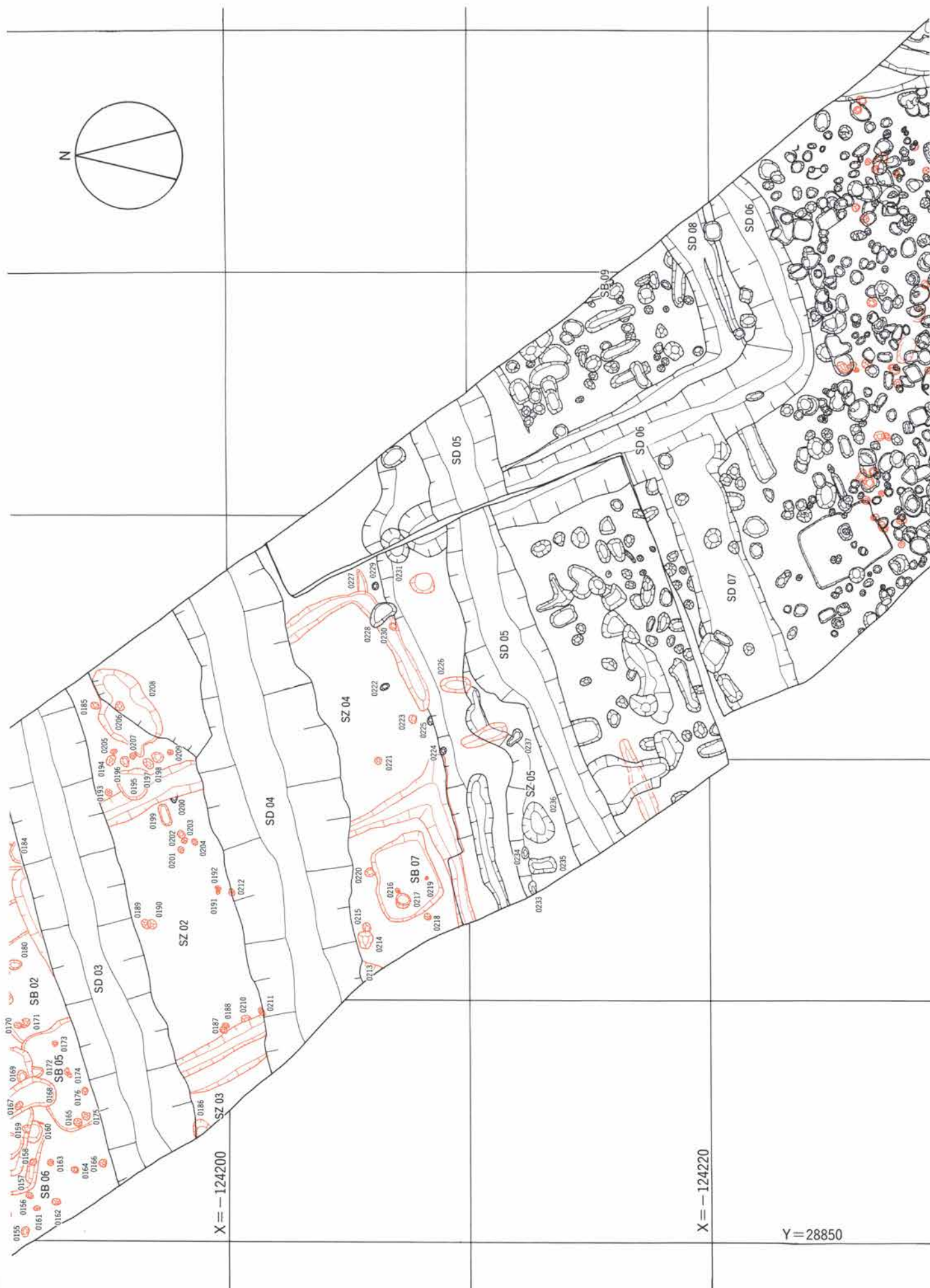


〔遺構図版割付図〕



図版 1 遺構図(1)





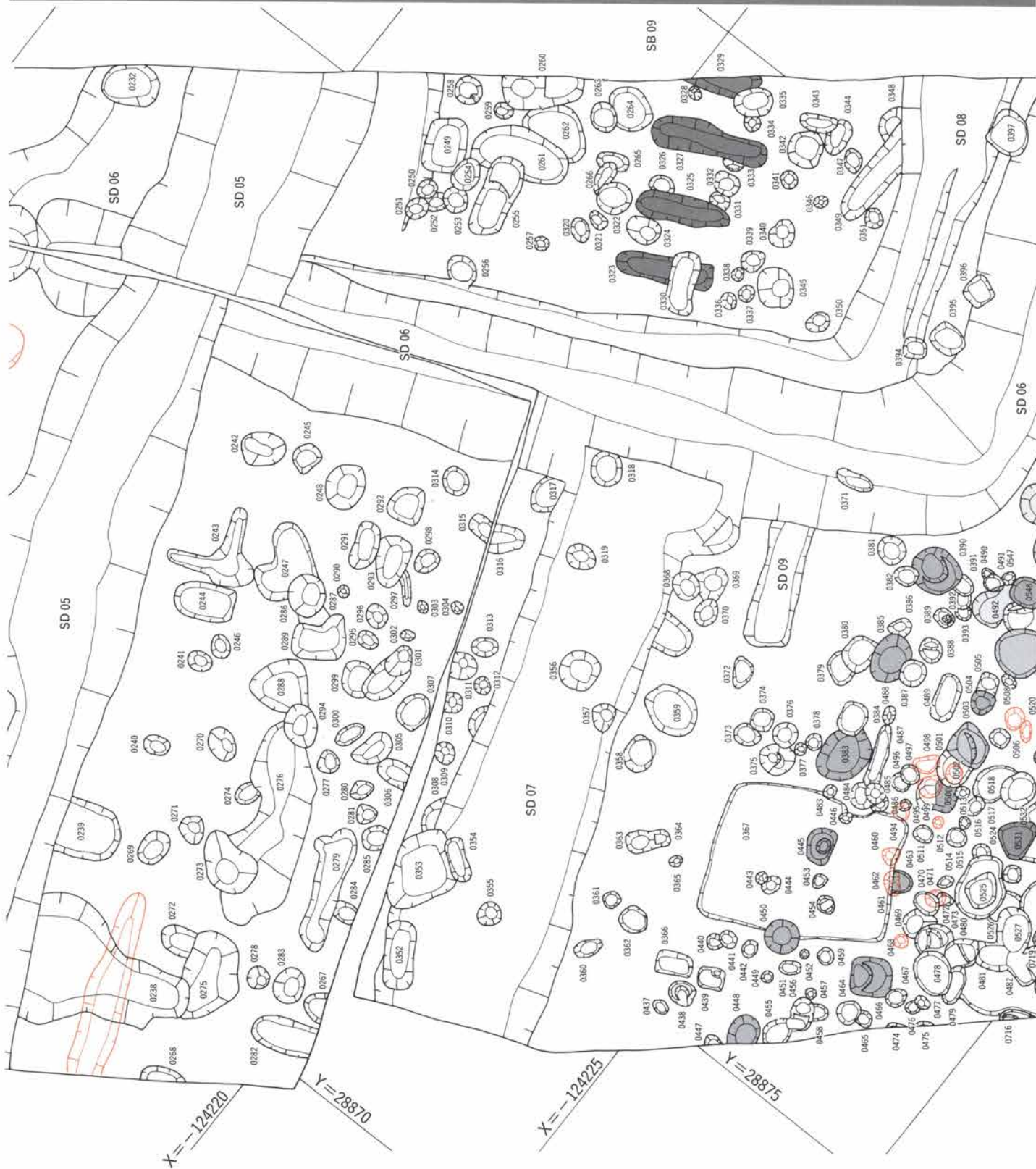
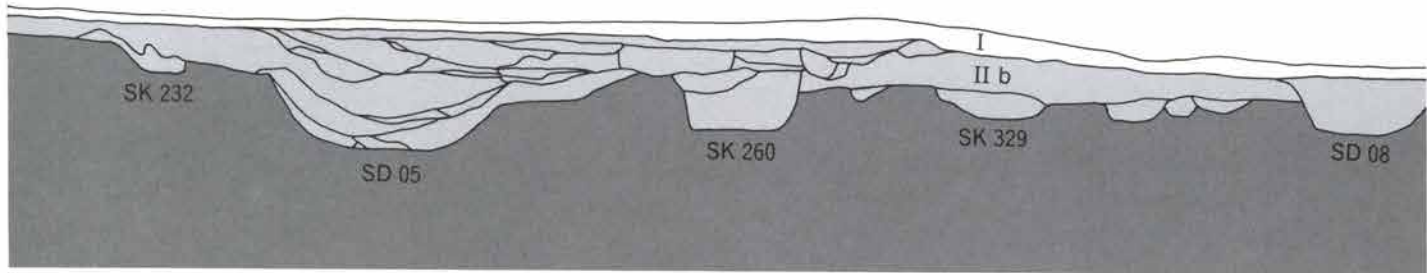
図版 3 遺構図(3)

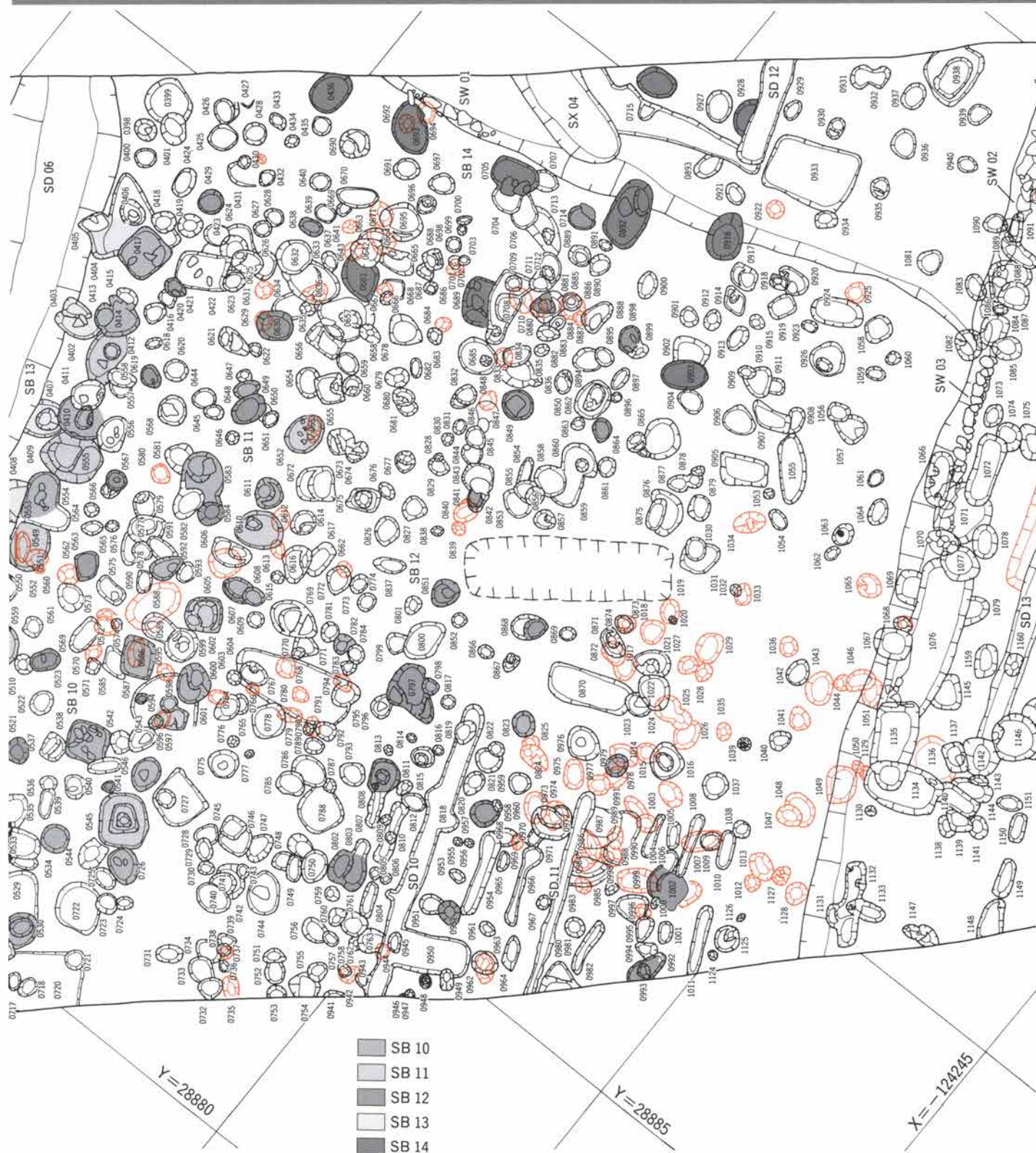


図版 4 遺構図(4)

30.00 m

30.00 m

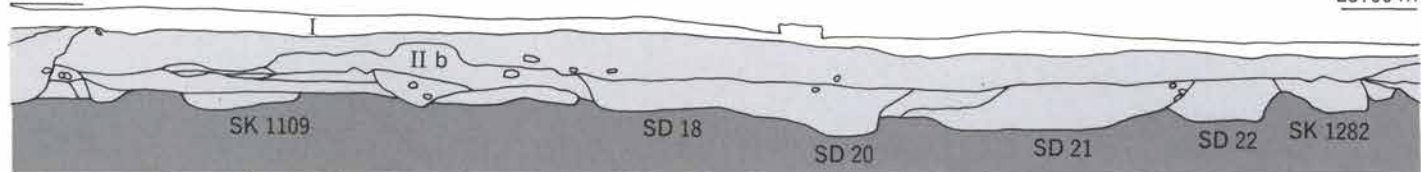




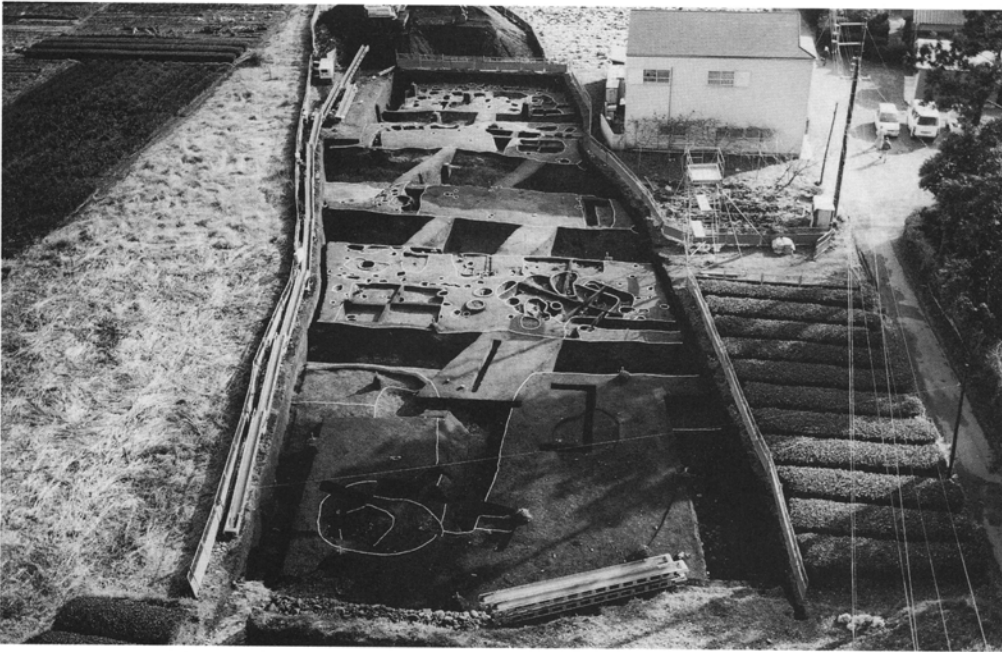
図版 6 遺構図(6)

28 : 00 m

28.00 m



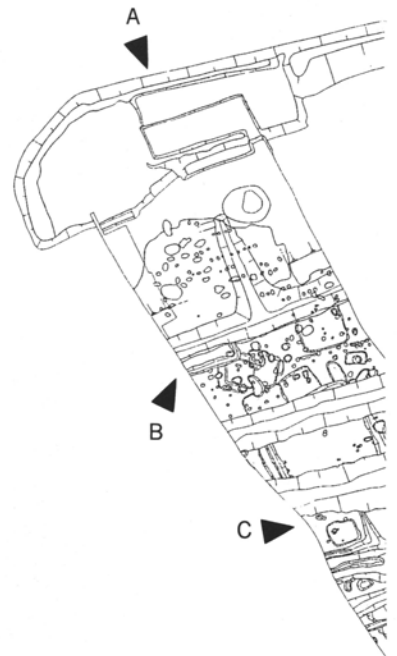
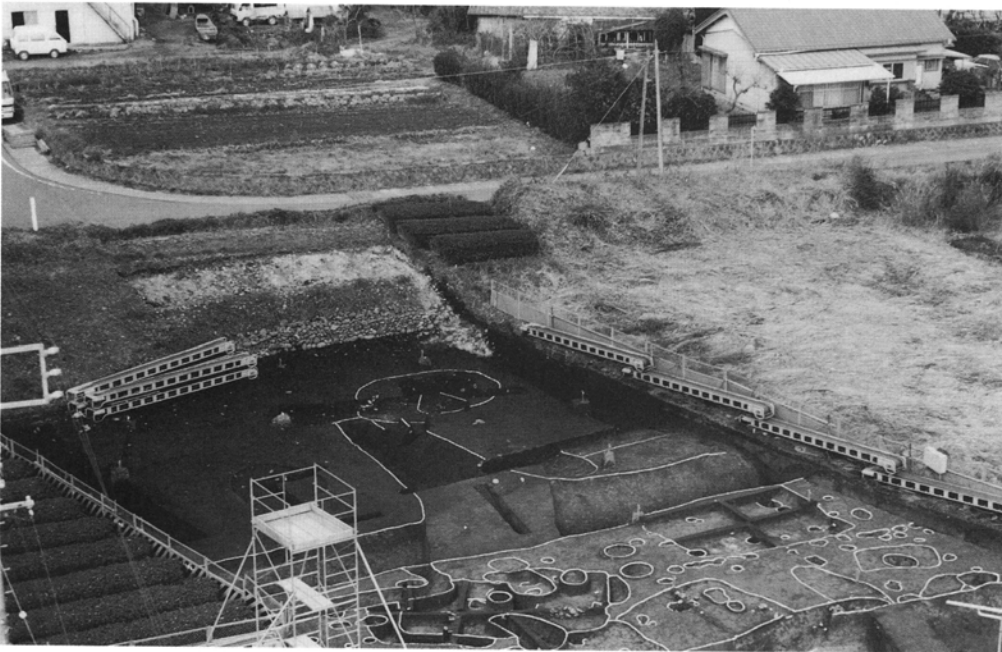
図版 7 92 年度調査区



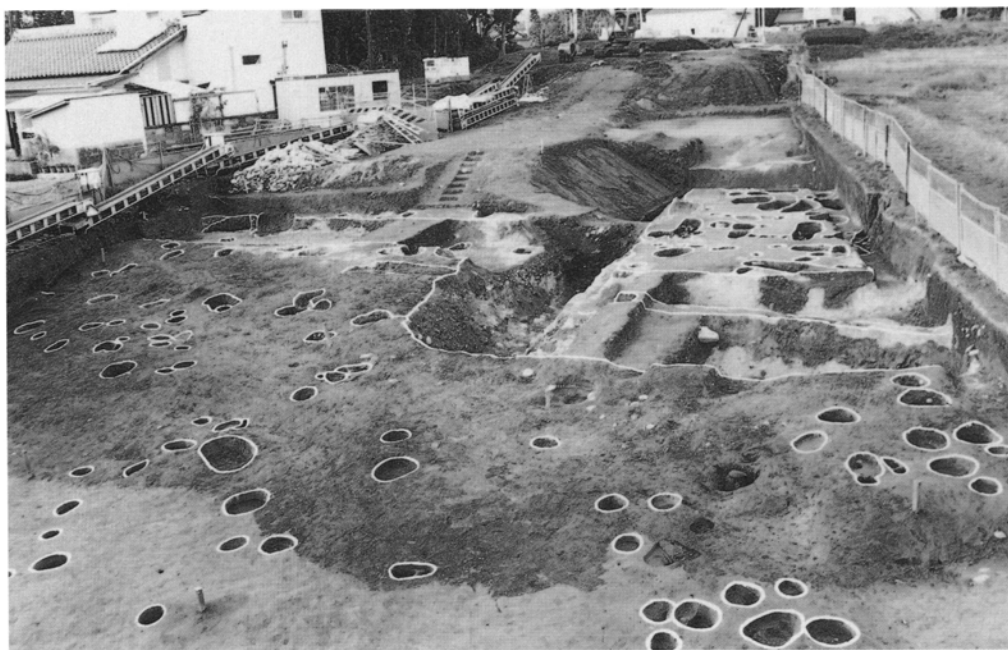
A : 92 年度調査区 (北から)

B : 92 年度調査区 (南西から)

C : 92 年度調査区 (西から)



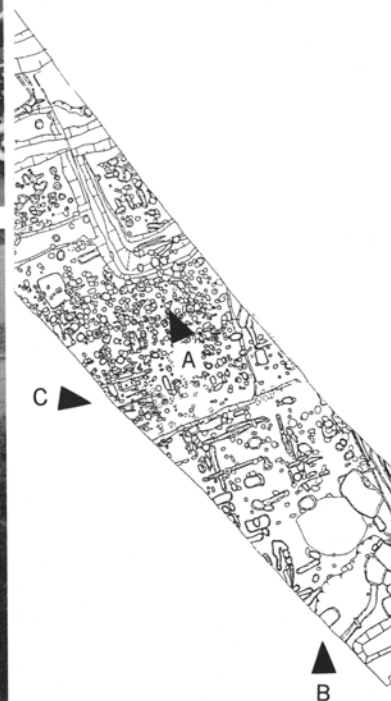
図版 8 93 年度調査区



A : 93 年度調査区 (南から)

B : 93 年度調査区 (南西から)

C : 93 年度調査区 (北西から)



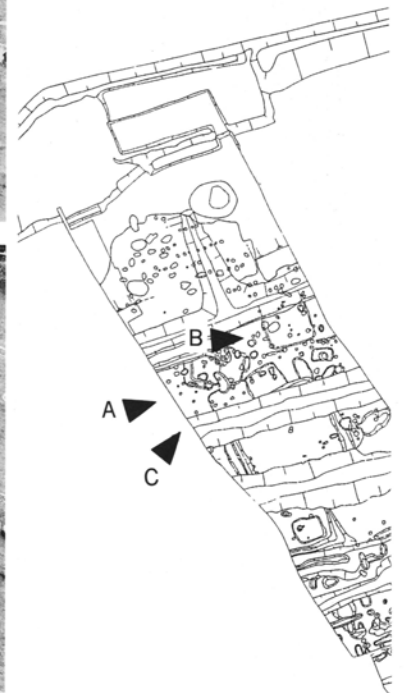
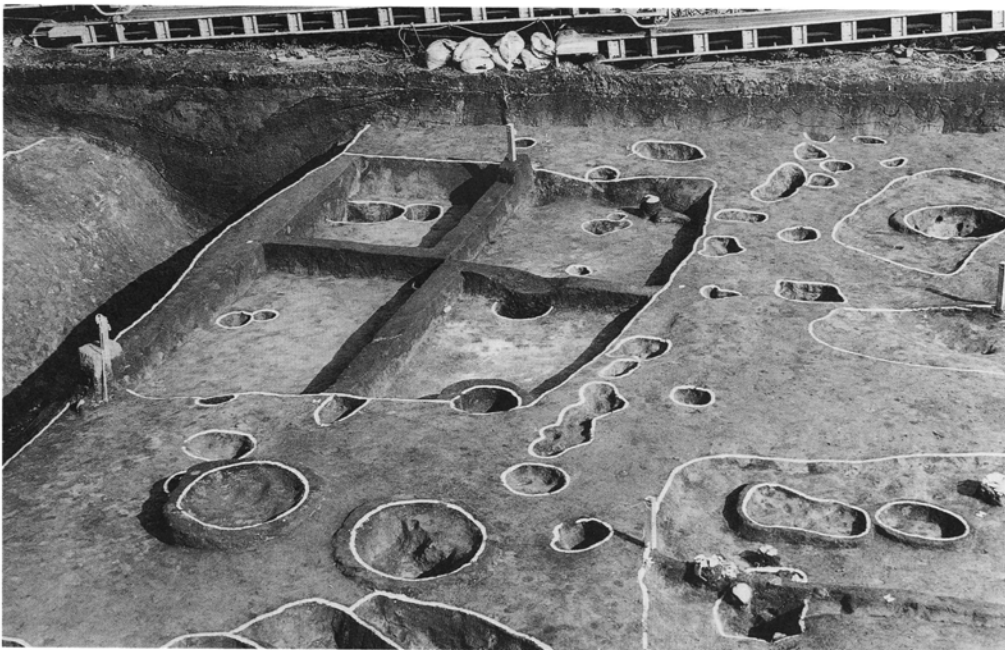
図版 9 竪穴住居(1)



A : SB 01～SB 06(西から)

B : SB 01(西から)

C : SB 02～SB 06(南西から)

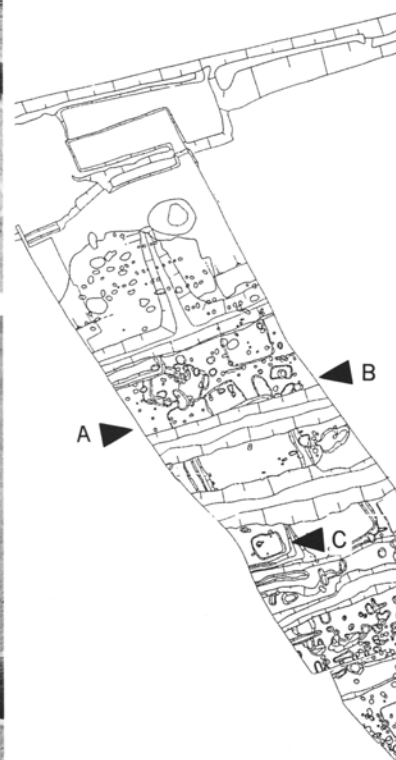


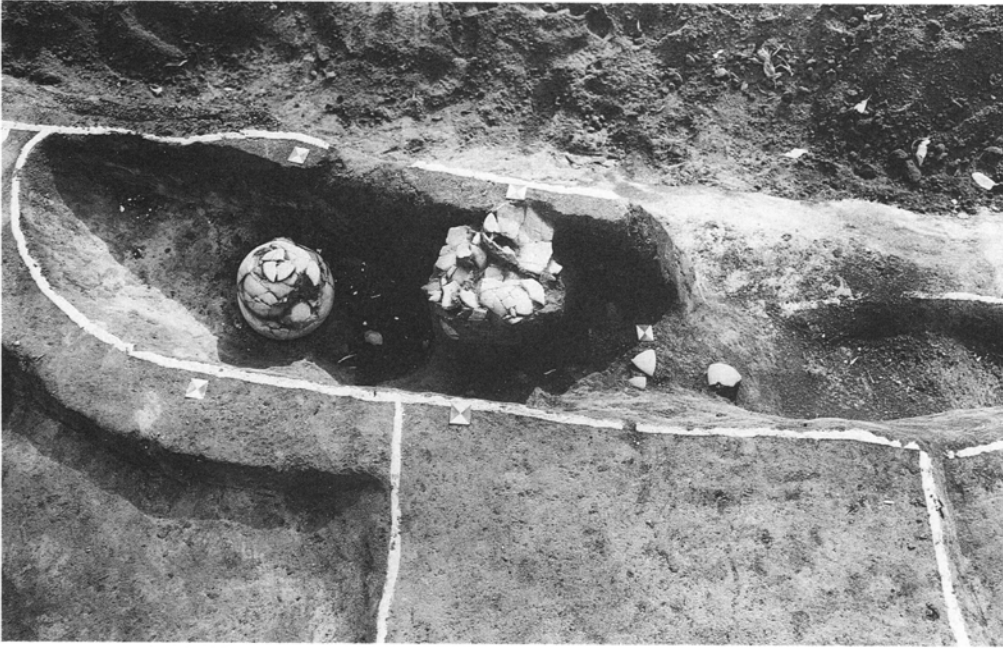


A : SB 02・SB 05(西から)

B : SB 02(東から)

C : SB 07(東から)

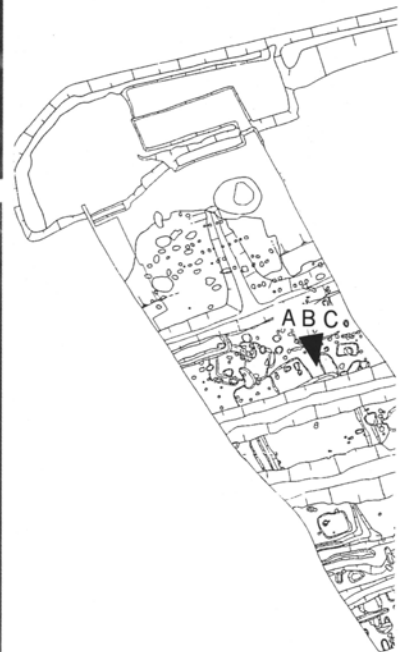




A : SZ 02 北溝
土器出土状態(北から)

B : SZ 02 北溝
土器出土状態(北から)

C : SZ 02 北溝
土器出土状態(北から)

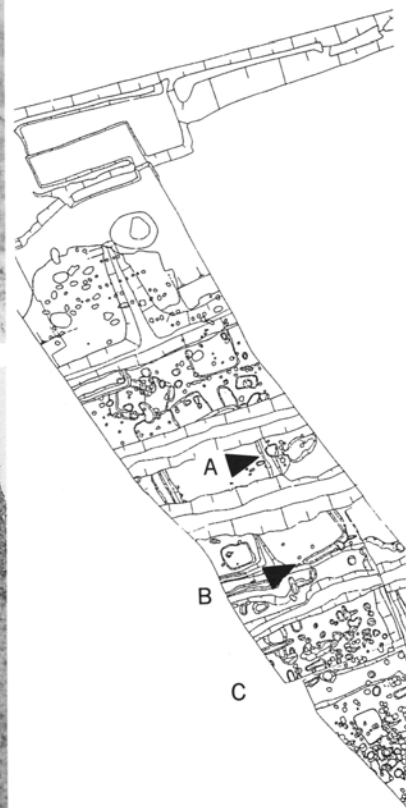
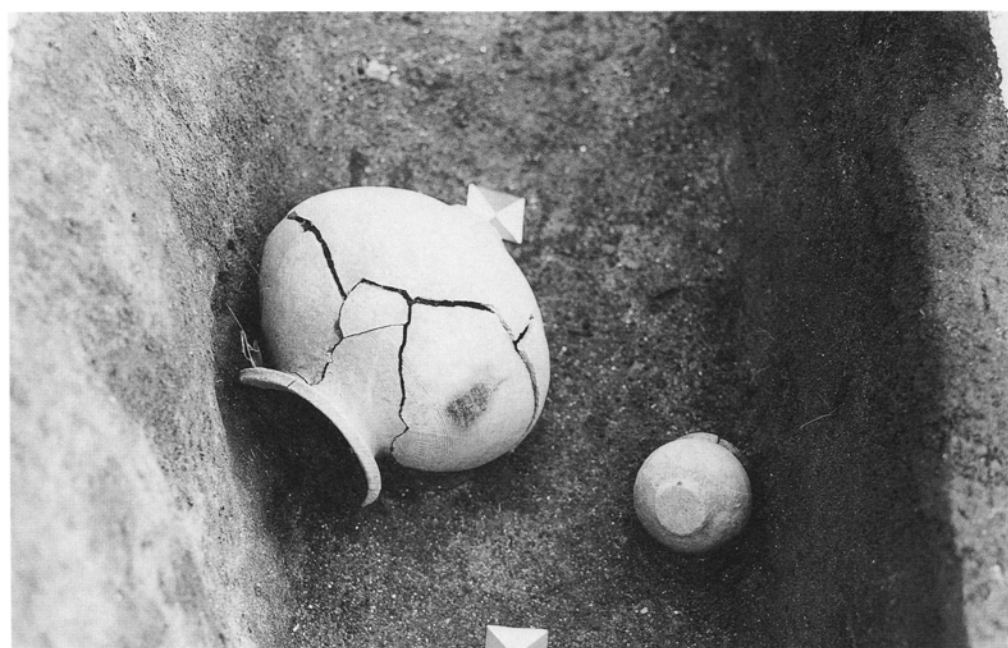




A : SZ 02 東溝
土器出土状態(西から)

B : SZ 04 南溝
土器出土状態(西から)

C : SZ 04 南溝
土器出土状態(西から)

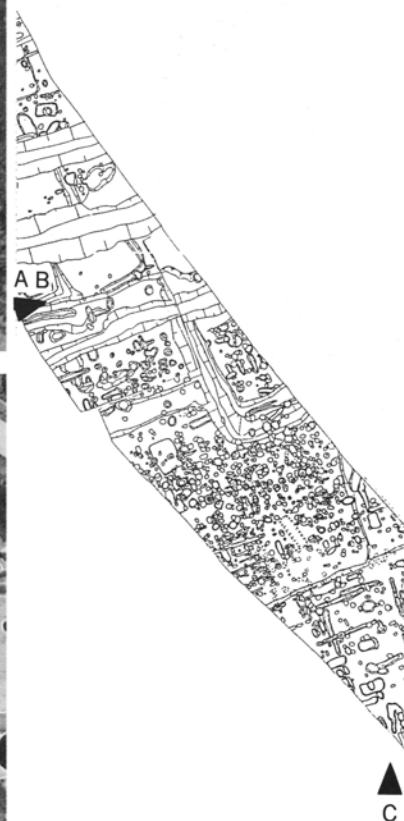




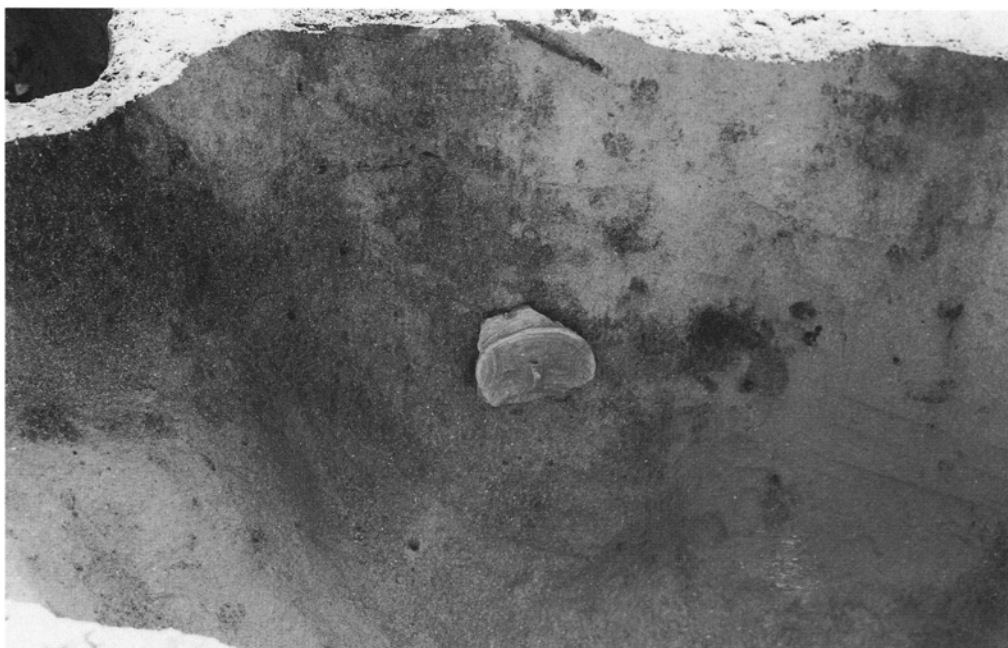
A : SZ 05 北溝
土器出土状態(東から)

B : SZ 05 南溝
土器出土状態(東から)

C : S Z 06(南から)



図版 14 方形周溝墓(4)



A : SZ 06 北溝
人面付土器出土状態(北から)



B : SZ 06 東溝
土器出土状態(西から)



C : SZ 06 南溝
土器出土状態(北から)





A : SD 02 土層断面(西から)

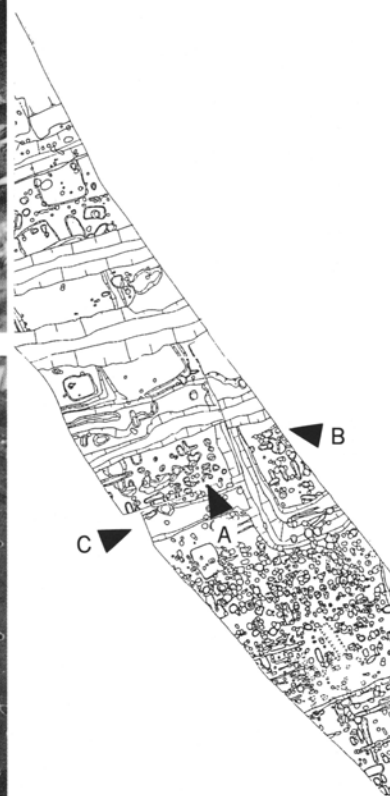
B : SD 03 土層断面(西から)

C : SD 04 土層断面(東から)





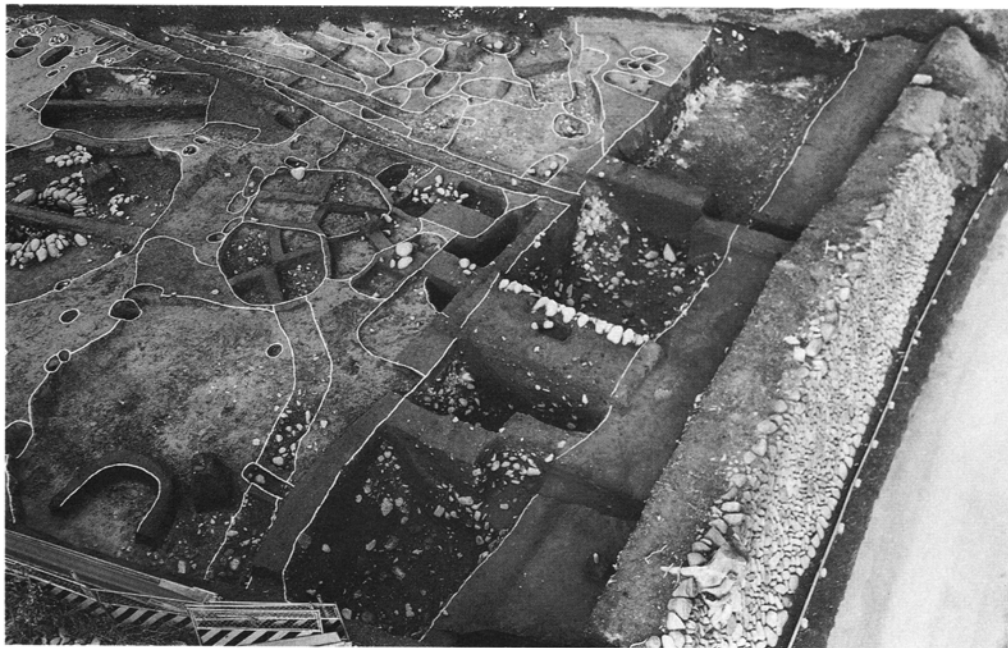
A : SD 05 礫廃棄(南から)
B : SD 05 礫廃棄(南東から)
C : SD 06・SD 07・SD 08(西から)





A : SW 02(右)・SW 03(左) (南から)
 B : SW 02(右)・SW 03(左) (南から)
 C : SW 04(SD 29 内) (東から)

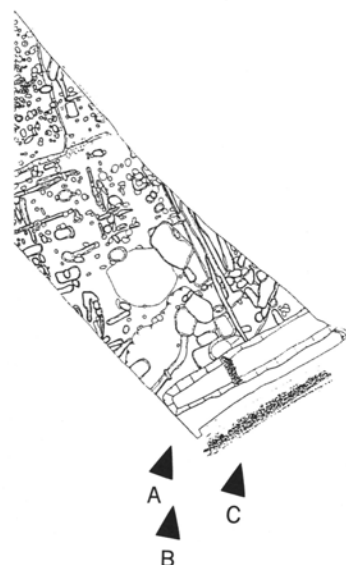


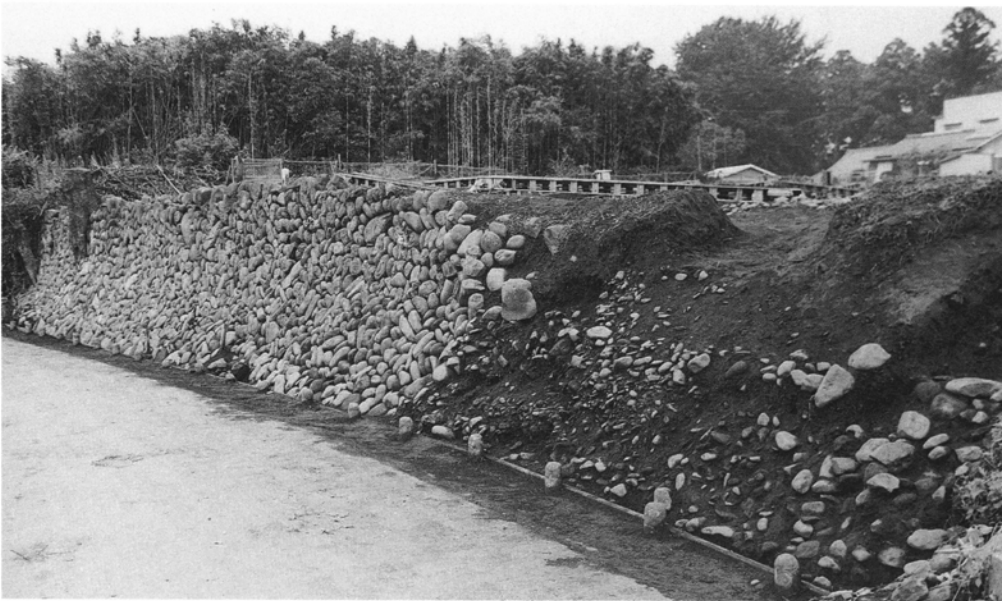


A : SD 29 と SW 05 (南西から)

B : SW 05 入口部 (南西から)

C : SW 05 (南西から)

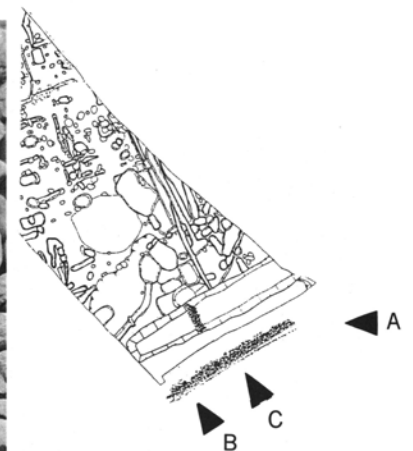




A : SW 05(南東から)

B : SW 05(南から)

C : SW 05(南から)

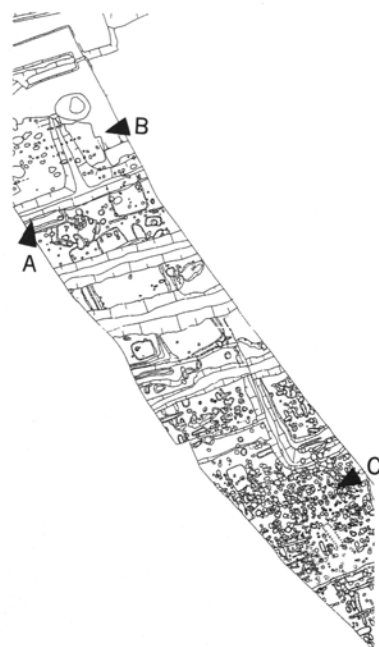


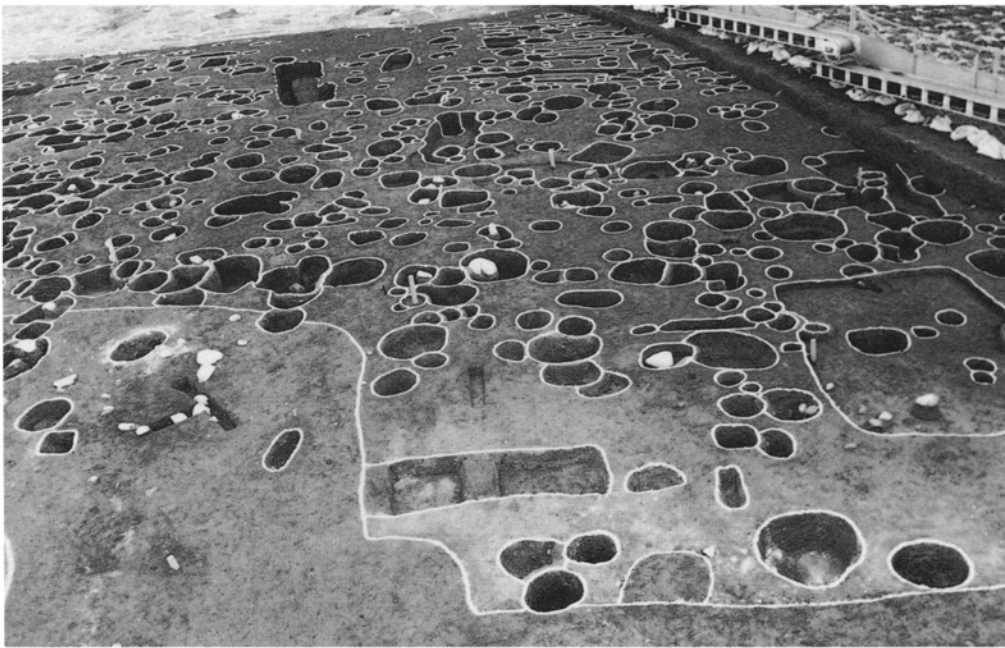


A : SB 08 (南西から)

B : SB 08 (東から)

C : SB 10～SB 13 (東から)

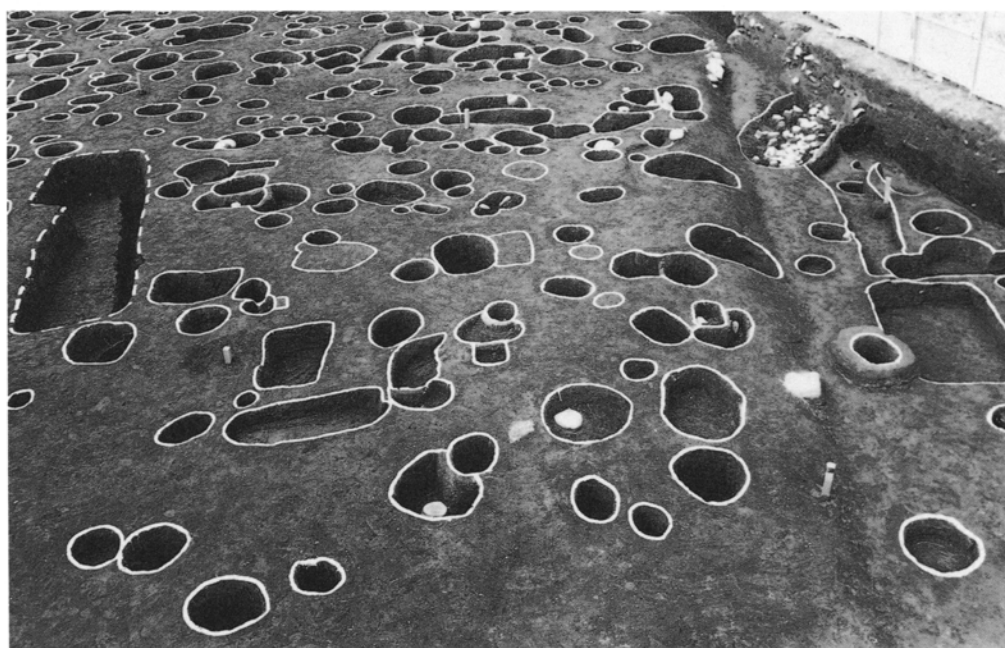


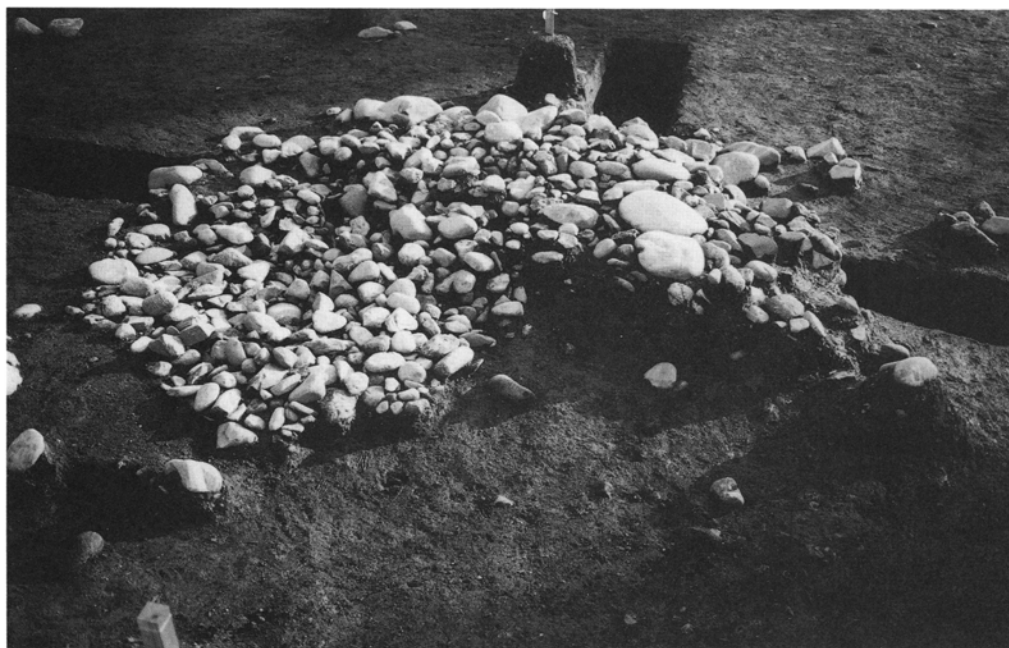


A : SB 10~SB 13(北から)

B : SB 14(北から)

C : SB 14(南から)

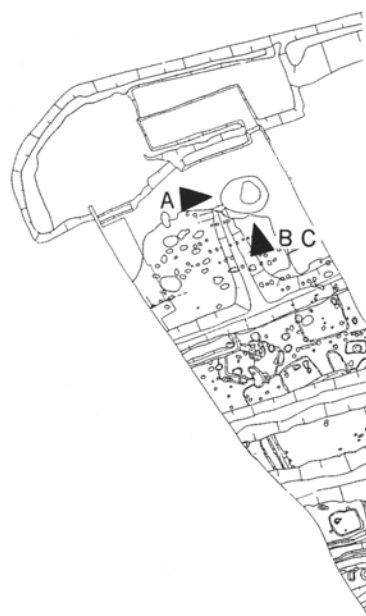


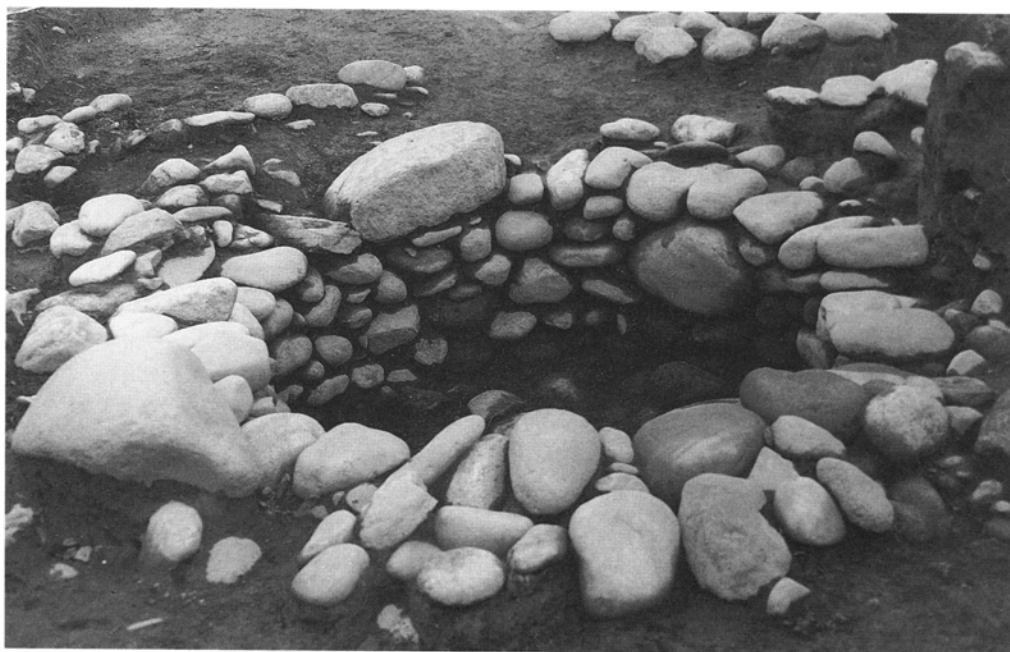


A : SE 01 上部崩壊(西から)

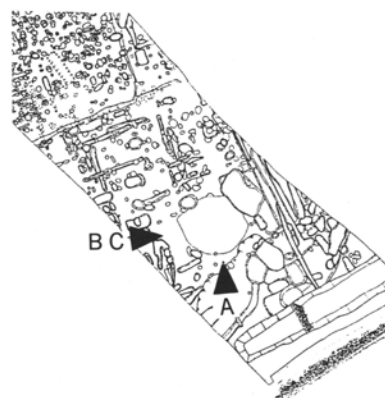
B : SE 01(西から)

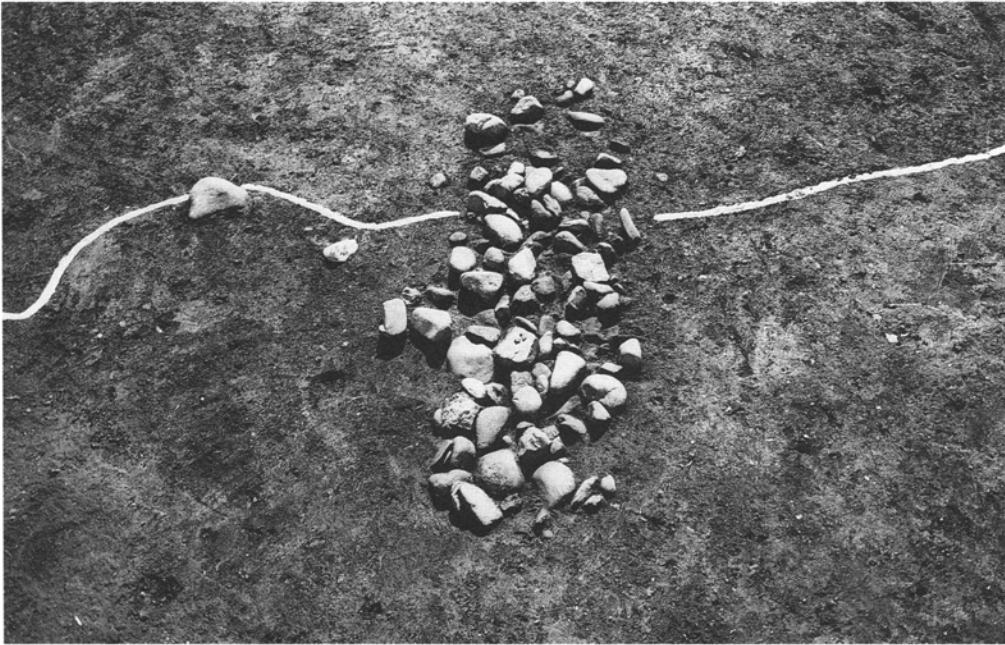
C : SE 01(南から)





A : SE 02(南から)
B : SE 02 (西から) | C : SE 02 (西から)

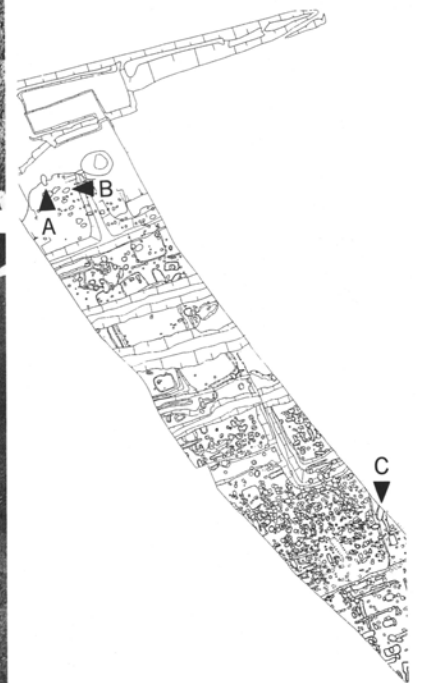
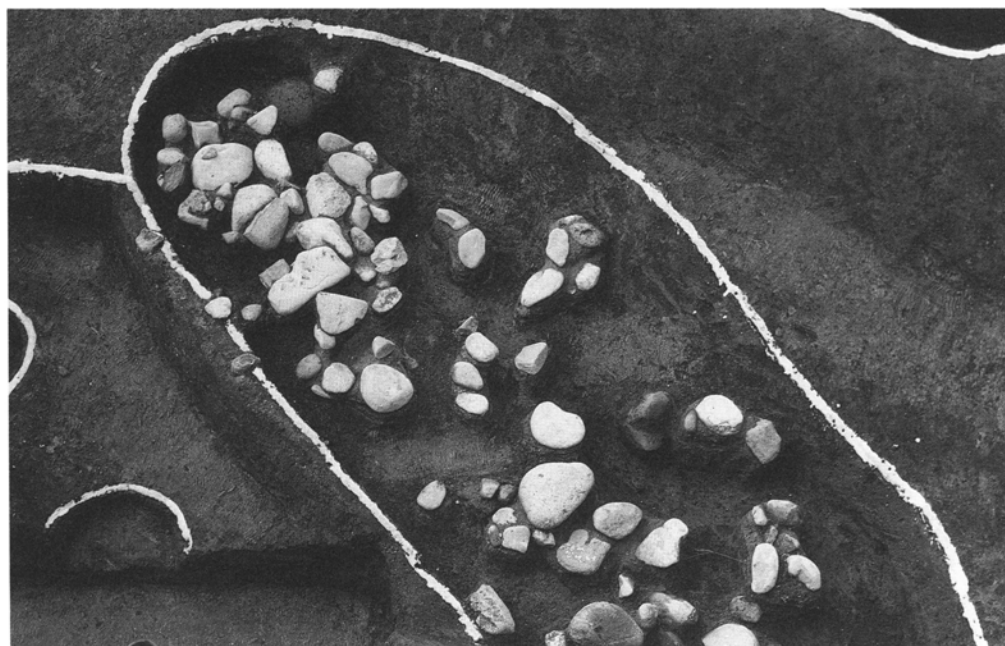
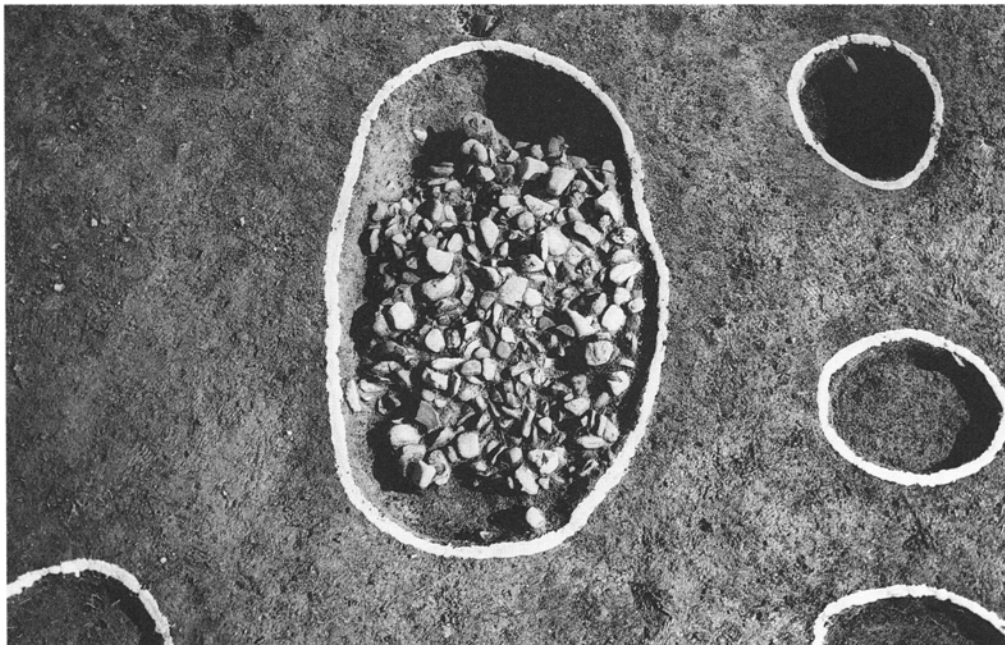




A : SX 01 (南から)

B : SX 03 (東から)

C : SX 04 (北から)

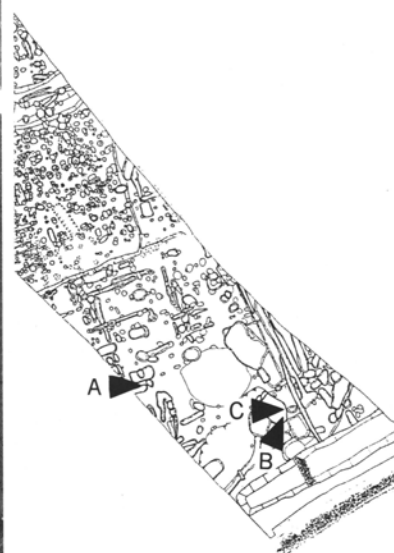


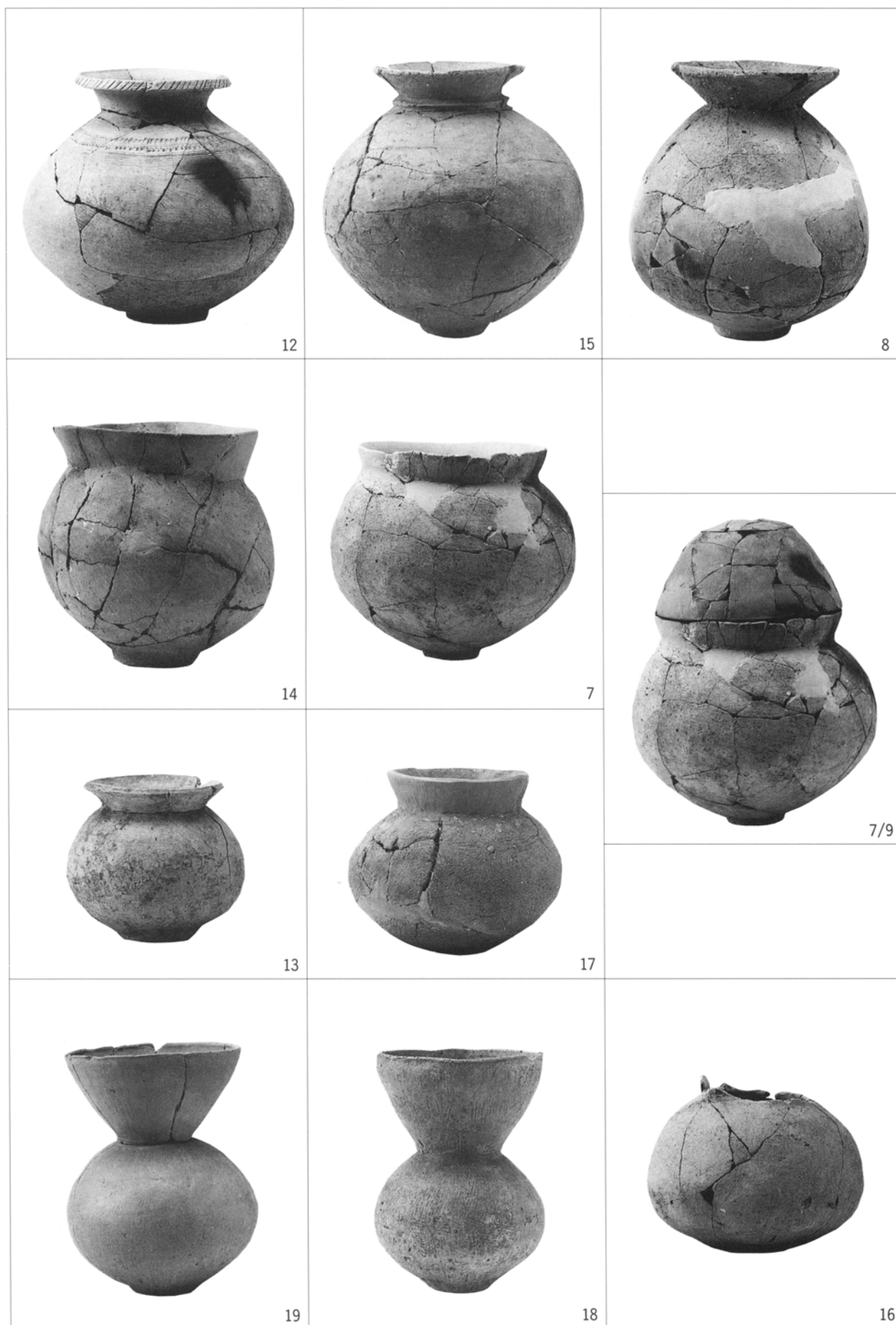


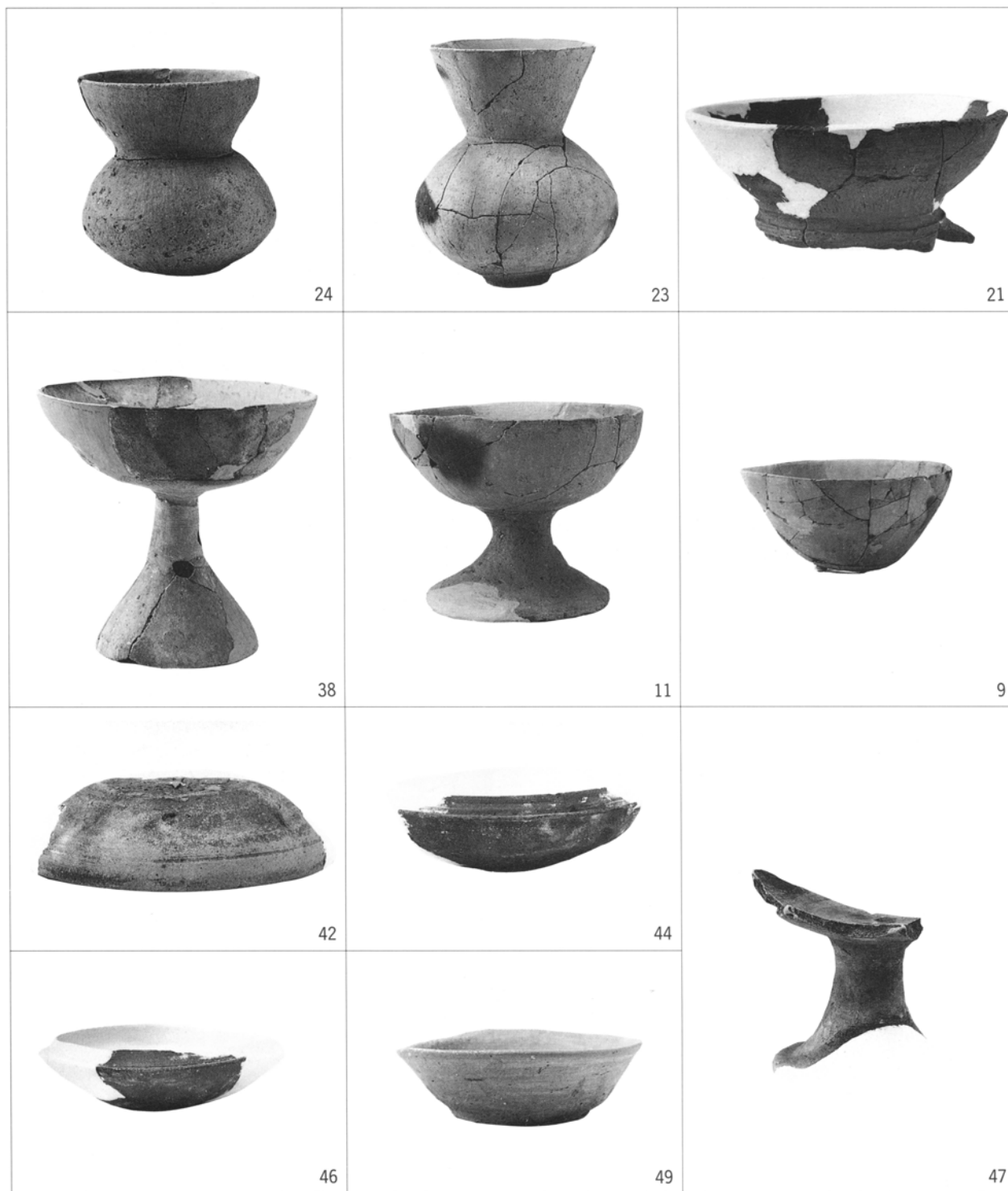
A : SX 08(西から)

B : SX 09(南東から)

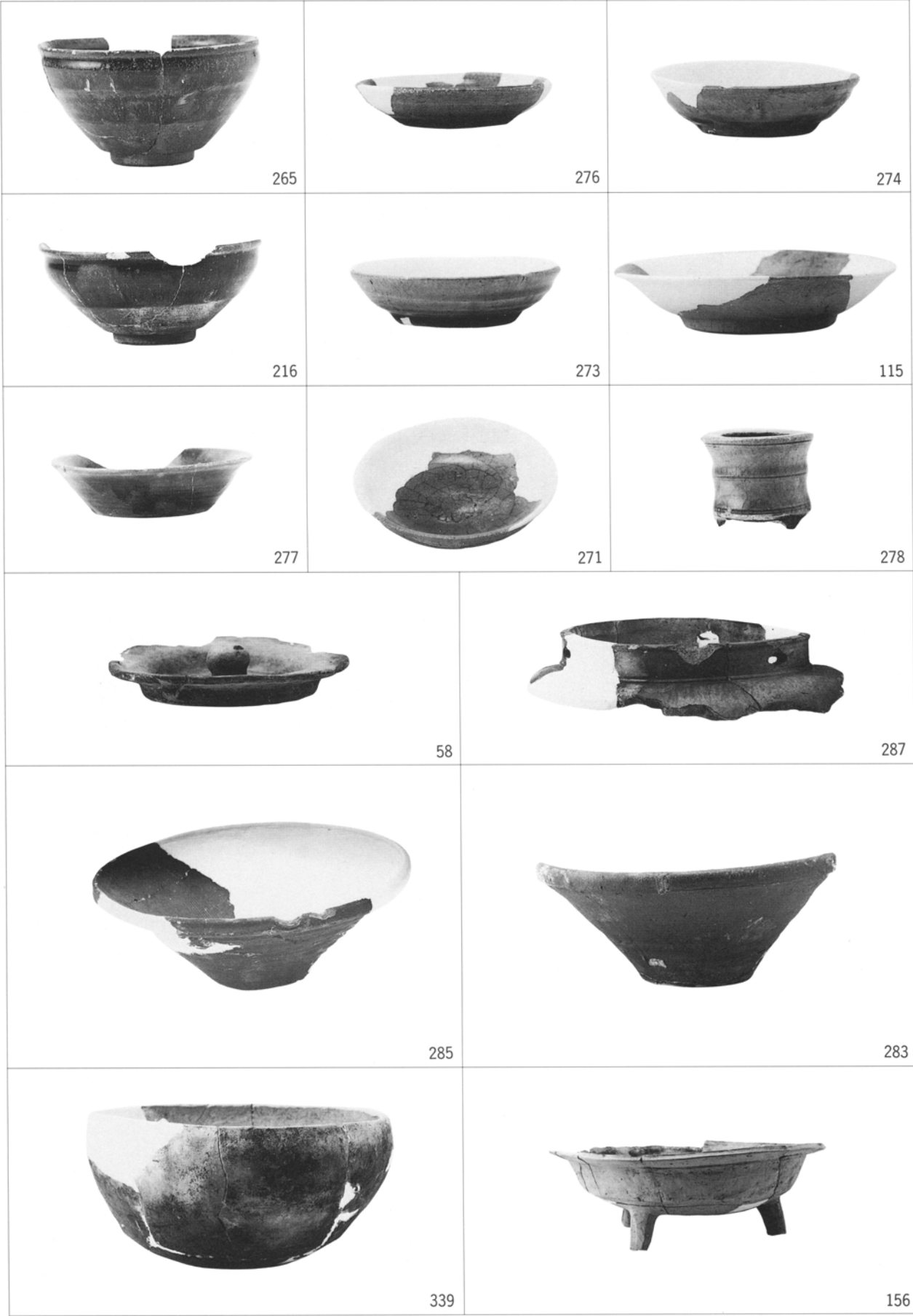
C : SX 10(西から)







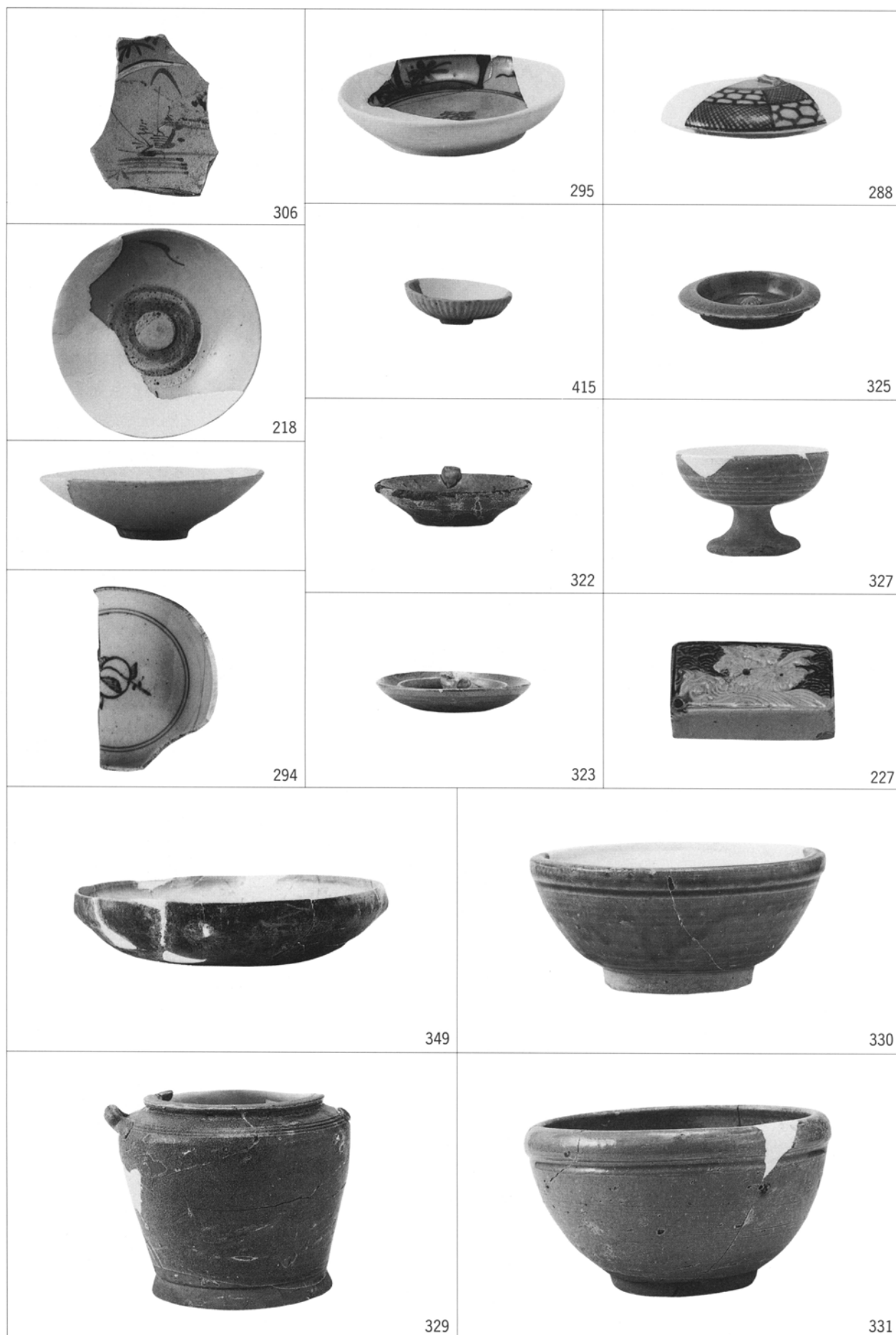
(21・24・42・44・46・47・49は1:3, 11は1:4, 23・38は1:5, 9は1:6)

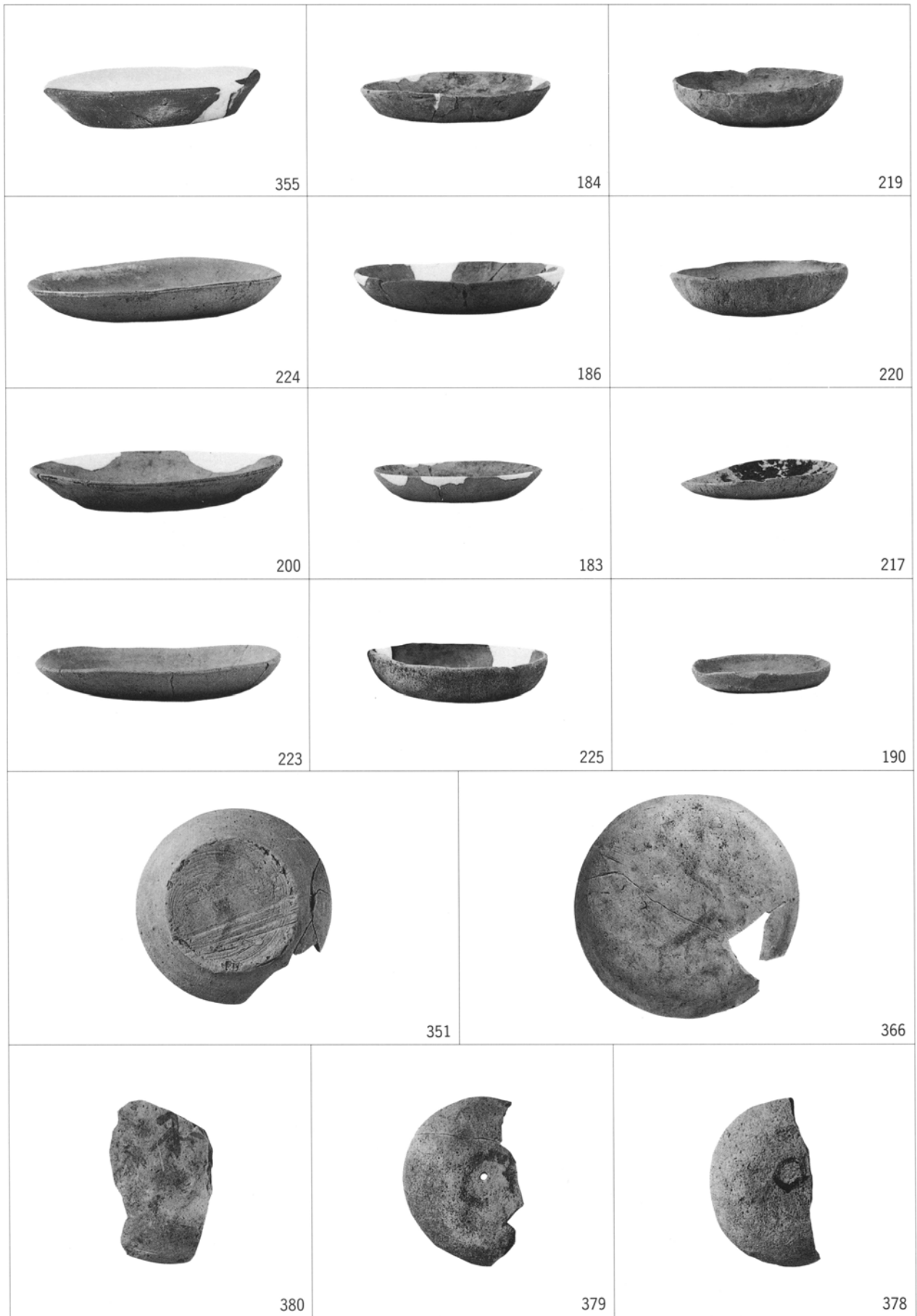


(285・283は1:5、287は1:6、156は1:7、他は1:3)

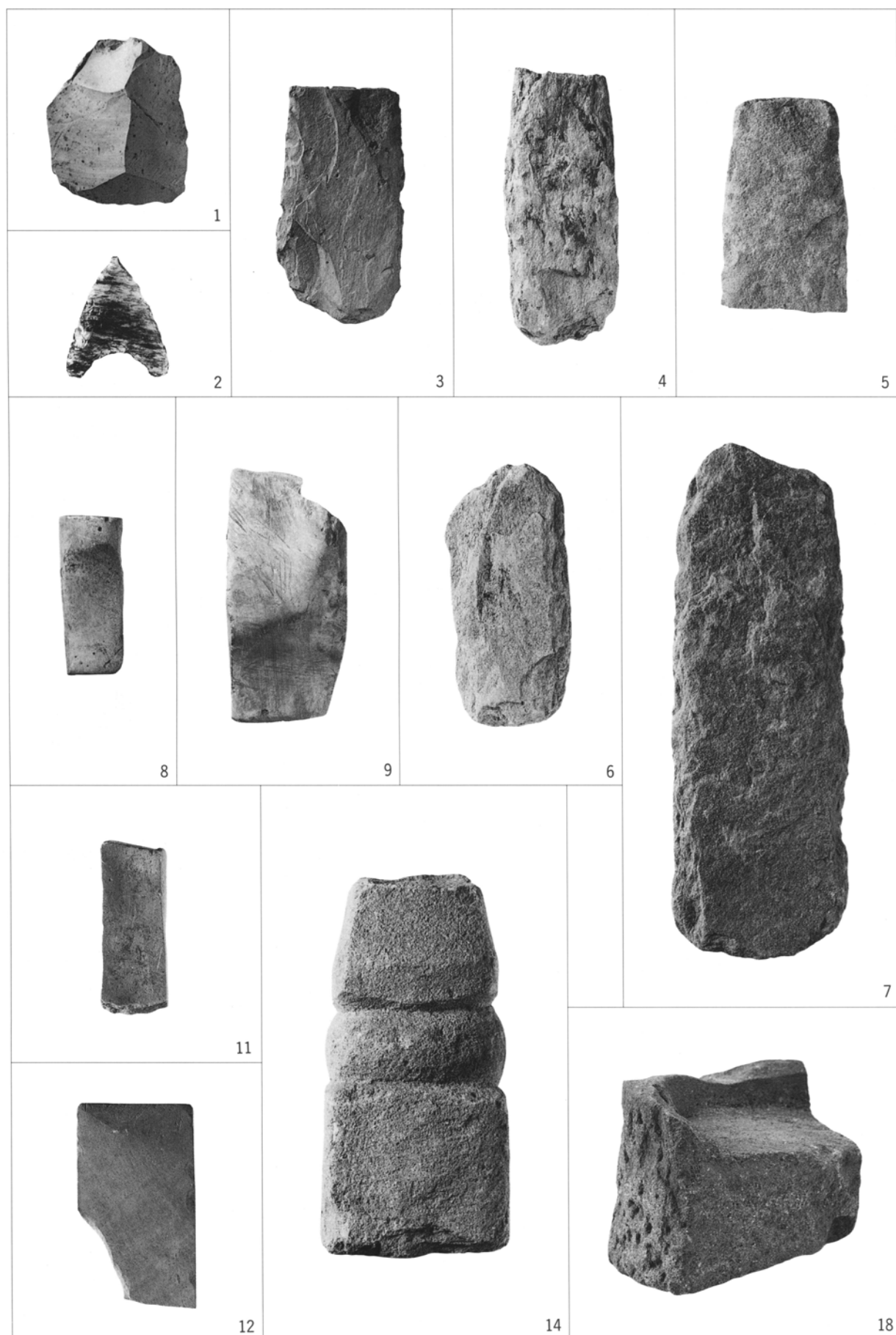


(297・308 は1:2、他は1:3)





(190 は 1 : 2、380 は 1 : 4、他は 1 : 3)





報告書抄録

ふりがな	しまだじんやいせき
書名	島田陣屋遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第58集
編著者名	都築暢也・原田幹・神谷知幸・服部俊之・高田恵理子
編集機関	財愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802番24 TEL0567-67-4161
発行年月日	西暦1995年 3 月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' "	東経 ° / ' "	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しまだじんや 島田陣屋	あいちけんしんしろし 愛知県新城市 のだあざさいごう 野田字西郷	23221	76158	34度 52分 50秒	137度 28分 59秒	第1次 19920928～ 19921227 第2次 19930712～ 19931215	第1次 1,000㎡ 第2次 1,682㎡	橋梁改築 に伴う事前 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島田陣屋	集落跡	弥生	竪穴住居 7 軒 方形周溝墓 6 基	弥生土器・打製石斧	「中市場村古城」か 旗本島田氏の陣屋
	城館	戦国	溝 4 条 井戸 2 基 建物 4 軒	戦国期陶磁器類	
	その他	江戸	溝 3 条 井戸 1 基 石垣 5 基 土塁 1 基 建物 2 軒	近世陶磁器類	

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第58集

島田陣屋遺跡

1995年3月31日

編集 財団法人
発行 愛知県埋蔵文化財センター

印刷 株式会社 クイックス